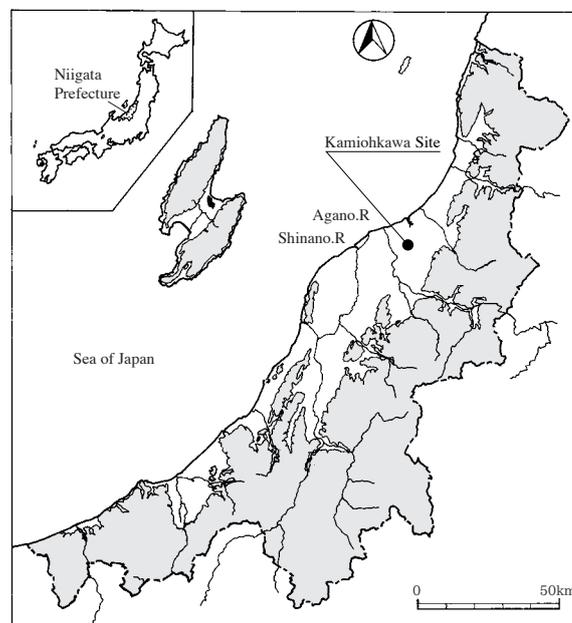


かみ おお かわ 上大川遺跡 第2次調査

－ 市道正尺・早通線道路改良工事に伴う上大川遺跡第2次発掘調査報告書 －



2009

新潟市教育委員会

例 言

- 1 本書は、新潟県新潟市北区葛塚字上大川 799 番地 1 ほかきたくくづつかあざかみおおかわに所在する上大川遺跡かみおおかわの発掘調査報告書である。
- 2 調査は、市道正尺・早通線道路改良工事に伴い、新潟市長（北区建設課）から新潟市教育委員会（以下、市教委という）が執行委任を受けて調査主体となり、新潟市文化スポーツ部歴史文化課埋蔵文化財センター（以下、市埋蔵文化財センターという）が補助執行した。
- 3 本発掘調査（第 2 次調査）は平成 20 年 5 月 7 日から 8 月 9 日に行った。発掘調査面積は 1,776.2m²である。
- 4 平成 20 年度に発掘調査と整理作業、報告書刊行を行った。発掘調査と整理作業の体制は第三章に記した。
- 5 出土遺物及び調査・整理作業に係る記録類は、一括して市埋蔵文化財センターが保管・管理している。
- 6 本書の編集は渡邊ますみ（市埋蔵文化財センター主査）が行い、池田ひろ子（市埋蔵文化財センター専門臨時職員）が補佐した。執筆は、第 I 章・第三章・第七章第 2 節を渡邊が、第 II・IV 章を池田が、第 V 章・第七章第 1 節を渡邊・池田が担当した。第 VI 章は株式会社火山灰考古学研究所に委託した。
- 7 本書で用いた遺跡・遺構の写真は、渡邊・池田が撮影を行ったものである。遺物写真は佐藤俊英氏（ビッグヘッド）に撮影を依頼した。ただし、写真図版 1 は国土地理院の提供による。
- 8 各種図版作成・編集に関しては、株式会社セビアスに委託してデジタルトレースと DTP ソフトによる編集を実施し、完成データを印刷業者へ入稿して印刷した。
- 9 調査から本書の作成に至るまで下記の方々・機関よりご指導・ご協力を賜った。ここに記して厚く御礼申し上げる。
春日真実、笹澤正史、関雅之、水澤幸一、南憲一、葛塚土地改良区、新潟県教育庁文化行政課、
（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団（所属・敬称略、五十音順）

凡 例

- 1 本書は本文・別表と巻末図版（図面図版・写真図版）からなる。
- 2 本書で示す方位は全て真北である。磁北は真北から西偏約7度である。
- 3 掲載図面のうち、既存の地形図等を使用したものについては、原図の作成者・作成年を示した。
- 4 本文中の注は各章の末尾に記した。引用文献は著者と発行年（西暦）を〔 〕中に示し、巻末に一括して掲載した。
- 5 遺構番号は現場で付したものをを用いた。番号は遺構の種別ごとに付さず、通し番号とした。
- 6 土層観察の色調は『新版標準土色帖』〔農林水産省農林水産技術会議事務局 1967〕を用い、その記号を本書に掲載した。
- 7 土器実測図で全周の1/12以下の遺存率の低いものについては、誤差があるため中軸線の両側に空白を設けた。
- 8 遺物実測図において、土器の赤彩は濃い網目、木製品の欠損は斜線のトーンで表した。
- 9 遺物の注記は、頭に調査年の2008年の「08」を記し、その後「上大川」・出土地点・層位を記した。
- 10 遺物番号は種別ごとに通し番号とし、本文および観察表・写真図版の番号は同一番号とした。
- 11 遺構・遺物観察表の（ ）付きの数値は、推定値を意味する。

目 次

第Ⅰ章 序 章	1
第1節 遺跡概観	1
第2節 発掘調査に至る経緯	1
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境	2
第1節 遺跡の位置と地理的環境	2
第2節 周辺の遺跡	2
第3節 歴史的環境	6
第Ⅲ章 調査の概要	7
第1節 試掘調査	7
A 調査方法と経過	7
B 調査体制	7
第2節 本発掘調査	8
A 調査方法	8
B 調査経過	8
C 調査体制	9
第3節 整理作業	9
A 整理方法	9
B 整理経過	9
C 整理体制	9
第Ⅳ章 遺 跡	10
第1節 概 要	10
第2節 層 序	10
第3節 遺 構	10
第Ⅴ章 遺 物	19
第1節 遺物の概要	19
第2節 用語の説明と分類	19
第3節 出土土器等各説	21
A 遺構出土土器	21
B 遺構外出土土器	25
C 土 製 品	28
D 石 製 品	28
E 木 製 品	29
F 近世の遺物	29

第VI章 自然科学分析	30
第1節 土層とテフラ	30
A テフラ検出分析	30
B 屈折率測定	31
C 火山ガラスの主成分化学組成分析	31
D 考 察	31
第2節 放射性炭素 (^{14}C) 年代測定	32
A 測定試料と測定方法	32
B 測定結果と所見	32
第3節 プラント・オパール分析	33
A 試料と分析法	33
B 分析結果	34
C 考 察	34
第4節 花粉分析	35
A 試料と分析方法	35
B 結 果	36
C 花粉分析から推定される植生と環境	37
第5節 珪藻分析	37
A 試料と方法	37
B 結 果	37
C 珪藻分析から推定される堆積環境	39
第6節 種実同定	39
A 試料と分析方法	39
B 結 果	39
C 考 察	39
第VII章 総 括	41
第1節 上大川遺跡出土の土器について	41
第2節 上大川遺跡の性格について	42
引用・参考文献	44
報告書抄録・奥付	巻末

挿 図 目 次

第1図 周辺の地形分類図 (1/100,000)	3	第9図 上大川遺跡③地点における花粉ダイアグラム	36
第2図 周辺の遺跡 (1/50,000)	4	第10図 上大川遺跡の花粉・寄生虫卵	36
第3図 試掘調査土層柱状図・調査位置図 (1/3,500)	7	第11図 上大川遺跡①地点における主要珪藻ダイアグラム	38
第4図 土器分類図 (S=1/6)	20	第12図 上大川遺跡③地点における主要珪藻ダイアグラム	38
第5図 各地点 (①・②・③) の土層柱状図	30	第13図 上大川遺跡の珪藻	39
第6図 上大川遺跡におけるプラント・オパール分析結果	34	第14図 上大川遺跡の種実	40
第7図 植物珪藻体 (プラント・オパール) の顕微鏡写真	34	第15図 周辺遺跡の消長 (弥生時代後期～古墳時代)	43
第8図 上大川遺跡①地点における花粉ダイアグラム	36		

表 目 次

第1表	テフラ検出分析結果	30	第7表	放射性炭素年代測定 of 試料と方法	32
第2表	屈折率測定結果	31	第8表	放射性炭素年代測定結果	33
第3表	①地点試料 18 に含まれる火山ガラスの主成分科学組成分析結果	31	第9表	上大川遺跡におけるプラント・オパール分析結果	34
第4表	SE457 試料 2 に含まれる火山ガラスの主成分科学組成分析結果	31	第10表	上大川遺跡における花粉分析結果	35
第5表	SE491 周辺試料 1 に含まれる火山ガラスの主成分科学組成分析結果	31	第11表	上大川遺跡における珪藻分析結果	37
第6表	上大川遺跡のテフラ試料と代表的な指標テフラに含まれる火山ガラスの主成分化学組成分析結果	32	第12表	上大川遺跡における種実同定結果	40
			第13表	土器編年対照表	41
			第14表	井戸検出遺跡一覧	42

別 表 目 次

別表 1	上大川遺跡 主要遺構計測表	47	別表 4	上大川遺跡 木製品観察表	53
別表 2	上大川遺跡 土器・土製品・陶器観察表	49	別表 5	上大川遺跡 遺構出土土器器種構成率	54
別表 3	上大川遺跡 石製品観察表	53			

図 版 目 次

図版 1	周辺の旧地形図 (1/25,000)	図版 21	遺構実測図 8 (1/40)
図版 2	上大川遺跡と周辺遺跡 (1/10,000)	図版 22	遺構実測図 9 (1/40)
図版 3	グリッド設定図 (1/2,500)	図版 23	遺構実測図 10 (1/40)
図版 4	遺跡全体図 (1/300)	図版 24	遺構実測図 11 (1/40)
図版 5	遺構全体図面割付図 (1/400)	図版 25	小グリッド別出土土器重量分布図 (1) (1/400)
図版 6	遺構平面部分図 1 (1/100)	図版 26	小グリッド別出土土器重量分布図 (2) (1/400)
図版 7	遺構平面部分図 2 (1/100)	図版 27	小グリッド別出土土器重量分布図 (3) (1/400)
図版 8	遺構平面部分図 3 (1/100)	図版 28	出土遺物 1 SE8・SE81・SE170・SE255・SE457・SE491
図版 9	遺構平面部分図 4 (1/100)	図版 29	出土遺物 2 SK37・SK231・SK144・SK349・SK458・SK459
図版 10	遺構平面部分図 5 (1/100)	図版 30	出土遺物 3 SK459・SD447・SX536・P98・P189・P417・P473・P476・P502
図版 11	遺構平面部分図 6 (1/100)	図版 31	出土遺物 4 遺構外
図版 12	遺構平面部分図 7 (1/100)	図版 32	出土遺物 5 遺構外
図版 13	基本層序実測図 (1/40・1/500)	図版 33	出土遺物 6 遺構外
図版 14	遺構実測図 1 (1/60・1/40)	図版 34	出土遺物 7 遺構外
図版 15	遺構実測図 2 (1/60・1/40)	図版 35	出土遺物 8 遺構外・土製品・陶器・石製品
図版 16	遺構実測図 3 (1/60・1/40)	図版 36	出土遺物 9 木製品
図版 17	遺構実測図 4 (1/60・1/40)		
図版 18	遺構実測図 5 (1/40)		
図版 19	遺構実測図 6 (1/40)		
図版 20	遺構実測図 7 (1/40)		

写 真 図 版 目 次

写真図版 1	上大川遺跡周辺空中写真	写真図版 5	完掘状況 SB605・SB606・SD447 (北から) 土器集合写真
写真図版 2	上大川遺跡周辺空中写真 (南東から)	写真図版 6	調査前現況 1 (南から) 調査前現況 2 (北から) 東壁基本層序 1 (西から) 東壁基本層序 2 (西から) 東壁基本層序 3 (西から) 東壁基本層序
写真図版 3	空中写真 (西から) 空中写真 (北から)		
写真図版 4	空中写真 (全景) 完掘状況 遺構集中区・SB601～SB604 (北から)		

- 序4(西から) 東壁基本層序5(西から) 東壁基本層序6(西から)
- 写真図版7 SE8 土層断面(西から) SE8 完掘(南から) SE81 土層断面(西から) SE81 底面遺物出土状況(西から) SE81 完掘(西から) SE170 土層断面(南から) SE170 完掘(南から) SE170・P258・P257 完掘(南から)
- 写真図版8 SE255 土層断面(東から) SE255 完掘(東から) SE457 土層断面(東から) SE457 完掘(東から) SE491 土層断面(南から) SE491 完掘(南から) SX36 土層断面(西から) SX36 完掘(西から)
- 写真図版9 SX173 土層断面(北から) SX173 完掘(北から) SK48 土層断面(南から) SK48 完掘(南から) SK200 土層断面(南から) SK200 完掘(南から) SK49 土層断面(東から) SK49 完掘(南から)
- 写真図版10 SK25・P26 土層断面(東から) SK25・P26 完掘(東から) SK42 土層断面(西から) SK43 土層断面(南から) SK42・SK43 完掘(北から) SK285 土層断面(東から) SK285 完掘(東から) SK34 土層断面(東から)
- 写真図版11 SK34 完掘(東から) SK37・SK231 遺物出土状況(南から) SK37・SK231 土層断面(南から) SK37・SK231 完掘(北から) SK64 土層断面(南から) SK64 完掘(南から) SK104・SK127 土層断面(西から) SK104・SK127 完掘(西から)
- 写真図版12 SK80 土層断面(南から) SK80 完掘(南から) SK184 土層断面(南から) SK185 土層断面(南から) SK184・SK185 完掘(南から) SK211・P212 土層断面(西から) SK211 完掘(西から) SK190・P191 土層断面(南から)
- 写真図版13 SK190・P191 完掘(南から) SK77 土層断面(南から) SK77 完掘(南から) SK261 土層断面(東から) SK261 完掘(東から) SK144 SK144 土層断面(南から) 遺物出土状況(南から) SK144 完掘(南から)
- 写真図版14 SK221 土層断面(南から) SK221 完掘(南から) SK299 土層断面(南から) SK299 完掘(南から) SK272 土層断面(南から) SK272 完掘(南から) SK349 土層断面(南から) SK349 完掘(南から)
- 写真図版15 SK422 土層断面(南から) SK422 完掘(南から) SK418 土層断面(西から) SK418 完掘(西から) SK515 土層断面(南から) SK515 完掘(南から) SK458 土層断面(南から) SK458 完掘(南から)
- 写真図版16 SK505 土層断面(南から) SK505 完掘(南から) SK215 土層断面(南から) SX228 土層断面(東から) SK459 土層断面(南から) SK459 完掘(東から) SD447A 土層断面(西から) SD447B 土層断面(西から)
- 写真図版17 SD447C 土層断面(西から) SX536 土層断面(東から) SX513 土層断面(南から) SX513 完掘(南から) P383 土層断面(北から) P258 土層断面(北から) P327 土層断面(南から) P430 土層断面(南から)
- 写真図版18 P89 土層断面(南から) P89 完掘(南から) P102 土層断面(南から) P102 完掘(南から) P339 土層断面(南から) P204 土層断面(南から) P394 土層断面(南から) P427 土層断面(南から)
- 写真図版19 P135 土層断面(南から) P139・P140 遺物出土状況(東から) P189 遺物出土状況(南から) P498・P500 砥石出土状況(西から) P473 遺物出土状況(南から) 包含層遺物出土状況(東から) 管玉出土状況(南から) 勾玉出土状況(東から)
- 写真図版20 出土遺物1 SE8・SE81・SE170・SE255・SE491・SE457・SK37
- 写真図版21 出土遺物2 SK37・SK231・SK144・SK349・SK458・SK459・SD447
- 写真図版22 出土遺物3 SD447・SX536・P98・P189・P147・P476・P502・P473・遺構外
- 写真図版23 出土遺物4 遺構外
- 写真図版24 出土遺物5 遺構外
- 写真図版25 出土遺物6 遺構外
- 写真図版26 出土遺物7 土製品・陶器・石製品・木製品

第 I 章 序 章

第 1 節 遺 跡 概 観

上大川遺跡は、新潟市北区葛塚字上大川 799 番地 1 他に所在する。かつては、水田が広がる地域であったが、現在は、日本海沿岸東北自動車道の建設や市街地の拡大によって、それ以前の水田地帯とは趣を異にしている。

新潟平野で最も低湿な阿賀野川右岸のこの地域は、福島潟周辺を中心とした強低湿地帯が広がり、その干拓は近世に始まった。その頃の絵図や検地帳といった史料から、当時の集落が砂丘や自然堤防のような微高地に形成されていたことがわかるが、それより古い時代もまた砂丘を中心とした微高地を選んで活動・生活の場としていたことが遺跡の分布にみることができる。

当遺跡は、平成 19 年 3 月の試掘調査で発見された遺跡であり、自然堤防上に立地している。地表面の標高は約 0.5m を測り、遺跡はそこから約 0.6 ～ 0.7m 下で姿を現す。周辺には、北から東にかけて 5 ケ所の遺跡がここを取り囲むように存在している。いずれも古墳時代前期の自然堤防上の遺跡であり、この時代の中心的な地域であったことが窺える。

第 2 節 発掘調査に至る経緯

調査の原因となった正尺・早通線道路改良工事は、旧豊栄市建設課が担当となって計画されたもので、「合併建設計画」として、そのまま新潟市に引き継がれた事業である。新潟市歴史文化課（以下、歴史文化課という）は、合併前に各市町村の合併建設計画を含む全ての公共事業について照会を行っており、本事業はその中で埋蔵文化財に係る協議案件としてあがっていたものである。具体的な協議は、事業の見通しがついた平成 18 年度にはいつてから行った。歴史文化課は、工事予定地には周知の遺跡はないが、周辺に遺跡が多数確認されていることから、未知の遺跡が存在する可能性がある判断し、豊栄支所建設課（平成 20 年度から北区建設課となる。以下、建設課という）に試掘調査の必要性を伝えた。

平成 19 年 2 月 28 日付けで、建設課から事前（試掘）調査の依頼があり、それを受けて歴史文化課は平成 19 年 3 月 7 日～ 3 月 9 日の 3 日間の試掘調査（第 1 次調査）を実施した。この調査で古墳時代前期の遺物と遺構が確認され、遺跡の存在が明らかになったため、新潟県教育長（以下、県教育長という）あてに終了報告書（平成 19 年 3 月 12 日付け新歴 1656 号の 5）および埋蔵文化財発見通知書（平成 19 年 3 月 13 日付け新歴第 1656 号の 6）を提出した。平成 19 年 3 月 29 日付け教文第 1578 号で県教育長から新潟市教育長（以下、市教育長という）へ文書が送付され、新遺跡が周知化された。

同年 3 月 19 日、歴史文化課と建設課は協議を行い、本発掘調査の対象地を工事が遺跡におよぶ約 2,000m² の範囲としたが、実施時期については、平成 19 年度における歴史文化課の対応が不可能であったため、平成 20 年度の実施とした。幸い、本体工事の工期が平成 21 年度まであり、調査終了までは調査地とその隣接地を除いた場所の工事を進めることで調整を図ることになった。この 1 年後、建設課は、歴史文化課へ本発掘調査依頼書（平成 20 年 4 月 18 日付け新北建第 61 号）を提出するとともに、県教育長あてに文化財保護法 94 条の規定に基づく通知（平成 4 月 19 日付け新北建第 63 号）を行った。

歴史文化課は、平成 20 年 4 月 25 日付け新歴第 5024 号の 5 で県教育長あてに文化財保護法 99 条の規定に基づく発掘調査の着手報告をし、5 月 7 日に本発掘調査を着手する（第 2 次調査）。

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の位置と地理的環境

新潟市は越後平野のほぼ中央に位置し、市域の地形は大きく海岸部の砂丘地帯、南西側の角田・弥彦山塊と南東側の新津丘陵、その間の沖積面からなっている。市域の大半を占める越後平野は、信濃川・阿賀野川などをはじめ大小の河川によって形成された沖積層であり、発達した砂丘列とその内陸側に広がる低湿地帯が特徴である。

砂丘は、河川が運ぶ大量の砂が、沿岸の海流で押しとめられて砂州となり、それが冬の季節風で移動して高く積もったものである。海岸線から内陸へ10kmに及ぶ10列の砂丘列を構成しており、砂丘の地形や砂丘の表面の腐植層の状態、砂丘上に残された遺跡の時代などから大きく3つに分けられている。形成された時代から内陸よりの新砂丘Ⅰ・Ⅱ・Ⅲと区分されており、Ⅰ群は4列、Ⅱ群は4列、Ⅲ群は2列に細分されている〔新潟古砂丘グループ1974〕。

砂丘列の内陸側に広がる低湿地帯には、紫雲寺潟・福島潟・鳥屋野潟・鎧潟など多くの潟湖群が形成された。これは河川の土砂により形成された砂丘が、河川の流れを阻み、内部湛水を引き起こしたためである。しかし現在では、河川の整備とともに潟湖もほとんど干拓されて水田地帯となっている。

今回調査した上大川遺跡が所在するのは新潟市の北東部に位置する北区である。北区は阿賀野川右岸に位置し、東は聖籠町、新発田市、南は阿賀野市に隣接しており、北には日本海が広がっている。その地形は砂堆・砂丘帯とその間の砂丘間低地、自然堤防とそれに伴う後背湿地帯、福島潟などの潟湖からなっている。

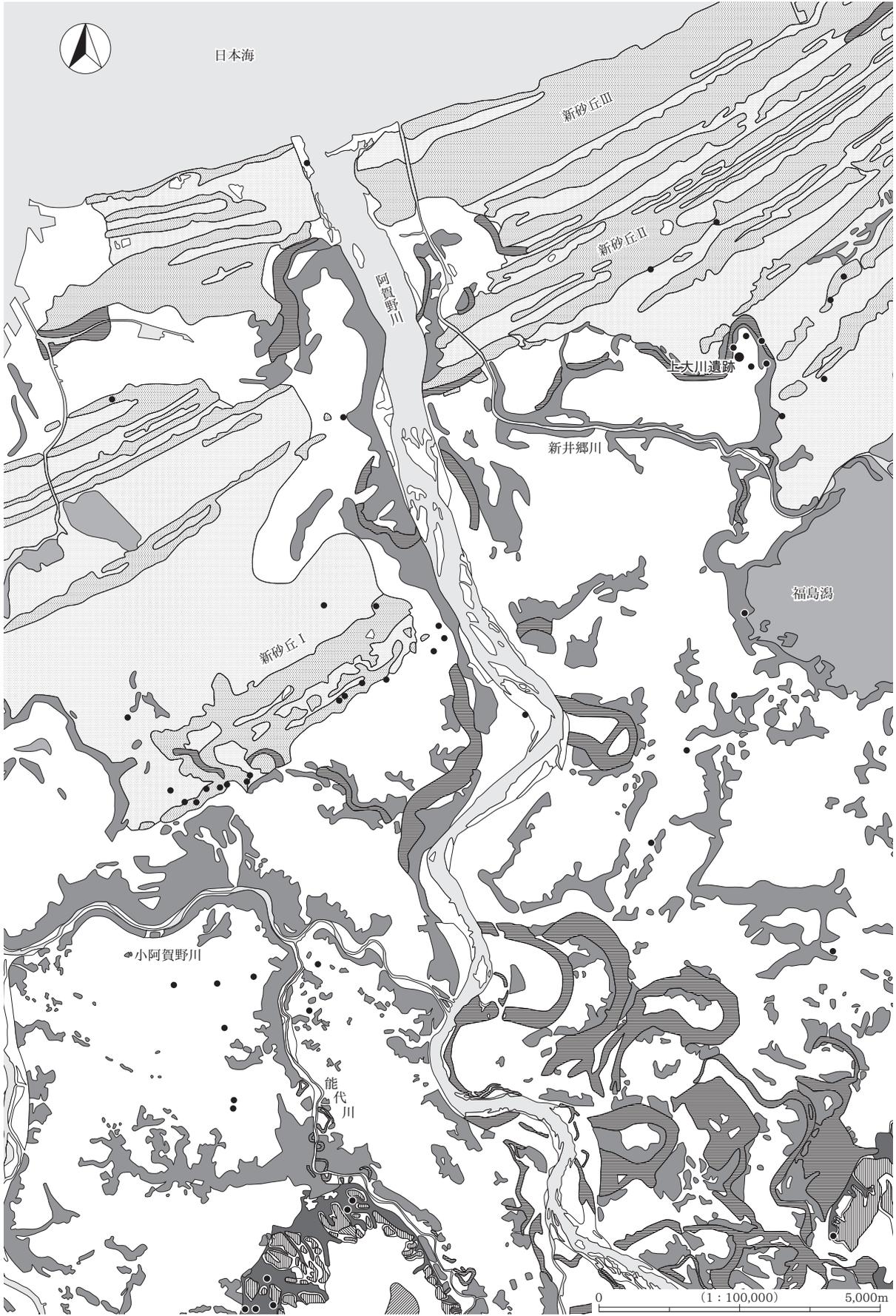
福島潟は享保年間に降干拓が進められ、現在の大きさに縮小されたが、1645年に描かれた「越後国絵図」においては長さ約5km、幅約3.4kmの範囲が示されている。この範囲は「阿賀野川水害地形分類図」〔大矢・加藤1986〕にみる福島潟の範囲とほぼ同じと推定されている〔南1998〕。また福島潟から流出する新井郷川は、洪水のたびにかなり河道が動いていたことが古い地形図や空中写真から確認できる。

この福島潟から北西に約4km離れた地点に位置する上大川遺跡は、新潟市北区葛塚字上大川799-1番地他に所在し、新砂丘Ⅰ-3列・Ⅰ-4列の2つの砂丘列の間に位置している。周辺には同時代の遺跡がまとまっていることから、当時このあたりが中心的な場所であった可能性がある(第1図)。

標高は現在の田面で0.5mを測り、遺跡はこの面から0.6～0.7m下で現われる。低湿な土地に生活していたことが伺え、また包含層の上にはガツボ(未分解有機物層)が形成されていることから、遺跡の廃絶以降は沼や潟のような湿地であったと思われる。

第2節 周辺の遺跡

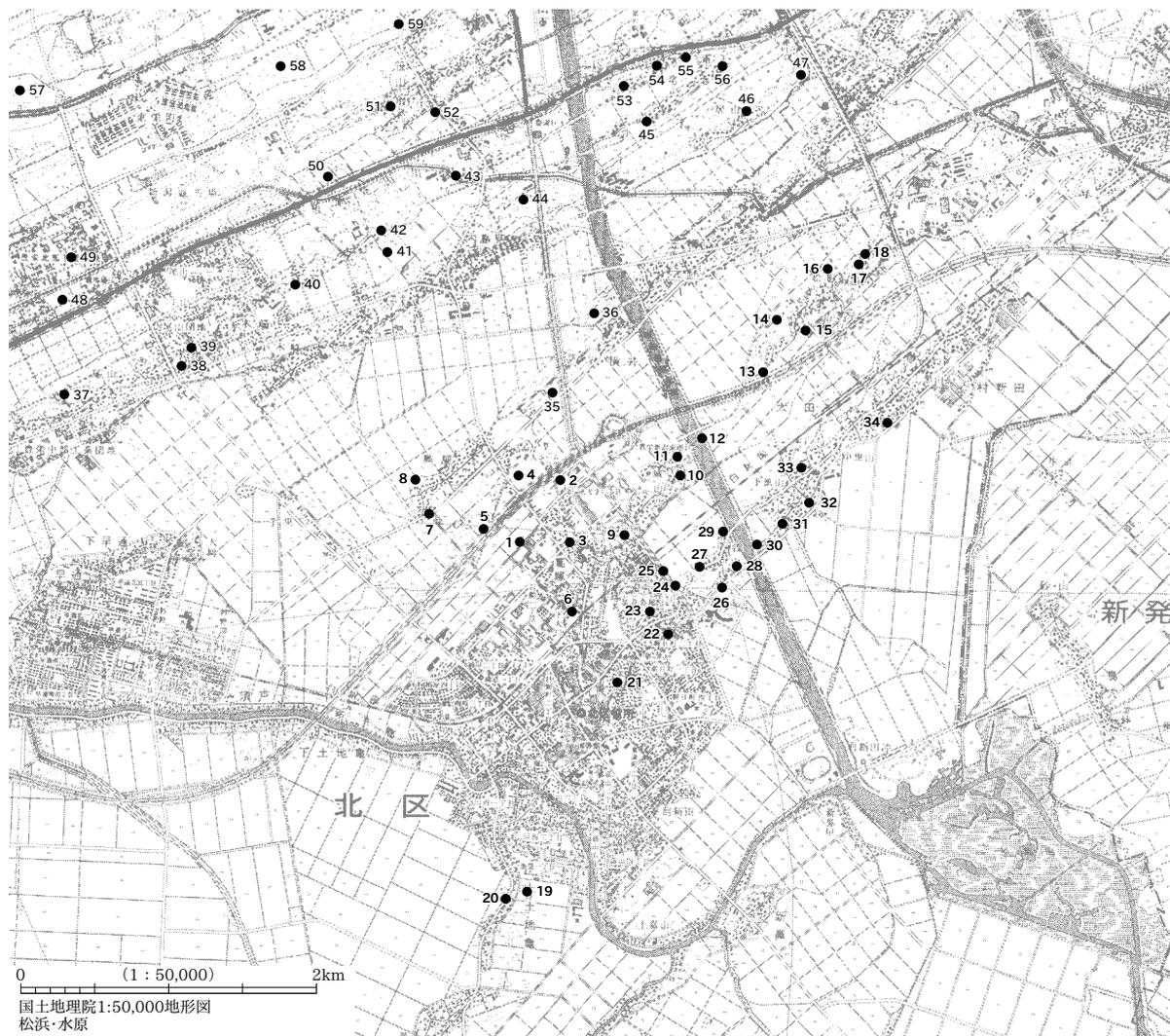
上大川遺跡周辺の遺跡の立地は、砂丘上と自然堤防上の2つに分かれる。時代別に遺跡の分布をみると、縄文・弥生時代では砂丘上のみ遺跡が存在し、自然堤防上に遺跡の分布がみられるようになるのは古墳時代以降のことである。古墳時代になると、遺跡の増加と自然堤防への進出に加えて、大型集落の出現といった著しい変化がみられる。さらに奈良・平安時代になると、沼垂郡では、集落・官衙関係の遺跡の成立や須恵器・鉄・塩といった手工業生産の開始がみられる。一方で、砂丘上の多くの集落は9世紀後半には衰退し、これ以降、中・近世から現代に至るまで平野部が主たる生活の場となる(第2図)。以下では、各時代に分けて上大川遺跡周辺の遺跡を概観する。



新潟県『土地分類基本調査 新潟・新津』1972・1974年より作成 (1/100,000)

第1図 周辺の地形分類図

第2節 周辺の遺跡



No.	名称	時代	No.	名称	時代	No.	名称	時代
1	上大川遺跡	古墳	21	葛塚遺跡	古墳	41	内島見B遺跡	平安
2	正尺A遺跡	古墳・平安・近世	22	法花鳥屋A遺跡	縄文・古代	42	あかしやだん遺跡	平安
3	正尺B遺跡	古墳	23	法花鳥屋B遺跡	縄文・弥生・古代	43	引越遺跡	弥生
4	正尺D遺跡	古墳	24	法花鳥屋C遺跡	古代	44	内島見遺跡	縄文
5	正尺C遺跡	古墳	25	法花鳥屋D遺跡	古代	45	浦ノ入B遺跡	縄文
6	下大口遺跡	古墳	26	棕C遺跡	縄文・弥生・古墳・古代	46	居山B遺跡	縄文
7	鳥屋遺跡	縄文	27	サンマイ塚	不明	47	居山A遺跡	縄文
8	寸苗庵経塚	江戸	28	名山B遺跡	縄文	48	樋ノ入B遺跡	縄文
9	甲山遺跡	平安	29	名山A遺跡	古代	49	樋ノ入A遺跡	縄文
10	城山館跡	室町	30	名山C遺跡	古代	50	笹山C遺跡	縄文
11	亀田城山遺跡	縄文	31	棕B遺跡	古代	51	笹山B遺跡	縄文
12	新五兵衛山遺跡	平安	32	棕A遺跡	縄文・古代	52	笹山D遺跡	平安
13	松影A遺跡	縄文・弥生・古墳・平安・中世	33	下黒山遺跡	不明	53	切尾C遺跡	縄文
14	松影D遺跡	縄文・古墳	34	中黒山遺跡	中世	54	切尾B遺跡	縄文
15	松影E遺跡	不明	35	横井遺跡	平安	55	切尾A遺跡	縄文
16	松影C遺跡	古墳	36	内島見C遺跡	室町	56	浦ノ入A遺跡	縄文
17	松影B遺跡	古墳	37	尾山C遺跡	平安	57	向山遺跡	平安
18	大池遺跡	古墳	38	尾山B遺跡	平安	58	上舟橋遺跡	平安
19	上土地亀A遺跡	古墳・平安	39	尾山A遺跡	平安	59	笹山A遺跡	縄文
20	上土地亀B遺跡	古墳・古代	40	たやしき遺跡	弥生			

第2図 周辺の遺跡

縄文時代

縄文時代の遺跡は新砂丘 I - 2・3・4 上に分布がみられる。I - 2 列では、縄文時代前期後半の土器が出土した上黒山遺跡のほか、法花鳥屋遺跡などがある。法花鳥屋遺跡は法花鳥屋の集落を中心として 4 地点 (A 遺跡～D 遺跡) で遺物が採集されており、そのうち B 遺跡では、縄文時代前期末～晩期の土器と土偶の破片などが出土している [関 2005]。I - 3 列では、砂丘の南斜面に松影 A 遺跡が存在する。発掘調査では縄文時代中期前葉を最古として、縄文時代後期、晩期、弥生時代、古墳時代、平安時代、中世の遺物が出土している [加藤 2001]。I - 4 列では、縄文晩期後半～最終末の標識遺跡である鳥屋遺跡が存在する。3 次にわたって調査された結果、土坑と考えられる遺構が 190 基検出され、これらの遺構からは石鎌や磨製石斧などの石器、壺や浅鉢・深鉢・高杯・甕などの土器に加えて、耳飾や垂れ飾りといった装身具や土偶・石冠といった呪術具などが出土している [関^{ほか} 1988]。

弥生時代

弥生時代の遺跡も同じく新砂丘 I - 2・3 上に分布がみられる。I - 2 列に位置する法花鳥屋 B 遺跡では縄文土器に混じって弥生時代後期末の壺がほぼ完形で出土している。土器の体部には縄文が施されており、縄文土器の流れをくむ東関東地方の土器の特徴がみられる。また同じ砂丘上には棕 C 遺跡が存在する。調査では、弥生時代後半から古墳時代初頭にかけての遺物が多く出土している。中でも北方系の続縄文土器がまとまって出土したことが注目され、長野県北部や北陸地方の影響を受けた土器もみつまっている [新潟市 2007]。I - 3 列上では、前時代に続き松影 A 遺跡が存在する。

古墳時代

古墳時代になると、砂丘上の集落に加えて、自然堤防を中心とする微高地への居住が始まる。まず、新砂丘 I - 2・3 では、縄文から中世の複合遺跡である松影 A 遺跡や上黒山遺跡がある。自然堤防上には、正尺遺跡、葛塚遺跡などがあり、古墳時代前期の良好な資料が認められる。正尺遺跡は、4 地点 (A 遺跡～D 遺跡) が知られており、このうち日本海沿岸東北自動車道建設に伴い、正尺 A・C 遺跡が本調査された。その結果、古墳時代前期の竪穴住居のほか、周囲を溝で区画した掘立柱建物などの遺構が検出された。遺物は土器を中心に多量に出土しており、東海地方や東北地方との関連が窺える土器もある。特に器台が多いことが特徴的であり、装飾器台をはじめとした祭祀色の強い遺物が多数出土している [尾崎^{ほか} 2001・土橋^{ほか} 2006]。葛塚遺跡では古墳時代前期の良好な土器群とともに続縄文土器など、北方系の要素もみられる。また線刻人物画のある赤彩の土師器壺が出土している [関 1999]。

奈良平安

奈良・平安時代は、市内でも遺跡数が最も多く、その立地も沖積地の微高地が多いのが特徴である。砂丘上では、新砂丘 I - 3 列上に新五兵衛山遺跡と甲山遺跡がある。新五兵衛山遺跡は平安時代を中心とした遺跡で、須恵器・土師器とともに鍛冶炉と考えられる炉の底部や、鞆の羽口、炉の壁材などがみつかった。また出土した鉄滓の化学分析により、砂鉄製錬滓・精錬鍛冶滓・鍛錬鍛冶滓の 3 種が確認されたことから、本遺跡では鉄素材の生産から鍛造鉄製品の仕上げまでの作業が行われていたことがわかった。この他、管状土錘が 200 点近く出土しており、魚網を用いた内水面漁業を盛んに行っていた遺跡の一つと考えられる [関^{ほか} 1989・1996]。甲山遺跡は、平安時代を主体とする複合遺跡で、井戸が 1 基検出されている [関^{ほか} 2005]。一方、新砂丘 I - 2 列の南側地域には低湿地帯が広がり、駒林川流域に形成された自然堤防上には、古代の遺物を主体とする遺跡が多数存在している。その一つに上土地亀遺跡がある。上土地亀遺跡では、炉状遺構が検出され、古墳時代中期のほかに 9 世紀頃の遺物も出土している [関 1993]。

中近世

中世以降の集落遺跡では、自然堤防上に位置する下前川原遺跡があげられる。下前川原遺跡では、井戸 10 基、溝 42 条などの遺構とともに、珠洲焼や青磁・白磁などの遺物が多く出土した。これらの出土品は当時の物流の

様子を反映したものであり、河川交通を利用した拠点集落であることが想定されている。出土した遺物の時期は12世紀後半から15世紀前半に及ぶが、主要な時期は12世紀後半から13世紀代である。出土遺物の特徴は、青磁の碗・皿を主とする中国産の陶磁器が181点と比較的多く出土していることである。青白磁の合子も6点認められるが、城館などから出土する威信財的な超高級品はなかった〔遠藤2004〕。

第3節 歴史的環境

『和名類聚抄』によれば、10世紀ころの越後国には、頸城・三島・古志・魚沼・蒲原・沼垂・磐舟の7郡があったが、当初から越後国に属していたのは、阿賀野川以北の沼垂・磐舟の2郡であった。上大川遺跡のある葛塚地域は沼垂郡に属しており、沼垂郡には足羽・沼垂・賀地の3郷が置かれていたとされる。その現在地については必ずしも明確ではないが、沼垂郷は信濃川河口右岸から聖籠町の境界線付近の砂丘地帯を含む北東地域、賀地郷は福島潟右岸で加治川中流域の新発田市を中心とする地域と推定されており、足羽郷は中世の奥山荘と白河荘の2説があるが、地名からは判断し難い。

「康平・寛治絵図」には「東潟」という記載があり、これが現在の福島潟を示しているのではないかと考えられている。その他いろいろな名称で呼称されていたようであるが、特徴的なのは、「潟」「湖」「水海」などと呼ばれていることから、大きな「潟湖」であったことがわかる。このことから遺跡があったその周辺地域の景観は、一面の潟湖におおわれた湿地帯にいくつかの村が点在していたと推測されている〔長谷川1998〕。

中世においてこの地域は、「白河荘」と「豊田荘」に分かれる。前者は阿賀野川を西の境として、岡方・長浦地区を含んだ阿賀野市を領域とし、後者は新井郷川以北から新発田を領域としている。また、新崎・濁川の付近は「金津保」に属しており、阿賀野川付近は3つの荘園の境界であったと考えられる。本遺跡のある地域は豊田荘に属すとされる。豊田荘は長承4（1135）年に成立した東大寺領の荘園である。この荘園は、東大寺領の頸城郡石井荘と古志郡土井荘が廃絶したため、両荘の代わりに沼垂郡加地郷の中に成立し、以後越後における唯一の東大寺領荘園として存続した。

建久8（1197）年、治承3年から建久7年に至る18年間にわたって、白河荘の領主である九条家が白河荘の作田・損田・得田の面積の変遷を記録に留めた「建久八年白河荘年々作田注文案」によると、中世期においても阿賀野川の洪水被害に悩まされていたことが分かる。阿賀野川は洪水・地震などの自然災害によって、度々その流路を変えてきたが、激しい河道の変更は、同時に肥沃な耕地を与えることにもなる。その結果、周辺地域には新たな自然堤防や微高地が生まれ、新しい村が出現していった。

慶長3（1598）年の上杉家会津転封により、遺跡周辺は新発田藩領となったが、新発田藩は収入増加のため、紫雲寺潟や福島潟を干拓し新田開発を行った。享保15（1730）年には、幕府の監督の下、阿賀野川を松ヶ崎で掘り割り、日本海に直接流す分水路の工事を行った。この掘割工事とその翌年の洪水による掘割の阿賀野川本流化によって、広大な干上がり地が生まれ、耕地の開発が進んだ。

第Ⅲ章 調査の概要

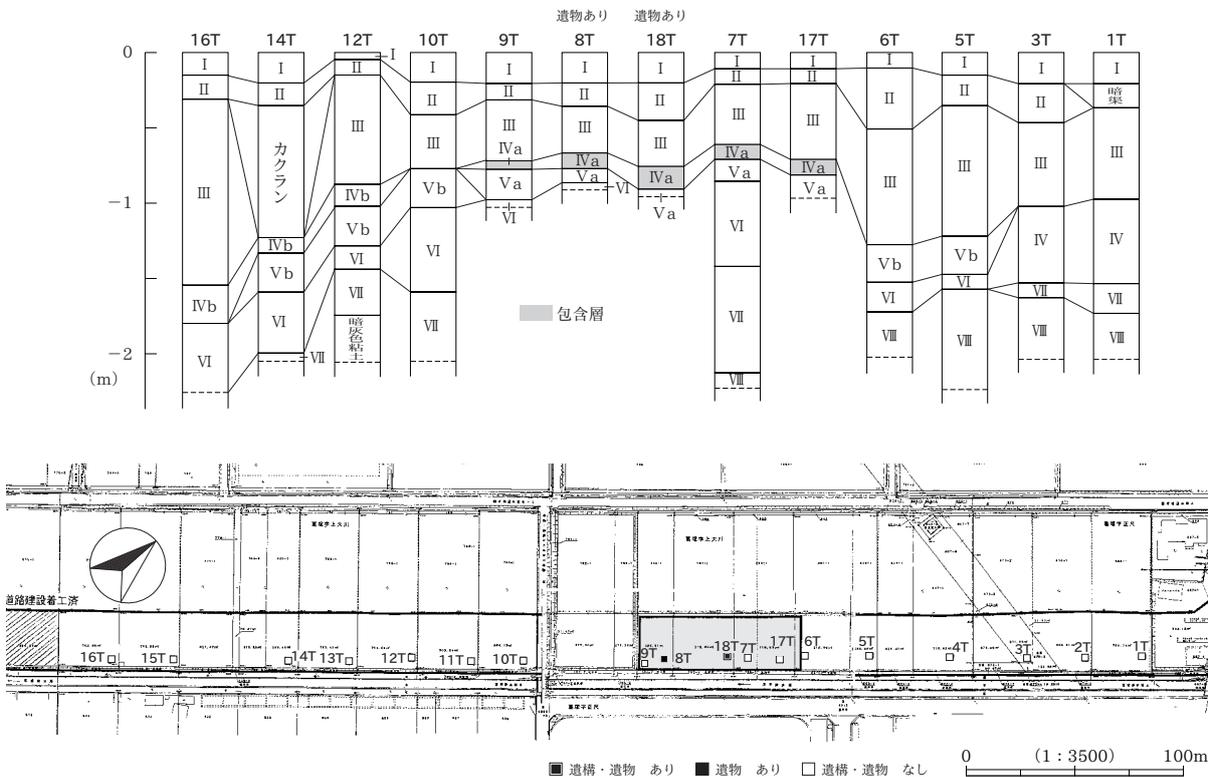
第1節 試掘調査

A 調査方法と経過

試掘調査（1次調査）は、正尺・早通線道路改良工事の予定地約26,000m²を対象に平成19年3月7日～9日の3日間行われた。対象地は休耕地となっており、18箇所の試掘坑を設定した。試掘調査面積は108m²である。調査においては、バックホウで少しずつ掘り下げながら、遺物包含層の確認や遺構検出面・土層の精査を人力で行い、その都度、遺構・遺物の有無、土層の堆積状況を記録した。土層記録は、地表面を「0m」とし、各層位をそこからの深さで表わした（第3図）。包含層はガツボ層（Ⅲ層）直下の黒褐色～暗灰色粘質シルト（Ⅳa層）であり、7・8・9・17・18Tで確認された。地表面（田面）からの深さは60～80cmで、厚さは5～15cmである。8・18Tで古墳時代前期の遺物が確認され、18Tでは遺構が検出された。このことから、新発見の遺跡として「上大川」遺跡と名付けられ、周知化されるに至った。

B 調査体制

調査主体	新潟市教育委員会（佐藤満夫）
所管課	新潟市歴史文化課（課長 渡辺ユキ子 課長補佐 倉地一則 埋蔵文化財係長 渡邊朋和）
事務局	新潟市埋蔵文化財センター（所長 山田光行 埋蔵文化財係長兼主任 渡邊朋和）
調査担当	新潟市埋蔵文化財センター 副主査 朝岡政康



第3図 試掘調査土層柱状図・調査位置図

第2節 本発掘調査

A 調査方法

1) グリッドの設定 (図版3)

グリッドは、X座標 214100.000・Y座標 62650.000 (世界測地系平面直角座標第Ⅷ系)、緯度 $37^{\circ} 55' 38.14829''$ 、経度 $139^{\circ} 12' 45.55187''$ とする基点を設定し、それをもとに 10m 方眼の大グリッドを組んだ。大グリッドの名称は、北西隅 (基点) を「1A」杭として、南北方向をアラビア数字、東西方向をアルファベットで表わした。さらに、その中を 2m 方眼で区切って 25 分割する小グリッドを設定し、「4C13」のように呼称した。基準杭の打設は測量業者に委託した。任意の隣り合う 2 つのグリッド杭、7H 杭・8H 杭の座標は、7H 杭が X 座標 214040.000・Y 座標 62720.000、8H 杭が X 座標 214030.000・Y 座標 62720.000 であり、8H 杭の座標北は真北に対し 26 分 19 秒東偏、同磁北は真北に対し 7 度 46 分西偏する。

2) 調査方法

①表土剥ぎ 試掘調査によって遺物が出土しないことが予想されたため、遺物包含層 (IV層) 上面まで、バックホウにより除去した。法面は安全面を考慮して一分の勾配とした。また、湛水防止のために表土剥ぎと平行して調査区の周囲に土側溝を掘り、2 吋のポンプで強制排水を行ったが、排水がうまくいかなかったため、調査区東壁・南壁沿いに管を伏せた暗渠を設置した。西壁・北壁沿いは人力で排水溝を掘削し、碎石を入れた。

②包含層掘削・遺構検出・発掘 遺物包含量が場所によって著しく異なることが予想されたため、その掘削作業は、少量のところは重機で、それ以外のところは人力で行った。遺構プランの検出は包含層 (IV層) 直下ではわかりにくい土質のため、全体に 2～3cm ほど下げて行っている。遺構掘削については、半裁→完掘という手順で行っているが、溝はベルトを設定し掘削、また半裁できないような小さい遺構は裁ち割りを行ったものもある。

③実測・写真 調査に係る実測・測量は全て測量業者に委託した。断面実測は写真測量、平面実測はトータルステーションを用いて作業で行った。遺構断面・遺構平面の写真撮影は、調査員が撮影内容によって、デジタル・35mm 版・6×7 版のカメラおよび白黒フィルム・カラーポジフィルムを適宜選択しながら行った。遺構の全体 (俯瞰) 写真撮影は、測量業者がラジコンヘリコプターにより行った。

④遺物取り上げ 包含層出土遺物については、小グリッド単位の取り上げを基本としたが、遺構を反映する可能性がある遺物集中部分は、遺構出土遺物と同じように測量業者の測量によりドットで取り上げた。

⑤自然科学分析 年代推定の参考とするためにテフラ検出分析及び放射性炭素 (^{14}C) 年代測定、古環境復元のためにプラントオパール・種実同定・花粉分析・珪藻分析を行った。

B 調査経過

平成 20 年 5 月 13 日から諸準備にはいり、22 日まで重機による表土掘削を行った。それと並行して、作業員 6 名程度で土側溝掘削・法面仕上げを行い、調査区南壁面と東壁面の基本土層図を作成した。5 月 15 日から測量業者による杭打ちが行われ、23 日より包含層掘削・遺構検出・掘削作業を開始した。途中、暗渠の設置を行っている (6 月 5 日～10 日)。作業は南から北へ進め、遺構調査がほぼ終了したのは 8 月 6 日である。7 月 31 日には自然化学分析のための土壌採取をした。7 月 27 日に現地説明会、8 月 6 日に豊栄博物館が主催する北区小学生対象の遺跡見学が行われた。翌 8 月 7 日にラジコンヘリコプターによる空中写真撮影を行い、同日午後、いくつかの完掘遺構について断ち割りによる確認を行った。8 月 9 日に機材撤収を含め全ての調査が終了した。期間中、天候などの理由により調査中止のときは、土壌洗浄を行なった。最終的な発掘調査面積は上端 1776.2m^2 下端 1660.5m^2 である。

C 調査体制

調査主体	新潟市教育委員会（佐藤満夫）
所管課	新潟市歴史文化課（課長 倉地一則 課長補佐 山田一雄 埋蔵文化財係長 渡邊朋和）
事務局	新潟市埋蔵文化財センター（所長 山田光行 埋蔵文化財係長兼主任 渡邊朋和）
調査員	（調査担当）新潟市埋蔵文化財センター 主査 渡邊ますみ（調査員）同専門臨時職員 池田ひろ子
整理補助員	埋蔵文化財センター臨時職員 桑野多真美 沼澤綾子

第3節 整理作業

A 整理方法

1) 遺物

試掘調査・本発掘調査あわせて、コンテナ（内径 54.5 × 38.6 × 10.0cm）約 110 箱分の遺物が出土している。土器がほとんどであり、他に石製品・木製品が各数点ある。

遺物の整理作業は、水洗→注記→グリッド別、器種毎の重量・個体数計測→遺構出土遺物の器種毎の重量・個体数計測→接合→報告書掲載遺物の抽出→実測図、観察表作成→トレース図作成→版下作成の手順で行った。実測は整理補助員が、版下レイアウトは調査員が行い、そのデジタル図化・編集を業者に委託した。写真撮影は、業者に委託した。

2) 遺構

遺構断面図・平面図の個別修正は現場作業と並行して行い、調査終了後、両図面の整合作業を進めた。報告書の 1/80、1/40 の遺構平面原図は測量業者がデジタルデータで作成し、加工・編集は専門業者が行った。

B 整理経過

発掘調査作業と並行して出土遺物の水洗・注記を行い、調査終了後、出土遺物の計測・接合・実測を進めるとともに測量業者に委託した遺構平面図・断面図の整合作業を行った。並行して、職員は報告書の章立て・レイアウトを作成し、図版作成・原稿執筆を行った。

C 整理体制

調査主体	新潟市教育委員会（佐藤満夫）
所管課	新潟市歴史文化課（課長 倉地一則 課長補佐 山田一雄 埋蔵文化財係長 渡邊朋和）
事務局	新潟市埋蔵文化財センター（所長 山田光行 埋蔵文化財係長兼主任 渡邊朋和）
調査員	（調査担当）新潟市埋蔵文化財センター 主査 渡邊ますみ（調査員）同専門臨時職員 池田ひろ子
整理補助員	青池光子 小野里絵梨子 桑野多真美 佐々木陽子 清野環 高木裕貴子 沼澤綾子 野崎裕美

第Ⅳ章 遺 跡

第 1 節 概 要

上大川遺跡では古墳時代の遺物が出土し、同時代の遺構が検出された。遺跡は、調査区北東側に落ちていく地形であり、遺構はそこ南側の凹凸した浅い窪地との間の比較的狭い空間に集中している。掘立柱建物や井戸が検出されたことから、居住地と考えられるが、竪穴住居は検出されなかった。

出土遺物の多くは古墳時代の土師器で、石製品、木製品が少量存在する。注目されるのは、出土遺物の中の玉類であり、異なる石材や未成品の存在は、遺跡の性格を考える上で重要である。

検出された遺構は掘立柱建物 6 棟、井戸 6 基、土坑 39 基、溝 1 条、性格不明遺構 5 基、小土坑 488 基である。なお井戸などの大型の遺構については、覆土を採取し土壌洗浄を行なっている。

第 2 節 層 序 (図版 13、写真図版 6)

基本層序を図版 13 に示す。下記のとおり、大きく 6 層に分けられる。Ⅰ～Ⅱ層は現代の耕作土あるいは床土である。Ⅲ層は未分解植物を含むいわゆるガツボ層である。またこの層からは江戸時代の京焼が 1 点出土している。このことから、遺跡の廃絶後、この地は沼地のような湿地帯になっていたと考えられる。Ⅳ層は遺物包含層であり、古墳時代の遺物のみが出土する。遺構検出面はⅤ層上面である。

- Ⅰ 層 灰色 (5Y5/1) 粘質土。耕作土。
- Ⅱ 層 灰色 (7.5Y5/1) 粘質土。床土。
- Ⅲ a 層 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 粘質シルト。腐植物を含む。しまりあり、粘性あり。
- Ⅲ b 層 黒褐色 (10YR2/2) 粘質シルト。炭化物を少量含む。腐植物を多く含む。しまりあり、粘性あり。
- Ⅳ a 層 黒褐色 (2.5Y3/1) 粘質シルト。炭化物を含む。しまりあり、粘性強い。遺物包含層。
- Ⅳ b 層 オリーブ黒色 (5Y3/1) 粘質シルト。炭化物φ 1cm 程度を多く含む。しまりあり、粘性強い。遺物包含層。
- Ⅴ 層 灰色 (7.5Y4/1) 粘質シルト。しまりあり、粘性強い。遺構確認面。
- Ⅵ 層 灰色 (7.5Y5/1) 粘質土とシルトの互層。粘性ややあり、しまりややあり。Ⅴ層との境付近では粘質土小ブロックが多いところがある。

第 3 節 遺 構

遺構番号は遺構の種類に関係なく検出順に番号を付した。説明は掘立柱建物 (以下、SB とする)、井戸 (以下、SE とする)、土坑 (以下、SK とする)、溝 (以下、SD とする)、性格不明遺構 (以下、SX とする)、小土坑 (以下、ピットとする。記述の際は省略して P とする)、の順に平面図図版ごとに記す。詳しい遺構の計測値などは別表 1 に示した。遺構出土土器の詳細は別表 2 に示しており、本節では一部省略している。出土土器は古墳時代の土師器であり、本文では器種名のみを記述した。遺構覆土には 2 つのパターンがみられる。ひとつは包含層土に近い炭化物を含んだ灰色～黒色の粘質土を主体とするもの (覆土 a)、もうひとつはそれが少なく灰色粘質シルトが主体となるもの (覆土 b) である。灰色～黒色粘質土は遺物を含むことが多いため、覆土 a の遺構は遺物を包含す

るものが多い。覆土 b には、地点によって灰色砂質シルトを含むものがある。以下に各遺構の概要を述べる。

1) SB (掘立柱建物)

SB601 (図版 14、写真図版 4)

8G23～25、9G3～5・8～10・13～15 に位置する。桁行 2 間×梁行 1 間の側柱建物である。遺構が集中する地点からはやや外れた位置から検出された。この建物の南側には、井戸集中区から離れて独立している SE8 があり、SB601 に伴う井戸の可能性がある。建物の方向は N-2° - W を指し、長軸 6.08m、短軸 4.35m を測る。柱掘方は円形を呈し、規模は長軸 0.28～0.41m、短軸 0.28～0.40m、深さは 0.10～0.17m である。断面形は概ね半円形を呈し、覆土は灰色またはオリーブ黒色の粘質土を主体とする a 類である。柱根は検出できなかった。遺物は P97 から甕の破片が 2 点出土している。

SB602 (図版 15、写真図版 4)

7G23～25、8G3～5・8～10・13～15・18・19 に位置する。桁行 2 間×梁行 1 間の側柱建物である。SE170・255 などの井戸が集中する範囲と重複するように検出されたが、出土遺物からの判断では先後関係は不明瞭である。建物の方向は N-7° - W を指し、SB601 と主軸をほぼ同じくして、重複しないように分布することから、これらは並存した可能性がある。規模は長軸 7.12m、短軸 3.90m を測る。柱掘方は円形もしくは楕円形を呈し、規模は長軸 0.23～0.32m、短軸 0.18～0.32m、確認面からの深さは 0.09～0.41m とややばらつきがある。断面形は概ね半円形を呈し、覆土は灰色またはオリーブ黒色の粘質土を主体とする a 類である。柱が遺存するのは P258 と P383 (図版 36-4・5) である。遺物は P356 から甕の破片が 1 点出土している。

SB603 (図版 16、写真図版 4)

7G6～8・11～13・16・17 に位置する。桁行 1 間×梁行 1 間の側柱建物である。建物の方向は N-86° - E を指し、長軸 3.75m、短軸 2.90m を測る。柱掘方は円形もしくは楕円形を呈し、規模は長軸 0.27～0.31m、短軸 0.24～0.29m、確認面からの深さは 0.15～0.42m とややばらつきがある。断面形はそれぞれ異なっているが、覆土はオリーブ灰色または灰色の粘質土を主体とした a 類である。柱が遺存するのは P327 のみである。遺物は P238 と P327 から甕の破片が 1 点ずつ出土している。

SB604 (図版 16、写真図版 4)

7H21・22、8H1・2・6・7、8G5 に位置する。桁行 1 間×梁行 1 間の側柱建物である。方向は N-27° - E を指し、長軸 4.42m、短軸 2.60m を測る。柱掘方は円形を呈し、規模は長軸 0.20～0.35m、短軸 0.20～0.32m、深さは 0.07～0.25m である。断面形は半円形もしくは台形状を呈し、覆土は灰色～黒色の粘質土を主体とする a 類である。柱が遺存するのは P430 (図版 36-7) のみである。遺物は P174 から甕と壺の破片が、P430 の 1・2 層より甕の破片が 5 点、P437 から甕の破片 1 点がそれぞれ出土している。

SB605 (図版 17、写真図版 5)

7G5・10・15、7H1～3・6～8・11～13 に位置する。桁行 2 間×梁行 1 間の側柱建物である。方向は N-89° - W を指し、長軸 5.40m、短軸 3.45m を測る。柱掘方は円形を呈し、規模は長軸 0.21～0.42m、短軸 0.19～0.34m、深さは 0.08～0.27m である。断面形は半円形を呈し、覆土は記録したものが少ないが概ね灰色またはオリーブ黒色の粘質土を主体とする a 類である。柱根は検出できなかった。遺物は P445 から甕の破片が 2 点出土している。

SB606 (図版 17、写真図版 5)

6H20・25、6I16・17・21・22 に位置する。桁行 1 間×梁行 1 間の側柱建物である。方向は N-85° - E を指し、長軸 2.55m、短軸 2.45m を測る。柱掘方は概ね円形を呈し、規模は長軸 0.20～0.74m、短軸 0.20～0.56m とややばらつきがある。深さは 0.16～0.26m である。断面形は半円形を呈し、覆土はオリーブ黒色または灰色の粘質土を主体とする a 類である。柱根は検出できなかった。

2) SE (井戸)

SE8 (図版 18、写真図版 7)

9G13・14・18・19に位置する素掘りの井戸である。平面形は長軸 1.36m、短軸 1.32m のほぼ円形で、断面の形状は平坦な底部から壁が外反して急斜度に立ち上がる。北壁はいったん急斜度に立ち上がった後、確認面下 0.70m 付近で屈曲して大きく外側に開く。遺構の深さは 1.04m である。覆土は a 類で、5 層に分かれ、覆土下位は水平に、上位はレンズ状堆積をなす。1・2 層は黒褐色を主体とした粘質土で、未分解の腐植物を多量に含んでいる。遺物は 1～5 層より出土しており、特に 3 層からの出土が多い。甕と壺 (図版 28-1～3) が出土している。なお、湧水により調査中に下層が崩れ始めたため、底部の形状及び深さは一部推定のところがある。

SE81 (図版 18、写真図版 7)

8H11に位置する素掘りの井戸である。平面形は長軸 0.80m、短軸 0.77m のほぼ円形で、断面の形状は緩い丸底から急斜度に立ち上がり、確認面下 0.20m 付近を境に緩やかに立ち上がる 2 段構造である。下方は水の侵食を受けている。遺構の深さは 0.54m である。覆土は a 類で、4 層に分かれ、覆土下位は水平に、上位はレンズ状堆積をなす。遺物は 1～4 層より出土している。遺構底面では壺の大きな破片 (図版 28-6) が据えられた状態で検出されており、水溜めとして使われていた可能性がある。また壺の内外面にはスス・コゲが付着していることから、水溜めとして利用される以前に熱を受けたものと推測される。壺の他、甕・鉢 (図版 28-4～7)・高杯が出土している。また土壌洗浄を行った結果、白玉 2 点 (図版 35-3・4) が出土した。

SE170 (図版 18、写真図版 7)

8G15・20に位置する素掘りの井戸である。平面形は長軸 0.85m、短軸 0.78m のほぼ円形で、断面は他の井戸とは異なり、半円形に近い形状で、深さも 0.42m と浅めである。覆土は a 類で、6 層に分かれ、レンズ状堆積をなす。遺物は 1～5 層より出土しており、特に 1 層からの出土が多い。甕 (図版 28-8～11)・壺・高杯が出土している。また P257・258 は SE170 の東西に位置するピットであるが、東側の P258 からは柱根 (図版 36-4) が検出されている。

SE255 (図版 18、写真図版 8)

8G10・15に位置する素掘りの井戸である。平面形は長軸 1.22m、短軸 1.13m のほぼ円形で、断面の形状は底部に平坦面をもち、ほぼ垂直に立ち上がるが、確認面下 0.30m 付近を境に立ち上がりが緩やかになる 2 段構造である。遺構の深さは 0.75m である。覆土は a 類で、10 層に分かれ、覆土下位は水平に、上位はレンズ状堆積をなす。遺物は 1～10 層より出土しており、多くは 1～7 層で出土している。甕・高杯 (図版 28-12～14)・壺・鉢が出土している。また土壌洗浄を行った結果、白玉 1 点 (図版 35-5) が出土した。

SE457 (図版 18、写真図版 8)

6I12・13・17・18に位置する素掘りの井戸である。平面形は長軸 1.57m、短軸 1.55m の円形で、断面の形状は平坦な底部から壁が外反して急斜度に立ち上がり、確認面下 0.25m 付近を境に立ち上がりが緩やかになる 2 段構造である。遺構の深さは 0.53m である。覆土は a 類で、10 層に分かれ、レンズ状堆積をなす。遺物は 1～6 層より甕 (図版 28-15) と壺が出土している。

SE491 (図版 19、写真図版 8)

6I7・12・13に位置する素掘りの井戸である。平面形は長軸 1.74m、短軸 1.73m の円形で、断面の形状は SE457 と類似するが、底部は半円形を呈する。遺構の深さは 0.69m である。覆土は a 類で、9 層に分かれ、レンズ状堆積をなす。特に 5 層下方では 3mm 以下の炭化物を層状に多く含み、粘性も強い。遺物は 1～6 層より甕・壺 (図版 28-16～18)・高杯が出土している。

3) SK (土坑)

SK48 (図版 19、写真図版 9)

9G4・9 に位置する。平面形は円形、断面は皿形である。規模は長軸 1.03m、短軸 0.87m、深さ 0.19m である。覆土は a 類で、4 層に分かれ、レンズ状堆積をなす。1・2 層は炭化物を少量含んでいる。遺物の出土はない。

SK200 (図版 19、写真図版 9)

9F19 に位置する。平面形は円形、断面は半円形である。規模は長軸 0.54m、短軸 0.50m、深さ 0.23m である。覆土は a 類で、4 層に分かれ、レンズ状堆積をなす。1～3 層は粘性の強い粘質土が堆積している。遺物は 1 層より甕が出土している。

SK49 (図版 19、写真図版 9)

9G8 に位置する。平面形は楕円形、断面は皿形である。重複関係は隣接する P97 を切っている。規模は長軸 0.70m、短軸 0.58m、深さ 0.14m である。覆土は a 類で、3 層に分かれ、水平堆積に近い。1 層は 5mm 以上の炭化物を多く含んでいる。覆土中から甕が出土している。

SK25 (図版 19、写真図版 10)

9G3・8 に位置する。平面形は円形、断面は皿形である。重複関係は隣接する P26 に切られる。規模は長軸 0.66m、短軸推定 0.62m、深さ 0.14m である。覆土は a 類で、4 層に分かれ、レンズ状堆積をなす。遺物の出土はない。

SK42 (図版 19、写真図版 10)

9G1・2 に位置する。平面形は円形、断面は皿形である。重複関係は隣接する SK43 を切っている。規模は長軸 0.73m、短軸 0.65m、深さ 0.16m である。覆土は a 類で、3 層に分かれ、レンズ状堆積をなす。覆土中から甕が出土している。

SK43 (図版 19、写真図版 10)

9G1・2、8G21・22 に位置する。平面形は楕円形、断面は皿形である。重複関係は隣接する SK42 に切られる。規模は長軸 1.74m、短軸 1.06m、深さ 0.21m である。覆土は a 類で、4 層に分かれ、U 字状に近い堆積である。当初、粘性の強い 1・2 層を覆土と判断してピットと認識していたが、粘質シルトに混じる粘質土の割合が多いことから、完掘時に拡張した。その結果、粘質土ブロックが少なくなる灰色粘質シルト層で立ち上がりが確認できた。遺物の出土はない。

SK285 (図版 20、写真図版 10)

8F20・25 に位置する。平面形は円形、断面は皿形である。規模は長軸 0.87m、短軸 0.58m、深さ 0.16m である。覆土は a 類で、4 層に分かれ、レンズ状堆積をなす。遺物は 1・2 層から甕が出土している。

SK34 (図版 20、写真図版 10・11)

8G16・17・21・22 に位置する。平面形は不整形、断面形は皿形である。重複関係は隣接する P87 に切られる。規模は長軸 1.19m、短軸 1.15m、深さ 0.15m である。覆土は a 類で、3 層に分かれ、レンズ状堆積をなす。SK34 が位置するこの付近の地山は、シルトの上に粘質土が堆積するという性質を持ち、遺構覆土と地山の線引きが難しい。そのためこのエリアにおいては当初ピットとして認識していたが、形状がかわり、種別を変更したものが多い。SK43 同様、本遺構もピットとして断面の記録を行ったが、完掘の段階で拡張することが分かった。遺物は 3 層より甕が出土している。

SK37 (図版 20、写真図版 11)

8G11・16 に位置する。平面形は円形、断面形は皿形である。重複関係は隣接する SK231 に切られる。規模は長軸 0.93m、短軸推定 0.84m、深さ 0.15m である。覆土は a 類で、3 層に分かれ、レンズ状堆積をなす。1 層は炭化材片と 5mm 以上の炭化物を非常に多く含む。遺物は 1 層より出土しており、甕・壺・鉢 (図版 29 - 19 ~ 24) ・高杯が出土している。

SK231 (図版 20、写真図版 11)

8G16 に位置する。平面形は楕円形、断面は皿形である。重複関係は隣接する SK37 を切っている。規模は長軸 0.75m、短軸 0.57m、深さ 0.15m である。覆土は a 類で、3 層に分かれ、レンズ状堆積をなす。覆土の構成は SK37 とほぼ同様であるが、3 層の粘質土の割合が SK37 より多い。覆土中から甕 (図版 29 - 25) が出土している。

SK64 (図版 20、写真図版 11)

8F15 に位置する。平面形は楕円形、断面は半円形である。規模は長軸 0.56m、短軸 0.40m、深さ 0.12m である。覆土は b 類で、2 層に分かれる。遺物は 1 層より甕が出土している。

SK104 (図版 20、写真図版 11)

8F4・5 に位置する。平面形は楕円形、断面は箱形である。重複関係は隣接する P199 を切っている。規模は長軸 0.71m、短軸 0.41m、深さ 0.15m である。覆土は a 類で、3 層に分かれ、レンズ状堆積をなす。遺物は 3 層より甕が出土している。

SK127 (図版 20、写真図版 11)

8F4・5 に位置する。平面形は楕円形、断面は半円形である。重複関係は隣接する SK125 を切っている。規模は長軸 0.65m、短軸 0.43m、深さ 0.14m である。覆土は a 類で、2 層に分かれ、レンズ状堆積をなす。遺物は 2 層より甕が出土している。

SK125 (図版 20)

8F5・10 に位置する。平面形は円形、断面は皿形である。重複関係は隣接する SK127 に切られる。規模は長軸 0.56m、短軸推定 0.58m、深さ 0.13m である。覆土は a 類で、2 層に分かれ、レンズ状堆積をなす。1 層はしまりが強い。遺物の出土はない。

SK159 (図版 20)

8F10 に位置する。平面形は円形、断面は半円形である。重複関係は隣接する SK160 を切る。規模は長軸 0.46m、短軸 0.39m、深さ 0.17m である。覆土は b 類で、2 層に分かれ、レンズ状に近い堆積である。1 層は炭化物を多く含んでいる。遺物の出土はない。

SK160 (図版 20)

8F10 に位置する。平面形は楕円形、断面は皿形である。重複関係は隣接する SK159 に切られる。規模は長軸推定 0.43m、短軸 0.34m、深さ 0.09m である。覆土は b 類で、2 層に分かれ、レンズ状堆積をなす。1 層は炭化物を多く含んでいる。遺物の出土はない。

SK172 (図版 20)

8F4 に位置する。平面形は楕円形、断面は皿形である。規模は長軸 0.62m、短軸 0.41m、深さ 0.16m である。覆土は b 類で、2 層に分かれ、レンズ状堆積をなす。1 層は炭化物を多く含んでいる。遺物は 1・2 層より高杯が出土している。

SK80 (図版 20、写真図版 12)

8G20・25 に位置する。平面形は円形、断面は皿形である。規模は長軸 1.44m、短軸 1.30m、深さ 0.16m である。覆土は a 類で、2 層に分かれ、レンズ状堆積をなす。2 層は灰色粘質土と粘質シルトの混合であるが、粘質土ブロックがなかなか切れず、他の遺構で見られる粘質シルトとは異なり立ち上がりの判断が付きにくかった。そこでトレンチを入れ確認し、粘質土ブロックは完全にはとりきれないが、少なくなるところで立ち上がりと判断した。遺物は 1・2 層より甕が出土している。

SK184 (図版 21、写真図版 12)

8G14 に位置する。平面形は円形、断面は箱形である。規模は長軸 0.53m、短軸 0.48m、深さ 0.17m である。覆土は a 類で、4 層に分かれ、レンズ状堆積をなす。1 層は 5mm 以上の炭化物を非常に多く含んでいる。遺

物は1層より甕が出土している。

SK185 (図版 21、写真図版 12)

8G14に位置する。平面形は円形、断面形は半円形である。規模は長軸0.39m、短軸0.38m、深さ0.17mである。覆土はa類で、3層に分かれる。覆土の構成はSK184と類似する。遺物は1層より甕が出土している。

SK211 (図版 21、写真図版 12)

7F20に位置する。平面形は不整形、断面は皿形である。重複関係はP212に切られる。規模は長軸0.79m、短軸推定0.45m、深さ0.18mである。覆土はa類で、3層に分かれ、レンズ状堆積をなす。覆土中から甕が出土している。

SK190 (図版 21、写真図版 12・13)

8G1・2に位置する。平面形は円形、断面は皿形である。重複関係は隣接するP191を切っている。規模は長軸0.64m、短軸0.61、深さ0.19mである。覆土はb類で、3層に分かれ、水平堆積をなす。1層は2～3mmの炭化物を多く含む。遺物の出土はない。

SK77 (図版 21、写真図版 13)

8G6に位置する。平面形は楕円形、断面は皿形である。規模は長軸0.58m、短軸0.47m、深さ0.17mである。覆土はa類で、2層に分かれ、レンズ状堆積をなす。1層は2～3mmの炭化物を多く含む。遺物は1層より甕が出土している。

SK261 (図版 21、写真図版 13)

7G11・16に位置する。平面形は楕円形、断面は皿形である。規模は長軸1.12m、短軸推定0.68m、深さ0.09mである。覆土はb類で、2層に分かれ、レンズ状堆積をなす。2層直下には粘質土が強く残る部分があり、その部分から長軸0.27m、短軸0.24m、深さ0.31mのピットが検出された。平面形は円形で、断面はU字状である。このピットの最下層からは遺物が1点出土している。

SK144 (図版 21、写真図版 13)

7G24、8G4に位置する。平面形は楕円形、断面は皿形である。規模は長軸0.97m、短軸0.63m、深さ0.13mである。覆土はa類で、3層に分かれ、レンズ状堆積をなす。1層は5mm以上の炭化物を非常に多く含む、鉢(図版29-26)と甕が出土している。2・3層は炭化物がごく少量で、遺物の出土も少ない。このように下層にいくほど遺物量が減るという構成の中で特異的なのは、底面に鉢が置かれたような状態で検出された点である。さらにその下に、長軸0.14m、短軸0.13m、深さ0.21mのピットが検出された。平面形は円形で、断面はU字状である。覆土はa類で、2層に分かれる。

SK221 (図版 21、写真図版 14)

8H1・2に位置する。平面形は長方形、断面は箱形である。重複関係は隣接するP313に切られる。規模は長軸0.80m、短軸0.60m、深さ0.17mである。覆土はa類で、2層に分かれ、レンズ状に近い堆積をなす。覆土中から甕が出土している。

SK299 (図版 21、写真図版 14)

7G7・8に位置する。平面形は楕円形、断面は皿形である。規模は長軸0.77m、短軸0.57m、深さ0.14mである。覆土はa類で、2層に分かれ、レンズ状堆積をなす。1層は2～4mmの炭化物を多く含む。遺物は1・2層より甕と壺が出土している。

SK272 (図版 21、写真図版 14)

7G17に位置する。平面形は楕円形、断面は皿形である。規模は長軸0.55m、短軸0.39m、深さ0.17mである。覆土はa類で、2層に分かれる。1層は2～3mmの炭化物を多く含む。遺物は1・2層より甕が出土している。

SK349 (図版 21、写真図版 14)

7G9に位置する。平面形は楕円形、断面は台形状である。規模は長軸0.55m、短軸0.36m、深さ0.16mである。

覆土はb類で、2層に分かれ、レンズ状堆積をなす。1層は2～5mmの炭化物を多く含んでいる。遺物は1・2層から甕(図版29-27)・壺・鉢が出土している。

SK422(図版22、写真図版15)

7H1に位置する。平面形は楕円形、断面は皿形である。規模は長軸0.43m、短軸0.32m、深さ0.10mである。覆土はa類で、2層に分かれ、レンズ状堆積をなす。1層は1～3mmの炭化物を多く含む。遺物は1層より甕が出土している。

SK418(図版22、写真図版15)

7H1・6に位置する。平面形は楕円形、断面は皿形である。規模は長軸0.66m、短軸0.50m、深さ0.13mである。覆土はb類で、3層に分かれ、レンズ状堆積をなす。2・3層は灰色砂質シルトを主体とするが、2層は同色の粘質土をブロック状に含んでいる。遺物は1・2層より甕が出土している。

SK515(図版22、写真図版15)

6H25、6I21に位置する。平面形は長方形、断面は半円形である。規模は長軸0.74m、短軸0.56m、深さ0.26mである。覆土はb類で、5層に分かれ、斜位に堆積している。覆土中から甕が出土している。

SK458(図版22、写真図版15)

6I18・23に位置する。平面形は円形、断面は半円形である。規模は長軸0.75m、短軸0.41m、深さ0.28mである。覆土はa類で、3層に分かれ、レンズ状堆積をなす。遺物は1～3層より鉢(図版29-28)と甕が出土している。

SK505(図版22、写真図版16)

7I9に位置する。平面形は不整形、断面は台形状である。重複関係は隣接するP555を切っている。規模は長軸0.94m、短軸0.75m、深さ0.27mである。覆土はa類で、5層に分かれ、レンズ状堆積をなす。覆土中から甕が出土している。

SK215(図版22、写真図版16)

8H13に位置する。平面形は円形、断面は箱形である。規模は長軸0.48m、短軸0.47m、深さ0.27mである。覆土はa類で、4層に分かれる。1～3層は炭化物を少量含んでいる。覆土中から甕が出土している。

SK459(図版22、写真図版16)

6G22、7G2・3に位置する。調査区外へ広がるため全体の形状は不明瞭ではあるが、平面形はおおよそ円形である。断面は皿形である。規模は長軸2.24m、短軸推定1.40m、深さ0.09mである。覆土はa類で、2層に分かれ、レンズ状堆積をなす。1層は4～5mmの炭化物を多く含む。遺物は1・2層より出土しているが、特に1層からの出土が多い。甕・壺・鉢・高杯(図版29-29～35・図版30-36～38)が出土している。

4) SD(溝)

SD447(図版23、写真図版16・17)

6G18・19・20・23・24・25、6H16.～25、6G18・23、7G4・5、7H1に位置する。軸方向はN-85°-Eを指す。規模は長軸13.55m、短軸7.45m、深さは0.19mで、断面は皿形を呈する。底部にはところどころ凹凸が見られる。覆土はa類で、レンズ状堆積をなす。この溝を境にするように北側では遺構が極端に少なくなることから、何らかの区画的性格を有する可能性が考えられる。遺物は甕、壺、鉢、高杯、器台(図版30-39～53)が出土しており、特に1層からの出土が多い。

5) SX(性格不明遺構)

SX36(図版19、写真図版8)

8F13・14・18・19に位置する。平面形は不整形、断面は皿形である。規模は長軸3.55m、短軸1.50m、深さ0.08mで緩やかに立ち上がる。覆土は腐植物を多く含む灰色粘質土の単層堆積である。出土した土器は全

て甕の小破片で、磨耗しているものが多い。

SX173 (図版 19、写真図版 9)

8G1・6 に位置する。平面形は不整形、断面は皿形である。SK77、P89・98・146・194・196 に切られる。規模は長軸 1.80m、短軸 1.44m、深さ 0.14m である。覆土は b 類で、2 層に分かれ、レンズ状堆積をなす。遺物の出土はない。

SX513 (図版 22、写真図版 17)

6H5、6I1 に位置する。平面形は楕円形、断面は台形状である。規模は長軸 1.08m、短軸 0.69m、深さ 0.53m である。覆土は b 類で、4 層に分かれる。遺物の出土はない。

SX228 (図版 23、写真図版 16)

7F23、8F3 に位置する。調査区外へ広がるため全体の形状は不明瞭である。断面は皿形である。規模は長軸 2.76m、短軸推定 0.55m、深さ 0.05m とごく浅く、緩やかに立ち上がる。覆土は a 類で、2 層に分かれ、レンズ状堆積をなす。遺物の出土はない。

SX536 (図版 23、写真図版 17)

6I11・12・16・17 に位置する。平面形は不整形、断面は皿形である。規模は長軸 1.89m、短軸 1.60m、深さ 0.06m である。明確な掘り込みをもたず、灰色粘質土を主体とした覆土の広がりである。遺物は 2 層より壺(図版 30 - 54)・甕・鉢が出土している。

6) ピット

488 基確認されている。7G・8G・8F・9G グリッド周辺で特に集中的に検出された。遺物が出土したものは多くなく、また遺物があつたとしても小片がほとんどである。配列なども平面図などで検討したが、建物を構成しうるものは少ない。ただ、柱列や作業小屋程度の小規模な建物が存在した可能性はある。

本節では、建物として認識できたもの、建物として認識するには至らなかったが柱根などが検出されたもの、図示できる程度の遺物が伴うものを中心として選択し記載した。ただし掘立柱建物に関わるものは 1) で扱っている。

P89 (図版 23、写真図版 18)

8G6 に位置する。平面形は楕円形、断面は U 字状である。規模は長軸 0.38m、短軸 0.28m、深さ 0.34m である。覆土は a 類で、5 層に分かれ、レンズ状堆積をなす。底面付近は暗オリーブ灰色の砂質シルトがわずかに粘性をもち、残存長 15.0 cm、幅 2.8cm、厚さ 3.2cm の柱根(図版 36 - 1)が検出された。土器などの遺物は出土していない。

P102 (図版 23、写真図版 18)

8G18 に位置する。平面形は円形、断面は U 字状である。P107 に隣接する。規模は長軸 0.25m、短軸 0.23m、深さ 0.41m である。覆土は a 類で、3 層に分かれる。底面付近の灰色粘質土から残存長 23.3cm、幅 3.8cm、厚さ 3.4cm の柱根(図版 36 - 2)が検出された。土器などの遺物は出土していない。

P339 (図版 23、写真図版 18)

8G12・13 に位置する。平面形は円形、断面は漏斗状である。重複関係は隣接する P321 を切っている。規模は長軸 0.22m、短軸 0.20m、深さ 0.40m である。覆土は a 類で、2 層に分かれる。底面が確認できなかったため、断ち割ったところ残存長 22.3cm、幅 5.0cm、厚さ 4.4cm の柱根(図版 36 - 6)が検出された。P321 の 3 層からは遺物が出土している。

P204 (図版 24、写真図版 18)

7G20 に位置する。平面形は円形、断面は漏斗状である。規模は長軸 0.32m、短軸 0.29m、深さ 0.37m である。覆土は a 類で、4 層に分かれ、レンズ状堆積をなす。残存長 31.8cm、幅 10.2cm、厚さ 8.6cm を測る柱根(図

版36-3)が検出された。柱根は南東側にやや傾斜している。掘り方は確認されなかった。遺物は1～3層より甕が出土している。

P394 (図版24、写真図版18)

7G25に位置する。平面形は円形、断面はU字状である。規模は長軸0.08m、短軸0.08m、深さ0.13mである。柱根は検出できなかったが、柱根と思われる土層が堆積している。覆土中から壺が出土している。

P427 (図版24、写真図版18)

7H16に位置する。平面形は円形、断面は半円形である。規模は長軸0.07m、短軸0.07m、深さ0.08mである。柱根は検出できなかったが、柱根と思われる土層が堆積している。遺物の出土はない。

P135 (図版24、写真図版19)

8H21に位置する。平面形は円形、断面は半円形である。規模は長軸0.29m、短軸0.28m、深さ0.09mである。覆土はa類で、3層に分かれ、レンズ状堆積をなす。1層は炭化物3mm以下を多く含んでいる。遺物は1層より甕、壺が出土している。

P139・P140 (図版24、写真図版19)

8G12・13・17・18に位置する。P139・140は共に平面形が楕円形、断面は半円形を呈する。重複関係はP140がP139を切っている。P139の規模は長軸0.34m、短軸推定0.24m、深さ0.22m、P140の規模は長軸0.29m、短軸0.23m、深さ0.15mである。覆土はa類で、遺物は1層より甕が出土している。

P189 (図版24、写真図版19)

8H18に位置する。平面形は楕円形で、断面は半円形である。規模は長軸0.43m、短軸0.34m、深さは0.11mである。覆土はa類で、2層に分かれ、レンズ状堆積をなす。覆土中から甕、高杯が出土しており、このうち1層から、高杯の脚部(図版30-56)が残りのよい状態で出土している。

P98 (図版24)

8G1に位置する。平面形は円形、断面は半円形である。規模は長軸0.29m、短軸0.27m、深さは0.16mである。覆土はa類で、2層に分かれ、レンズ状堆積をなす。遺物は高杯(図版30-55)が出土している。

P417 (図版24)

8H6に位置する。平面形が円形、断面は台形状を呈する。規模は長軸0.20m、短軸0.19m、深さ0.20mである。覆土はa類で、2層に分かれる。遺物は1層より甕(図版30-57)が出土している。

P473 (図版24、写真図版19)

6I16に位置する。平面形は楕円形、断面は半円形である。規模は長軸0.50m、短軸0.35m、深さは0.17mである。覆土はa類で、3層に分かれ、レンズ状堆積をなす。遺物は1・2層より甕・壺・鉢(図版30-58)が出土している。

P476 (図版24)

7H5に位置する。平面形は円形、断面は半円形である。規模は長軸0.26m、短軸0.25m、深さは0.13mである。覆土はa類で、2層に分かれ、レンズ状堆積をなす。覆土中から甕(図版30-59)が出土している。

P498・P500 (図版24、写真図版19)

7I1・6に位置する。P498・P500は共に平面形が円形、断面は皿形を呈する。重複関係はP498がP500を切っている。覆土はともにa類で、レンズ状堆積をなす。遺物は1・2層より出土しており、P498からは甕、P500からは甕と壺が出土している。またP498の1層からは砥石(図版35-6)も出土している。

P502 (図版24)

7I7に位置する。平面形は楕円形、断面は半円形である。規模は長軸0.27m、短軸0.21m、深さ0.10mである。覆土は2層に分かれ、レンズ状堆積をなす。覆土中から壺と鉢(図版30-60)がまとまって出土している。

第V章 遺物

第1節 遺物の概要

出土遺物総量はコンテナ（内径 54.5 × 33.6 × 10.0cm）にして約 110 箱出土した。ほとんどが古墳時代前期の土師器であり、中期と思われる土器も若干認められる。基本層序Ⅲ層中からは京都・信楽産陶器が 1 点出土している。総破片数は 14,143 点、総重量 98,844.8g である。また、土製品・石製品・木製品が少量存在する。各遺物の出土位置・種別・器種・分類・残存部位・法量・胎土・色調・焼成・調整・遺存率については、別表 2 に記した。土器については遺存率が高くなくても、口縁形態などが把握できるものは可能な限り抽出し図化するよう努めた。実測図において、土器の赤彩は濃い網目・木製品の欠損は斜線のトーンで表わしている。

第2節 用語の説明と分類

1) 用語の説明

遺物の記述で使用する成形・調整の表現・名称は次のように記述した。

- 1 ハケメ：板の木口面を使い、土器の表面を調整するもので、器面には平行する条線が残される。
- 2 ヘラナデ：ハケメと同様の工具で、調整の際に残る木目の凹凸が明瞭でないもの。
- 3 ケズリ：板状の工具で器面を削るもので、砂礫の移動痕が明瞭に残るもの。
- 4 ミガキ：幅の狭い工具で器面を磨いているもので、工具痕が明瞭に残るものと残らないものがある。
- 5 ナデ：不定方向のなで。回転を用いてなでるものを「ヨコナデ」とした。
- 6 指頭圧痕：指による強い圧痕。

2) 土器分類（第4図）

次に器種分類を行う。主な器種は甕・壺・鉢・高杯・器台・蓋である。分類は器形による分類とし、器種ごとに細分しアルファベットで（A・B・・・）と表した。さらに細分する場合には数字を用いて表現した。本遺跡は出土量が少なく、個体間でみられるわずかな差異が器種を分ける特徴として捉えられるか判断しづらいものが多いため、ここでは、坂井・川村氏の研究〔坂井・川村 1993〕や新潟県考古学会のシンポジウムにおける成果〔新潟県考古学会 2005〕を援用しながら、比較的大きな特徴を基本として分類している。なお、高杯は脚部のみの出土が多く、それらについては分類できる特徴が抽出し得たことから、杯部・脚部の各特徴を並存させている。

甕

甕 A 類：口縁部が「く」字状または「コ」字状に屈曲するもの。

甕 A1 類：口縁部端部をつまみ上げるもので、端部に明確な面をもつもの。

甕 A2 類：甕 A1 類以外の端部に面をもつもの。

甕 A3 類：口縁部端部を丸くおさめるもの。面取りが明確ではないものも含む。

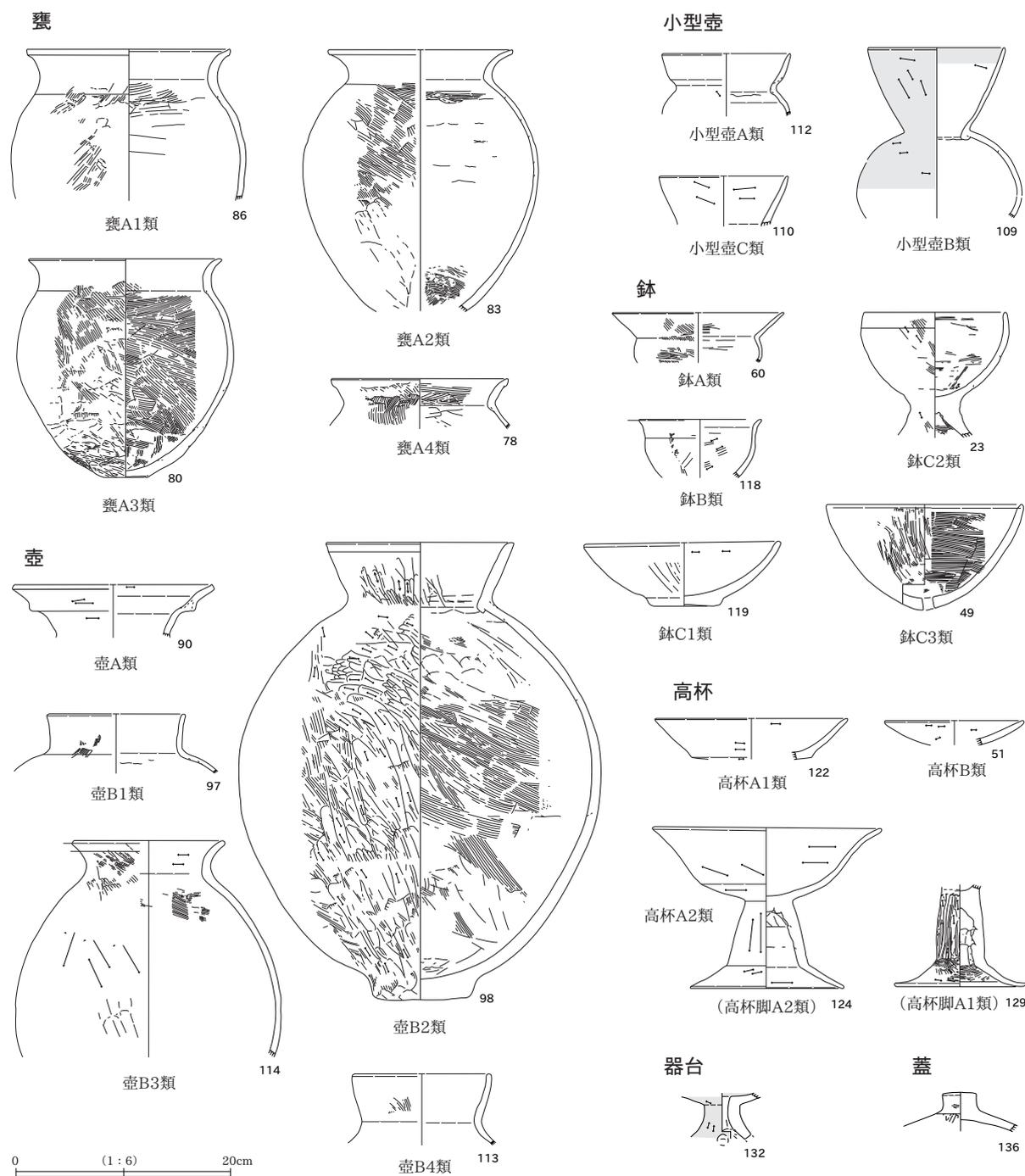
甕 A4 類：口縁部端部の調整が粗く指頭圧痕が残る。

壺

壺 A 類：二重口縁壺。

壺 B 類：口縁部が「く」字状に屈曲するもの。

壺 B1 類：口縁部が直立か外傾度が小さいもの。



第4図 土器分類図 (S = 1/6)

壺 B2 類：口縁部が斜め上方に直線的に立ち上がるもの。

壺 B3 類：口縁部が外反しながら立ち上がるもの。

壺 B4 類：口縁部が内湾しながら立ち上がるもの。

小型壺

小型壺 A 類：有段口縁をもつもの。

小型壺 B 類：球形の体部に「く」字状に屈曲する長い口縁部をもつもの。

小型壺 C 類：球形の体部に「く」字状に屈曲する短い口縁部をもつもの。

鉢

鉢 A 類：椀形の体部に「く」字状に屈曲する口縁部をもつもの。

鉢 B 類：椀形の体部に「く」字状に屈曲する短い口縁部をもつもの。

鉢 C 類：口縁部と体部の境がなく、椀形・砲弾形をしているもの。

鉢 C1 類：平底のもの。

鉢 C2 類：脚をもつもの。

鉢 C3 類：底部が穿孔されているもの。

高杯

高杯 A 類：杯部に段をもつもの。

高杯 A1 類：明瞭な段をもつもの。

高杯 A2 類：ゆるい段をもつもの。口縁部は上部で外反する。

高杯 B 類：杯部に段がないもの。

高杯脚 A 類：いわゆる畿内系柱状屈折脚をもつもの。

高杯脚 A1 類：脚柱が細いもの。

高杯脚 A2 類：脚柱が太いもの。

器台

器台：受部が内湾気味に立ち上がるもの。

蓋

蓋：つまみが中実で横断面形が長方形であるもの。

第3節 出土土器等各説

記述は遺構・包含層等の順に記した。遺構の順序は「第IV章第3節遺構」の記述順序に準じる。

A 遺構出土土器

SE8 (図版 28、写真図版 20)

土師器甕・壺が出土している。このうち甕 (1・2)・壺 (3) を図化した。1 は口縁部の破片で甕 A3 類である。口縁部は直線的に立ち上がり、口縁上部で外反して「コ」字状を呈する。比較的硬い焼成で、内外面ともにヨコナデされている。2 は口縁部の破片で甕 A2 類である。口縁部の屈曲は緩やかで、端部は弱い面取りを行っている。内外面ともにヨコナデ調整され、外面にはススが付着する。3 は口縁部の破片で形状はやや不明瞭であるが二重口縁壺 (壺 A 類) と思われる。端部は面をもつ。胎土は小石を多く含みやや粗い。内面は一部剥落しているが、内外面ともにヨコナデを施す。口縁部内面の上半部にススが付着している。

SE81 (図版 28、写真図版 20)

土師器甕・壺・鉢・高杯が出土している。このうち甕 (4・5・6)・鉢 (7) を図化した。4 は口縁部から体部上半にかけての破片で甕 A3 類である。口縁部は「く」字状に外反し、体部はあまり張らない。比較的硬い焼成で、海面骨針を少量含んでいる。口縁部は内外面ともにヨコナデで、頸部は強くナデている。体部内面には輪積痕が残り、外面にはススが付着している。5 は口縁部から体部下半にかけての破片で甕 A3 類である。口縁部は「く」字状に外反し、体部は張りがある。口縁部内面の調整はヨコナデで、外面はハケメの後ヨコナデされる。体部の調整は内外面ともハケメで、外面の体部下半ではヘラナデが一部観察できる。体部外面にはススが付着している。6 は甕の体部から底部にかけての破片である。内外面ともにハケメが施されるが、底部付近の内面はハケメの後ナデ消している。体部内外面にはスス・コゲが多く付着している。7 は口縁部から体部にかけての破片で鉢 A 類である。内面に粘土を貼り付け肥厚した口縁部が緩く外反し、身が浅い。一之口遺跡 [鈴木ほか 1994] の鉢 C 類と類似するものと思われる。口縁部は内外面ともにヨコナデ調整であるが、内面はより丁寧なナデである。

体部外面はミガキ調整され、内面はハケメの後ナデ消している。

SE170 (図版 28、写真図版 20)

土師器甕・壺・高杯が出土している。このうち甕(8~11)を図化した。いずれも甕 A3 類である。8 は口縁部から体部上半にかけての破片で、口縁部は「く」字状に外反し、端部は肥厚したまま丸く収まる。口縁部の調整は内外面ともにヨコナデで、体部の調整は外面にハケメを施す。9 は口縁部の破片で、焼成は若干軟質であり、外面にススが付着している。内外面ともにヨコナデ調整である。11 は口縁部から底部まで残る遺存率の高い甕である。肥厚した口縁部がやや直線的に立ち上がり、口縁上部で緩く屈曲して端部付近でさらに外反する。体部は球形を呈し、底部は 3.1cm の平底である。口縁部の調整は内外面ともにハケメの後ヨコナデしている。体部は内外面ともにハケメが施され、内面は丁寧なナデが加えられる。外面には一部ヘラケズリが見られる。体部内面には輪積痕が 3 条ほど明瞭に残り、底部には指頭圧痕が残る。外面にはススが付着している。

SE255 (図版 28、写真図版 20)

土師器甕・壺・鉢・高杯が出土している。このうち甕(12)・高杯(13・14)を図化した。12 は口縁部から体部下半にかけての破片で甕 A3 類で、最大径が口縁部にある。胎土は精良で硬い焼成である。口縁部は内外面ともヨコナデで、体部は外面がハケメの後ヘラナデ、内面は丁寧なナデが施される。内外面にスス・コゲが付着している。13・14 は高杯の屈折脚(高杯脚 A 類)と思われる。13 は高杯脚 A1 類で、外面の調整はミガキで内面はナデが施される。14 は裾付近の立ち上がりが急で、端部はあまり広がらない。内外面ともにハケメの後ナデ消しされるが、内面はハケメが弱く残っている。

SE457 (図版 28、写真図版 20)

土師器甕・壺が出土している。このうち甕 1 点(15)を図化した。口縁部の破片で甕 A2 類である。口縁部は外反し、端部はつまみ上げている。比較的硬い焼成で、胎土は雲母が目立つ。器面の調整は内外面ともにヨコナデである。

SE491 (図版 28、写真図版 20)

土師器甕・壺・高杯が出土している。このうち甕(16・17)壺(18)を図化した。16 は口縁部の破片で甕 A3 類である。端部は先を尖らせている。器面の調整は内外面ともにハケメの後ヨコナデを施す。17 は甕の体部から底部にかけての破片である。底径 3.3cm の平底で、体部内外面ともにハケメが施されるが、底部内面はナデが加えられる。内面にスス・コゲが付着している。18 は口縁部の破片で甕 A3 類である。口縁部は「く」字状に外反し、端部は細くなって丸く収まる。胎土はやや粗く、焼成は若干軟質である。内面の調整はヨコナデで、外面はヨコナデの後単位幅が広く浅い斜め方向のハケメが施される。外面にはススが若干付着している。

SK37 (図版 29、写真図版 20・21)

土師器甕・壺・鉢・高杯が出土している。このうち甕(19~21)・壺(22)・鉢(23・24)を図化した。19 は口縁部から体部下半にかけての破片で、荒れているため端部はわかりづらいが甕 A3 類とした。「く」字状に外反した口縁部が上部でさらに外反している。比較的硬い焼成で、口縁部は内外面ともにヨコナデ、体部は内外面ともにハケメが施されるが、外面の頸部付近はナデ消しされる。体部内面には輪積痕が 3 条ほど明瞭に残る。外面にはススが付着する。20 は口縁部から体部上半にかけての破片で甕 A3 類である。19 に比べて口縁部が短い。口縁部の調整は内外面ともヨコナデで、体部はハケメが施される。21 は甕で体部から底部にかけての破片である。底部は底径 3.7cm の平底である。体部の調整は内外面ともハケメで、内面は強いナデが加えられる。底部内面には指頭圧痕が残る。内外面にスス・コゲが付着している。22 は口縁部の破片で壺 A 類である。端部と内面の一部が欠損しているが、口縁部の段が残っている。口縁部と頸部の接合痕が明瞭に残る。内面は剥落が著しいが、ナデが確認できる。外面はヨコナデの後一部ハケメが施される。23 は口縁から脚部にかけての破片で鉢 C2 類である。椀状の体部に脚部が付く台付鉢で正尺 C 遺跡〔土橋ほか 2006〕などに類例がみられる。口縁部の調整は内外面ともにハケメの後ヨコナデで、体部は内外面ともにヘラナデされる。24 は体部下半から底部の破片で底

部穿孔の鉢 C3 類である。内面の調整はヘラナデで、指頭圧痕も見られる。外面はヘラケズリされており、砂粒の動きが顕著である。

SK231 (図版 29、写真図版 21)

土師器甕が出土している。このうち 1 点 (25) を図化した。口縁部から体部にかけての破片で甕 A3 類である。口縁部のくびれ部分が強くナデられるため、口縁部がやや肥厚しているようにみえる。胎土は精良で硬い焼成である。口縁部の調整は内面がハケメの後ヨコナデされ、外面はヨコナデである。体部は内面がヘラナデされ、外面はハケメ調整である。外面にはススが付着している。

SK144 (図版 29、写真図版 21)

土師器甕・鉢が出土している。このうち鉢 1 点 (26) を図化した。口縁部から底部の破片で鉢 B 類である。短く内湾気味の口縁が開き、体部は丸みをおびる。口縁部の調整はハケメの後ヨコナデで、体部内面は丁寧なナデが施される。外面はハケメが施される。底部は上げ底気味である。

SK349 (図版 29、写真図版 21)

土師器甕・壺・鉢が出土している。このうち甕 1 点 (27) を図化した。口縁部の破片で甕 A3 類である。口縁部はやや直線的に立ち上がり、口縁上部で短く外反して断面形態は「コ」字状を呈する。器面の調整は内外面ともにハケメの後ヨコナデされる。内外面にスス・コゲが付着している。

SK458 (図版 29、写真図版 21)

土師器甕・鉢が出土している。このうち鉢 1 点 (28) を図化した。口縁から体部にかけての破片で鉢 C1 類である。最大径が口縁部にあり、薄手のつくりで比較的硬い焼成である。口縁部の調整は内外面ともにヨコナデで、体部内面はナデ、体部外面はハケメの後粗いミガキが施される。

SK459 (図版 29・30、写真図版 21)

土師器甕・壺・鉢・高杯が出土している。このうち甕 (29～32)・壺 (33～35)・鉢 (36)・高杯 (37・38) を図化した。29 は口縁部から体部上半にかけての破片で甕 A3 類である。口縁部はやや直線的に立ち上がり、口縁上部で外反して強く引き出され、断面形態は「コ」字状を呈する。小石などを含んだ胎土は粗く、焼成もやや軟質である。口縁部の調整は内外面ともにハケメの後ヨコナデされるが、粗いハケメのためか小石などが引きずられて器面は荒れている。体部は外面がハケメ、内面はナデが施される。30 は口縁部から体部上半にかけての破片で甕 A2 類である。肥厚した口縁部が「く」字状に外反し、若干丸味をおびた面をもつ。胎土は精良で、口縁部は内外面ともヨコナデで、体部外面はハケメ、内面はナデが施される。外面にはススが付着する。31 は頸部から体部にかけての甕 A 類の破片である。緩く外反し口縁上部に至るが、欠損のため端部の形状は不明である。体部外面はハケメ、内面はヘラナデに近いナデが施される。74 と同一個体の可能性がある。外面にはススが付着している。32 は口縁部から体部にかけての破片で、甕 A3 類。直線的に伸びる口縁部が端部付近で緩く屈曲し、わずかに外反する。端部は丸く収まる。胎土は比較的精良で、器面の調整は口縁部が内外面ともにハケメの後ヨコナデ、体部は内外面ともにハケメが施されるが、内面はヘラナデに近い丁寧なナデを加えている。内面には輪積痕が明瞭に残り、内外面にスス・コゲが付着する。33 は壺の体部下半から底部の破片である。外面はミガキが施され、赤彩される。内面は底部に細密なハケメを施す。34 は球形の体部に長い口縁部をもつと思われる小型壺 (小型壺 B 類)。内面の調整はハケメの後ナデ消しされ、底部には指頭圧痕、輪積痕が明瞭に残る。外面にはミガキが施される。また底部を中心にススが付着している。35 は体部の破片で極小型の壺であるが、口縁部の形態は不明。下膨れの体部で最大径は下半にくる。器面の調整は内外面ともにナデで、外面に一部ミガキが施される。36 は口縁部から体部下半にかけての破片で鉢 C1 類である。内湾気味に開き、口縁部はわずかに内傾する。口径に比して身は深い。内面の調整は丁寧なナデで、外面は口縁から体部上半にかけてはハケメの後、粗いミガキを施す。体部下半はヘラケズリが施される。内面には植物痕のようなものが見られる。37 は杯部の破片で高杯 A1 類である。杯底部の径が比較的小さいもので、内外面ともにミガキが施される。38 は高杯

の脚部破片で、高杯脚 A1 類。胎土は緻密で硬い焼成である。内外面ともにミガキが施される。

SD447 (図版 30、写真図版 21・22)

土師器甕・壺・鉢・高杯・器台が出土している。このうち土師器甕 (39～45)・壺 (46・47)・鉢 (48・49)・高杯 (50～52)・器台 (53) を図化した。39・40 は口縁部から体部上半にかけての破片で、39 は甕 A1 類、40 は甕 A2 類。39 は口縁断面形態が「コ」字状を呈した薄手の土器で、胎土には石英、長石が目立つ。口縁部の調整は内外面ともにヨコナデで、体部は内外面ともにナデである。口縁外面にはススが付着している。40 は 39 同様薄手のつくりで、比較的硬い焼成である。39 より曲線的な屈曲で口縁断面形態は「コ」字状を呈し、端部は明確な面をもつ。器面の調整は口縁部が内外面ともにヨコナデで、体部は内外面ともにハケメが施されるが、内面はナデ消しされる。外面にはススが付着する。41 は口縁部の破片で甕 A3 類である。口縁部は直線的に外反し、端部は丸く収まる。内外面ともにハケメの後、ヨコナデされる。内外面にススが付着する。42 は口縁部から体部にかけての破片で、甕 A2 類である。口縁部が「く」字状に外反し、端部は面取りされる。器面の調整は口縁部がハケメの後ヨコナデされるが、外面の頸部付近はハケメがナデ消しされず残るところがある。体部は外面がハケメで、内面は一部剥落しているがナデ調整がみられる。外面にはススが付着している。43 は口縁部から体部上半にかけての破片で甕 A1 類である。口縁部端部はつまみ上げており、体部はやや張る。胎土はやや粗く、焼成もあまり軟質である。器面の調整は口縁部が内外面ともにヨコナデで、体部外面はハケメの後ナデ消しされる。内面はナデ調整で輪積痕が明瞭に残る。44・45 は口縁部から体部上半にかけての破片で甕 A3 類である。口縁部の屈曲は曲線的な形状をとる。44 の器面の調整は口縁部が内外面ともにヨコナデで、体部外面はハケメ、内面はナデが施される。45 は内面にもハケメが施される。端部はやや肥厚している。両者ともに外面にススが付着している。46 は口縁部から体部にかけての破片で、口縁部が「く」字状に強く屈曲外反する壺 B3 類である。薄手のつくりで、胎土には雲母を多く含む。口縁部は内外面ともにヨコナデで、体部外面には幅が狭くて浅い細密な条線が見られるが、ハケメというよりヘラナデに近い調整と思われる。47 は壺の体部下半から底部の破片である。器面の調整は外面に弱いミガキが施され、内面はナデである。内面には輪積痕が残る。48 は口縁部から体部上半にかけての破片で鉢 C 類である。胎土には焼土を比較的多く含んでいる。器面の調整は口縁部が内外面ともにヨコナデで、体部外面にはハケメが施される。49 はほぼ完形で鉢 C3 類である。砲弾型を呈し、焼成前に底部を穿孔している。焼成は若干軟質で、外面は一部剥落している。器面の調整は口縁部が内外面ともにヨコナデで、体部は内外面ともにハケメが施されるが、外面はナデ消しされる。50 は杯部の破片で高杯 A1 類である。口縁部は直線的に外反し、身が深い。胎土は緻密で、焼成も良好である。器面の調整は内外面とも丁寧なミガキであるが、内面口縁付近には弱いハケメが残る。51 は杯部の破片で高杯 B 類である。杯部は浅く碗形を呈し、棒状の細い脚部が付くものと思われる。内外面ともに丁寧なミガキ調整で、胎土も精良である。52 は高杯脚 A 類の破片である。裾付近で「ハ」字状に開脚し緩やかに外反する。内面の調整はケズリ、裾付近ではハケメが施され、外面はミガキが施される。53 は器台の脚部破片である。外面はハケメの後丁寧なミガキを施し、赤彩される。内面はハケメの後、ナデ消しされるが、脚部下半はハケメが弱く残る。上部はケズリが施され、異なる調整間に若干段が生じている。

SX536 (図版 30、写真図版 22)

土師器甕・壺・鉢が出土している。このうち壺 1 点 (54) を図化した。有段口縁をもつ薄手の土器で小型壺 A 類である。内外面ともにヨコナデ調整である。

P98 (図版 30、写真図版 22)

土師器高杯 (55) が 1 点出土している。55 は高杯脚 A2 類の破片である。裾付近で「ハ」字状に開脚し、裾部先端で緩やかに外反する。胎土は粗砂粒を多く含んでおり、焼成もあまり軟質である。内外面ともに摩耗・剥落がみられるが、外面の調整はミガキで、内面はナデである。

P189 (図版 30 写真図版 22)

土師器甕1点と高杯1点が出土した。このうち高杯(56)を図化した。脚部の破片で、高杯脚A2類である。胎土は非常に緻密で調整も丁寧である。脚内面の輪積痕をナデ消し、裾部との接合面を強くヘラナデしている。裾付近にはハケメが少し残る。外面は丁寧なミガキを施す。

P417 (図版30、写真図版22)

土師器甕(57)が1点出土している。口縁部が「コ」字状に外反し、端部は丸く収まることから甕A3類とした。器面の調整は内外面ともにヨコナデであるが、内面には調整時に胎土中の小石などを引きずったためか凹凸がみられる。外面にはススが付着している。

P473 (図版30、写真図版22)

土師器甕・壺・鉢が出土している。このうち鉢(58)を図化した。口縁部から体部下半にかけての破片で鉢C類である。胎土には海面骨針を比較的多く含み、器壁は厚い。器面の調整は口縁部、体部ともに丁寧なナデで一部ミガキが観察できる。内面は光沢を帯びた黒色を呈している。

P476 (図版30、写真図版22)

土師器甕が3点出土している。このうち1点(59)を図化した。口縁部の破片で甕A1類である。口縁部はやや直線的に立ち上がり、口縁部は「コ」字状で外反して、端部は水平に近い状態で引き出される。口縁部の調整は内外面ともにヨコナデで、頸部外面はハケメ調整である。外面にはススが付着する。

P502 (図版30、写真図版22)

土師器鉢(60)が1点出土している。口縁部から体部上半の破片で、浅く内湾する体部に外反して長く伸びる口縁部が付く。鉢A類。器壁はきわめて薄い。口縁部は内外面ともにハケメの後ヨコナデされ、体部外面の調整はハケメの後ヘラなどの工具によるナデが施される。

B 遺構外出土土器 (図版31～35、写真図版22～25)

包含層、試掘調査出土遺物を一括して紹介する。

61～87は甕である。61は甕A3類である。直線的に伸びる口縁部が端部付近でわずかに屈曲し丸く収まる。器壁は非常に厚く、焼成はやや軟質である。口縁部の調整は内外面ともヨコナデで、体部は内外面ともにハケメの後ナデ消している。外面にはススが付着している。62・63も甕A3類で、いずれも断面形態が「コ」字状を呈する口縁部から体部にかけての破片である。両者は薄手の土器で、比較的焼成の硬いものであるが、被熱のためか器面がもろい。63の胎土はやや粗く、雲母が目立つ。これらの外面にはススが付着する。64～67は甕A2類で、断面形態が「コ」字状を呈する。64は口縁部の破片で内外面ヨコナデ調整である。外面にヘラ状工具で刻んだような爪形の刻みがみられる。65・66は口縁から体部にかけての破片で、強く屈曲して外方に至るラインが「く」字状に近い。調整は口縁部が内外面ともにヨコナデ、体部外面はハケメ、内面はナデが施される。67は直立気味に立ち上がる口縁部が上方で屈曲外反する。口縁部下半は若干肥厚している。外面にはススが付着している。68は甕A1類で口縁部の破片である。68の端部は明確につまみ上げていて、幅の広い面をもつ。胎土は粗く、内面は摩耗しているが、内外面ともにヨコナデである。69～74は甕A3類で、口縁部が「く」字状に外反し、端部が丸く収まるものである。69は球形の体部に緩く外反する口縁部が付く小型の甕である。粗い砂粒を多く含んだ胎土で、焼成もやや不良である。口縁部の調整は内外面ともにハケメの後ヨコナデされ、体部外面はハケメ、内面はハケメの後ナデ消しされる。内外面にスス・コゲが付着している。70は口縁部下半を肥厚させ、全体的に厚手のつくりである。焼成はやや軟質で、器面の調整は口縁部が内外面ともにヨコナデで、体部外面はハケメ、内面はナデである。71は体部がやや細身の器形で、2次的な被熱のためか器面に剥落がみられる。外面にはススが付着している。口縁部の調整は内外面ともにハケメで、端部はヨコナデを加える。体部外面にケズリを施すが、胎土がやや粗いために、器面に調整時に小石などが引きずられた凹凸がみられる。内面はハケメで、下半はその後ナデを加えているが、内面に輪積痕が残る。72は小型で、やや細身の甕である。口

縁部の屈曲は緩く、口縁部が短く外反する。比較的厚手で、口縁部は内面にハケメ、外面にナデがみられる。体部は外面がやや粗いハケメ、体部内面がハケメの後ナデ消しが施される。ほぼ完形。73は「く」字状に外反する口縁部がやや長く外方に伸びる薄手の土器である。内面は摩耗が激しいが、ハケメの後ナデが施されている。外面は細密なハケメが施され、端部をヨコナデしている。外面にはススが付着している。74は口縁部の破片で、褐灰色を呈する厚手の土器である。胎土はやや粗く、口縁部の調整は内外面ともにハケメの後ヨコナデである。外面にはスス・コゲが付着している。75は体部から底部の破片で球形の体部をなすやや小ぶりの甕である。底部は底径が3.3cmの平底である。器壁は比較的薄く、器面の調整は内外面ともにハケメで、体部外面にはヘラ状の工具で一部ナデ消したような跡が観察できる。外面にススが付着している。76は甕A2類で、断面形態が「く」字状を呈する甕である。胎土は精良で、硬い焼成である。口縁部外面はハケメの後ヨコナデ、内面はヨコナデ、体部外面は細密なハケメが施される。77・78は甕A4類で、口縁部に指頭圧痕が残り、端部が小波状を呈す。どちらもヨコナデはされず、口縁部内面にはハケメが残る。反貫目遺跡〔寺崎2004〕などに類例がみられるものである。77の口縁部内面に施されたハケメは細密であるが、体部外面はそれに太く粗いものが加わる。体部内面はナデで、体部下半からはケズリに似た強いヘラナデを施す。外面にはススが付着している。78は端部をつまみ上げていて、不規則に指で押えている。口縁部は内面に粘土を貼り付け肥厚させており、内外面ともハケメが施される。79～81は甕A3類で、79・80はほぼ完形である。79はやや肥厚した口頸部に球形を呈する体部が付く小型の甕である。口縁部の調整は内外面ともにハケメの後ヨコナデされ、体部外面はハケメ、内面はハケメの後ヘラ状の工具でナデ消している。内外面ともに被熱のためか器面の荒れ、剥落が著しく、外面にはススが付着している。80は肥厚した口縁部が緩く屈曲し、体部は球形に近い。底部の形態は底径3.9cmの平底である。胎土は粗く、小石混じりの粗い砂粒を多く含んでいる。器面の調整は口縁部が内外面ともにヨコナデ、体部は内外面ともにハケメで、外面の底部付近ではケズリが施される。体部内面には輪積痕が残る。81は口縁部下半が粘土の貼り付けによって肥厚している。胎土は精良で、硬い焼成である。口縁部は内外面ともにヨコナデ調整され、体部の外面にはかなり細密なハケメが施される。82～85は甕A2類である。82は口縁部が直立気味に立ち上がり、上部で外反する。比較的硬い焼成で、焼土粒が目立つ。体部の内面には輪積痕が明瞭に残る。83は口縁部から体部下半にかけての破片で、曲線的に屈曲する口縁部に長胴の体部が付く。全体的に薄手の土器で、内外面ともに被熱のためか剥落がみられる。口縁部内面は摩滅しているが、ヨコナデが観察できる。体部外面はハケメであるが、体部下半はケズリに近いヘラナデが施される。内面は頸部付近と体部下半にハケメが残るが、その他は丁寧なナデである。外面にススが付着する。84は口縁部が浅い「コ」字状を呈しているもの。厚手の土器で、胎土は精良である。外面にはススが付着している。85は口縁部が緩く曲線的に屈曲するもので、端部の面は幅が狭い。全体的に薄手のつくりであるが、胎土は粗く、雲母が目立つ。外面には細密なハケメ調整後、一部ナデ消しがなされる。86は甕A1類で口縁部から体部の破片である。肥厚した口縁部が曲線的に外反し、端部付近で若干引き出されて端部はつまみ上げている。胎土は雲母が目立ち、小石や砂粒が多い。器面の調整は口縁部が内外面ともヨコナデで、体部内外面はハケメの後ナデ消しされる。体部外面はところどころ剥落がみられ、器面が荒れている。またススが若干付着している。87は口縁部の破片で甕A2類である。口縁部は緩く外反して長く伸びる。口縁部上半はヨコナデが施されるが、内面にハケメがわずかに残る。口縁部下半・体部にハケメがみられ、外面にはススが付着している。

88～98・113・114は壺である。88～95は口縁部から頸部にかけての破片で、二重口縁の壺A類である。89は頸部の上端面に接合面補強のためのヘラ状工具による刻み目がめぐる。胎土は精良で、海面骨針を比較的多く含んでいる。内面はハケメの後ヨコナデ、外面はヨコナデ調整である。90は口縁部と頸部の接合痕が明瞭で、器面の調整は内外面ともにヨコナデの後、粗いミガキを施している。91も90同様、口縁部と頸部の接合痕が明瞭にみられる。端部はやや引き出されて面取りしている。胎土に海面骨針を多く含み、内外面ともに丁寧なミガキ調整である。92は胎土がやや粗く、焼成も軟質である。内面は剥落が著しいが、内外面ともにミガキ調整

と思われる。93 は試掘調査時の 18 トレンチから出土したものである。内面は摩耗していて不明瞭ではあるが、内外面ともにヨコナデ調整であろう。94 はやや厚手の土器で、端部は欠損している。内面はオリーブ黒色を呈し、胎土は精良である。口縁部の調整は内外面ともにハケメの後ヨコナデ、頸部は内外面ともにハケメが残る。95 は口縁部に明確な段をもっておらず、頸部と口縁部の接合部がわずかに突出している。端部は面をもつ。比較的硬い焼成で、内外面ともにヨコナデ調整である。96～98 は「く」字状に屈曲する壺 B 類である。96 は口縁上部を欠損しているが、直立気味の口縁部をもつことから壺 B2 類とした。肥厚した口縁部に球形の体部が付くものと思われる。口縁部の調整は内外面ともにハケメの後ヨコナデしている。97 は薄手の土器で、やはり壺 B1 類であるが、やや短めの口縁部である。球形の体部が付くものと思われる。口縁部の調整は内外面ともにヨコナデで、体部外面は細密な条線が直線的にみられることから、ハケメの後ヘラ状の工具を用いてナデしていると推測される。98 はほぼ完形の大型の壺で、壺 B2 類である。口縁部は「く」字状に外傾し、体部は倒卵形を呈する。胎土は海面骨針を多く含み、精良である。口縁部の調整は内外面ともにヨコナデ、体部はハケメで、外面はその後頸部付近からミガキが施される。113 は口縁部の破片で壺 B4 類である。口縁部は上方に内湾気味に伸びる。器面の調整は内面がヨコナデ、外面はハケメの後ナデ消しされる。114 は口縁部から体部下半にかけての破片で壺 B3 類である。口縁部は「く」字状に外反し、広口である。体部は倒卵形を呈する。胎土には海面骨針を含み、石英がやや目立つ。器面の調整は口縁部の内面がミガキ、外面はハケメの後ナデ消しされるが、頸部付近はハケメが弱く残る。体部はハケメの後ミガキが施される。

99～107・118・119 は鉢である。99・101・102 は鉢 A 類、100・103・118 は鉢 B 類、104・106・107・119 は鉢 C 類。99 は口縁部から体部の内面に粘土を貼り付け肥厚させている。身はやや浅い。外面はミガキが施される。100 は口縁部が短く外反し、内外面ともにヨコナデされる。体部外面は丁寧なミガキが施される。101 は 100 より長い口縁部をもち、「く」字状に外反する。内面の調整はミガキまたはミガキに近い丁寧なナデで、光沢を帯びた黒色を呈する。102 は体部の破片で、薄手のつくりである。胎土は精良で、雲母が目立つ。器面の調整は内面がナデ、外面はミガキが施される。103 は短い内湾気味の口縁部をもち、体部は丸みをおびる。器壁はきわめて薄く、胎土は精良である。口縁部の調整は内外面ともにヨコナデ、体部の外面はハケメ、内面は丁寧なナデが施される。104 は丸みを帯びて内湾する浅い椀形を呈している。口縁部は内外面ともにヨコナデ、体部外面は縦方向のハケメが施される。105 は体部から底部の破片で、鉢 A 類の可能性はある。体部内面はナデ、外面はミガキが施される。底径は 2.3cm で、底部付近はケズリが観察できる。106 は身が深く、椀形を呈する。胎土には雲母を比較的多く含む。器面の調整は口縁部が内外面ともにヨコナデ、体部はナデを施す。107 は底部穿孔の鉢 C3 類である。胎土はやや粗い。底部の調整は内外面ともハケメで、外面はミガキが加わる。118 は鉢 B 類で、頸部を強くヨコナデして、口縁部を緩やかに外反させている。内外面ともに丁寧なナデを行っており、内面にはミガキもみられる。119 は鉢 C1 類でほぼ完形である。口径に対して身が浅く、底部はやや出っばる。内外面ともにハケメの後、ナデ消しされる。

108～112・115・116・117 は小型壺である。108 は小型壺 B 類の口縁部の破片で、胎土は精良である。器面の調整は外面がミガキで、内面はハケメ調整であるが、上部はナデが加えられる。109 は口縁部から体部下半にかけての小型壺 B 類である。扁平な体部にやや内湾気味に伸びる長い口縁部が付く。器壁は薄く、胎土には海面骨針を含む。口縁部は内外面ともにヨコナデの後ミガキ、体部外面もミガキ調整で、外面の口縁部から体部上半までと口縁部上半の内面に赤彩が施される。体部内面はナデである。110 は小型壺 C 類の口縁部破片で、球形の体部をもつものと思われる。胎土は粗く、焼成は軟質である。内外面ともにミガキが施される。111 は小型壺 C の口縁部から底部まで残る遺存率の良好なもので、球形の体部に有段気味に内湾する口縁部がつく。口縁部の調整は内外面ともにヨコナデで、外面はさらにミガキが加えられる。体部は内面がナデ、外面はハケメの後ミガキが施される。112 は口縁部から体部にかけての破片で、有段口縁をもつ小型壺 A 類である。内外面ともに丁寧なナデで、外面は一部ミガキが施される。115・116 は小型壺 C 類である。同じ器種とした 110・

111 に比べ口縁部がやや短めで内湾気味に立ち上がる。115 は胎土に海面骨針を含み、精良である。口縁部の調整はハケメの後ヨコナデ、体部内面はハケメ、外面はナデ調整である。116 は内外面ともミガキが施され赤彩される。胎土は精良で比較的硬い焼成である。117 は壺の底部破片で、全体の形状は不明であるが小型の壺であるだろう。内面はナデで、外面はミガキ調整であるが一部剥離している。

120 ～ 131・133 ～ 135 は高杯である。120 ～ 123 は高杯 A1 類で、杯底部の径が小さいほど深くなる傾向がある。120 は内外面ともに丁寧なミガキ調整であるが、121 は外面のみ弱いミガキが施される。122 は口縁が直線的に開き、外面の調整はミガキで、内面は丁寧なナデが施される。123 は杯部の内面と脚部外面にミガキがみられる。124・126 は高杯 A2 類（高杯脚 A2 類）で、ほぼ完形である。口縁端部で緩く外反する椀状の杯部で、脚部は裾部で大きく外反し、脚上部が曲線的な膨らみをもつ。器面の調整は杯部が内外面ともに横または斜め方向のミガキ、脚上部の外面は縦方向のミガキ、裾部は横または斜め方向のミガキが施される。内面には輪積痕が明瞭に残る部分がある。126 は杯部外面と脚部外面にミガキがみられる。125・127 ～ 129・135 は脚 A1 類、130・131・133・134 は脚 A2 類である。125 の外面は丁寧なミガキが施され、内面はヘラナデによって輪積痕をナデ消し、器壁の厚さを均一にしている。127 の外面の調整は弱いミガキで、裾付近の内面には接合痕が残る。128 の外面はハケメの後、横方向の粗いミガキが施される。129 は細身の脚部で、裾付近でやや内湾気味に開く。脚上部外面は縦方向の丁寧なミガキが施され、裾部では横または斜め方向のミガキが施される。内面には輪積痕が消されずに明瞭に残っている。裾部内面はハケメの後、ナデ消しされる。130・131 は、外面はミガキ、内面はナデが施されているが、内部には輪積痕が残る。133 は杯部の立ち上がりやや急なもので、杯部内面・脚部外面に弱いミガキが施されている。134 は脚部の破片である。磨耗しているが、器面の調整は内外面ともナデのみで、内面の輪積痕が明瞭に残る。135 は脚部の破片で外面は磨耗しているが、ミガキ調整である。内面はナデで丁寧な調整である。

132 は器台である。受部から脚部にかけての破片である。受部中央は穿孔されており、外反して立ち上がる。外面の調整はミガキで、赤彩されている。

136 は蓋で、直線的に伸びる体部に上面が平らなつまみを有する。外面はハケメの後、ナデ消しされる。内面はナデである。

C 土製品（図版 35、写真図版 26）

137 ～ 142 はミニチュア土器である。全て包含層からの出土である。137 ～ 138 は鉢形のミニチュアである。137 の口縁端部は摘んで緩く外反させている。口縁部の調整は内外面ともにヨコナデで、体部外面はハケメの後、一部ナデ消しされる。内面はナデで、輪積痕が明瞭に残る。138 も同様に口縁部を摘んで外反させている。底部は平底である。内外面ともに丁寧なナデが施され、底部外面には黒班がみられる。139 は口縁部が欠損している。外面はハケメの後、ミガキが施される。140 は壺形のミニチュアで、ほぼ完形である。外面の調整はハケメで底部はケズリが施される。内面はナデで輪積痕が残っている。外面には黒班がみられる。141 は手づくね成形で外面には黒班がみられる。142 は手づくね土器に近いものである。

D 石製品（図版 35、写真図版 26）

石製品は勾玉・管玉・白玉などの玉類の他に砥石などが出土している。詳細な数値などは別表 3 に示した。

(1) 玉類（図版 35、写真図版 26）

勾玉 (1) 1 点、管玉 (2) 1 点、白玉 (3 ～ 5) 3 点が出土している。勾玉と管玉は包含層（勾玉は 8G9、管玉は 9F4 グリッド）から出土しており、管玉は未完成品であることからその出土地点周辺の土壌を 50cm メッシュを組んで採取し洗浄を行ったが、製作過程を示すような剥片はみつからなかった。

1 は勾玉の完成品である。頭部の穿孔は一方向から行われる。断面は楕円形を呈している。石材は蛇紋岩である。

2は管玉の未成品である。多角柱状を呈し、8面の研磨面を残す。両面より穿孔がなされているが、貫通はしていない。石材は緑色凝灰岩である。(半円形のリングが観察でき、角柱状の素材を作るために剥離したものと考えられる?) 白玉は全て遺構から出土しており、3・4はSE81、5はSE255から出土している。3点とも完成品であり、いずれも直径4～5mm、孔径1～2mmほどのビーズ状の玉であるが、5は厚さ1mmときわめて薄い。石材は全て滑石である。

(2) 砥石 (図版 35、写真図版 26)

6は小型の手持砥石としての使用が考えられる。直方体を呈し、5面に砥面が残る。石材は泥岩である。P498の1層から出土した。7・8・9は軽石製石製品である。8は不整形で扁平な石の表裏に不定方向の擦痕がみられる。また表面中央付近には直径1cm程度のほぼ同じ大きさの穿孔した痕が2箇所みられる。7・9は円礫に擦痕が残るものである。7は多面体で、各面に不定方向の擦痕が残る。9は楕円形の扁平な形状で、表面に擦った痕跡がみられる。すべて包含層からの出土である。

E 木製品 (図版 36、写真図版 26)

8点の柱根が検出されており、全てピットからの出土である。このうち2点は遺存状態が悪く実測しなかったが、残りの6点を図化し掲載した。詳細な数値などは別表4に示した。

1はP89から出土した柱根で、15cm程度しか遺存していないが、残存部の状態は比較的良好である。底部は欠損しており、加工の有無は観察できない。木取り方法は丸材が使用されている。P102出土の2も同様の形状を呈するが、残存長が23.3cmと残りがよい。片側だけを削り加工を施している。3・6は建物としては確認できなかったが、3はP204、6はP339出土の柱根である。ともに丸材の柱で、3は残存長31.8cm、幅10.2cm、厚さ8.6cmと本遺跡で出土した木製品の中で最も大きい。先端部と底部は欠損している。4・5はSB2の柱根で、4はP258、5はP383からの出土である。4の底面は縁辺から中心に向かって加工を施しており、全面に渡って加工が施されるものと推測する。5は割材で、底面は鋭角に削られている。6は加工痕が不明。

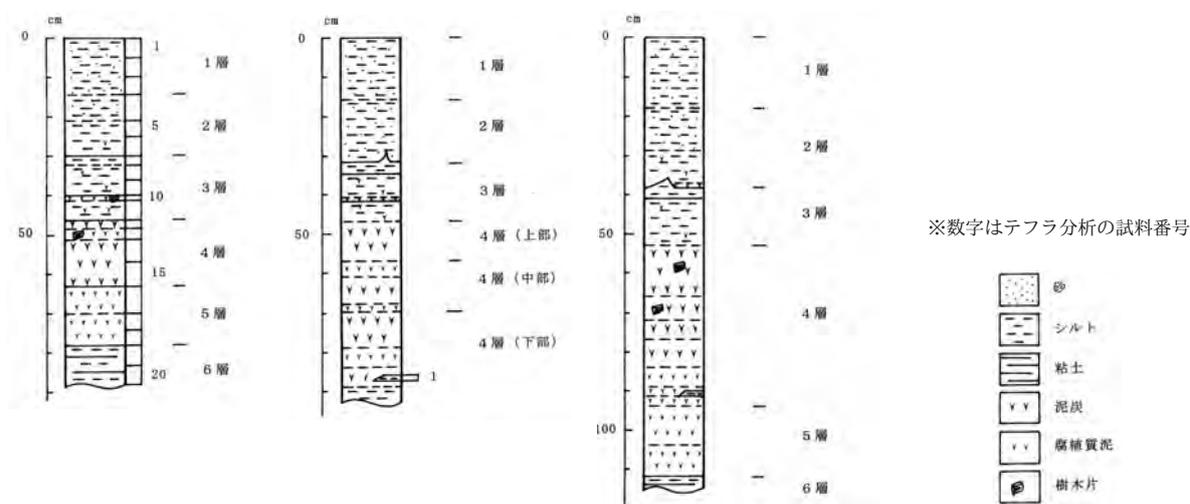
F 近世の遺物 (図版 35、写真図版 26)

Ⅲ層から京都・信楽産陶器が出土している(143)。体部のみであるが、小型の色絵碗で、半球形に近い丸形を呈す。胎土は緻密でやや硬質感があり、灰白色をしている。体部外面に朱色に近い赤と緑で草花文と思われる文様を施す。18世紀所産のものであろう。

第VI章 自然科学分析

第1節 土層とテフラ

新潟市域とその周辺の沖積層や土壌には、妙高、浅間、沼沢など新潟県やその周辺の火山のほか、遠く九州地方の火山から噴出したテフラが挟在されている。それらの多くについては噴出年代が明らかにされており、過去の時空指標としての利用が可能となっている。そこで、テフラの可能性のある土層が検出された上大川遺跡でも、地質調査を行って土層の層序や柱状図にして記載するとともに（第5図）、テフラ検出分析、火山ガラスの屈折率測定および主成分化学組成分析を実施して、指標テフラの検出同定を行った。



第5図 各地点（①・②・③）の土層柱状図

A テフラ検出分析

1) 分析試料と分析方法

採取された試料のうち 15 試料を対象に、テフラ検出分析を行って含まれるテフラ粒子の量や特徴の把握を行った。分析は、1) 適量の試料 15g について超音波洗浄を行い泥分を除去、2) 80℃で恒温乾燥、3) 実体顕微鏡下でテフラ粒子の量や特徴の把握、という手順で実施された。

2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を第1表に示す。①地点では、試料 20・試料 18・試料 16・試料 6・試料 2 で火山ガラスが認められた。そのうち、試料 20 および試料 18 には比較的多くの軽石型ガラスや平板状のいわゆるバブル型火山ガラスが含まれている。これらの火山ガラスの色調は無色透明あるいは淡褐色である。SE457 の試料 2 や SE491 周辺地点の試料 1 にも、同じような火山ガラスが比較的多く含まれている。調査区南部の 6 層上面の試料には、無色透明や白色の軽石型ガラスが含まれているものの、その量は少ない。

第1表 テフラ検出分析結果

地点	試料	軽石・スコリア		火山ガラス	
		量	色調 最大径	量	形態 色調
①地点	2			*	pm 白
	4				
	6			*	bw 淡褐
	8				
	11				
	12				
	13				
	15				
	16			*	pm 透明
	18			**	pm 透明, 淡褐
20			**	pm,bw 透明, 淡褐	
②地点	1				
	SE457			**	pm,bw 透明, 淡褐
	調査区南部 6 層上面			*	pm 透明, 白
	SE491 周辺			**	pm,bw 透明, 淡褐

***: とくに多い, **: 多い, *: 中程度, * 少ない, 最大径の単位は mm.
bw: バブル型, md: 中間型, pm: 軽石型.

B 屈折率測定

テフラ検出分析により比較的多くの火山ガラスが検出された試料のうち、3 試料に含まれる火山ガラスについて、温度変化型屈折率測定装置（古澤地質社製 MAIOT）による屈折率（n）の測定を実施して、指標テフラとの同定精度の向上を図った。その結果を第 2 表に示す。①地点の試料 18 に含まれる火山ガラス（32 粒子）の屈折率（n）は、1.497-1.501 である。SE457 の試料 2 に含まれる火山ガラス（33 粒子）の屈折率（n）は、1.499-1.502 である。SE491 周辺地点の試料 1 に含まれる火山ガラス（30 粒子）の屈折率（n）は、1.499-1.501 である。

第 2 表 屈折率測定結果

地点名	試料・テフラ	火山ガラス	
		屈折率 (n)	測定点数
①地点	試料 18	1.497-1.501	32
SE457	試料 2	1.499-1.502	33
SE491 付近	試料 1	1.499-1.501	30
指標テフラ	十和田 a (To-a)	1.496-1.508	
	沼沢湖 (Nm-N)	1.500-1.505	
	十和田八戸 (To-H)	1.502-1.509	
	浅間板鼻黄色 (As-YP)	1.501-1.505	
	鳴子湯沼上原 (Nk-U)	1.492-1.500	
	始良 Tn (AT)	1.498-1.501	
	十和田大不動 (To-Of)	1.505-1.511	
	沼沢金山 (Nm-Kn)	1.498-1.502	
	阿蘇 4 (Aso-4)	1.506-1.510	
	三瓶本次 (SK)	1.496-1.498	
	洞爺 (Toya)	1.494-1.498	

屈折率の測定は、温度変化型屈折率測定装置 (RIMS2000) による。指標テフラの屈折率は、町田・新井 (2003) による。

C 火山ガラスの主成分化学組成分析

屈折率測定の対象となった 3 試料を対象に、火山ガラスの起源をより詳しく調べるために波長分散型エレクトロンプローブ X 線マイクロアナライザー (WDS 型 EPMA と呼ぶ) による主成分化学組成分析を実施した。分析に使用した分析機器は、山形大学理学部の日本電子 JXA8600MWDS 型 EPMA で、加速電圧 15kV、照射電流 0.01 μA、ビーム径 5 μm の条件で行った。また、補正法には Oxide ZAF 法を用いた。結果を第 3 ~ 6 表に示す。それぞれの試料において、複数のグループに分類される火山ガラスが検出され、多くのテフラに由来する火山ガラスが混在していることが明らかになった。

第 3 表 ①地点試料 18 に含まれる火山ガラスの主成分化学組成分析結果

グループ	A	SiO ₂	TiO ₂	Al ₂ O ₃	FeO	MnO	MgO	CaO	Na ₂ O	K ₂ O	P ₂ O ₅	total
		79.01	0.16	12.21	0.90	0.05	0.09	0.47	3.24	3.81	0.05	100.00
		79.77	0.09	12.79	0.70	0.14	0.08	0.32	2.92	3.16	0.03	100.00
		79.28	0.18	11.96	0.82	0.09	0.18	0.99	3.05	3.38	0.05	100.00
		79.06	0.19	11.62	1.19	0.00	0.13	1.05	3.21	3.54	0.00	100.00
		79.24	0.03	12.48	0.66	0.10	0.09	0.54	3.62	3.13	0.11	100.00
平均		79.27	0.13	12.21	0.86	0.08	0.12	0.67	3.21	3.41	0.05	100.00
標準偏差		0.30	0.07	0.45	0.21	0.05	0.04	0.33	0.26	0.28	0.04	
グループ B		79.27	0.12	11.77	1.03	0.17	0.17	0.91	3.67	2.77	0.12	100.00
		79.95	0.19	11.85	1.16	0.13	0.16	0.87	3.16	2.42	0.10	100.00
平均		79.61	0.16	11.81	1.10	0.15	0.16	0.89	3.41	2.59	0.11	100.00
標準偏差		0.48	0.05	0.06	0.09	0.03	0.01	0.03	0.36	0.25	0.01	
グループ C		77.92	0.03	12.31	0.88	0.06	0.02	0.75	2.93	5.05	0.05	100.00
		78.09	0.04	12.40	0.97	0.04	0.06	0.76	2.92	4.66	0.06	100.00
平均		78.01	0.03	12.36	0.92	0.05	0.04	0.75	2.92	4.86	0.05	100.00
標準偏差		0.12	0.00	0.07	0.06	0.01	0.03	0.01	0.00	0.28	0.01	
グループ D		78.98	0.06	12.22	0.96	0.11	0.05	0.43	2.46	4.73	0.00	100.00
		78.50	0.02	12.42	0.75	0.12	0.04	0.37	2.59	5.16	0.02	100.00
平均		78.74	0.04	12.32	0.85	0.12	0.05	0.40	2.53	4.95	0.01	100.00
標準偏差		0.34	0.03	0.14	0.15	0.01	0.01	0.04	0.09	0.30	0.01	

第 4 表 SE457 試料 2 に含まれる火山ガラスの主成分化学組成分析結果

グループ	A	SiO ₂	TiO ₂	Al ₂ O ₃	FeO	MnO	MgO	CaO	Na ₂ O	K ₂ O	P ₂ O ₅	total
		78.39	0.18	12.00	1.15	0.05	0.25	1.29	3.28	3.39	0.03	100.00
		79.01	0.28	11.76	1.10	0.12	0.19	0.85	3.69	3.00	0.00	100.00
		79.11	0.21	12.15	1.06	0.11	0.19	0.96	2.97	3.23	0.00	100.00
		78.84	0.21	12.21	1.19	0.00	0.12	1.16	3.05	3.16	0.05	100.00
		78.88	0.28	11.75	1.28	0.07	0.17	1.02	2.86	3.69	0.02	100.00
		78.97	0.16	11.94	0.93	0.24	0.16	0.93	3.54	3.13	0.00	100.00
		78.91	0.16	11.98	1.06	0.13	0.17	0.93	2.88	3.77	0.00	100.00
平均		78.87	0.21	11.97	1.11	0.10	0.18	1.02	3.18	3.34	0.01	100.00
標準偏差		0.23	0.05	0.18	0.11	0.08	0.04	0.15	0.33	0.29	0.02	
グループ B		78.20	0.09	13.31	0.43	0.13	0.12	0.43	3.70	3.52	0.07	100.00
		79.23	0.32	11.80	1.21	0.02	0.22	1.23	3.05	2.89	0.02	100.00
グループ C		79.63	0.06	12.45	0.74	0.06	0.04	0.40	1.64	4.97	0.00	100.00
		79.83	0.07	12.49	0.63	0.07	0.03	0.44	1.79	4.64	0.02	100.00

第 5 表 SE491 周辺試料 1 に含まれる火山ガラスの主成分化学組成分析結果

グループ	A	SiO ₂	TiO ₂	Al ₂ O ₃	FeO	MnO	MgO	CaO	Na ₂ O	K ₂ O	P ₂ O ₅	total
		78.99	0.25	11.58	1.40	0.04	0.17	1.01	3.05	3.49	0.02	100.00
		79.06	0.25	11.86	1.02	0.07	0.13	0.91	3.68	3.01	0.00	100.00
		78.70	0.13	13.03	0.54	0.15	0.13	0.62	2.90	3.77	0.03	100.00
		78.79	0.21	11.70	1.25	0.07	0.15	1.04	3.17	3.57	0.05	100.00
		78.90	0.21	11.83	1.43	0.00	0.23	1.44	2.92	2.98	0.06	100.00
		79.05	0.14	12.25	1.16	0.09	0.00	0.92	2.53	3.84	0.03	100.00
		78.53	0.19	12.05	0.95	0.08	0.18	1.23	3.24	3.53	0.00	100.00
平均		78.86	0.20	12.04	1.11	0.07	0.14	1.02	3.07	3.46	0.03	100.00
標準偏差		0.20	0.05	0.49	0.31	0.04	0.07	0.26	0.35	0.34	0.02	
グループ B		79.43	0.17	12.12	0.80	0.20	0.18	0.97	3.38	2.73	0.02	100.00
グループ C		78.77	0.09	12.36	0.78	0.03	0.07	0.39	2.82	4.60	0.09	100.00
		78.11	0.09	12.21	1.32	0.07	0.02	0.69	2.71	4.78	0.00	100.00
グループ D		79.95	0.23	11.49	0.77	0.16	0.18	1.20	2.91	3.09	0.02	100.00

D 考察

分析の対象となった試料に多く含まれる火山ガラスは、その形態、角閃石が多いこと、さらに屈折率などから、約 5 ~ 5.5 万年前以前に沼沢火山から噴出した沼沢金山テフラ (Nm-Kn, 鈴木・早田, n: 1.498-1.502) に二次的に由来する可能性が高い。また、約 5,000 年前 (放射性炭素 (¹⁴C) 年代) に沼沢火山から噴出した沼沢テフラ [Nm-N, n: 1.500-1.505, 只見川第四紀研究グループ 1966a・1966b, 町田・新井 2003] やそれに関係した火山泥流に由来するテフラ粒子が

混在している可能性もあるのかも知れない。

新潟市域周辺における奈良平安時代の編年研究においては、福島市域以北の東北地方に広く分布する十和田 a テフラ [To-a, 大池 1972、町田ほか 1981、町田・新井 2003 など] の検出が期待されている。今回検出された火山ガラスの屈折率だけをみると、とくに東北地方南部で検出される To-a の火山ガラスの屈折率 (n : 1.500-1.503 程度) によく似ているものの、検出された火山ガラスの主成分化学組成は To-a のそれとは異なる。まだ、新潟市域で明確に To-a 起源とみなされるテフラ粒子の検出例は

第6表 上大川遺跡のテフラ試料と代表的な指標テフラに含まれる火山ガラスの主成分化学組成分析結果

地点・試料	SiO ₂	TiO ₂	Al ₂ O ₃	FeO	MnO	MgO	CaO	Na ₂ O	K ₂ O	P ₂ O ₅
①地点・試料 18・グループA	79.27	0.13	12.21	0.86	0.08	0.12	0.67	3.21	3.41	0.05
①地点・試料 18・グループB	79.61	0.16	11.81	1.10	0.15	0.16	0.89	3.41	2.59	0.11
①地点・試料 18・グループC	78.01	0.03	12.36	0.92	0.05	0.04	0.75	2.92	4.86	0.05
①地点・試料 18・グループD	78.74	0.04	12.32	0.85	0.12	0.05	0.40	2.53	4.95	0.01
SE457・試料 2・グループA	78.87	0.21	11.97	1.11	0.10	0.18	1.02	3.18	3.34	0.01
SE457・試料 2・グループB	78.20	0.09	13.31	0.43	0.13	0.12	0.43	3.70	3.52	0.07
	79.23	0.32	11.80	1.21	0.02	0.22	1.23	3.05	2.89	0.02
SE457・試料 2・グループC	79.63	0.06	12.45	0.74	0.06	0.04	0.40	1.64	4.97	0.00
	79.83	0.07	12.49	0.63	0.07	0.03	0.44	1.79	4.64	0.02
SE491 付近・試料 1・グループA	78.86	0.20	12.04	1.11	0.07	0.14	1.02	3.07	3.46	0.03
SE491 付近・試料 1・グループB	79.43	0.17	12.12	0.80	0.20	0.18	0.97	3.38	2.73	0.02
SE491 付近・試料 1・グループC	78.77	0.09	12.36	0.78	0.03	0.07	0.39	2.82	4.60	0.09
	78.11	0.09	12.21	1.32	0.07	0.02	0.69	2.71	4.78	0.00
SE491 付近・試料 1・グループD	79.95	0.23	11.49	0.77	0.16	0.18	1.20	2.91	3.09	0.02
指標テフラ										
十和田 a (To-a)	77.87	0.37	12.81	1.75	0.10	0.42	2.00	3.29	1.34	
十和田八戸 (To-H)	78.30	0.29	12.67	1.52	0.06	0.29	1.73	3.84	1.30	
浅間草津 (As-YPk)	78.61	0.29	11.97	1.37	0.06	0.24	1.26	3.19	2.97	
始良 Tn (AT)	78.83	0.12	12.13	1.10	0.04	0.11	0.98	3.33	3.36	
十和田大不動 (To-Of)	77.82	0.36	12.45	1.88	0.08	0.33	1.87	3.97	1.25	
鳴子柳沢 (Nr-Y)	79.67	0.16	11.94	1.30	0.06	0.17	1.31	3.62	1.78	
肘折北原 (Hi-Kth)	78.63	0.09	12.26	0.70	0.08	0.07	0.68	3.58	3.87	0.03
洞爺 (Toya)	79.37	0.06	12.48	0.92	0.08	0.03	0.37	3.75	2.94	0.00
無水に換算										

ないものの、本地域に降灰している可能性は十分考えられることから、試料 18 は To-a より下位にあることを示唆しているのかも知れない。なお、SE457 の試料 2 のなかに 1 粒子、約 1.3 ~ 1.4 万年前 (放射性炭素 (¹⁴C) 年代) に浅間火山から噴出した浅間草津黄色軽石 [As-YPk, 新井 1962、町田・新井 2003 など] に由来する可能性のある火山ガラスが認められた。

さらにテフラの保存状態の良い地点での詳細なテフラの観察を分析測定により実施し、新潟平野における To-a の産状を把握し、今後の詳細な編年研究に利用できるようになることを期待したい。

第2節 放射性炭素 (¹⁴C) 年代測定

A 測定試料と測定方法

上大川遺跡の発掘調査により 4 世紀後半の遺物が検出された 5 層から採取された①地点の試料 18 と試料 16、さらに土器片 (08 上大川 SE81-116) に付着した炭化物の 3 試料を対象に、酸 - アルカリ - 酸洗浄を行って試料の処理・調整後、米国のベータ社の加速器をもちいて AMS 法により年代測定を行った (第7表)。

第7表 放射性炭素年代測定の試料と方法

試料	¹⁴ C 試料名	採取地点・層位	種類	重量	前処理	測定方法
①	TNH-0020K	①地点・試料 16	腐植質堆積物	29.48g	酸 - アルカリ - 酸洗浄	加速器質量分析 (AMS) 法
②	TNH-0021K	①地点・試料 18	炭化物	16.47g	酸 - アルカリ - 酸洗浄	加速器質量分析 (AMS) 法
③	TNH-0026K	土器片付着物	炭化物	53g ¹	酸 - アルカリ - 酸洗浄	加速器質量分析 (AMS) 法

¹: 土器片の重量。

B 測定結果と所見

年代測定の結果を第8表に示す。そのうち、土器片の補正 ¹⁴C 年代に関しては従来の年代観より若干新しい年代値が得られた。その理由に関しては今後の詳細な検討が必要と思われる。また、土器片を包含する 5 層の年代は、それよりさらにずっと新しい年代値が得られた。これは、土器片の包含層が最終的に形成された年代を示す可能性が高い。一般に、遺物包含層の形成年代を遺物の年代観で推定することはよく行われていることであるが、遺跡の形成過程を考えるとより慎重であるべきと考えられ、今回得られた年代値はそのことを強く印象づけるものとなっている。いずれにしても、5 層の形成はかなり短期間のうちに急速に行われたと考えられる。

なお、各用語の意味は次の通りである。

第8表 放射性炭素年代測定結果

試料	試料名	未補正 ^{14}C 年代 (yBP)	$\delta^{13}\text{C}$	補正 ^{14}C 年代(yBP)	暦年較正年代	測定番号
①	TNH-0020K	1270 ± 40	-25.2	1270 ± 40	2 σ : AD660 ~ AD870 1 σ : AD680 ~ AD780 交点: AD710,AD750,AD760	Beta-251359
②	TNH-0021K	1290 ± 40	-25.7	1280 ± 40	2 σ : AD660 ~ AD810 1 σ : AD670 ~ AD770 交点: AD690	Beta-251360
③	TNH-0026K	1600 ± 40	-25.3	1600 ± 40	2 σ : AD390 ~ AD550 1 σ : AD410 ~ AD540 交点: AD430	Beta-254156

1) 未補正 ^{14}C 年代測定値

試料の $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比から、単純に現在 (AD1950 年) から何年前かを計算した値。 ^{14}C の半減期は、国際的慣例によりリビー (Libby) の 5,568 年を用いた。

2) $\delta^{13}\text{C}$ 測定値

試料の測定 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比を補正するための炭素安定同位体比 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)。この値は標準物質 (PDB) の同位体比からの千分偏差 (‰) で表す。

3) 補正 ^{14}C 年代値

$\delta^{13}\text{C}$ 測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ の測定値に補正値を加えた上で算出した年代。試料の $\delta^{13}\text{C}$ 値を -25 (‰) に標準化することによって得られる年代である。

4) 暦年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中 ^{14}C 濃度の変動を補正することにより算出した年代 (西暦)。補正には、年代既知の樹木年輪の ^{14}C の詳細な測定値、およびサンゴの U-Th 年代と ^{14}C 年代の比較により作成された較正曲線を使用した。使用したデータセットは、INTCAL04: Calibration Issue of Radiocarbon, 46 (3), 2004 (海洋性試料については、Marine04) である。なお、較正曲線のスムーズ化には、下記の理論を用いた。Talma, A.S. and Vogel, J.C. (1993) A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates. Radiocarbon, 35 (2), p.317-322.

暦年代の交点とは、補正 ^{14}C 年代値と暦年代較正曲線との交点の暦年代値を意味する。1 σ (68% 確率)・2 σ (95% 確率) は、補正 ^{14}C 年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した暦年代の幅を示す。

第3節 プラント・オパール分析

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸 (SiO_2) が蓄積したものであり、植物が枯れたあとでも微化石 (プラント・オパール) となって土壤中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法で、イネの消長を検討することで水田跡 (稲作跡) の検証や探査が可能である [杉山 2000]。

A 試料と分析法

分析試料は、①地点 (微高地部)、③地点 (谷部)、SE457 と SE170 の埋土から採取された 7 点であるが、①地点と③地点のみ掲載する (第6図)。分析は、ガラスビーズ法 [藤原 1976] を用いて次の手順で行った。

- 1) 試料を 105°C で 24 時間乾燥 (絶乾)。
- 2) 試料約 1g に対し直径約 40 μm のガラスビーズを約 0.02g 添加 (電子分析天秤により 0.1mg の精度で秤量)。
- 3) 電気炉灰化法 (550°C・6 時間) による脱有機物処理。
- 4) 超音波水中照射 (300W・42kHz・10 分間) による分散。
- 5) 沈底法による 20 μm 以下の微粒子除去。
- 6) 封入剤 (オイキット) 中に分散してプレパラート作成。

7) 検鏡・計数。

同定は、400倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来するプラント・オパールを対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中のプラント・オパール個数を求めた。また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位： $10^{-5}g$ ）をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる [杉山 2000]。

B 分析結果

水田跡（稲作跡）の検討が今回の主目的であることから、同定および定量はイネ、ムギ類（穎の表皮細胞）、ヒエ属型、ヨシ属、ススキ属型、タケ亜科の主要な6分類群に限定した。これらの分類群について定量を行い、その結果を第9表および第6図に示した。第7図に主要な分類群の顕微鏡写真を示す。

C 考察

1) 水田跡（稲作跡）の検討

水田跡（稲作跡）の検証や探査で、一般にイネのプラント・オパールが試料1gあたり5,000個以上と高密度で検出された場合、稲作が行われていた可能性が高いと判断している [杉山 2000]。ただ、密度が3,000個/g程度でも水田遺構が検出される事例があることから、ここでは判断基準を3,000個/gとして検討した。

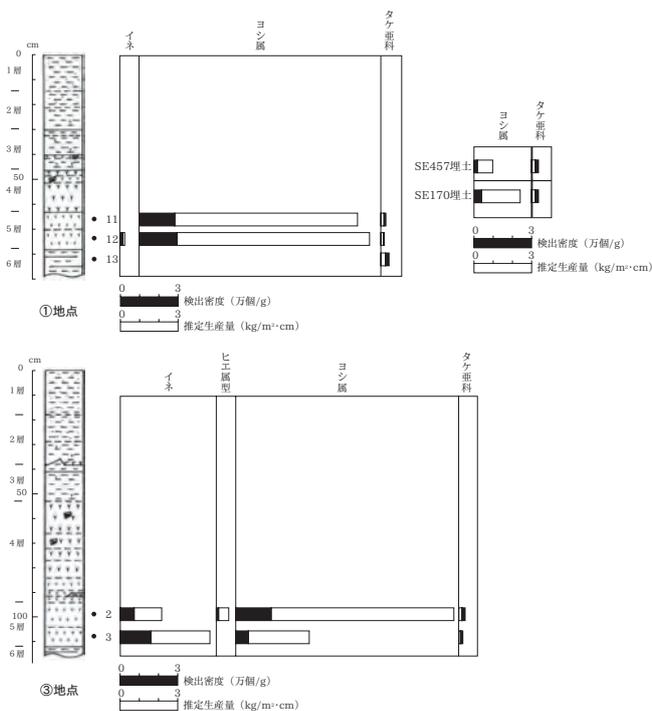
①地点（微高地部）ここでは、5層下部（試料12）からイネが検出された。その密度は700個/gと低い値であるが、直上の試料11ではまったく検出されないことから、上層から後代のものが混入したとは考えにくい。したがって、同層準の時期に調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていた可能性が考えられる。

③地点（谷部）ここでは、5層下部（試料3）でイネのプラント・オパールの密度が16,200個/gとかなり高く、

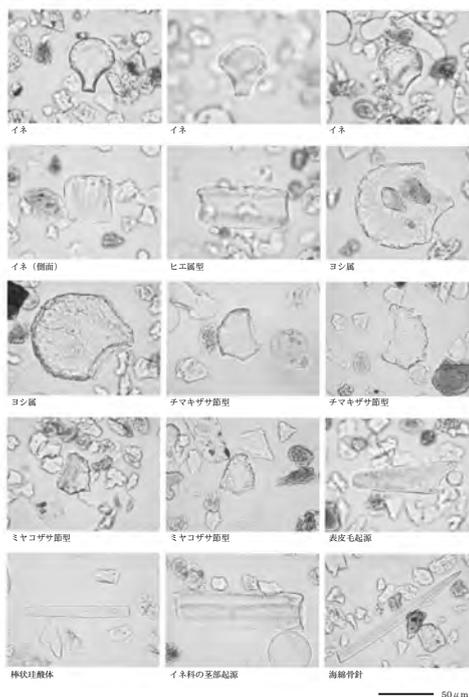
第9表 上大川遺跡におけるプラント・オパール分析結果

検出密度 (単位: $\times 100$ 個/g)		①地点			③地点		SE457	SE170
分類群	学名	11	12	13	2	3	埋土	埋土
イネ	<i>Oryzasativa</i>		7		74	162		
ヒエ属型	<i>Echinochloatype</i>				7			
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	182	192		182	61	15	38
タケ亜科	<i>Bambusoideae</i>	22	14	38	34	20	30	30

推定生産量 (単位: $kg/m^2 \cdot cm$) : 試料の仮比重を 1.0 と仮定して算出		①地点		③地点		SE457	SE170
分類群	学名	11	12	13	2	3	埋土
イネ	<i>Oryzasativa</i>		0.20		2.18	4.76	
ヒエ属型	<i>Echinochloatype</i>				0.57		
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	11.50	12.10		11.50	3.83	0.96
タケ亜科	<i>Bambusoideae</i>	0.10	0.07	0.18	0.16	0.10	0.15



第6図 上大川遺跡におけるプラント・オパール分析結果



第7図 植物珪酸体（プラント・オパール）の顕微鏡写真

5層上部(試料2)でも7,400個/gと高い。したがって、これらの層準では稲作が行われていたと考えられる。

2) 堆積環境の推定

ヨシ属は湿地的なところに生育し、ススキ属やタケ亜科は比較的乾いたところに生育している。このことから、これらの植物の出現状況を検討することによって、堆積当時の環境(乾燥・湿潤)を推定することができる。おもな分類群の推定生産量によると、①地点と③地点の5層ではヨシ属が優勢となっている。このことから、5層の堆積当時は、ヨシ属が生育する湿地的環境であったと考えられ、③地点(谷部)ではそこを利用して水田稲作が行われていたと推定される。

第4節 花粉分析

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復原に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的植生の推定も試みられている。花粉などの植物遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

A 試料と分析方法

分析試料は、①地点(微高地部)、③地点(谷部)、SE457とSE170の埋土から採取された7点であるが、①地点・③地点のみ掲載する(第8・9図)。

花粉の分離抽出は、中村[1973]の方法をもとに以下の手順で行った。1) 試料から1cm³を秤量。2) 0.5%リン酸三ナトリウム(12水)溶液を加えて15分間湯煎。3) 水洗処理の後、0.5mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去。4) 25%フッ化水素酸溶液を加えて30分放置。5) 水洗処理の後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理(無水酢酸9:濃硫酸1のエルドマン氏液を加え1分間湯煎)を施す。6) 再び氷酢酸を加えて水洗処理。7) 沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作成。8) 検鏡・計数。

検鏡は生物顕微鏡によって300~1000倍で行った。花粉の同定は、島倉[1973]および中村[1980]を参考に、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルにより、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン(-)で結んで示した。イネ属については、中村[1974・1977]を

第10表 上大川遺跡における花粉分析結果

字名	分類群	樹名	①地点			③地点		SE457	SE170
			11	12	13	2	3	埋土	埋土
Arboreal pollen		樹木花粉							
<i>Abies</i>		モミ属	1		1	1	1		
<i>Picea</i>		トウヒ属							
<i>Tsuga</i>		ツガ属	1	1	3	1	1		
<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i>		マツ属樺縄管束亜属	11	17	15	10	8	7	
<i>Pinus</i> subgen. <i>Haploxylon</i>		マツ属単管束亜属	2	2	2	3	2	1	
<i>Cryptomeria japonica</i>		スギ	99	62	45	76	68	26	
<i>Sciadopitys verticillata</i>		コウヤマキ	1						
Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae		イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	8	7	5	5	6	6	
<i>Salix</i>		ヤナギ属	3	6	33	25	26	3	
<i>Juglans</i>		クルミ属	8	4	4	5	5	1	
<i>Pterocarya rhoifolia</i>		ササグクミ	5	2	12	2	2		
<i>Alnus</i>		ハンノキ属	105	94	130	231	220	39	
<i>Betula</i>		カバノキ属	9	2	2	1	5	1	
<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>		クマシデ属-アサダ	10	3	2	6	5	2	
<i>Castanea crenata</i>		クリ	4	4	6	4	6	4	
<i>Castanopsis</i>		シイ属	5	2	4	3	1	1	
<i>Fagus</i>		ブナ属	14	5	16	11	12	1	
<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i>		コナラ属コナラ亜属	129	37	37	88	55	27	
<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>		コナラ属アカシ亜属	2	2	2	2	3	1	
<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>		エリ属-クヌギ	12	7	11	15	10	3	
<i>Celtis-Aphananthe uspera</i>		エノキ属-ムクノキ	16	4	5	11	10	1	
<i>Mallotus japonicus</i>		アカメガシワ							
<i>Zanthoxylum</i>		サンショウ属	1		3	1			
<i>Phellodendron</i>		キハダ属							
<i>Rhus</i>		ウルシ属		1		1	1		
<i>Ilex</i>		モチノキ属	1	1	1	1	1		
<i>Acer</i>		カエデ属			2	1	1	1	
<i>Aesculus turbinata</i>		トドモキ	7	7	3	2	3	5	
<i>Vitis</i>		ブドウ属	1	1	3	1	1	1	
<i>Parthenocissus tricuspidata</i>		ツタ			1				
<i>Tilia</i>		シナノキ属							
<i>Fraxinus</i>		トネリコ属	2	1				1	
Ericaceae		ツツジ科			2			1	
Arboreal・Nonarboreal pollen		樹木・草本花粉							
Moraceae-Urticaceae		クワ科-イラクサ科	25	200	14	20	15	637	
Leguminosae		マメ科	2	1				482	
Anilaceae		ウコギ科	1			1			
<i>Sambucus-Viburnum</i>		ニホトコ属-ガマズミ属		3	3	1	3	1	
Nonarboreal pollen		草本花粉							
<i>Typha-Sparganium</i>		ガマ属-ミクリ属	1	3		11	33	1	
<i>Alisma</i>		サジメモダカ属		1		2	4	1	
<i>Sagittaria</i>		オモダカ属	1	1	2	13	10		
Gramineae		イネ科	79	72	22	125	118	26	
<i>Oryzatype</i>		イネ属型		3		22	31		
Cyperaceae		カヤツリグサ科	108	80	59	313	300	10	
<i>Eriocaulon</i>		ヒコクサ属							
<i>Anclimia keisak</i>		イボクサ		1		2	1		
<i>Monochoria</i>		ミスズイ属		1		5	5	1	
<i>Polygonum sect. Persicaria</i>		タデ属サナエタデ節	1	1	1	1	1	2	
<i>Rumex</i>		ギンギン属		1				1	
Chenopodiaceae-Amaranthaceae		アカザ科-ヒユ科	1			1			
<i>Ranunculus</i>		キンポウゲ属			1		1		
Cruciferae		アブラナ科				1	2	1	
<i>Vigna</i>		ササゲ属			1			2	
<i>Impatiens</i>		ツリフネソウ属	2			1	1	1	
<i>Angiopsis brevipedunculata</i>		ノボドウ			1				
<i>Trapa</i>		ヒシ属	1						
<i>Haloragis-Myriophyllum</i>		アリノトウグサ属-フサモ属	1						
Apioidae		セリ亜科	1					2	
Solanaceae		ナス科		1	1				
<i>Actinostemma lobatum</i>		ゴキツル	2	1			3	1	
Lactucoideae		タンポポ科				1		2	
Asteroidae		キク亜科	2	1			1		
<i>Nanthium</i>		オオモミ属						1	
<i>Artemisia</i>		ヨモギ属	6	7	14	6	8	2	
Fern spore		シダ植物胞子						190	
Monolate type spore		単条溝胞子	21	7	40	2	4	5	
Trilate type spore		三条溝胞子	2	1	6			7	
Arboreal pollen		樹木花粉	456	273	348	507	455	134	
Arboreal・Nonarboreal pollen		樹木・草本花粉	28	204	18	22	18	637	
Nonarboreal pollen		草本花粉	206	174	103	505	519	46	
Total pollen		花粉総数	690	651	469	1034	992	817	
Pollen frequencies of 1cm ³		試料1cm ³ 中の花粉密度	1.0	9.7	1.4	1.5	1.4	1.1	
			×10 ⁵	×10 ⁴	×10 ⁴	×10 ⁵	×10 ⁵	×10	
Unknown pollen		未同定花粉	12	6	12	8	10	6	
Fern spore		シダ植物胞子	23	8	46	2	4	5	
Helminth eggs		寄生虫卵							
<i>Capillaria</i> sp.		カビラリア	1						
Total		計	1	0	0	0	0	0	
Helminth eggs frequencies of 1cm ³		試料1cm ³ 中の寄生虫卵密度	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
			×10						
Digestion remains		明らかに消化残渣	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
Charcoal fragments		微細炭化物			(++)				

参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種もあることからイネ属型とした。

B 結果

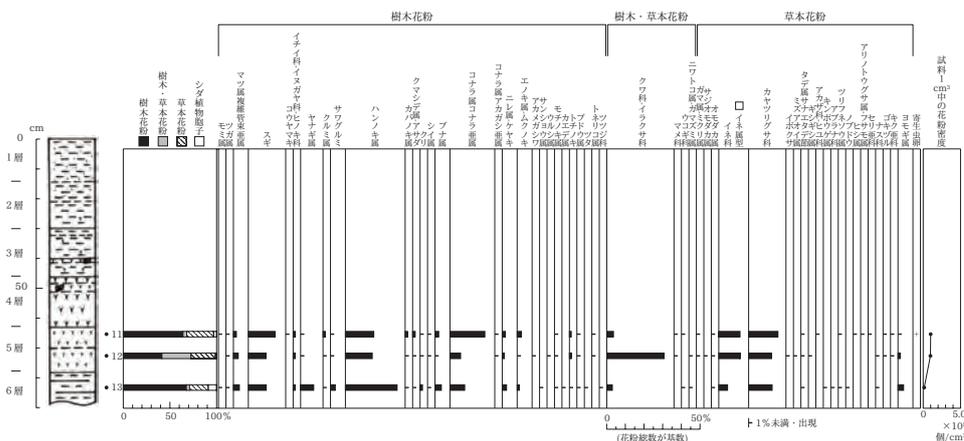
1) 分類群

出現した分類群は、樹木花粉 33、樹木花粉と草本花粉を含むもの 4、草本花粉 26、シダ植物胞子 2 形態の計 65 で、ほかに寄生虫卵 1 分類群が検出された(第 10 表)。花粉数が 100 個以上計数された試料については花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを示した(第 8・9 図)。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

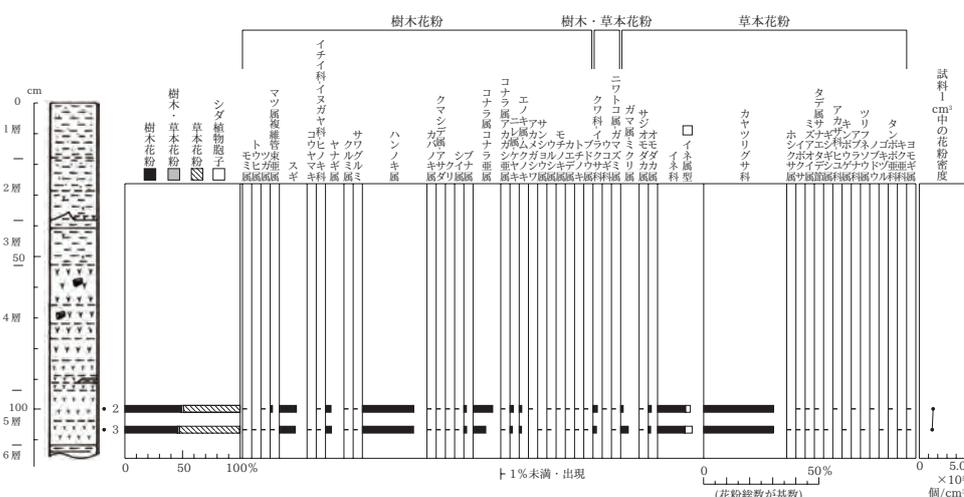
2) 花粉群集の特徴

①地点(第 8 図) 試料 13 では樹木花粉の占める割合が約 70% を占める。樹木花粉では、ハンノキ属、スギ、コナラ属コナラ亜属が優勢で、ヤナギ属、マツ属複雑管束亜属、サワグルミ、ブナ属、ニレ属一ケヤキなどが伴われる。ハンノキ属については、生態上やヤナギ属が随伴することから、湿地林や河辺林を形成するハンノキとみなされる。草本花粉では、カヤツリグサ科が優勢で、イネ科、ヨモギ属などが伴われる。試料 12 では、樹木・草本花粉を含むクワ科-イラクサ科が増加し、ヤナギ属、ハンノキ属は減少している。試料 11 では、コナラ属コナラ亜属が増加し、クワ科-イラクサ科は減少している。また、寄生虫卵のカピラリアがわずかに検出された。

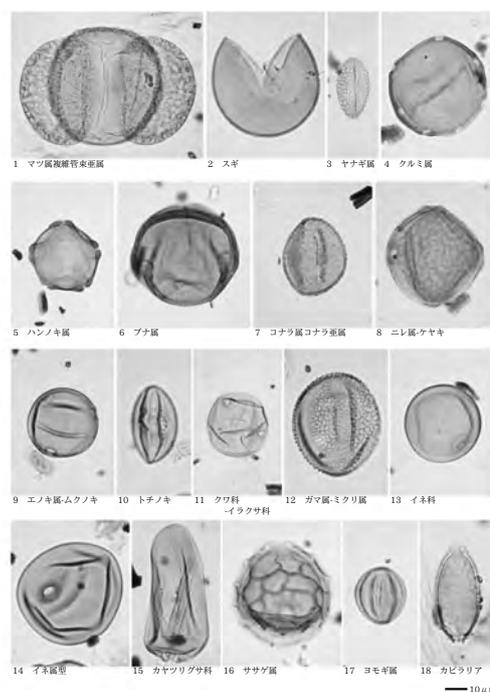
③地点(第 9 図) 試料 2 と試料 3 では、樹木花粉と草本花粉の占める割合がほぼ同じである。樹木花粉では、ハンノキ属が優勢で、スギ、コナラ属コナラ亜属、ヤナギ属などが伴われる。草本花粉では、カヤツリグサ科、イネ科(イネ属型を含む)が優勢で、



第 8 図 上大川遺跡①地点における花粉ダイアグラム



第 9 図 上大川遺跡③地点における花粉ダイアグラム



第 10 図 上大川遺跡の花 粉・寄生虫卵

ガマ属－ミクリ属、オモダカ属、ミズアオイ属などが伴われる。

C 花粉分析から推定される植生と環境

①地点（微高地部）・③地点（谷部）6層から5層にかけては、カヤツリグサ科やイネ科をはじめ、ガマ属－ミクリ属、オモダカ属、サジオモダカ属などの水生植物が生育する湿地的環境であったと考えられ、谷部の5層では水田稲作が行われていたと推定される。また、周辺の比較的乾燥したところにはクワ科－イラクサ科などが生育していたと考えられる。森林植生としては、周囲に湿地林や河辺林を形成するハンノキ属やヤナギ属が分布し、周辺にはさらにスギやナラ類（コナラ属コナラ亜属）なども分布していたようである。

①地点の5層上部では、カピラリアの寄生虫卵が認められた。カピラリアは、鳥類を宿主とする毛頭虫類で、人に感染することはまれである。

第5節 珪藻分析

珪藻は珪酸質の被殻を有する単細胞植物で、海水域や淡水域などの水域をはじめ、湿った土壌、岩石、コケの表面にまで生息している。珪藻の各分類群は、塩分濃度、酸性度、流水性などの環境要因に応じて、それぞれ特定の生息場所を持つ。その化石群集組成は、過去の堆積環境を反映しており、水域を主とする古環境復原の指標として利用されている。

A 試料と方法

分析試料は、①地点（微高地部）、③地点（谷部）、SE457とSE170の埋土から採取された7点であるが、①地点と③地点のみ掲載する（図1）。珪藻の抽出と同定は、以下の手順で行った。1) 試料から1cm³を秤量。2) 10% 過酸化水素水を加え、加温反応させながら1晩放置。3) 上澄みを捨て、細粒のコロイドと薬品を水洗（5～6回）。4) 残渣をマイクロピペットでカバーグラスに滴下して乾燥。5) マウントメディアによって封入し、プレパラート作成。6) 検鏡・計数。検鏡は、生物顕微鏡によって600～1500倍で行った。計数は珪藻被殻が100個体以上になるまで行い、少ない試料についてはプレパラート全面について精査を行った。

B 結果

1) 分類群

出現した珪藻は、貧-中塩性種(淡-汽水性種)2分類群、貧塩性種(淡水性種)116分類群である（第11表）。珪藻総数を基数とする百分率を算定したダイアグラムを第11・12図に示す。珪藻ダイアグラ

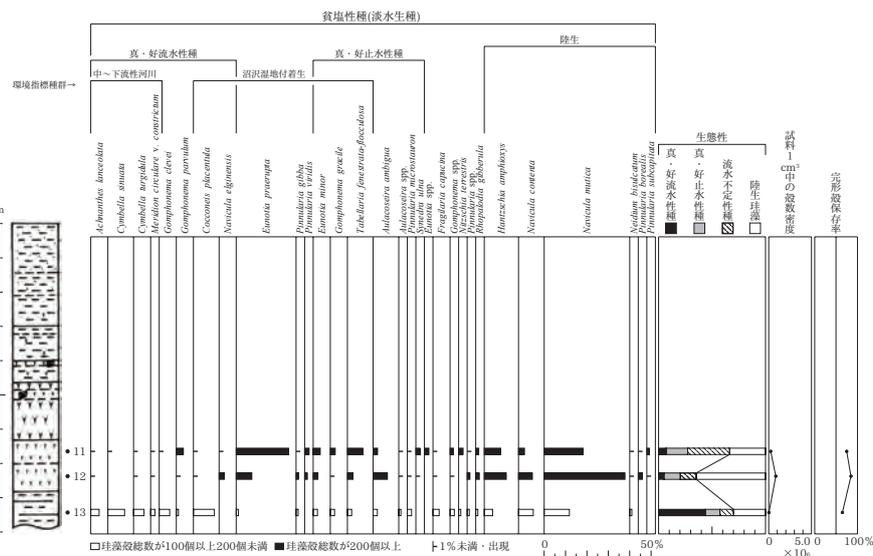
第11表 上大川遺跡における珪藻分析結果

分類群	①地点			③地点			SE457 SE170	
	11	12	13	2	3	埋土	埋土	
貧塩性種(淡水性種)								
<i>Achnanthes lanceolata</i>	2	1	4					1
<i>Amphora copulata</i>		4		30	22			2
<i>Amphora montana</i>		2						
<i>Aulacoseira ambigua</i>	9	31	2	103	76	18		1
<i>Aulacoseira canadensis</i>				9	5			2
<i>Aulacoseira granulata</i>		4			1			1
<i>Aulacoseira</i> spp.	2	4	1	6	20			5
<i>Aulacoseira valida</i>		2	1					
<i>Caloneis bacillum</i>			1					
<i>Caloneis laeta</i>					2			
<i>Caloneis silicula</i>	1				3	4		2
<i>Caloneis</i> spp.	1	2	2	1				3
<i>Cocconeis placentula</i>	1	3	10	1	1	5		5
<i>Cyclotella bedanica</i>	1							
<i>Cyclotella meneghiniana</i>				1	3			1
<i>Cyclotella</i> spp.				1				1
<i>Cymbella cuspidata</i>	1			9	5			
<i>Cymbella gracilis</i>				1				1
<i>Cymbella naviculiformis</i>	1	1		2	2	1		1
<i>Cymbella silicula</i>	1	3		2	5	7		1
<i>Cymbella sinuata</i>	1		8		1	5		10
<i>Cymbella tumida</i>		2	1			4		5
<i>Cymbella turgidula</i>	2	1	5	3	1	6		3
<i>Diatoma mesodon</i>		1						
<i>Diatomella balfouriana</i>	1	1						
<i>Diploneis elliptica</i>								1
<i>Diploneis</i> spp.								1
<i>Ephemia turgida</i>						2		
<i>Eunotia arcus</i>					4	7		2
<i>Eunotia bilunaris</i>	4							8
<i>Eunotia exigua</i>		3						1
<i>Eunotia gracialis</i>	1							
<i>Eunotia incisa</i>	1							
<i>Eunotia minor</i>	14	10	2	35	33	12		9
<i>Eunotia praerupta</i>	105	34	1	4	7	2		3
<i>Eunotia pseudoserra</i>		1						
<i>Eunotia solitrii</i>	1	1		1		1		
<i>Eunotia</i> spp.	9	1		5	2	9		
<i>Eunotia tenella</i>	1							
<i>Fragilaria arcus</i>								4
<i>Fragilaria breviatriata</i>		1						1
<i>Fragilaria cupucina</i>	3	2	3			8		
<i>Fragilaria construens</i>		1	1	11	5			
<i>Fragilaria construens</i> v. <i>venter</i>	1			6	5			1
<i>Fragilaria parasitica</i>								1
<i>Fragilaria pinnata</i>			1	2				
<i>Fragilaria pseudocostriens</i>				7	6			
<i>Fragilaria ulna</i>	1		2					
<i>Frustularia homboides</i> v. <i>saxonica</i>	2			2	3	3		
<i>Frustularia vulgaris</i>								3
<i>Gomphonema acuminatum</i>	2			1	1	4		2
<i>Gomphonema angustatum</i>	1		1					
<i>Gomphonema angustum</i>	2	1	2			3		
<i>Gomphonema bohemicum</i>						4		
<i>Gomphonema clavatum</i>	3					2		
<i>Gomphonema clevei</i>	1		5					1
<i>Gomphonema gracile</i>	10	2	2	12	4	7		5
<i>Gomphonema grovei</i>		1						
<i>Gomphonema insigne</i>								1
<i>Gomphonema minutum</i>	1	1	1		4	16		13
<i>Gomphonema parvulum</i>	14	2	1	12	12	33		27
<i>Gomphonema rhombicum</i>								
<i>Gomphonema</i> spp.	7	1	2	3	3	11		11
<i>Hantzschia amphioxys</i>	33	48	4	2	3	8		4
<i>Meridion circulare</i> v. <i>constrictum</i>	2	3	2		1	2		1
<i>Navicula americana</i>	2	1		5	9	4		1
<i>Navicula capitatoradiata</i>								1
<i>Navicula confervacea</i>	1	1		5	6	1		
<i>Navicula contenta</i>	12	30	7			22		29
<i>Navicula cuspidata</i>					1			1
<i>Navicula elegantis</i>	4	11		4	13	14		5
<i>Navicula gallica</i> v. <i>perpusilla</i>			3			2		
<i>Navicula goeppertiana</i>								1
<i>Navicula laevisissima</i>				5	15			
<i>Navicula matica</i>	78	176	12	9	3	43		43
<i>Navicula placentula</i>					6			
<i>Navicula pseudoanglica</i>	1							
<i>Navicula pupula</i>	1	1		9	16	8		
<i>Navicula rhychocephala</i>						1		
<i>Navicula</i> spp.			1	1		2		
<i>Neidium affine</i>					1	1		
<i>Neidium ampliatum</i>		3		6	13	2		
<i>Neidium bisulcatum</i>	1	4	1			2		2
<i>Neidium jubae</i>			1					
<i>Nitzschia brevissima</i>		2				2		15
<i>Nitzschia nana</i>						1		3
<i>Nitzschia</i> spp.						2		
<i>Nitzschia terrestris</i>	9		1	1		2		4
<i>Pinnularia acrospora</i>	1	1		3	3			
<i>Pinnularia appendiculata</i>	1	1				1		
<i>Pinnularia hemiptera</i>						1		
<i>Pinnularia borealis</i>	1	9				3		
<i>Pinnularia cardinaliculus</i>								3
<i>Pinnularia divergens</i>				2	1	1		
<i>Pinnularia gibba</i>	3	5	1	2	5	2		2
<i>Pinnularia hemiptera</i>	1							
<i>Pinnularia interrupta</i>				3	1	1		1
<i>Pinnularia major</i>	2							
<i>Pinnularia microstauron</i>	4	3	2	2	11	2		1
<i>Pinnularia nodosa</i>	1			1	3			1
<i>Pinnularia ruperis</i>			1					
<i>Pinnularia schroederii</i>								3
<i>Pinnularia</i> spp.	2	6	1	3	6	6		2
<i>Pinnularia subcapitata</i>	5	3				5		
<i>Pinnularia sulcica</i>				2				
<i>Pinnularia viridis</i>	9	6		21	29	2		2
<i>Rhoicosphebia abbreviata</i>			2	1		3		
<i>Rhopalodia gibba</i>					2	4		
<i>Rhopalodia gibberula</i>	6	8	1	38	44	1		2
<i>Stauroneis anceps</i>	1	1	1	4	2	3		
<i>Stauroneis phoenicenteron</i>		3		12	23			
<i>Stauroneis smithii</i>				2		2		
<i>Surirella ovata</i>					1			
<i>Surirella tenera</i>					1			
<i>Synedra ulna</i>	8	2		1	1	7		1
<i>Tabellaria fenestrata-flocculosa</i>	31	12	2	9	3	7		2
貧-中塩性種(淡-汽水性種)								
<i>Achnanthes brevipes</i>								2
<i>Nitzschia littoralis</i>								
合計	428	465	102	431	458	381		210
未同定	6	11	11	4	6	18		9
備考	130	94	67	77	58	88		69
試料1cm ³ 中の殻数密度	2.3	8.3	2.4	1.5	1.9	5.4		6.4
×10 ⁵ ×10 ⁵ ×10 ⁴ ×10 ⁶ ×10 ⁶ ×10 ⁵ ×10 ⁴								
完形保存率(%)	77.0	83.5	62.8	85.0	88.9	81.9		76.0

ムにおける珪藻の生態性についてはLowe [1974] や渡辺 [2005]、陸生珪藻については小杉 [1986]、環境指標種群の海水生種から汽水生種については小杉 [1988]、淡水生種については安藤 [1990] の記載を参照した。なお、主要な分類群については顕微鏡写真を示す。

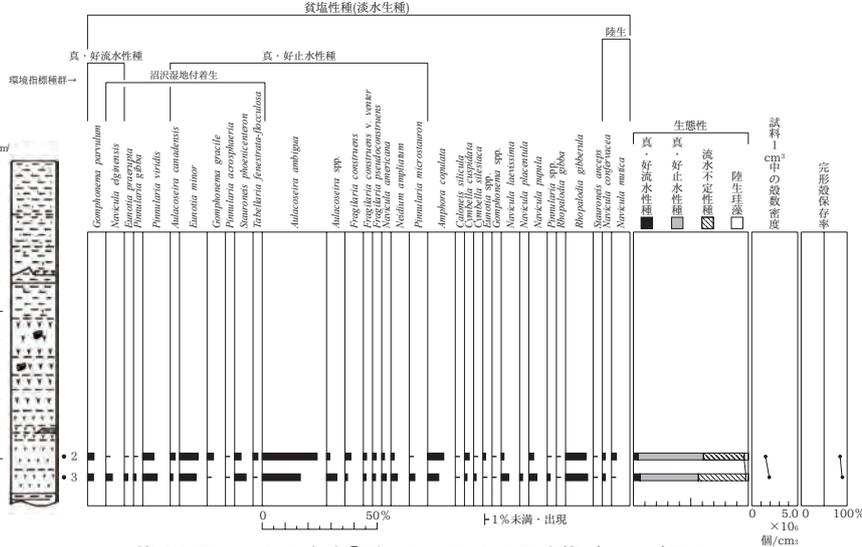
2) 珪藻群集の特徴

①地点 試料13では珪藻密度が低く、真・好流水性種の占める割合が約45%、陸生珪藻が30%を占める。真・好流水性種では中～下流性河川環境指標種群の *Achnanthes lanceolata*、*Cymbella sinuata*、*Cymbella turgidula*、*Meridion circulare v. constrictum*、沼沢湿地付着生環境指標種群の *Cocconeis placentula* が



第11図 上大川遺跡①地点における主要珪藻ダイアグラム

出現する。陸生珪藻では *Naviculamutica*、*Naviculacontenta*、*Hantzschia amphioxys* が出現する。真・好止水性種では沼沢湿地付着生環境指標種群の *Eunotiaminor*、*Gomphonemagracile*、*Tabellaria fenestrata-flocculosa*、好止水性種の *Aulacoseira ambigua*、*Pinnulariamicrostauron* などが低率に出現する。流水不定性種では *Fragilariacapucina*、*Gomphonemaspp.* などがわずかに出現する。試料12では、珪藻密度が高くなり、陸生珪藻の占める割合が約65%に増加し、真・好流水性種は減少している。陸生珪藻では *Naviculamutica* が優占種となり、*Hantzschia amphioxys*、*Naviculacontenta* も増加する。試料11では、流水不定性種の占める割合が約40%に増加し、流水不定性種で沼沢湿地付着生環境指標種群の *Eunotiapraerupta* が優占する。陸生珪藻では *Naviculamutica* が半減している。



第12図 上大川遺跡③地点における主要珪藻ダイアグラム

③地点 試料2と試料3では、真・好止水性種が約50～55%、流水不定性種が約40%を占める。真・好止水性種では *Aulacoseira ambigua* を主に、沼沢湿地付着生環境指標種群の *Eunotiaminor*、*Stauroneisphoenicenteron*、好止水性種の *Aulacoseiraspp.*、*Fragilariaconstruens*、*Neidiumampliatum*、*Pinnulariamicrostauron* などが出現する。流水不定性種では *Rhopalodiagibberula*、*Amphoracopulata*、沼沢湿地付着生環境指標種群の *Pinnulariaviridis* などが出現する。真・好流水性種では *Gomphonemaparvulum*、沼沢湿地付着生環境指標種群の *Naviculaelginensis* が低率に出現する。陸生珪藻では *Naviculaconfervacea*、*Naviculamutica* がわずかに出現する。

C 珪藻分析から推定される堆積環境

①地点（微高地部）6層の堆積当時は、河川の影響を受ける流水域や止水域、および湿潤な陸域なども見られる多様な環境が示唆される。5層の堆積当時は、水草の生育する沼沢湿地や不安定な滞水域、湿潤な陸域など多様な環境が共存もしくは繰り返されていたと考えられる。

③地点（谷部）5層の堆積当時は、水草の生育する沼沢湿地や不安定な滞水域の環境が示唆され、河川の流水の影響は少なく、淀むような状況であったと推定される。流水不定性種の *Amphoracopulata* など水田に多い珪藻も認められることから、水田域もしくはその周辺の環境が反映されていると考えられる。

第6節 種実同定

植物の種子や果実は比較的強靱なものが多く、堆積物や遺構内に残存している場合がある。堆積物などから種実を検出し、その種類や構成を調べることで、過去の植生や栽培植物を明らかにすることができる。

A 試料と分析方法

試料は、SE170・SE255・SE457・SE491 から採取された選別済みの種実類である。それらについて、肉眼および双眼実体顕微鏡で観察し、形態的特徴および現生標本との対比によって同定を行った。結果は同定レベルによって科、属、種の階級で示した。

B 結果

1) 分類群

樹木 9、樹木・草本 1、草本 9 の計 19 分類群が同定された。学名、和名および粒数を表 12 に示し、主要な分類群を第 15 図に示す。

2) 種実群集の特徴

SE170 樹木ではアカメガシワ 15、エゴノキ科 10、カジノキ 4、ブドウ属 3、マタタビ 4、ニワトコ 1、草本ではホタルイ属 1、カナムグラ 10、イネ科 1、タデ属 1 が同定された。

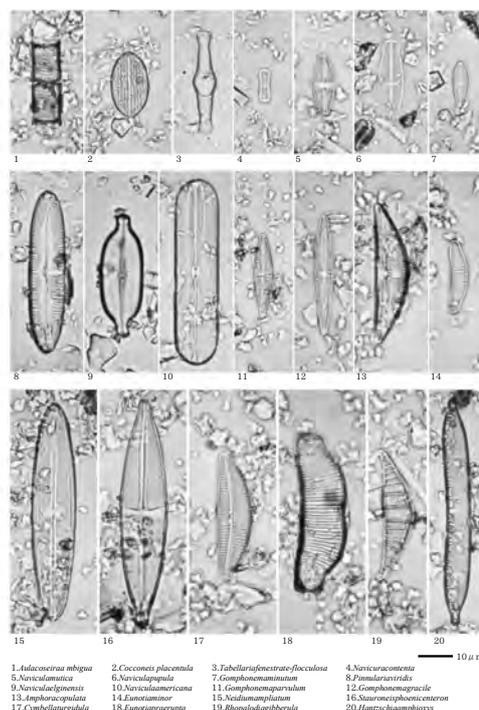
SE255 樹木ではサルナシ 50、エゴノキ科 26、ニワトコ 3、アカメガシワ 2、草本ではホタルイ属 16、アサ 5、カナムグラ 4、タデ属 3、ヒユ属 1 が同定された。

SE457 樹木ではエゴノキ科 36、アカメガシワ 32、ブドウ科 8、ブドウ属 7、草本はカナムグラ 89、イネ 4、タデ属 1、ノブドウ 1 が同定された。

SE491 樹木ではブドウ科 24、エゴノキ科 13、サルナシ 8、アカメガシワ 2、エゴノキ 2、ハクウンボク 1、草本ではカナムグラ 7、シソ科 3、ホタルイ属 1 が同定された。

C 考察

種実同定を行った結果、栽培植物としては SE457 でイネ（炭化米）、SE255 でアサが同定された。また、食



第 13 図 上大川遺跡の珪藻

第12表 上大川遺跡における種実同定結果

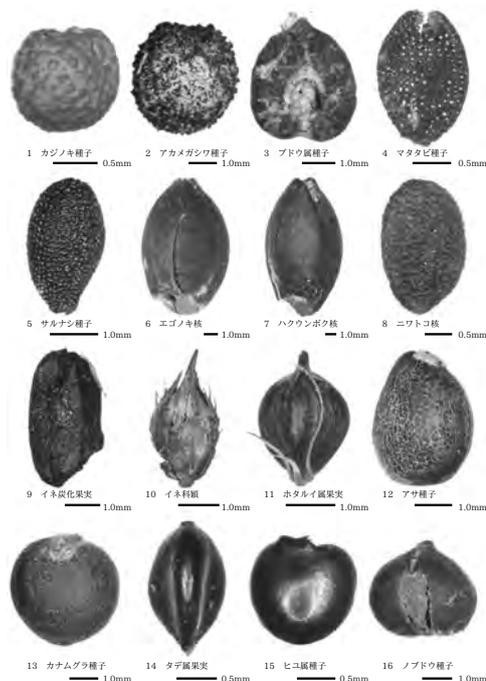
学名	分類群	和名	部位	SE170				SE255	SE457	SE491	
				1層	2層	3・4層	5・6層				
<i>Broussonetia papyrifera</i> Vent.	Arbor	カジノキ	種子			3	1				
<i>Mallotus japonicus</i> sMuell. et Arg.		アカメガシワ	種子	2		3	4	6	2	5	
			(破片)							27	
<i>Vitis</i>		ブドウ属	種子 (破片)		1		1	1		5	
			(破片)							2	
<i>Actinidia polygama</i> Planch. ex Maxim.		マタタビ	種子			2		2			
<i>Actinidia arguta</i> Planch. ex Miq.		サルナシ	種子						37	1	
			(破片)						13	7	
<i>Styrax japonica</i> S. et Z.		エゴノキ	核							2	
<i>Styrax obassia</i> S. et Z.		ハクウンボク	核							1	
Styracaceae		エゴノキ科	核 (破片)			1	6	3	26	36	
<i>Sambucus sieboldiana</i> Blume ex graedn		ニワトコ	核						3		
			(破片)							1	
Arbor・Herb		樹木・草本									
Vitaceae		ブドウ科	種子 (破片)						8	24	
Herb		草本									
<i>Oryza sativa</i> L.		イネ	炭化果実 (破片)						2	2	
Gramineae		イネ科	穎				1				
<i>Scirpus</i>		ホタルイ属	果実			1			16	1	
<i>Cannabis sativa</i> L.		アサ	種子						1		
			(破片)						4		
<i>Humulus scandens</i> Merr.		カナムグラ	種子	1					1	40	
			(破片)	1					3	49	
<i>Polygonum</i>		タデ属	果実					1	3	1	
<i>Amaranthus</i>		ヒユ属	種子						1		
<i>Ampelopsis brevipedunculata</i> var. <i>Heterophylla</i> Hara		ノブドウ	種子							1	
Labiatae		シソ科	果実							3	
Total		合計		4	1	7	17	21	110	178	61

用となる樹木種実では、SE170とSE457でブドウ属、SE170とSE457でマタタビ、SE255でサルナシが同定された。

その他の分類群では、カジノキ、アカメガシワ、エゴノキ、ハクウンボク、エゴノキ科、ニワトコの樹木、イネ科、ホタルイ属、カナムグラ、タデ属、ヒユ属、ノブドウ、シソ科の草本が同定された。アカメガシワやエゴノキ科などは破片が多い。ホタルイ属はSE255で、カナムグラはSE457で多い。

マタタビ、サルナシは落葉性藤本で樹木や岩などに絡み、低山地の林内に生育する。カジノキ、アカメガシワ、ブドウ属、エゴノキ、ハクウンボク、エゴノキ科、ニワトコは落葉広葉樹であり、エゴノキ、ハクウンボクは山の谷間や山地にどこにでも生育する。カジノキ、アカメガシワは落葉広葉樹であり、二次林種でもある。ニワトコは低地と山地のやぶや林縁に生育する。アサは南アジアや中央アジア原産とされる1年草の畑作物であり、茎皮の繊維は麻糸になり、種子は油を採ったり食用になる。ホタルイ属は水辺などの低地に生育し、イネ科、カナムグラ、タデ属、ヒユ属、シソ科は耕地雑草で適潤地を好み人里近くに生育する。

以上のように、林縁の二次林種のアカメガシワ、谷や流路沿いに多いエゴノキ科(エゴノキ、ハクウンボクを含む)が多いことから、周辺に森林から林縁の環境が存在し、谷や流路が分布していたと推定される。なお、各種実とも破片が多いことから、何らかの形で利用されていたことが示唆されるが、アカメガシワやエゴノキ科などの有用でないものについては、鳥などの摂食による可能性も考えられる。



第14図 上大川遺跡の種実

第Ⅶ章 総 括

第 1 節 上大川遺跡出土の土器について

上大川遺跡からは古墳時代前期全般にわたって土師器が一定量出土している。一括資料に乏しい難点はあるが、包含層出土遺物を加えた土器の様相について整理し、本遺跡における特徴を抽出してみたい。なお、各土器の時期については春日真実氏から御教示いただいたが、文中の誤記等がある場合にはその責めは筆者にある。また、ここで使用した編年は、「漆町編年」[田嶋 1986]・坂井・川村氏による編年 [坂井・川村 1993]・川村氏の編年 [川村 2000、以下、「川村編年」という]・「シンポジウム新潟県における高地性集落の解体と古墳の出現」における編年 [新潟県考古学会 2005、以下「新潟シンポ」という] であり、その対応関係は第 13 表のとおりである。

甕は最も多く出土している器種である。有段口縁をもつ甕は出土しておらず、「く」・「コ」字状口縁をもつ甕のみ出土している。その口縁端部は 4 種の形態に分けられる (第Ⅴ章第 2 節) が、丸く収まるもの (甕 A3 類) が 1/2 以上、面をもつもの (甕 A2 類) が 1/4 以上を占める。やや古い形態の端部をつまみ上げるもの (甕 A1 類) は 1 割弱であり、その特徴が明瞭なもの (図版 30 - 39・68) は少なく、単純な面をもつものとの区別がしづらいものが多い。また、調整が粗く端部が小波状を呈するもの (甕 A4 類) が 2 点 (図版 32 - 77・78) 出土しており、旧中条町反貫目遺跡 [細井 2004] などに類例がみられるが、その特徴が系統的なものなのかは不明である。甕の体部は球胴のもの (図版 28 - 5・11 など) が目立つが、体部の最大径が上半にあり全体形が若干長いものも少なくない。口縁部形態との関係でみると、前者は甕 A3 類に、後者は甕 A1・A2 類に多い傾向がある。

壺・小型壺は甕に比べると個体数は少ない。今回、壺は口頸部の形状から二重口縁壺と広口壺・直口壺などを含む「く」字状口縁壺に分けたが、二重口縁壺は半数以上を占める。円形浮文や刻み目などの加飾を加えるものはみられない。小型壺では、段をもつもの (図版 34 - 112) が古相を示し、段をもたない図版 34 - 115・116 がこれに続くが、115 は 116 に比べ調整がやや粗く赤彩されていない点でやや新しいと思われる。さらに新しい形態的特徴をもつ図版 34 - 111 は、漆町編年 12 群・川村編年 8 段階並行と捉えられる。調整もミガキはされているものやや丁寧さに欠け、胎土も若干粗い。

高杯は新潟シンポ 8 期以降に認められる畿内系柱状屈折脚がほとんどである。それらには、細いもの (高杯脚 A1 類) と太いもの (高杯脚 A2 類) があり、前者→後者という新旧関係がみられるが、その割合は半々か後者がやや多いようである。高杯脚 A2 類とされる図版 30 - 56 や図版 34 - 123・131 などは、漆町編年 12 群並行と捉えられるもので、内面はあまり調整されず輪積み痕がはっきりと残る。高杯 B 類とした図版 30 - 51 は、ぴったりと一致する類例を知らないが、滝沢氏の論考 [滝沢 2005] の中で Z 類とした報告番号 38 に類似しているように思われ、今回は高杯とした。ただ、加茂市丸瀉遺跡 [伊藤・平岡 2000] などに類例がみられる中実柱状脚の小型器台の可能性もある。

器台は受部が外反して伸びるものと直線的に伸びるものがあるが、出土量が少なく、様相は不明瞭である。図版 30 - 53・図版 35 - 132 は丁寧なミガキと赤彩が施される。装飾器台は出土していない。以上、出土土器について器種ごとに時期的特徴を整理したが、次にそれらの位置付けについて考える。

第 13 表 土器編年対照表

時代	新潟シンポ (1993)	坂井・川村 (1993)	川村編年 (川村 2000)	漆町編年 (田嶋 1986)
弥生時代	1 期			
	2 期			
	3 期			漆町 3 群
	4 期	I 期最新		漆町 4 群
	5 期	II - 1 期	1 段階	漆町 5 群
	6 期	II - 2 期	2 段階	漆町 6 群
古墳時代前期	7 期	II - 3 期	3 段階	漆町 7 群
	8 期	III 期	4 段階	漆町 8 群
	9 期	IV 期	5 段階	漆町 9 群
	10 期		6 段階	漆町 10 群
			7 段階	漆町 11 群
古墳時代中期			8 段階	漆町 12 群
			9 段階	
			10 段階	漆町 13 群
			11 段階	

甕においては、「く」・「コ」字状口縁で端部が丸く収まり体部が球胴に近いものの割合が多いことが確認できた。また、東海系高杯を欠き、畿内系柱状屈折脚が一定量みられる一方で、器台が極めて少ないことも捉えられた。したがって、本遺跡の主体は新潟シンポ9・10期であると考えられるが、上限については口縁端部につまみ上げた明確な面がみられる甕の存在から新潟シンポ7期、下限については太い畿内系柱状屈折脚が一定量存在するものの食膳具の杯がみられないことから漆町編年の13群までは下らない時期(12群)が想定されよう。時期幅が広いことが窺われる。

第2節 上大川遺跡の性格について

上大川遺跡では掘立柱建物や井戸、土坑、溝が検出されており、周囲よりわずかに高いエリアにそれが集中している。この中で注目されるのは、未確定なものを含む6基検出された井戸である。県内では当該期の検出事例が少ないことから、遺跡の性格と関連して注目される。これらの井戸は、上端の径は1m以上あるものの深さは0.5～0.7mのものが多く、全体に小ぶりの感をもつ。断面形は、1基(SE170)が椀状をしているが、5基は上半が鉢状・下半が下に向かって若干狭まる筒状で上半と下半の間に段をもつ。いずれも井戸側は検出されておらず、水溜の施設(装置)もその可能性をみるものが1基(SE81)のみである。県内での検出状況は第14表のとおりであるが、これにそれ以降の調査である糸魚川市笛吹田遺跡(山岸2008)や長岡市五千石遺跡[長岡市教育委員会科学博物館^{ほか}2008]、本遺跡の事例が加わる。素掘りのものが多く、断面形は円筒状(上越市東広井遺跡[吉川2003])・漏斗状(上越市下割遺跡[山崎忠良^{ほか}2004])・大きく開いた鉢状(新潟市東田遺跡[朝岡2003])など多様である。井戸側を設置している遺跡もあり、笛吹田遺跡や上越市高山遺跡[大居2002]・子安遺跡[笹澤・滝沢2002]では丸太割り抜き材を井戸側に使用している。全国的にも古墳時代の井戸は素掘りが主体で、井戸側をもつものについては有力氏族が存在する集落や豪族居館に多くみられる[小笠原1990]ことから、この3遺跡は有力者の存在も想定できる。

井戸が検出されている遺跡は頸城地区に集中しており、その他の地域では阿賀野川周辺(左岸-東田遺跡・笥下遺跡[山崎天^{ほか}2004]、右岸-上大川遺跡)でいくつか確認される。井戸をもつ遺跡の分布状況は、誤認などによって検出が報告されていない遺跡があったとしても、地域的な偏りがあると思われる。これらの遺跡には、玉作遺跡(笛吹田遺跡・五千石遺跡)、勾玉・管玉の未成品が出土している遺跡(勾玉-下割遺跡・管玉-上大川遺跡)、方形周溝墓をもつ遺跡(上越市子安遺跡)、井戸祭祀が窺える遺跡(高山遺跡)が含まれ興味深い。井戸は、有力者が存在する集落や一般集落とは異なる特殊な機能をもつ集落で設置されたのではないだろうか。

上大川遺跡では、竪穴住居は検出されていないが、幅の広い溝(SD447)の南側にそれにほぼ並行する掘立柱

第14表 井戸検出遺跡一覧(新潟県考古学会2005を一部改変)

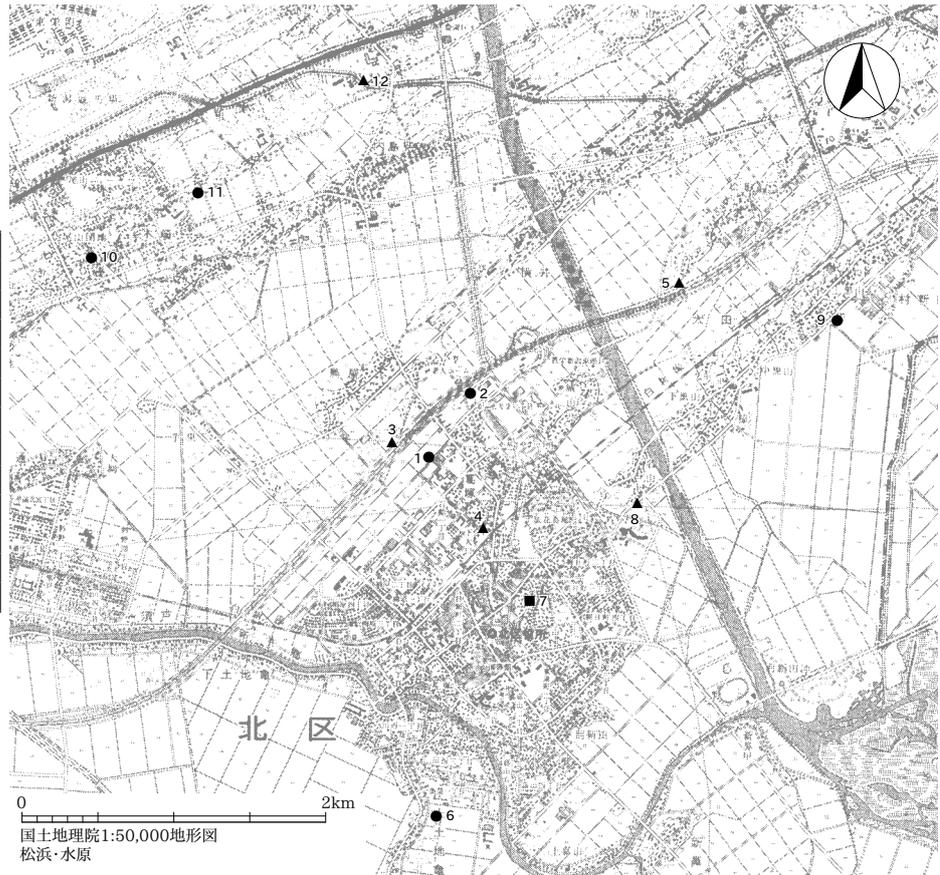
エリア	遺跡名	立地	時期	その他遺構	土器										玉作	鉄器	備考		
					続縄	東北	関東	信濃	北陸	東海	近江	畿内	丹後	山陰				その他	
佐渡	千種遺跡	沖積地		ビ(柱根)・矢板列						○								鉄鎌	骨角器出土
頸城	江島神社遺跡	沖積微高地	2～9	ビ					◎								×		
	東広井遺跡	沖積地	5～9	柱穴群3・土坑					◎	▲		▲					×		
	高山遺跡	沖積微高地	6～8	土坑					◎	▲							×		井戸祭祀
	津倉田遺跡	自然堤防	5～10	平7・土坑			▲	▲	◎	▲		▲		▲			×		
	下割遺跡	沖積微高地	2～8?	掘2・溝16・土坑41					◎	▲		▲					×		管玉・勾玉未成品出土
	子安遺跡	沖積微高地	2～10	竪・方周・土坑				▲	◎								×		
阿賀野川周辺	東田遺跡	沖積平野	8～10	竪3・堀2・土坑20・性格不明46					◎	●		○							
	笥下遺跡	自然堤防	6～9	平周1?・土坑7・溝2					◎	△		△							
	上大川遺跡	自然堤防	7～漆12	掘・ビ					◎							×		勾玉・管玉未成品・白玉出土	

遺構凡例 竪：竪穴建物 掘：掘立柱建物 平：平地式建物 平周：平地式建物(周溝有) 方周：方形周溝墓 ビ：ピット
土器凡例 ◎：主体を占める ○：相当量存在する ●：定量存在する △：少量存在する ▲：可能性があるものが存在する
玉作凡例 ×：確認できない

- ▲：新1～6期
- ：新7期～
- ：弥生時代～古墳時代

遺跡名	時期
1 上大川遺跡	新7期～漆12群
2 正尺A遺跡	新7期
3 正尺C遺跡	新6期
4 下大口遺跡	新5・6期
5 松影A遺跡	新1～3期
6 上土地亀A遺跡	新10期
7 葛塚遺跡	新5～中期
8 椋C遺跡	新1～5期
9 上黒山遺跡	新7～9期
10 尾山A遺跡	新7～8期
11 たやしき遺跡	新7～10期
12 引越遺跡	新1～3期

新：新潟シンボ編年 漆：漆町編年



第15図 周辺遺跡の消長（弥生時代後期～古墳時代）

建物が何棟か存在しており、両者は同時期のものと捉えられる。掘立柱建物が居住用かどうか不明であるが、これらが溝を伴うことや井戸が複数検出されていることを考えると、集落として長期に営まれていたと考えられる。遺物では、在地の土器が主体を占めるが、勾玉・管玉（未成品）・白玉などの玉類が5点出土しているのが注意される。玉類の複数の出土は、やはりその背景に有力者の存在が考えられよう。その中の未成品にはその意味について頭を悩ますところであるが、それぞれの石材が蛇紋岩？・緑色凝灰岩・滑石といった多種の石材がみられることから、いずれも搬入品であり他地域との交流が窺える。このようなことから、本遺跡は他地域との交流を行う有力者を中心とした集落であると考えられるが、最後に周辺遺跡との関係を述べてみたい。

このあたりは、弥生時代～古墳時代の遺跡が多く存在し（第15図）、当時の中心的な地域として捉えられるが、弥生時代から古墳時代への移り変わりとともに、人々の生活の場が砂丘から沖積低地へ広がっていく様子がみられる。低地に進出した人々は、葛塚遺跡周辺からさらに活動の範囲を北へ拡大するが、直後の新潟シンボ5・6期にあたる下大口遺跡〔今井2008〕や正尺A・C遺跡〔尾崎2001・加藤2006〕は短命で、本遺跡がその後を継ぐことになる。一方、葛塚遺跡は古墳時代中期前半まで存続し、その繁栄をみせてきた。発掘調査では明確な遺構は検出されなかったものの、多量の土器・「朱塗り線刻人物画土器」・玉類などが出土しており〔関1999〕、やはり有力者の存在が想定される。上大川遺跡と葛塚遺跡は、地域の中心的な遺跡と捉えられるが、それぞれがもっていた役割（機能）は異なるものかもしれない。両者の関係は今後の課題である。

引用・参考文献

- ア 相田泰臣 2005 「信濃川左岸地域の様相」『シンポジウム 新潟県における高地性集落の解体と古墳の出現』新潟県考古学会
- 朝岡政康 2003 『東園遺跡 卸売市場建設に伴う市道東8-273 建設事業用地内発掘調査報告書』新潟市教育委員会
- イ 伊藤秀和・平岡和夫 2000 『丸瀧遺跡・新通遺跡-国道403号線道路改良工事に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書-』加茂市教育委員会・山武考古学研究所
- 今井さやかほか 2007 『日水遺跡 第3次調査-鍋田土地区画整理事業に伴う日水遺跡発掘調査報告-』新潟市教育委員会
- 今井さやかほか 2008 『下大口遺跡 第2次調査-宅地造成に伴う下大口遺跡第2次発掘調査報告書-』新潟市教育委員会
- ウ 宇野隆夫 1992 「食器計量の意義と方法」『国立歴史民俗博物館研究報告』第40集 国立歴史民俗博物館
- エ 遠藤恭雄 2004 『下前川原遺跡 新潟県豊栄市下前川原発掘調査報告』豊栄市教育委員会
- オ 大居敬子 2002 『高山遺跡 上江保倉地区ほ場整備事業地内遺跡発掘調査報告書』上越市教育委員会
- 小笠原信彦 1990 「2住居と倉と井戸」『古墳時代の研究 2集落と豪族居館』雄山閣
- 尾崎高宏ほか 2001 『日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書Ⅱ 正尺A遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- カ 春日真実 1994 『北陸自動車道上越市春日・木田地区発掘調査報告書Ⅳ 一ノ口遺跡東地区』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実 1999 「第4章古代 第2節土器編年と地域性」『新潟県の考古学』高志書院
- 加藤 学ほか 2001 『日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書Ⅰ 松影A遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 川村浩司 2002 『弥生時代後期～古墳時代前期における北陸北東部系土器の地域色の研究-形態・調整の検討と土器胎土中砂礫の検討を中心に-』文部科学省助成科学研究費 萌芽的研究
- ク 熊崎 保ほか 2005 『日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書Ⅳ 沢田遺跡 一杯田遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- サ 坂井秀弥ほか 1989 『新新バイパス関係発掘調査報告書 山三賀Ⅱ遺跡』新潟県教育委員会・建設省北陸地方建設局新潟県国道工事事務所
- 坂井秀弥・川村浩司 1993 「古墳出現前後における越後の土器様相-越後・会津・能登-」『磐越地方における古墳文化形成過程の研究』
- サ 笹澤正史・滝沢規朗 2002 「2子安遺跡」『上越市史』資料編2 考古 上越市
- シ 潮田憲幸 2008 『諏訪畑遺跡 第3次調査』新潟市教育委員会
- ス 鈴木俊成ほか 1994 『上越市春日・木田地区発掘調査報告書Ⅳ 一ノ口遺跡東地区(本文編)』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- セ 関 雅之 1993 『上土地亀遺跡』豊栄市教育委員会
- 関 雅之 1999 『葛塚遺跡』豊栄市教育委員会
- 関 雅之ほか 1988 『豊栄市史』資料編Ⅰ考古編 豊栄市
- 関 雅之ほか 1989 『新五兵衛山遺跡Ⅰ』豊栄市教育委員会
- 関 雅之ほか 1996 『新五兵衛山遺跡Ⅱ』豊栄市教育委員会
- 関 雅之ほか 2005 『甲山遺跡 豊栄インター南土地区画整理事業に伴う発掘調査報告』豊栄市教育委員会
- タ 滝沢規朗 2005a 「土器の分類と変遷-いわゆる北陸系を中心に」『シンポジウム 新潟県における高地性集落の解体と古墳の出現』新潟県考古学会
- 1992 「底部径の変遷とその製作技法について-柏崎平野を中心に-」『新潟考古学談話会会報 第10号(1992)』
- 田嶋明人 1986 「漆町遺跡出土土器の編年的考察」『漆町遺跡Ⅰ』石川県埋蔵文化財センター
- 田中久男ほか 1996 「新潟砂丘の形成史」『第四紀研究』第35巻3号 日本第四紀学会
- ツ 立木宏明ほか 2004 『山王浦遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 立木宏明ほか 2005 『沖ノ羽遺跡発掘調査報告書Ⅲ』新津市教育委員会
- テ 寺村光晴ほか 1980 『烏屋遺跡Ⅰ 新潟県豊栄市・縄文晩期土坑群の発掘調査報告』豊栄市教育委員会
- 寺崎裕助ほか 2004 『日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書Ⅵ 反貫目遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団

- ト 土橋由理子ほか 2006 『日本海東北自動車道関係発掘調査報告書XⅧ 馬見坂遺跡 正尺A 遺跡 正尺C 遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
豊栄市 1998 『豊栄市史 通史編』豊栄市史調査会
シンポジウム新潟における高地性集落の解体と古墳の出現実行委員会 2005 『シンポジウム新潟における高地性集落の解体と古墳の出現実行委員会』新潟県考古学会
- ナ 長岡市教育委員会科学博物館ほか 2008 『五千石遺跡現地説明会』五千石遺跡現地説明会資料
- ニ 新潟市史編さん原始古代中世史部会 1994 『新潟市史』資料編1 原始古代中世 新潟市
新潟市 2007 『新潟市の遺跡』新 新潟市歴史双書2 新潟市
新潟市 2008 「速報!新潟市 上大川遺跡-古墳時代前期の集落-」『平成20年度 出土品展『出土品が語る新潟の歴史』新潟県教育委員会・新潟市豊栄博物館・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団・新潟市埋蔵文化財センター
- ノ 野田豊文・野水晃子 2005 「阿賀北地域の様相」『シンポジウム 新潟県における高地性集落の解体と古墳の出現』新潟県考古学会
野水晃子ほか 2006 『日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書第147集 西川内北遺跡 西川内南遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- ハ 長谷川伸ほか 1998 『豊栄市史 通史編』豊栄市
- ホ 細井佳宏ほか 2004 『新潟県埋蔵文化財報告書第135集 反貫目遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- マ 松井 智 2001 「豊栄市正尺の立地-正尺集落と正尺遺跡から-」『研究紀要』3 (財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- ヤ 山岸洋一 2008 「糸魚川市笛吹田遺跡-玉作りを行っていた平野部の大規模集落-」『発掘が語る新潟の歴史2007パンフレット-速報・新潟の歴史と佐渡金銀山-』新潟県立歴史博物館
山崎 天ほか 2004 『笈下遺跡』五泉市教育委員会・山武考古学研究所
山崎忠良ほか 2004 『下割遺跡II 一般国道253号上越三和道路関係発掘調査報告書II』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- ヨ 吉岡俊久 2003 『東広井遺跡発掘調査報告書』三和村教育委員会
- ワ 渡邊ますみほか 1994 『緒立C遺跡発掘調査報告書』黒崎町教育委員会

Ⅵ章 引用・参考文献

- ア 新井房夫 1962 『関東盆地北西部地域の第四紀編年』群馬大学紀要自然科学編10 p.1-79
安藤一男 1990 「淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復原への応用」『東北地理』42 p.73-88
- イ 伊藤良永・堀内誠示 1991 「陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用」『珪藻学会誌』6 p.23-45
- オ 大池昭二 1972 「十和田火山東麓における完新世テフラの編年」『第四紀研究』11 p.232-233
- カ 金原正明 1993 「花粉分析法による古環境復原」『新版古代の日本第10巻 古代資料研究の方法』角川書店 p.248-262
笠原安夫 1985 『日本雑草図説』養賢堂 494p
笠原安夫 1988 「作物および田畑雑草種類」『弥生文化の研究第2巻 生業』雄山閣出版 p.131-139
- コ 小杉正人 1986 「陸生珪藻による古環境解析とその意義-わが国への導入とその展望-」『植生史研究』no.1 植生史研究会 p.29-44
小杉正人 1988 「珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用」『第四紀研究』27 p.1-20
- シ 島倉巳三郎 1973 「日本植物の花粉形態」『大阪市立自然科学博物館収蔵目録第5集』60p
- ス 杉山真二 2000 「植物珪酸体(プラント・オパール)」『考古学と植物学』同成社 p.189-213
鈴木毅彦・早田 勉 1994 「奥会津沼沢火山から約5万年前に噴出した沼沢-金山テフラ」『第四紀研究』33 p.233-242
- タ 只見川第四紀研究グループ 1966a 「福島県沼沢盆地の浮石質砂層の基底部より産出した木材の¹⁴C年代-日本の第四紀層の¹⁴C年代X XVI」『地球科学』82 p.8-9
只見川第四紀研究グループ 1966b 「只見川・阿賀野川流域の第四紀の編年-とくに沼沢浮石層の層位的諸問題について」『第四紀』8 p.76-79
- フ 藤原宏志 1976 「プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)-数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法-」『考古学と自然科学』9 p.15-29
藤原宏志・杉山真二 1984 「プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)-プラント・オパール分析による水田址の

- 探査-」『考古学と自然科学』17 p.73-85
- ナ 中村 純 1973 『花粉分析』古今書院 p.82-110
- 中村 純 1974 「イネ科花粉について、とくにイネ (*Oryza sativa*) を中心として」『第四紀研究』13 p.187-193
- 中村 純 1977 「稲作とイネ花粉」『考古学と自然科学』第10号 p.21-30
- 中村 純 1980 「日本産花粉の標徴」『大阪自然史博物館収蔵目録第13集』91p
- マ 町田 洋・新井房夫 2003 『新編火山灰アトラス』東京大学出版会 336p
- 町田 洋・新井房夫・森脇 広 1981 「日本海を渡ってきたテフラ」『科学』51 p.562-569
- ミ 南木睦彦 1991 「栽培植物」『古墳時代の研究第4巻生産と流通I』雄山閣出版株式会社 p.165 - 174
- 南木睦彦 1992 「低湿地遺跡の種実」『月刊考古学ジャーナル』No.355 ニューサイエンス社 p.18 - 22
- 南木睦彦 1993 『葉・果実・種子. 日本第四紀学会編, 第四紀試料分析法』東京大学出版会 p.276 - 283
- ヨ 吉崎昌一 1992 「古代雑穀の検出」『月刊考古学ジャーナル』No.355 ニューサイエンス社 p.2-14
- ロ Lowe,R.L. 1974 Environmental Requirements and pollution tolerance of fresh - water diatoms. National Environmental Reserch Center 333p
- ワ 渡辺仁治 2005 「群集解析に基づく汚濁指数 DAIPo, pH 耐性能」『淡水珪藻生態図鑑』内田老鶴圃 666p
- 渡辺 誠 1975 『縄文時代の植物食』雄山閣 187p

別表1 上大川遺跡 主要遺構計測表

図版 NO.	遺構	グリッド	時代	確認面	主軸方位	規模 (m)					底面座標 (m)	形態		遺物の有無	遺物図版頁	備考
						上端		下端		深度		平面	断面			
						長軸	短軸	長軸	短軸							
4・8・14	SB601	8G23 ~ 25,9G3 ~ 5・8 ~ 10・13 ~ 15	古墳	V	N-2° -W	6.08	4.35	-	-	-	-	2間×1間	-	-	P44・P93・P57・P86・P97・P99	
4・10・15	SB602	7G23 ~ 25,8G3 ~ 5・8 ~ 10・13 ~ 15・18・19	古墳	V	N-7° -W	7.12	3.90	-	-	-	-	2間×1間	-	-	P141・P176・P258・P324・P356・P383	
4・10・16	SB603	7G6 ~ 8,11 ~ 13,16,17	古墳	V	N-86° -E	3.75	2.90	-	-	-	-	1間×1間	-	-	SK261-b・P290・P294・P327	
4・9・10・16	SB604	7H21・22,8H1・2・6・7,8G5	古墳	V	N-27° -E	4.42	2.60	-	-	-	-	1間×1間	-	-	P174・P237・P430・P437	
4・9・10・17	SB605	7G5・10・15,7H1 ~ 3,6 ~ 8,11 ~ 13	古墳	V	N-85° -E	5.40	3.45	-	-	-	-	2間×1間	-	-	P378・P411・P443・P445・P465・P478	
4・9・12・17	SB606	6H20・25,6I16・17・21・22	古墳	V	N-1° -W	2.55	2.45	-	-	-	-	1間×1間	-	-	SK515・P452・P535・P538	
4・8・18	SE8	9G13・14・18・19	古墳	V	N-5° -W	1.36	1.32	(0.38)	(0.40)	1.04	-1.29	円形	台形状	○	28	
4・8・9・10・18	SE81	8H11	古墳	V	N-48° -E	0.80	0.77	0.29	0.29	0.54	-0.82	円形	漏斗状	○	28・35	
4・9・10・18	SE170	8G15・20	古墳	V	N-12° -E	0.85	0.78	0.40	0.42	0.42	-0.65	円形	箱形	○	28	
4・9・10・18	SE255	8G10・15	古墳	V	N-55° -W	1.22	1.13	0.49	0.42	0.75	-1.01	円形	漏斗状	○	28・35	
4・11・12・18	SE457	6I12・13・17・18	古墳	V	N-34° -E	1.57	1.55	0.55	0.64	0.53	-0.77	円形	台形状	○	28	
4・11・12・19	SE491	6I7・12・13	古墳	V	N-54° -W	1.74	1.73	0.62	0.70	0.69	-0.92	円形	台形状	○	28	
4・8・19	SK48	9G4・9	古墳	V	N-54° -W	1.03	0.87	0.80	0.67	0.19	-0.40	円形	皿形	×		
4・7・8・19	SK200	9F19	古墳	V	N-31° -E	0.54	0.50	0.31	0.29	0.23	-0.45	円形	半円形	○		
4・8・19	SK49	9G8	古墳	V	N-84° -E	0.70	0.58	0.50	0.38	0.14	-0.35	楕円形	皿形	○		
4・8・19	SK25	9G3・8	古墳	V	N-59° -W	0.66	(0.62)	0.48	(0.44)	0.14	-0.32	円形	皿形	×		
4・7・8・19	SK42	9G1・2	古墳	V	N-16° -W	0.73	0.65	0.56	0.50	0.16	-0.32	円形	皿形	○		
4・7・8・19	SK43	9G1・2,8G21・22	古墳	V	N-48° -W	1.74	1.06	1.56	0.89	0.21	-0.37	楕円形	皿形	×		
4・7・8・20	SK285	8F20・25	古墳	V	N-43° -E	0.87	0.58	0.64	0.38	0.16	-0.33	円形	皿形	○		
4・7・8・20	SK34	8G16・17・21・22	古墳	V	N-6° -E	1.19	1.15	0.68	0.70	0.15	-0.29	不整形	皿形	○		
4・7・8・10・20	SK37	8G11・16	古墳	V	N-22° -W	0.93	(0.84)	0.65	0.62	0.15	-0.31	円形	皿形	○	29	
4・7・8・10・20	SK231	8G16	古墳	V	N-68° -E	0.75	0.57	0.38	0.28	0.15	-0.31	楕円形	皿形	○	29	
4・7・8・20	SK64	8F15	古墳	V	N-47° -W	0.56	0.40	0.38	0.19	0.12	-0.26	楕円形	半円形	○		
4・7・20	SK104	8F4・5	古墳	V	N-0° -E	0.71	0.41	0.39	0.22	0.15	-0.31	楕円形	箱形	○		
4・7・20	SK127	8F4・5	古墳	V	N-89° -E	0.65	0.43	0.35	0.21	0.14	-0.32	楕円形	半円形	○		
4・7・20	SK125	8F5・10	古墳	V	N-68° -W	0.56	(0.58)	0.35	0.41	0.13	-0.32	円形	皿形	×		
4・7・20	SK159	8F10	古墳	V	N-68° -W	0.46	0.39	0.22	0.13	0.17	-0.34	円形	半円形	×		
4・7・20	SK160	8F10	古墳	V	N-1° -W	(0.43)	0.34	(0.33)	0.14	0.09	-0.28	楕円形	皿形	×		
4・7・20	SK172	8F4	古墳	V	N-87° -E	0.62	0.41	0.37	0.17	0.16	-0.33	楕円形	皿形	○		
4・8・9・20	SK80	8G20・25	古墳	V	N-55° -W	1.44	1.30	1.16	1.09	0.16	-0.46	円形	皿形	○		
4・8・10・21	SK184	8G14	古墳	V	N-48° -W	0.53	0.48	0.32	0.29	0.17	-0.33	円形	箱形	○		
4・8・10・21	SK185	8G14	古墳	V	N-45° -W	0.39	0.38	0.17	0.19	0.17	-0.33	円形	半円形	○		
4・7・21	SK211	7F20	古墳	V	N-23° -E	0.79	(0.45)	0.67	0.29	0.18	-0.35	不整形	皿形	○		
4・7・10・21	SK190	8G1・2	古墳	V	N-50° -W	0.64	0.61	0.38	0.26	0.19	-0.35	円形	皿形	×		
4・7・10・21	SK77	8G6	古墳	V	N-51° -W	0.58	0.47	0.35	0.22	0.17	-0.30	楕円形	皿形	○		
4・7・10・21	SK261	7G11・16	古墳	V	N-9° -E	1.12	(0.68)	0.76	0.44	0.09	-0.22	楕円形	皿形	×		
4・7・10・21	SK261-b	7G11・16	古墳	V	N-80° -W	0.27	0.24	0.09	0.10	0.31	-0.52	円形	U字状	○	SB603	
4・10・21	SK144	7G24,8G4	古墳	V	N-60° -W	0.97	0.63	0.67	0.39	0.13	-0.33	楕円形	皿形	○	29	
4・10・21	SK144-b	7G24,8G4	古墳	V	N-60° -W	0.14	0.13	0.06	0.06	0.21	-0.55	円形	U字状	○		
4・9・10・21	SK221	8H1・2	古墳	V	N-39° -E	0.80	0.60	0.54	0.38	0.17	-0.44	長方形	箱形	○		
4・10・21	SK299	7G7・8	古墳	V	N-46° -W	0.77	0.57	0.45	0.20	0.14	-0.32	楕円形	皿形	○		
4・7・10・21	SK272	7G17	古墳	V	N-63° -W	0.55	0.39	0.40	0.23	0.17	-0.32	楕円形	皿形	○		
4・10・21	SK349	7G9	古墳	V	N-52° -W	0.55	0.36	0.31	0.16	0.16	-0.34	楕円形	台形状	○	29	
4・9・10・22	SK422	7H1	古墳	V	N-44° -W	0.43	0.32	0.24	0.17	0.10	-0.31	楕円形	皿形	○		
4・9・10・22	SK418	7H1・6	古墳	V	N-15° -W	0.66	0.50	0.53	0.36	0.13	-0.35	楕円形	皿形	○		
4・9・12・22	SK515	6H25,6I21	古墳	V	N-47° -W	0.74	0.56	0.42	0.30	0.26	-0.48	長方形	半円形	○	SB606	
4・9・11・12・22	SK458	6I18・23	古墳	V	N-55° -W	0.75	0.41	0.66	0.35	0.28	-0.53	円形	半円形	○	29	
4・11・22	SK505	7I9	古墳	V	N-28° -W	0.94	0.75	0.28	0.23	0.27	-0.58	不整形	台形状	○		
4・9・10・22	SK215	8H13	古墳	V	N-43° -W	0.48	0.47	0.26	0.25	0.27	-0.63	円形	箱形	○		
4・10・22	SK459	6G22,7G2・3	古墳	V	N-48° -W	2.24	(1.40)	2.06	(1.26)	0.09	-0.31	円形	皿形	○	29・30	
4・8・9	SK101	9H1	古墳	V	N-63° -W	0.65	0.45	0.45	0.26	0.12	-0.34	楕円形	皿形	○		
4・7	SK118	7F24	古墳	V	N-58° -W	0.71	0.53	(0.36)	0.34	0.14	-0.30	楕円形	皿形	×		
4・9・10・12・23	SD447	6G18・19・20・23・24・25,6H16 ~ 25,7G4・5,7H1	古墳	V	N-85° -E	13.55	7.45	3.13	1.09	0.19	-0.40	-	皿形	○	30	
4・7・8・19	SX36	8F13・14・18・19	古墳	V	N-42° -E	3.55	1.50	3.31	1.28	0.08	-0.21	不整形	皿形	○		
4・7・10・19	SX173	8G1・6	古墳	V	N-57° -E	1.80	1.44	1.57	1.29	0.14	-0.28	不整形	皿形	×		
4・12・22	SX513	6H5,6I1	古墳	V	N-69° -W	1.08	0.69	0.37	0.39	0.53	-0.81	楕円形	台形状	×		
4・7・23	SX228	7F23,8F3	古墳	V	N-0° -E	2.76	(0.55)	2.40	(0.40)	0.05	-0.22	-	皿形	×		
4・12・23	SX536	6I11・12・16・17	古墳	V	N-31° -E	1.89	1.60	-	-	0.06	-0.30	不整形	皿形	○	30	
4・8・14	P44	9G13	古墳	V	N-50° -W	0.33	0.33	0.22	0.17	0.15	-0.34	円形	半円形	×	SB601	
4・8・14	P57	9G10	古墳	V	N-35° -W	0.28	0.28	0.15	0.14	0.10	-0.36	円形	半円形	×	SB601	
4・8・14	P86	9G15	古墳	V	N-45° -W	0.41	0.39	0.20	0.20	0.17	-0.48	円形	半円形	×	SB601	
4・8・14	P93	8G25	古墳	V	N-54° -W	0.41	0.38	0.25	0.22	0.10	-0.30	円形	皿形	×	SB601	
4・8・14	P97	9G8	古墳	V	N-49° -W	0.40	0.40	0.20	0.23	0.16	-0.35	円形	半円形	○	SB601	
4・8・14	P99	8G23	古墳	V	N-61° -W	0.29	0.28	0.17	0.15	0.13	-0.28	円形	箱形	×	SB601	
4・8・10・15	P141	8G18	古墳	V	N-55° -W	0.31	0.30	0.15	0.13	0.15	-0.29	円形	半円形	×	SB602	
4・10・15	P176	8G8	古墳	V	N-41° -W	0.32	0.32	0.11	0.10	0.37	-0.54	円形	漏斗状	×	SB602	
4・8・9・10・15	P258	8G15・20	古墳	V	N-78° -W	(0.19)	0.25	0.06	0.06	0.41	-0.63	円形	台形状	×	36 SB602	
4・10・15	P324	7G23	古墳	V	N-49° -W	0.28	0.18	0.13	0.07	0.09	-0.29	楕円形	半円形	×	SB602	
4・9・10・15	P356	7G25	古墳	V	N-50° -W	0.24	0.24	0.09	0.09	0.21	-0.40	円形	半円形	○	SB602	
4・9・10・15	P383	8G10	古墳	V	N-52° -W	0.23	0.22	0.11	0.10	0.38	-0.62	円形	台形状	×	36 SB602	
4・10・16	P290	7G13	古墳	V	N-34° -W	0.29	0.26	0.11	(0.01)	0.15	-0.32	円形	箱形	×	SB603	
4・10・16	P294	7G6	古墳	V	N-63° -W	0.31	0.25	0.05	0.05	0.26	-0.38	楕円形	半円形	×	SB603	
4・10・16	P327	7G8	古墳	V	N-68° -W	0.29	0.29	0.07	0.07	0.42	-0.58	円形	台形状	○	SB603	
4・9・10・16	P174	8H6・7	古墳	V	N-52° -W	0.35	0.32	0.21	0.18	0.07	-0.41	円形	半円形	○	SB604	
4・9・10・16	P237	8G5	古墳	V	N-50° -W	0.27	0.27	0.14	0.							

別 表

図版 NO.	遺構	グリッド	時代	確認面	主軸方位	規模 (m)					底面座標 (m)	形態		遺物の有無	遺物図版頁	備考
						上端		下端		深度		平面	断面			
						長軸	短軸	長軸	短軸							
4・9・10・16	P430	7H21	古墳	V	N-50° -E	(0.25)	(0.18)	0.22	0.13	0.25	-0.48	円形	台形状	○		SB604
4・9・10・16	P437	7H22	古墳	V	N-48° -W	0.20	0.20	0.08	0.07	0.24	-0.52	円形	半円形	○		SB604
4・9・10・17	P378	7G15	古墳	V	N-50° -E	0.42	0.34	0.19	0.15	0.27	-0.47	楕円形	半円形	×		SB605
4・9・10・17	P411	7G5	古墳	V	N-48° -E	0.23	0.19	0.09	0.07	0.08	-0.25	楕円形	半円形	×		SB605
4・9・10・17	P443	7H2	古墳	V	N-50° -E	0.23	0.20	0.10	0.09	0.10	-0.33	円形	半円形	×		SB605
4・9・10・17	P445	7H12	古墳	V	N-45° -W	0.21	0.21	0.08	0.08	0.11	-0.34	円形	半円形	○		SB605
4・9・10・17	P465	7H13	古墳	V	N-50° -W	0.28	0.26	0.14	0.11	0.25	-0.47	円形	半円形	×		SB605
4・9・10・17	P478	7H3	古墳	V	N-28° -Wd	0.24	0.21	0.11	0.08	0.13	-0.34	円形	半円形	×		SB605
4・9・12・17	P452	6I21・22	古墳	V	N-1° -E	0.40	0.26	0.21	0.12	0.16	-0.40	楕円形	半円形	○		SB606
4・9・12・17	P535	6I16・17	古墳	V	N-50° -W	0.26	0.26	0.12	0.11	0.17	-0.41	円形	半円形	×		SB606
4・9・12・17	P538	6H20	古墳	V	N-66° -E	0.20	0.20	0.10	0.09	0.17	-0.42	円形	半円形	×		SB606
4・7・10・23	P89	8G6	古墳	V	N-48° -W	0.38	0.28	0.16	0.12	0.34	-0.47	楕円形	U字状	×	36	
4・8・23	P102	8G18	古墳	V	N-8° -E	0.25	0.23	0.13	0.10	0.41	-0.55	円形	U字状	×	36	
4・8・23	P107	8G18	古墳	V	N-9° -E	0.27	0.25	0.12	0.12	0.12	-0.28	円形	箱形	×		
4・8・10・23	P321	8G12・13	古墳	V	N-52° -W	(0.28)	0.25	0.15	0.11	0.13	-0.28	楕円形	半円形	○		
4・8・10・23	P339	8G13	古墳	V	N-48° -W	0.22	0.20	0.10	0.10	0.40	-0.54	円形	漏斗状	×	36	
4・9・10・24	P204	7G20	古墳	V	N-53° -E	0.32	0.29	0.16	0.16	0.37	-0.56	円形	漏斗状	○	36	
4・9・10・24	P394	7G25	古墳	V	N-53° -W	0.08	0.08	0.03	0.03	0.13	-0.36	円形	U字状	○		
4・9・10・24	P427	7H16	古墳	V	N-51° -W	0.07	0.07	0.01	0.01	0.08	-0.30	円形	半円形	×		
4・8・9・24	P135	8H21	古墳	V	N-35° -E	0.29	0.28	0.15	0.15	0.09	-0.34	円形	半円形	○		
4・8・10・24	P139	8G12・13・17・18	古墳	V	N-78° -W	0.34	(0.24)	0.13	0.10	0.22	-0.35	楕円形	半円形	○		
4・8・10・24	P140	8G12・13	古墳	V	N-79° -W	0.29	0.23	0.11	0.10	0.15	-0.28	楕円形	半円形	○		
4・9・24	P189	8H18	古墳	V	N-44° -E	0.43	0.34	0.27	0.22	0.11	-0.47	楕円形	半円形	○	30	
4・7・10・24	P98	8G1	古墳	V	N-25° -W	0.29	0.27	0.13	0.13	0.16	-0.31	円形	半円形	○	30	
4・9・10・24	P417	8H6	古墳	V	N-45° -W	0.20	0.19	0.08	0.07	0.20	-0.47	円形	台形状	○	30	
4・9・24	P476	7H5	古墳	V	N-64° -W	0.26	0.25	0.14	0.11	0.13	-0.34	円形	半円形	○	30	
4・9・24	P498	7I6	古墳	V	N-35° -E	0.35	0.33	0.21	0.21	0.07	-0.28	円形	皿形	○	35	
4・9・24	P500	7I1・6	古墳	V	N-35° -E	(0.28)	0.40	(0.15)	0.25	0.08	-0.28	皿形	半円形	○		
4・9・11・24	P502	7I7	古墳	V	N-36° -E	0.27	0.21	0.16	0.08	0.10	-0.31	楕円形	半円形	○	30	
4・9・12・24	P473	6I16	古墳	V	N-52° -W	0.50	0.35	0.33	0.20	0.17	-0.40	楕円形	半円形	○	30	
4・8・9・10・18	P257	8G15	古墳	V	N-78° -W	0.25	0.23	0.05	0.05	0.19	-0.40	円形	漏斗状	○		
4・8・19	P26	9G3	古墳	V	N-59° -W	0.26	0.24	0.12	0.11	0.15	-0.34	円形	半円形	×		
4・7・21	P212	7F20	古墳	V	N-23° -E	0.17	0.15	0.13	0.08	0.06	-0.22	円形	半円形	×		
4・7・10・21	P191	8G1	古墳	V	N-50° -W	(0.21)	0.30	(0.12)	0.14	0.11	-0.27	円形	半円形	×		
4・9・10・21	P313	8H1・2	古墳	V	N-39° -E	0.28	0.25	0.13	0.15	0.13	-0.39	円形	半円形	×		

別表 2 上大川遺跡 土器・土製品・陶器観察表

凡 例 1 出土位置 遺構名・グリッド名を記した。
 2 器種・分類 第V章に記した。高杯脚部による分類記号は()で示した。
 3 法 量 口径・底径・器高を示す。括弧付の数値は遺存率の低いものである。
 4 胎 土 胎土中に含まれる鉱物・小礫について記した。「石」は石英粒、「長」は長石粒、「雲」は金雲母または黒雲母、「チ」はチャート、「焼」は焼土粒、「白」は白色粒、「海」は海綿骨針を示す。
 5 遺 存 率 分数表示で遺存割合を示した。

図版 No.	報告書 No.	出土位置		層位	種別	器種	分類	残存 部位	法量 (cm)			胎土		色調	焼成	調整		遺存率			備考
		遺構名	グリッド						口径	底径	器高	含有物	密度			内面	外面	口縁部	底部	脚部	
28	1	SE8	9G18	3	土師器	甕	A3	口	(18.9)			石・長・白	密	内：黒褐 (7.5YR3/1) 外：黒褐 (7.5Y3/1)	良好	ヨコナデ	ヨコナデ				
28	2	SE8	8H11	2	土師器	甕	A2	口	(18.0)			石・長・海	やや粗	内：にぶい黄橙 (10YR7/3) 外：にぶい黄橙 (10YR7/3)	普通	口：ヨコナデ	口：ヨコナデ	3/36			外面にスス付着
28	3	SE8	9G18	5	土師器	壺	A	口	(18.4)			石・長・雲・ チ	やや粗	内：にぶい黄橙 (10YR6/3) 外：にぶい黄橙 (10YR6/3)	普通	口：ヨコナデ	口：ヨコナデ	3/36			
28	4	SE81	8H11	1	土師器	甕	A3	口～ 体上半	(13.8)			長・雲・チ・ 海	密	内：浅黄 (2.5Y7/3) 外：灰黄 (2.5Y6/2)	良好	口：ヨコナデ、体：ハケメ→ナデ、 輪痕痕明瞭	口：ヨコナデ、体：ハケメ→ナデ (ヘラナデに近い)	8/36			外面にスス付着
28	5	SE81	8H11	1	土師器	甕	A3	口～ 体下半	17.7			石・長・チ	粗	内：灰 (2.5Y6/2) 外：灰 (2.5Y6/2)	普通	口：ヨコナデ、体：ハケメ	口：ハケメ→ヨコナデ、体：ハケメ、 体部下半：ヘラナデ (ケズリに近い)	5/36			体部外面にスス付着
28	6	SE81	8H11	4	土師器	甕	-	体～底		7.1		石・長・雲	粗	内：黒褐 (10YR3/1) 外：灰白 (10YR7/1)	不良	体：ハケメ、底付近：ハケメ→ ナデ	体：ハケメ	36/36			体部内外面にスス・コゲ付着
28	7	SE81	8H11	2	土師器	鉢	A	口～体	(13.4)			石・雲	ち密	内：灰黄褐 (10YR5/2) 外：灰黄褐 (10YR4/2)	良好	口：ナデ (ミガキに近い) 寧ろ ナデ、体：ハケメ→ナデ	口：ヨコナデ、体：ミガキ	2/36			
28	8	SE170	8G20	1	土師器	甕	A3	口～ 体上半	(17.4)			石・長・雲・ 白	密	内：にぶい黄橙 (10YR7/2) 外：にぶい黄橙 (10YR7/2)	普通	口：ヨコナデ、体：ナデ	口：ヨコナデ、体：ハケメ	3/36			
28	9	SE170	8G20	1	土師器	甕	A3	口				石・長	普通	内：にぶい黄橙 (10YR7/3) 外：にぶい黄橙 (10YR7/4)	やや 不良	ヨコナデ	ヨコナデ	1/36			外面にスス・コゲ付着
28	10	SE170	8G15	1	土師器	甕	A3	口	(19.6)			石・長	密	内：浅黄 (2.5Y7/3) 外：浅黄 (2.5Y8/3)	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	4/36			外面にスス付着
28	11	SE170	8G15・20	1	土師器	甕	A3	ほぼ 完形	16.6	3.1	20.7	石・チ	密	内：浅黄 (2.5Y7/3) 外：灰黄褐 (10YR6/2)	良好	口：ヨコナデ→一部ハケメ、体： ハケメ→ナデ・輪痕痕明瞭、底 付近：指頭圧痕	口：ヨコナデ、体：ハケメ、一 部ヘラケズリ、底：ナデ	4/36	36/36		底部充填技法? 体部外面にスス 付着
28	12	SE255	8G15	5	土師器	甕	A3	口～ 体下半	(14.8)			石・長・雲	密	内：にぶい黄橙 (10YR6/3) 外：灰黄褐 (10YR6/2)	良好	口：ヨコナデ、体：ナデ	口：ヨコナデ、体：ハケメ→ヘ ラナデ	3/36			内外面にスス・コゲ付着
28	13	SE255	8G10	7	土師器	高杯	(A1)	脚				石・長・白	密	内：にぶい黄褐 (10YR7/3) 外：にぶい黄褐 (10YR5/3)	良好	脚：ナデ	脚：ミガキ				
28	14	SE255	8G10・15	3・4	土師器	高杯	(A)	脚	(13.7)			長	密	内：にぶい黄橙 (10YR7/3) 外：にぶい黄橙 (10YR6/3)	普通	ハケメ→ヨコナデ	ハケメ→ヨコナデ	5/36			
28	15	SE457	6I17	1・IV	土師器	甕	A2	口	(19.5)			石・長・雲・ チ	密	内：にぶい黄褐 (10YR7/3) 外：にぶい黄褐 (10YR7/3)	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	4/36			
28	16	SE491	6I12	1	土師器	甕	A3	口	(20.3)			雲・白	密	内：にぶい黄橙 (10YR7/3) 外：にぶい黄橙 (10YR7/2)	普通	ハケメ→ヨコナデ	ハケメ→ヨコナデ	2/36			
28	17	SE491	6I7・8・12・13	5	土師器	甕	-	体～底		3.3		石・雲・焼	普通	内：黄灰 (2.5Y4/1) 外：灰黄褐 (10YR6/2)	普通	体：ハケメ、底：ナデ	体：ハケメ、底：ハケメ	36/36			内面にススコゲ付着
28	18	SE491	6I12	2	土師器	甕	A3	口	(14.0)			石・長	やや粗	内：にぶい黄橙 (10YR7/3) 外：にぶい黄橙 (10YR7/3)	やや 不良	ヨコナデ	ヨコナデ→ハケメ	6/36			外面にスス付着
29	19	SK37	8G16	1	土師器	甕	A3	口～ 体下半	(17.4)			石・長・雲	密	内：オリーブ黒 (10Y3/1) 外：にぶい黄橙 (10YR7/3)	良好	口：ヨコナデ、体：ハケメ・輪 痕痕明瞭	口：ヨコナデ、頸：ハケメ→ナ デ、体：ハケメ	2/36			外面にスス付着
29	20	SK37	8G16	1	土師器	甕	A3	口～ 体上半	(16.8)			石・長・雲・ チ・海	普通	内：にぶい黄橙 (10YR6/3) 外：にぶい黄橙 (10YR6/3)	普通	口：ヨコナデ、体：ハケメ (ヘ ラナデに近い)	口：ヨコナデ、体：ハケメ	3/36			
29	21	SK37	8G16	1	土師器	甕	-	体～底		3.7		長・雲	普通	内：黄灰 (2.5Y6/1) 外：にぶい黄 (2.5Y6/3)	普通	ハケメ→ナデ、底：指頭圧痕	体：ハケメ (ケズリに近い)	36/36			底部充填技法、外面にスス・コゲ、 内面にコゲ付着
29	22	SK37	8G16	1	土師器	壺	A	口				長	ち密	内：灰黄橙 (10YR6/2) 外：にぶい黄橙 (10YR7/4)	良好	ナデ、剥落	ヨコナデ→一部ハケメ				
29	23	SK37	8F23	1	土師器	鉢	C2	口～脚	13.0			石・長・雲・ 白	密	内：暗灰黄 (2.5Y5/2) 外：浅黄 (2.5Y7/3)	良好	口：ハケメ→ヨコナデ、体：ハ ケメ→ヘラナデ、脚：ハケメ	口：ハケメ→ヨコナデ、体：ハ ケメ→ヘラナデ、脚：ハケメ→ ヘラナデ (ミガキに近い)	6/36			
29	24	SK37	8G16	1	土師器	鉢	C3	体下半 ～底		2.4		石・長・雲	密	内：にぶい黄橙 (10YR6/3) 外：にぶい黄橙 (10YR7/3)	良好	ヘラナデ・指頭圧痕	ケズリ	36/36			底：焼成前穿孔
29	25	SK231	8G16	1	土師器	甕	A3	口～体	21.0			石・長・雲	密	内：にぶい黄橙 (10YR6/4) 外：にぶい黄橙 (10YR6/4)	良好	口：ハケメ→ヨコナデ、体：ヘ ラナデ	口：ヨコナデ、体：ハケメ	11/36			外面にスス付着
29	26	SK144	8G4	3・ SK144-b の1層	土師器	鉢	B	口～底	10.0	1.7	6.45	石・長・焼・ 白	密	内：にぶい黄 (2.5Y6/3) 外：にぶい黄 (2.5Y6/4)	良好	口：ハケメ→ヨコナデ、体：ナ デ	口：ハケメ→ヨコナデ、体：ハ ケメ、底：ナデ	8/36	36/36		底部充填技法
29	27	SK349	7G9	1	土師器	甕	A3	口	(16.0)			石・長	密	内：にぶい黄褐 (10YR5/3) 外：灰黄褐 (10YR4/2)	良好	ハケメ→ヨコナデ	ハケメ→ヨコナデ	2/36			外面にスス・コゲ付着

図版 No.	報告書 No.	出土位置		層位	種別	器種	分類	残存 部位	法量 (cm)			胎土		色調	焼成	調整			遺存率			備考	
		遺構名	グリッド						口径	底径	器高	含有物	密度			内面		外面		口縁部	底部		脚部
																内	外	内	外				
29	28	SK458	6I23	1	土師器	鉢	C1	口~体	10.9			石・長・チ	普通	内：にぶい黄橙 (10YR6/3) 外：灰黄褐 (10YR6/2)	普通	口：ヨコナデ、体：ナデ	口：ヨコナデ、体：ミガキ、体 下半：ヘラナデ	13/36					
29	29	SK459	7G2	1・2	土師器	甕	A3	口~ 体上半	19.5			石・長・チ	粗	内：にぶい褐 (7.5YR6/3) 外：にぶい橙 (7.5YR6/4)	やや 不良	口：ハケメ→ヨコナデ、体：ナ デ	口：ハケメ→ヨコナデ、体：ハ ケメ	8/36					
29	30	SK459	7G2	2	土師器	甕	A2	口~ 体上半	(19.0)			石・長	密	内：灰黄 (2.5Y7/2) 外：灰黄 (2.5Y6/2)	良好	口：ヨコナデ、体：ナデ	口：ヨコナデ、体：ハケメ	7/36			外面にスス付着		
29	31	SK459	7G2	1・2	土師器	甕	A	頸~体				石・長・チ・ 白	粗	内：灰褐 (7.5Y5/2) 外：灰褐 (7.5Y5/2)	普通	体：ナデ (ヘラナデに近い)	体：ハケメ				74と同一個体の可能性あり、 外面にスス・コゲ付着		
29	32	SK459	7G2	2	土師器	甕	A3	口~体	13.8			石・長・白	密	内：にぶい黄褐 (10YR6/3) 外：にぶい黄褐 (10YR5/3)	普通	口：ハケメ→ヨコナデ、体：ハ ケメ→ナデ (ヘラナデに近い)・ 輪積痕明瞭	口：ハケメ→ヨコナデ、頸・体： ハケメ	21/36			内外面にスス・コゲ付着		
29	33	SK459	7G2	1・2・3	土師器	壺	-	体~底		8.2		石・長・チ・ 焼・白	普通	内：にぶい橙 (7.5YR6/4) 外：にぶい褐 (7.5YR6/3)	良好	体：ハケメ→ナデ、底：ハケメ	体：ナデ、底付近：ミガキ、底： ケズリ	19/36			体部外面赤彩		
29	34	SK459	7G2, 6G25	2	土師器	小型壺	B	体~底				石	ち密	内：黄灰 (2.5Y4/1) 外：浅黄 (2.5Y7/3)	良好	ハケメ→ナデ・輪積痕明瞭 底： 指頭圧痕	ハケメ→ミガキ	36/36			外面にスス付着		
29	35	SK459	7G2	1	土師器	小型壺	-	体				長	ち密	内：灰黄 (2.5Y7/2) 外：にぶい黄 (2.5Y6/3)	良好	ナデ	ナデ、一部ミガキ						
30	36	SK459	6G24, 7G2, 6G22	2・IV	土師器	鉢	C1	口~体 下半	14.5			石・長・雲	密	内：灰白 (2.5Y8/2) 外：浅黄橙 (10YR8/3)	良好	ナデ	口：ハケメ、体上半：ハケメ→ 粗いミガキ 体下半：ヘラケズ リ	16/36			内面に植物痕あり		
30	37	SK459	7G2	1	土師器	高杯	A1	杯	(15.5)			石・長	ち密	内：にぶい黄橙 (10YR7/3) 外：にぶい黄橙 (10YR7/3)	良好	ミガキ	ミガキ	5/36					
30	38	SK459	6G23	2	土師器	高杯	(A1)	脚		(11.8)		石・長	ち密	内：灰黄褐 (10YR6/2) 外：にぶい黄橙 (10YR6/3)	良好	ミガキ	ミガキ			6/36			
30	39	SD447	6G25	1	土師器	甕	A1	口~ 体上半	17.9			石・長・焼・ 白・海	普通	内：にぶい黄橙 (10YR7/3) 外：浅黄橙 (10YR8/3)	やや 不良	口：ヨコナデ、体：ナデ	口：ヨコナデ、体：ナデ	35/36			口縁外面にスス付着		
30	40	SD447	6G25	1	土師器	甕	A2	口~ 体下半	17.0			石・長・雲	普通	内：にぶい黄橙 (10YR7/3) 外：にぶい黄橙 (10YR6/3)	良好	口：ヨコナデ、体：ハケメ→ナ デ	口：ヨコナデ、体：ハケメ	9/36			外面にスス付着		
30	41	SD447	6H22, 6G25	1	土師器	甕	A3	口	20.4			長・雲	密	内：にぶい黄橙 (10YR6/3) 外：灰黄褐 (10YR5/2)	良好	ハケメ→ヨコナデ	ハケメ→ヨコナデ	9/36			内外面にスス付着		
30	42	SD447	6G24, 7G4	1	土師器	甕	A2	口~ 体下半	17.2			石・長・雲・ チ	やや粗	内：灰黄 (2.5Y6/2) 外：浅黄 (2.5Y7/3)	普通	口：ハケメ→ヨコナデ、剥落、体： ナデ	口：ハケメ→ヨコナデ、体：ハ ケメ	16/36			外面にスス付着		
30	43	SD447	6G25	1	土師器	甕	A1	口~ 体上半	(14.4)			長・焼・白	やや粗	内：にぶい黄橙 (10YR7/4) 外：にぶい黄橙 (10YR6/4)	やや 不良	口：ヨコナデ、体：ナデ・輪積 痕明瞭	口：ヨコナデ、体：ハケメ→ナ デ	3/36					
30	44	SD447	7G4	1	土師器	甕	A3	口~体	(19.5)			石・雲・チ	普通	内：灰黄 (2.5Y6/2) 外：にぶい黄橙 (10YR6/3)	普通	口：ヨコナデ、体：ナデ	口：ヨコナデ、体：ハケメ	1/36			外面にスス付着		
30	45	SD447	6G19・24, 6H16	1	土師器	甕	A3	口	17.2			石・長・白	密	内：にぶい黄橙 (10YR6/4) 外：にぶい黄橙 (10YR6/3)	良好	口：ハケメ→ヨコナデ、頸：ハ ケメ	口：ヨコナデ、頸：ハケメ→ヨ コナデ	12/36			口縁部外面にスス付着		
30	46	SD447	6G25	1・2	土師器	壺	B3	口~ 体上半	13.9			石・雲・チ・ 白	普通	内：にぶい黄橙 (10YR7/4) 外：にぶい黄橙 (10YR6/4)	良好	口：ヨコナデ、体：ナデ	口：ヨコナデ、体：ハケメ (ヘ ラナデに近い)	10/36					
30	47	SD447	6H20	1	土師器	壺	-	底		4.0		石・雲	密	内：にぶい黄橙 (10YR7/2) 外：にぶい黄橙 (10YR7/3)	普通	ナデ・輪積痕	底付近：ミガキ、底：ミガキ	36/36					
30	48	SD447	6H23	1	土師器	鉢	C	口~体	(16.8)			石・長・チ・ 焼	密	内：浅黄 (2.5Y8/3) 外：浅黄 (2.5Y7/3)	良好	ヨコナデ	口：ヨコナデ、体：ナデ→ハケ メ	4/36					
30	49	SD447	6H23	1・2	土師器	鉢	C3	口~底	18.0		丸	石・長・黒 雲母・焼	普通	内：浅黄 (2.5Y7/3) 外：浅黄 (2.5Y7/3)	やや 不良	口：ヨコナデ、体：ハケメ	口：ヨコナデ、体：ハケメ→ナ デ	21/36	36/36		焼成前穿孔		
30	50	SD447	6H21	1・2	土師器	高杯	A1	杯	15.8			石・長・雲・ チ	密	内：浅黄 (2.5Y7/3) 外：にぶい黄 (2.5Y6/3)	良好	ハケメ→ミガキ	ミガキ	7/36					
30	51	SD447	6H21	1・2	土師器	高杯	B	杯	(12.8)			石	ち密	内：にぶい黄橙 (10YR7/3) 外：にぶい黄橙 (10YR6/4)	良好	ミガキ	ミガキ	10/36					
30	52	SD447	7G5	1	土師器	高杯	(A)	脚				石・長・雲	密	内：灰黄 (2.5Y7/2) 外：灰黄 (2.5Y6/2)	良好	ケズリ、ハケメ	ミガキ						
30	53	SD447	6H21	1	土師器	器台	-	脚				石・長	ち密	内：浅黄 (2.5Y7/3) 外：明赤褐 (2.5YR5/8)	良好	ハケメ→ヘラナデ (ケズリに近 い)	ハケメ→ミガキ				外面赤彩		
30	54	SX536	6I16	1	土師器	小型壺	A	口	(11.8)			石・白	普通	内：にぶい黄橙 (10YR7/3) 外：にぶい黄橙 (10YR7/4)	普通	ヨコナデ	ヨコナデ	3/36					
30	55	P98	8G1	1	土師器	高杯	(A2)	脚		(14.6)		石・長	やや粗	内：にぶい黄橙 (10YR7/4) 外：橙 (5YR6/6)	不良	ナデ	ミガキ	7/36			内外面に摩擦、剥落あり		
30	56	P189	8H18	1	土師器	高杯	(A2)	脚				石	ち密	内：灰白 (2.5Y8/2) 外：浅黄 (2.5Y7/3)	良好	脚：ナデ、底付近：ハケメ	ミガキ						
30	57	P417	8H6	1	土師器	甕	A3	口	(16.6)			石・長・雲・ 海	密	内：にぶい黄橙 (10YR6/3) 外：灰黄褐 (10YR5/2)	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	4/36			外面にスス付着		

図版 No.	報告書 No.	出土位置		層位	種別	器種	分類	残存 部位	法量 (cm)			胎土		色調	焼成	調整		遺存率			備考		
		遺構名	グリッド						口径	底径	器高	含有物	密度			内面		外面		口縁部		底部	脚部
																内	外	内	外				
30	58	P473	6I16	1・2	土師器	鉢	C	口~ 体下半	19.0			石・長・海	普通	内：黒 (2.5Y2/1) 外：灰黄 (2.5Y6/2)	良好	口体：ナデ	口：ヨコナデ、体：ナデ、一部 ミガキ	11/36					
30	59	P476	7H5	1	土師器	甕	A1	口	(18.0)			石・長・雲・ 白	普通	内：にぶい黄橙 (10YR6/4) 外：にぶい黄橙 (10YR6/4)	良好	口：ヨコナデ	口：ヨコナデ、頸：ハケメ	3/36			外面にスス・コゲ付着		
30	60	P502	7I7	1・2	土師器	鉢	A	口	15.8			石・長・白・ 海	普通	内：にぶい黄橙 (10YR6/4) 外：灰黄褐 (10YR5/2)	普通	口：ハケメ→ヨコナデ、体：ナ デ	口：ハケメ→ヨコナデ、体：ハ ケメ→ヘラナデ?	3/36					
31	61	-	6H5	IV	土師器	甕	A3	口~体	13.0			石・長	密	内：にぶい黄橙 (10YR7/3) 外：にぶい黄橙 (10YR7/2)	やや 不良	口：ヨコナデ、体：ナデ	口：ヨコナデ、体：ハケメ→ナ デ	17/36			外面にスス付着		
31	62	-	9G3・4	IV	土師器	甕	A3	口~体	(13.0)			長・雲	密	内：にぶい黄橙 (10YR7/3) 外：にぶい黄褐 (10YR5/3)		口：ヨコナデ、体：ナデ、粘土 接合痕明瞭	口：ヨコナデ、体：ナデ	6/36			外面にスス付着		
31	63	-	6I16・21	IV	土師器	甕	A3	口~体	18.8			石・長・雲	やや粗	内：にぶい黄橙 (10YR6/3) 外：にぶい黄橙 (10YR6/3)	普通	口：ヨコナデ、体：ナデ	口：ヨコナデ、体：ナデ?	10/36			外面にスス付着		
31	64	-	9H2	IV	土師器	甕	A2	口	(16.6)			石・雲・焼・ 白	密	内：にぶい黄橙 (10YR7/3) 外：にぶい黄橙 (10YR6/3)	普通	口：ヨコナデ	口：ヨコナデ	5/36					
31	65	-	8F20	IV	土師器	甕	A2	口~ 体下半	(19.8)			石・長・雲・ 白	普通	内：にぶい黄 (2.5Y6/3) 外：灰黄 (2.5Y6/2)	普通	口：ヨコナデ、体：ナデ・摩耗	口：ヨコナデ、体：ハケメ	5/36					
31	66	-	8H16・22	IV	土師器	甕	A2	口~ 体下半	(17.2)			石・長・海	密	内：浅黄 (2.5Y7/3) 外：灰黄 (2.5Y7/2)	良好	口：ヨコナデ、体：ナデ	口：ヨコナデ、体：ハケメ	6/36					
31	67	-	6G24	IV	土師器	甕	A2	口	(16.9)			長・チ・焼	普通	内：にぶい黄橙 (10YR7/4) 外：にぶい黄橙 (10YR6/3)	やや 不良	口：ヨコナデ、体：ナデ	口：ヨコナデ、体：ハケメ	5/36			外面にスス・コゲ付着		
31	68	-	9F14	IV	土師器	甕	A1	口	(15.8)			石・長	やや粗	内：灰黄 (2.5Y6/2) 外：浅黄 (2.5Y7/3)	やや 不良	ヨコナデ	ヨコナデ	1/36					
31	69	-	7I18・19	IV	土師器	甕	A3	口~体	15.6			石・長・雲・ 白	やや粗	内：にぶい黄 (2.5Y6/3) 外：浅黄 (2.5Y7/3)	やや 不良	口：ハケメ→ヨコナデ、体：ハ ケメ→ナデ	口：ハケメ→ヨコナデ、体：ハ ケメ	35/36			外面にスス、体部内面にコゲ付 着		
31	70	-	9G10	IV	土師器	甕	A3	口~体	(19.2)			石・長・白	普通	内：にぶい黄橙 (10YR6/3) 外：にぶい黄橙 (10YR6/3)	やや 不良	口：ヨコナデ、体：ナデ	口：ヨコナデ、体：ハケメ	2/36					
31	71	-	6I11	IV	土師器	甕	A3	口~体	15.6			石・長・雲・ 白	やや粗	内：にぶい黄橙 (10YR6/3) 外：にぶい黄褐 (10YR5/3)	やや 不良	口：ハケメ→ヨコナデ、体：ハ ケメ、一部ナデ、輪積痕明瞭	口：ハケメ→ヨコナデ、体：ケ ズリ、剥落	1/36			外面にスス・コゲ付着		
31	72	-	6H5	IV	土師器	甕	A3	ほぼ 完形	10.4	2.3	12.4	石・長・雲・ チ・白	密	内：にぶい黄橙 (10YR6/3) 外：にぶい黄橙 (10YR6/3)	良好	口：ハケメ、体：ハケメ→ナ デ	口：ハケメ→ナデ、体：ハケメ	4/36	36/36				
31	73	-	6I22	IV	土師器	甕	A3	口~体	21.9			石・白	やや粗	内：にぶい黄橙 (10YR6/3) 外：灰黄褐 (10YR5/2)	やや 不良	口：ヨコナデ、体：ハケメ→ナ デ	口：ヨコナデ、口下部：ハケメ、 体：ハケメ	6/36			外面にスス・コゲ付着		
31	74	-	7G2	IV	土師器	甕	A3	口	(21.5)			石・長・チ・ 海	やや粗	内：褐灰 (10YR5/1) 外：褐灰 (10YR4/1)	普通	ハケメ→ヨコナデ	ハケメ→ヨコナデ	4/36			31と同一個体の可能性あり、外 面にスス・コゲ付着		
31	75	-	6G24・25	IV	土師器	甕	-	体~底		3.3		石・長・雲・ 白	やや粗	内：浅黄 (2.5Y7/3) 外：浅黄 (2.5Y7/3)	普通	ハケメ	体：ハケメ、底：ナデ	36/36			底部充填技法、外面にスス・コ ゲ付着		
31	76	-	6I11, 6H15	IV	土師器	甕	A2	口~体	18.1			石・長・海	密	内：にぶい黄橙 (10YR6/3) 外：にぶい黄褐 (10YR5/3)	良好	口：ヨコナデ、体：ナデ	口：ハケメ→ヨコナデ、体：ハ ケメ	8/36			体部外面にスス付着		
32	77	-	6H19	IV	土師器	甕	A4	口~ 体上半	15.6			石・長	やや粗	内：にぶい黄褐 (10YR6/3) 外：にぶい黄褐 (10YR5/3)	やや 不良	口：ハケメ、体：ナデ (ケズリ に近い)・輪積痕明瞭	口：ナデ、指頭圧痕、体：ハケ メ (一部砂粒の移動顕著)	22/36			外面にスス付着		
32	78	-	6G24	IV	土師器	甕	A4	口~体	16.4			石・長・雲	普通	内：灰黄褐 (10YR6/2) 外：にぶい黄橙 (10YR7/3)	普通	口：ハケメ、体：ナデ	口体：ハケメ	11/36			外面にスス付着		
32	79	-	7G2	IV	土師器	甕	A3	口~ 体下半	13.9			長・海	密	内：にぶい黄橙 (10YR7/4) 外：にぶい黄褐 (10YR6/4)	普通	口：ハケメ→ヨコナデ、体：ハ ケメ→ナデ	口：ハケメ→ヨコナデ、体：ハ ケメ	13/36			体部外面にスス付着		
32	80	-	8H22	IV	土師器	甕	A3	口~底	17.8	3.9	15.5	石・長・雲・ チ	普通	内：にぶい黄橙 (6/3) 外：灰黄褐 (5/2)	普通	口：ヨコナデ、体：ハケメ、輪 積痕明瞭	口：ヨコナデ、体上半：ハケメ、 体下半：ハケメ→ケズリ、底： ナデ	8/36			底部充填技法		
32	81	-	8G17	IV	土師器	甕	A3	口~ 体上半	19.0			石・長・白	密	内：にぶい黄橙 (10YR7/3) 外：にぶい黄橙 (10YR6/3)	良好	口：ヨコナデ、体：ナデ、粘土 接合痕明瞭	口：ヨコナデ、体：ハケメ	4/36			外面にスス付着		
32	82	-	8I1	IV	土師器	甕	A2	口	18.0			石・長・焼・ 海	密	内：にぶい黄橙 (10YR7/3) 外：にぶい黄橙 (10YR7/3)	普通	口：ヨコナデ、体：ナデ、輪積 痕明瞭	口：ヨコナデ、体：ハケメ→ナ デ	22/36					
32	83	-	6G23・25	IV	土師器	甕	A2	口~ 体下半	17.0			石・長・雲	普通	内：にぶい黄橙 (10YR4・?) 外：にぶい黄橙 (10YR4・?)	やや 不良	口：ヨコナデ、体：ナデ、ハケ メ	口：ヨコナデ、体：ハケメ、ヘ ラナデ (ケズリに近い)	8/36			内外面剥落、外面にスス付着		
32	84	-	8H22・23	IV	土師器	甕	A2	口~体	15.7			石・長・白・ 海	ち密	内：にぶい黄橙 (10YR6/3) 外：灰黄褐 (10YR6/2)	良好	口：ヨコナデ、体：ハケメ→ナ デ・輪積痕明瞭	口：ヨコナデ、体：ハケメ、剥 離	20/36			外面にスス付着		
32	85	-	6I21・22	IV	土師器	甕	A2	口	17.6			石・長・雲	やや粗	内：にぶい黄橙 (10YR7/3) 外：にぶい黄橙 (10YR6/3)	普通	口：ヨコナデ、体：ナデ	口：ハケメ→一部ナデ、体：ハ ケメ、ナデ	10/36			外面にスス付着		
32	86	-	6H20	IV	土師器	甕	A1	口~体	18.8			石・長・雲・ チ	普通	内：にぶい黄褐 (10YR7/4) 外：灰黄褐 (10YR6/2)	普通	口：ヨコナデ、体：ハケメ→ヘ ラナデ、輪積痕明瞭	口：ヨコナデ、体：ハケメ→ナ デ	9/36					
32	87	-	6H12	IV	土師器	甕	A2	口	(17.8)			石・白	やや粗	内：灰黄 (2.5Y7/2) 外：灰黄褐 (10YR6/2 ?)	不良	口：ハケメ→ヨコナデ、体：ハ ケメ→ナデ	口：ハケメ→ヨコナデ、体：ハ ケメ	4/36			外面にスス付着		
33	88	-	7H4	IV	土師器	壺	A	口	(18.3)			石・長・雲	普通	内：にぶい黄褐 (10YR6/3) 外：にぶい黄褐 (10YR6/3)	良好	口：ミガキ	口：ミガキ	3/36					

図版 No.	報告書 No.	出土位置		層位	種別	器種	分類	残存 部位	法量 (cm)			胎土		色調	焼成	調整			遺存率			備考	
		遺構名	グリッド						口径	底径	器高	含有物	密度			内面		外面		口縁部	底部		脚部
																内	外	内	外				
33	89	-	8H18	IV	土師器	壺	A	口	(30.8)			石・長・雲・海	密	内：にぶい黄橙 (7/3) 外：にぶい黄橙 (7/4)	良好	口：ハケメ→ヨコナデ	口：ヨコナデ	2/36					
33	90	-	7I1・8・9, 7H4	IV	土師器	壺	A	口	18.4			石・長・雲・焼	普通	内：浅黄 (2.5Y7/3) 外：灰黄 (2.5Y7/2)	普通	ヨコナデ, 一部ミガキ	ヨコナデ, 粗いミガキ	22/36					
33	91	-	9H2	IV	土師器	壺	A	口	(18.6)			石・焼・海	密	内：にぶい黄橙 (10YR6/3) 外：にぶい黄橙 (10YR6/3)	良好	ミガキ	ミガキ	4/36					
33	92	-	9H2	IV	土師器	壺	A	口	(19.4)			石・長・チ	やや粗	内：にぶい黄橙 (10YR6/3) 外：にぶい黄橙 (10YR6/3)	やや不良	口：ミガキ, 剥落	口：ミガキ	3/36					
33	93	カクニ 18T			土師器	壺	A	口	(16.7)			石・長	粗	内：橙 (7.5YR6/6) 外：にぶい橙 (7.5YR7/4)	不良	ヨコナデ, 摩耗	ヨコナデ	8/36					
33	94	-	8F20	IV	土師器	壺	A	口				石	ち密	内：オリブ黒 (5Y3/1) 外：にぶい黄橙 (10YR7/4)	良好	口：ヨコナデ, 頸：ハケメ	口：ハケメ→ヨコナデ, 頸：ハケメ						
33	95	-	7H11	IV	土師器	壺	A	口	(15.4)			石・長・雲・チ	普通	内：にぶい黄橙 (10YR7/2) 外：黒褐 (10YR3/1)	普通	口：ヨコナデ	口：ヨコナデ	4/36		外面にスス・コゲ付着			
33	96	-	6G24	IV	土師器	壺	B2	頸				石・長	普通	内：灰白 (2.5Y7/1) 外：灰黄 (2.5Y7/2)	良好	ハケメ→ヨコナデ	ハケメ→ヨコナデ						
33	97	-	7I18	IV	土師器	壺	B1	口~体	12.5			石・長・雲・白	普通	内：灰黄褐 (10YR6/2) 外：にぶい黄橙 (10YR6/3)	普通	口：ヨコナデ, 体：ナデ	口：ヨコナデ, 体：ハケメ→ナデ (ハラナデ?)	14/36					
33	98	-	7I5・10・14	IV	土師器	壺	B2	体~底	17.2	8.7	43.0	石・長・海	ち密	内：にぶい黄褐 (10YR5/4) 外：にぶい黄褐 (10YR5/3)	良好	口：ヨコナデ, 体：ハケメ	口：ヨコナデ, ミガキ, 体：ハケメ→ミガキ	6/36	36/36				
33	99	-	9G5	IV	土師器	鉢	A	口~体	(14.4)			石	ち密	内：にぶい黄橙 (10YR6/3) 外：灰褐黄 (10YR6/2)	良好	口：ヨコナデ, 体：ハケメ→ナデ	口：ミガキ, 体：ミガキ	5/36					
33	100	-	7G3	IV	土師器	鉢	B	口~体	(12.8)			石・海	ち密	内：にぶい黄橙 (10YR7/3) 外：にぶい黄橙 (10YR6/3)	良好	口：ヨコナデ, 体：ナデ	口：ヨコナデ, 体：ミガキ	3/36					
33	101	-	10G2	IV	土師器	鉢	A	口~体	(14.8)			石・長・雲	密	内：黒 (2.5Y2/1) 外：灰黄 (2.5Y7/2)	普通	口：ミガキ, 体：ナデ (ミガキに近い)	口：ヨコナデ, 体：ナデ	2/36		内面に黒斑			
33	102	-	6I11, 7I9	IV	土師器	鉢	A	体				石・雲	密	内：灰黄 (2.5Y6/2) 外：にぶい黄 (2.5Y6/3)	良好	口：一部ミガキ, 体：ナデ	ミガキ						
33	103	-	6I16	IV	土師器	鉢	B	口~体	(10.2)			石・雲	密	内：にぶい黄橙 (10YR7/3) 外：灰黄褐 (10YR6/2)	普通	口：ヨコナデ, 体：ナデ	口：ヨコナデ, 体：ハケメ	1/36					
33	104	-	8I1	IV	土師器	鉢	C	口~体	(10.8)			石・長	普通	内：灰白 (2.5Y8/2) 外：浅黄 (2.5Y7/3)	普通	口：ヨコナデ, 体：ナデ	口：ヨコナデ, 体：ハケメ	7/36					
33	105	-	6I17	IV	土師器	鉢	Aカ	体~底		2.3		石・長	密	内：灰黄 (2.5Y7/2) 外：暗灰黄 (2.5Y5/2)	良好	ナデ	体：ミガキ, 底付近：ケズリ	36/36		底部充填技法			
33	106	-	6H20	IV	土師器	鉢	C	口~体	8.0			石・長・雲	普通	内：にぶい黄橙 (10YR7/3) 外：にぶい黄橙 (10YR7/3)	普通	ヨコナデ	口：ヨコナデ, 体：ナデ	9/36					
33	107	-	7I22	IV	土師器	鉢	C3	底			1.9	石・長・雲	やや粗	内：灰黄 (2.5Y6/2) 外：浅黄 (2.5Y7/3)	普通	底：ハケメ	底：ハケメ→ミガキ	36/36		底：焼成前穿孔			
34	108	-	8H11	IV	土師器	小型壺	B	口	(10.8)			石・長・白	密	内：灰黄褐 (10YR6/2) 外：にぶい黄橙 (10YR6/3)	普通	ハケメ	ミガキ	6/36					
34	109	-	6I12・17・25	IV	土師器	小型壺	B	口~体	12.6		16.0	石・長・雲・白・海	密	内：にぶい黄橙 (10YR7/3) 外：にぶい黄橙 (10YR6/3)	良好	口：頸：ヨコナデ→ミガキ, 体：ナデ	口：頸：ヨコナデ→ミガキ, 体：ミガキ	25/36		内外面 赤彩			
34	110	-	7H24	IV	土師器	小型壺	C	口	(11.9)			石・雲・チ	粗	内：灰黄褐 (10YR5/2) 外：にぶい黄橙 (10YR6/3)	不良	口：ミガキ	口：ミガキ	3/36					
34	111	-	5I17	IV	土師器	小型壺	C	口~底	14.0	丸	16.7	石・長・雲・チ・白	密	内：黄褐 (2.5Y5/3) 外：黄褐 (2.5Y5/3)	良好	口：ヨコナデ, 体：ナデ	口：ヨコナデ→ミガキ, 体：ハケメ→ミガキ	24/36	36/36				
34	112	-	6I16・21	IV	土師器	小型壺	A	口~体	11.8			石・白	密	内：浅黄 (2.5Y7/3) 外：にぶい黄橙 (10YR6/3)	良好	丁寧なナデ	丁寧なナデ, 一部ミガキ	11/36					
34	113	-	6G24	IV	土師器	壺	B4	口	(12.6)			石・長・海	普通	内：にぶい黄橙 (10YR7/3) 外：にぶい黄橙 (10YR7/2)	普通	口：ヨコナデ	口：ハケメ→ナデ	4/36					
34	114	-	6G23	IV	土師器	壺	B3	口~体	13.8			石・長・白・海	普通	内：にぶい黄橙 (10YR6/4) 外：にぶい黄褐 (10YR5/3)	普通	口：ミガキ, 体：ハケメ→ナデ (ミガキに近い)	口：ヨコナデ, 体：ハケメ→ミガキ	20/36					
34	115	-	6I16	IV	土師器	小型壺	C	口~体	(9.0)			石・海	ち密	内：にぶい黄橙 (10YR7/3) 外：にぶい黄橙 (10YR7/2)	普通	口：ナデ, 体：ハケメ, 体下半：ナデ	口：ハケメ→ナデ (一部丁寧なナデ), 体：ナデ	3/36					
34	116	-	7G25	IV	土師器	小型壺	C	口	(8.6)			石	ち密	内：にぶい黄橙 (10YR6/4) 外：にぶい黄橙 (10YR6/4)	良好	口：ミガキ	口：ミガキ	3/36		口縁部内面~外面体部外面 赤彩			
34	117	-	7G9	IV	土師器	壺	-	底	4.3			石・長	密	内：浅黄 (2.5Y7/3) 外：浅黄 (2.5Y8/3)	良好	ナデ	ミガキ, 一部剥落	17/36					
34	118	-	6I18	IV	土師器	鉢	B	口~体	11.4			石・白	密	内：灰黄 (2.5Y7/2) 外：浅黄 (2.5Y7/3)	普通	口：ヨコナデ, 体：ハケメ→ミガキ	口：ヨコナデ, ハケメ→ナデ	3/36		外面にスス付着			
34	119	-	6G23・24, 7G4	IV	土師器	鉢	C1	ほぼ 完形	17.9	5.8	6.1	石・長・雲・チ・海	密	内：浅黄 (2.5Y7/3) 外：浅黄 (2.5Y7/3)	良好	ハケメ→ナデ (一部ミガキに近い)	ハケメ→ナデ	10/36					

図版 No.	報告書 No.	出土位置		層位	種別	器種	分類	残存 部位	法量 (cm)			胎土		色調	焼成	調整		遺存率			備考
		遺構名	グリッド						口径	底径	器高	含有物	密度			内面	外面	口縁部	底部	脚部	
34	120	-	7I17	IV	土師器	高杯	A1	杯	(15.9)			石・長・雲	密	内：浅黄 (2.5Y7/3) 外：灰黄 (2.5Y7/2)	良好	杯：ミガキ	杯：ミガキ	7/36			
34	121	-	7H10	IV	土師器	高杯	A1	杯	(16.8)			石・長・雲・ 白	普通	内：浅黄橙 (10YR8/3) 外：にぶい黄橙 (10YR7/3)	やや 不良	ナデ	ミガキ	2/36			
34	122	-	8H22	IV	土師器	高杯	A1	杯	(17.8)			石・長・チ	ち密	内：灰黄 (2.5Y7/2) 外：灰黄 (2.5Y7/2)	良好	ミガキ, ナデ	ミガキ	1/36			
34	123	-	7H25	IV	土師器	高杯	A1	杯底~ 脚				石・長・雲	普通	内：にぶい黄橙 (10YR6/3) 外：にぶい黄橙 (10YR7/3)	普通	ミガキ	ミガキ, ナデ				
34	124	-	7G2	IV	土師器	高杯	A2	ほぼ 完形	21.3	14.4	15.2	石・長・雲	密	内：にぶい黄 (2.5Y6/3) 外：にぶい黄 (2.5Y6/3)	良好	杯：ヨコナデ, ミガキ, 脚：ナ デ, ミガキ	杯：ヨコナデ, ミガキ (一部砂 粒の移動顕著), 脚：ミガキ	23/36	22/36		
34	125	-	6I23	IV	土師器	高杯	(A1)	脚				石・長・雲・ チ	密	内：にぶい黄橙 (10YR7/4) 外：にぶい黄 (2.5Y6/3)	良好	ハラナデ (ケズリに近い)	ミガキ				
34	126	-	6G24	IV	土師器	高杯	A2	脚~杯 底				石・長・海	密	内：にぶい黄 (2.5Y6/3) 外：にぶい黄 (2.5Y6/3)	良好	ナデ	ミガキ				
34	127	-	7H25	IV	土師器	高杯	(A1)	脚				石・雲・焼	密	内：にぶい黄橙 (10YR7/2) 外：にぶい黄橙 (10YR7/3)	普通	ナデ	ミガキ				
34	128	-	6H12	IV	土師器	高杯	(A1)	脚				長・白	密	内：にぶい黄橙 (10YR6/3) 外：にぶい黄 (2.5Y6/3)	普通	ナデ	脚体：ハケメ→粗いミガキ (横 方向), 脚底：ミガキ				
34	129	-	7I13	IV	土師器	高杯	(A1)	脚		12.2		石・長・雲・ 白	ち密	内：浅黄 (2.5Y7/3) 外：浅黄 (2.5Y7/3)	良好	ナデ, ハケメ	ミガキ		13/36		
34	130	-	6I2・16	IV	土師器	高杯	(A2)	脚		11.9		石・長	密	内：にぶい黄橙 (10YR7/3) 外：にぶい黄橙 (10YR7/2)	良好	ハケメ→ナデ, 脚：ハケメ	ミガキ		19/36		
34	131	-	6G24	IV	土師器	高杯	(A2)	脚		13.3		石・長	ち密	内：にぶい黄橙 (10YR7/3) 外：にぶい黄橙 (10YR7/2)	良好	ハケメ, 輪積痕明瞭	ハケメ→ミガキ	15/36			
35	132	-	7I18	IV	土師器	器台	-	受~脚				石・雲	密	内：灰黄 (2.5Y7/2) 外：にぶい黄 (10YR7/3)	やや 不良	ナデ	ミガキ				脚透孔残存1カ所 受部内面・体部外面赤彩
35	133	-	6G19	IV	土師器	高杯	(A2)	杯底~ 脚				石・海	ち密	内：にぶい黄橙 (6/3) 外：にぶい黄橙 (6/3)	普通	杯：ミガキ	ミガキ				
35	134	-	8H4	IV	土師器	高杯	(A2)	脚				長・チ	普通	内：褐灰 (10YR5/1) 外：にぶい黄橙 (10YR7/3)	やや 不良	ナデ	ナデ				
35	135	-	7G13	IV	土師器	高杯	(A1)	脚				石・雲	密	内：浅黄 (2.5Y7/3) 外：灰黄 (2.5Y6/2)	良好	ナデ	ミガキ, 摩耗				
35	136	-	7H4	IV	土師器	蓋	-	紐~体				石・長・雲・ チ	粗	内：にぶい黄橙 (10YR6/4) 外：にぶい黄橙 (10YR7/4)	やや 不良	ナデ	ハケメ→ナデ				
35	137	-	6H10	IV	土製品	ミニチュ ア鉢	-	口~底	8.7	1.4	4.6	石・長・チ・ 焼・海	普通	内：にぶい黄 (2.5Y6/4) 外：にぶい黄 (2.5Y6/3)	普通	口：ヨコナデ, 体：ナデ, 輪積 痕明瞭	口：ヨコナデ, 体：ハケメ	1/36	34/36		手づくね?
35	138	-	6I7	IV	土製品	ミニチュ ア鉢	-	ほぼ 完形	6.6	4.7	3.9	石・長・雲・ チ・焼	密	内：浅黄 (2.5Y8/3) 外：浅黄 (2.5Y7/3)	良好	ナデ・指頭圧痕、底：ナデ	ハケメ→ナデ	5/36	36/36		手づくね 底部充填技法
35	139	-	6I23	IV	土製品	ミニチュ ア鉢	-	口~底		3.0		石・長・チ	密	内：にぶい黄橙 (10YR6/3) 外：灰黄褐 (10YR6/2)	普通	ヨコナデ, ナデ・輪積痕明瞭	ハケメ, ミガキ		36/36		手づくね? 底部充填技法
35	140	-	7G2	IV	土製品	ミニチュ ア壺	-	ほぼ 完形	2.9	2.1	4.9	石・長	密	内：浅黄 (2.5Y7/4) 外：浅黄 (2.5Y7/3)	良好	ナデ・輪積痕明瞭	体：ハケメ, 底：ケズリ		36/36		手づくね
35	141	-	6G23	IV	土製品	ミニチュ ア鉢	-	口~底	6.2	0.8	4.2	石・長・白	普通	内：灰黄褐 (10YR6/2) 外：にぶい黄橙 (10YR6/3)	普通	ヨコナデ, ナデ・指頭圧痕	ハケメ→ナデ, 一部ハラナデ	10/36			手づくね 外面に黒斑
35	142	-	9G4・8	IV	土製品	ミニチュ ア鉢	-	体~底		2.4		石・白	密	内：にぶい黄橙 (10YR7/3) 外：にぶい黄橙 (10YR7/4)	普通	ナデ	ハケメ		20/36		手づくね
35	143	-	9H7	III	陶器	椀	-	体					密	内：灰白 (2.5Y8/2) 外：灰黄 (2.5Y7/2)	良好						京都・信楽産

別表3 上大川遺跡 石製品観察表

図版 No.	報告書 No.	出土位置		層位	器種	石材	法量				備考
		遺構名	グリッド				長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	
35	1	-	8G9	IV	勾玉	蛇紋岩	19	15	5	1.2	
35	2	-	9F4	IV	管玉	緑色凝灰岩	19	7	7	1.8	
35	3	SE81			白玉	滑石	4	4	2	0.1g以下	
35	4	SE81			白玉	滑石	5	5	3	0.1	
35	5	SE255			白玉	滑石	5	5	1	0.1g以下	
35	6	P498	7I6	1	砥石	泥岩	106	38	28	150.6	
35	7	-	9F22	IV	軽石製石製品	軽石	49	52	38	24.9	
35	8	-	8H14	IV	軽石製石製品	軽石	95	116	30	123.1	穿孔あり
35	9	-	7G5	IV	軽石製石製品	軽石	39	54	23	24.2	

別表4 上大川遺跡 木製品観察表

図版 No.	報告書 No.	出土位置		層位	種別	法量 (cm)			木取	備考
		遺構名	グリッド			長さ	幅	厚さ		
36	1	P89	8G6	5	柱根	15.0	2.8	3.2	丸材	
36	2	P102	8G18	3	柱根	23.3	3.8	3.4	丸材	底部に加工痕あり
36	3	P204	7G20	4	柱根	31.8	10.2	8.6	丸材	
36	4	P258	8G15・20	2	柱根	20.2	6.5	5.9	丸材?	底部に加工痕あり
36	5	P383	8G10	2	柱根	24.8	6.6	5.8	割材	底部に加工痕あり
36	6	P339	8G13	1	柱根	22.3	5.0	4.4	丸材	

別表 5 上大川遺跡 遺構出土土師器器種構成率

1 古墳時代の遺構から出土した土器（土師器）の構成比率を示した表である。出土点数の少ない遺構については掲載していない。
 2 土器の計測法は口縁部残存率法（宇野 1992、春日 1994）とそれを応用した底部残存率法により計測した。また、併せて口縁数・底部数を示した。
 3 口縁・底部残存率によって得られた数値は* /36 を示し、それぞれ口縁値・底残値と略記した。

遺構	種別 計測法	土師器												合計				
		甕	壺	鉢	高杯	器台	台付鉢	有孔鉢	蓋	不明	ミニチュア土器							
SE8	口縁値	0.06	40.7%	0.08	59.3%												0.14	100%
	口縁数 (点)	4	80.0%	1	20.0%												5	100%
	底残値																	
	底部数 (点)																	
	総点数 (点)	57	98.3%	1	1.7%												58	100%
SE81	総重量 (g)	392.1	91.6%	35.9	8.4%												428.0	100%
	口縁値	0.36	37.1%			0.56	57.2%	0.06	5.7%					0.03%	0.03%		0.97	100%
	口縁数 (点)	5	55.6%			1	11.1%	2	22.2%					1	11.1%		9	100%
	底残値			1.0	100.0%												1.00	100%
	底部数 (点)			1	100.0%												1	100%
SE170	総点数 (点)	145	83.3%	25	14.4%	1	0.6%	2	1.1%					1	0.6%		174	100%
	総重量 (g)	951.7	45.5%	1119.9	53.5%	10.0	0.5%	8.1	0.4%					3.4	0.2%		2,093.1	100%
	口縁値	0.50	82.0%					0.11	18.0%								0.61	100%
	口縁数 (点)	10	90.9%					1	9.1%								11	100%
	底残値	1.00	100.0%														1.00	100%
SE255	底部数 (点)	3	100.0%														3	100%
	総点数 (点)	111	96.5%	2	1.7%			2	1.7%								115	100%
	総重量 (g)	1396.4	98.5%	6.8	0.5%			14.3	1.0%								1,417.5	100%
	口縁値	0.36	76.8%			0.03	5.8%	0.03	5.8%					0.06	11.7%		0.47	100%
	口縁数 (点)	11	73.3%			1	6.7%	1	6.7%					2	13.3%		15	100%
SE457	底残値																	
	底部数 (点)																	
	総点数 (点)	10	27.8%	26	72.2%												36	100%
	総重量 (g)	44.7	17.5%	211.1	82.5%												255.8	100%
	口縁値	0.31	100.0%														0.31	100%
SE491	口縁数 (点)	4	100.0%														4	100%
	底残値	1.00	100.0%														1.00	100%
	底部数 (点)	3	100.0%														3	100%
	総点数 (点)	63	86.3%	9	12.3%												73	100%
	総重量 (g)	668.7	78.2%	184.1	21.5%									1.9	0.2%		854.7	100%
SK200	口縁値																	
	口縁数 (点)																	
	底残値																	
	底部数 (点)																	
	総点数 (点)	2	100.0%														2	100%
SK49	総重量 (g)	17.8	100.0%														17.8	100%
	口縁値																	
	口縁数 (点)																	
	底残値																	
	底部数 (点)	9	100.0%														9	100%
SK42	総重量 (g)	25.4	100.0%														25.4	100%
	口縁値																	
	口縁数 (点)																	
	底残値																	
	底部数 (点)	1	100.0%														1	100%
SK285	総重量 (g)	1.3	100.0%														1.3	100%
	口縁値	0.03	100.0%														0.03	100%
	口縁数 (点)	1	100.0%														1	100%
	底残値																	
	底部数 (点)	5	100.0%														5	100%
SK34	総重量 (g)	36.6	100.0%														36.6	100%
	口縁値																	
	口縁数 (点)																	
	底残値																	
	底部数 (点)	1	100.0%														1	100%
SK37	総重量 (g)	9.4	100.0%														9.4	100%
	口縁値	0.03	8.1%	0.03	8.1%					0.28	83.8%						0.33	100%
	口縁数 (点)	5	45.5%	3	27.3%					3	27.3%						11	100%
	底残値					1.00	100.0%										1.00	100%
	底部数 (点)					1	100.0%										1	100%
SK37	総重量 (g)	56	67.5%	16	19.3%			2	2.4%								83	100%
	口縁値	690.9	53.7%	151.3	11.8%	111.7	8.7%	12.6	1.0%								1,287.0	100%
	口縁数 (点)																	
	底残値																	
	底部数 (点)																	

遺構	種別	土師器										合計									
		甕	壺	鉢	高杯	器台	台付鉢	有孔鉢	蓋	不明	ミニチュア土器										
SK231	口残値																				
	口縁数 (点)																				
	底部数 (点)																				
	総点数 (点)	18	100.0%																	18	100%
SK64	口残値																				
	口縁数 (点)																				
	底部数 (点)																				
	総点数 (点)	1	100.0%																	1	100%
SK104	口残値																				
	口縁数 (点)																				
	底部数 (点)	8	88.9%																	9	100%
	総点数 (点)	21.9	95.2%												1	11.1%				23.0	100%
SK127	口残値																				
	口縁数 (点)	0.03																			
	底部数 (点)	1																		1	0%
	総点数 (点)	3	100.0%																	3	100%
SK172	口残値																				
	口縁数 (点)																				
	底部数 (点)																				
	総点数 (点)																				
SK80	口残値																				
	口縁数 (点)																				
	底部数 (点)	3	100.0%																	3	100%
	総点数 (点)	11.0	100.0%																	11.0	100%
SK184	口残値																				
	口縁数 (点)																				
	底部数 (点)	1	100.0%																	1	100%
	総点数 (点)	6.8	100.0%																	6.8	100%
SK185	口残値																				
	口縁数 (点)																				
	底部数 (点)	2	100.0%																	2	100%
	総点数 (点)	3.9	100.0%																	3.9	100%
SK211	口残値																				
	口縁数 (点)																				
	底部数 (点)	1	100.0%																	1	100%
	総点数 (点)	13.2	100.0%																	13.2	100%
SK77	口残値																				
	口縁数 (点)																				
	底部数 (点)	6	100.0%																	6	100%
	総点数 (点)	12.2	100.0%																	12.2	100%
SK144	口残値																				
	口縁数 (点)	0.06	20.0%			0.22	80.0%													0.28	100%
	底部数 (点)	1	25.0%			3	75.0%													4	100%
	総点数 (点)	45	71.4%			1.00	100.0%													1.00	100%
SK221	口残値																				
	口縁数 (点)																				
	底部数 (点)	1	100.0%																	1	100%
	総点数 (点)	45	71.4%			18	28.6%													63	100%
SK299	口残値																				
	口縁数 (点)																				
	底部数 (点)	2	66.7%			1	33.3%													3	100%
	総点数 (点)	8.6	80.4%			2.1	19.6%													10.7	100%

遺構	種別 計測法	土師器										合計						
		甕	壺	鉢	高杯	器台	台付鉢	有孔鉢	蓋	不明	ミニチュア土器							
SK272	口残値																	
	口縁数 (点)																	
	底部数 (点)																	
	総点数 (点)	3	100.0%													3	100%	
SK349	口残値	11.3	100.0%													11.3	100%	
	口縁数 (点)	0.06	100.0%													0.06	100%	
	底部数 (点)	1	100.0%													1	100%	
	総点数 (点)	12	75.0%	3	18.8%	1	6.3%									16	100%	
SK422	口残値	123.4	88.4%	13.6	9.7%	2.6	1.9%									139.6	100%	
	口縁数 (点)																	
	底部数 (点)																	
	総点数 (点)	1	100.0%													1	100%	
SK418	口残値	2.6	100.0%													2.6	100%	
	口縁数 (点)																	
	底部数 (点)																	
	総点数 (点)	3	75.0%										1	25.0%		4	100%	
SK515	口残値	6.9	66.3%										3.5	33.7%		10.4	100%	
	口縁数 (点)												0.06	100.0%		0.06	100%	
	底部数 (点)												1	100.0%		1	100%	
	総点数 (点)												1	100.0%		1	100%	
SK458	口残値				0.28	100.0%										3.6	100%	
	口縁数 (点)				8	100.0%										8	100%	
	底部数 (点)						9	60.0%								15	100%	
	総点数 (点)	6	40.0%				9	60.0%								15	100%	
SK505	口残値	16.8	30.2%			38.8	69.8%									55.6	100%	
	口縁数 (点)																	
	底部数 (点)																	
	総点数 (点)	1	100.0%													1	100%	
SK215	口残値	2.4	100.0%													2.4	100%	
	口縁数 (点)																	
	底部数 (点)																	
	総点数 (点)	2	100.0%													2	100%	
SK459	口残値	20.9	100.0%													20.9	100%	
	口縁数 (点)	1.11	45.9%	0.06	2.5%	1.03	42.6%	0.14	5.8%				0.08	3.3%		2.42	100%	
	底部数 (点)	19	46.3%	1	2.4%	14	34.1%	2	4.9%				5	12.2%		41	100%	
	総点数 (点)	0.11	15.9%	0.58	84.1%											0.69	100%	
SK101	口残値	1	50.0%	1	50.0%											2	100%	
	口縁数 (点)	339	72.9%	47	10.1%	51	11.0%	9	1.9%				19	4.1%		465	100%	
	底部数 (点)	2405.2	55.1%	848.4	19.43%	921.1	21.1%	91.0	2.08%				100.5	2.3%		4366.2	100%	
	総点数 (点)																	
SD447	口残値																	
	口縁数 (点)																	
	底部数 (点)	3	100.0%													3	100%	
	総点数 (点)	7.7	100.0%													7.7	100%	
SX36	口残値	2.58	65.1%	0.42	10.6%	0.08	2.0%	0.33	8.3%			0.53	13.3%		0.03	0.7%	3.96	100%
	口縁数 (点)	44	67.7%	5	7.7%	2	3.1%	5	7.7%			7	10.8%		2	3.1%	65	100%
	底部数 (点)			2.42	65.4%			0.28	7.5%			1.00	27.1%				3.69	100%
	総点数 (点)			3	25.0%			4	33.3%			5	41.7%				12	100%
SX173	口残値	601	86.8%	54	7.8%	2	0.3%	14	2.0%	1	0.1%			3	0.4%	692	100%	
	口縁数 (点)	3705.2	74.7%	427.3	8.6%	18.8	0.4%	219.2	4.4%	98.8	2.0%			6.7	0.1%	4957.0	100%	
	底部数 (点)	0.05	100.0%													0.05	100%	
	総点数 (点)	5	100.0%													5	100%	
SX173	口残値	0.77	100.0%													0.77	100%	
	口縁数 (点)	1	100.0%													1	100%	
	底部数 (点)	218	100.0%													218	100%	
	総点数 (点)	609.4	100.0%													609.4	100%	
SX173	口残値	0.03	100.0%													0.03	100%	
	口縁数 (点)	1	100.0%													1	100%	
	底部数 (点)																	
	総点数 (点)	2	100.0%													2	100%	
SX173	口残値	12.3	100.0%													12.3	100%	
	口縁数 (点)																	

遺構	種別	土師器											合計			
		計測法	甕		壺		鉢	高杯	器台	台付鉢	有孔鉢	蓋	不明	ミニチュア土器		
SX536	口残値	0.08	50.0%	0.08	50.0%										0.16	100%
	口縁数 (点)	4	66.7%	2	33.3%										6	100%
	底残値	0.06	100.0%												0.06	100%
	底部数 (点)	1	100.0%												1	100%
	総点数 (点)	42	76.4%	13	23.6%										55	100%
	総重量 (g)	187.4	59.6%	126.9	40.4%										314.3	100%
P97	口残値															
	口縁数 (点)															
	底残値															
	底部数 (点)															
	総点数 (点)	2	100.0%												2	100%
	総重量 (g)	12.8	100.0%												12.8	100%
P356	口残値															
	口縁数 (点)															
	底残値															
	底部数 (点)															
	総点数 (点)	1	100.0%												1	100%
	総重量 (g)	0.4	100.0%												0.4	100%
P327	口残値															
	口縁数 (点)															
	底残値															
	底部数 (点)															
	総点数 (点)	1	100.0%												1	100%
	総重量 (g)	3.7	100.0%												3.7	100%
P174	口残値															
	口縁数 (点)	1	100.0%												1	100%
	底残値															
	底部数 (点)															
	総点数 (点)	3	75.0%	1	25.0%										4	100%
	総重量 (g)	14.3	66.5%	7.2	33.5%										21.5	100%
P430	口残値															
	口縁数 (点)															
	底残値															
	底部数 (点)															
	総点数 (点)	5	100.0%												5	100%
	総重量 (g)	12.1	100.0%												12.1	100%
P437	口残値															
	口縁数 (点)															
	底残値															
	底部数 (点)															
	総点数 (点)	1	100.0%												1	100%
	総重量 (g)	1.0	100.0%												1.0	100%
P445	口残値	0.08	100.0%												0.08	100%
	口縁数 (点)	2													2	0%
	底残値															
	底部数 (点)															
	総点数 (点)	2	100.0%												2	100%
	総重量 (g)	17.9	100.0%												17.9	100%
P452	口残値					0.06	100.0%								0.06	100%
	口縁数 (点)					1	100.0%								1	100%
	底残値															
	底部数 (点)															
	総点数 (点)	1	50.0%			1	50.0%								2	100%
	総重量 (g)	8.1	84.4%			1.5	15.6%								9.6	100%
P321	口残値															
	口縁数 (点)															
	底残値															
	底部数 (点)															
	総点数 (点)	2	100.0%												2	100%
	総重量 (g)	8.8	100.0%												8.8	100%
P394	口残値															
	口縁数 (点)															
	底残値															
	底部数 (点)					1	100.0%								1	100%
	総点数 (点)					8.2	100.0%								8.2	100%
	総重量 (g)															
P135	口残値	0.03	100.0%												0.03	100%
	口縁数 (点)	1	100.0%												1	100%
	底残値															
	底部数 (点)															
	総点数 (点)	2	66.7%	1	33.3%										3	100%
	総重量 (g)	8.4	87.5%	1.2	12.5%										9.6	100%
P139	口残値															
	口縁数 (点)															
	底残値															
	底部数 (点)															
	総点数 (点)	27	100.0%												27	100%
	総重量 (g)	125.3	100.0%												125.3	100%

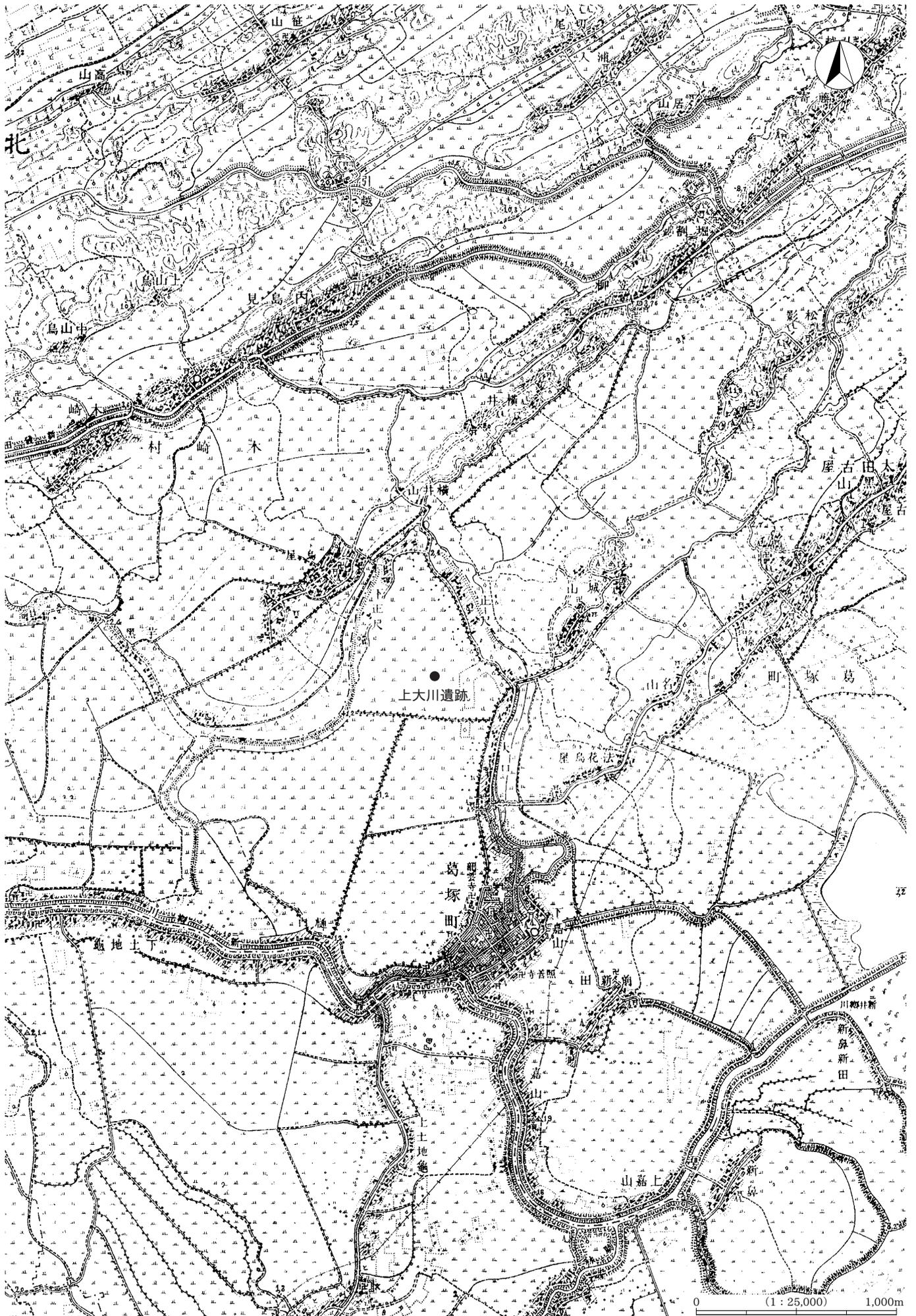
遺構	種別 計測法	土師器										合計					
		甕	壺	鉢	高杯	器台	台付鉢	有孔鉢	蓋	不明	ミニチュア土器						
P140	口残値																
	口縁数 (点)																
	底残値																
	底部数 (点)																
	総点数 (点)	3	100.0%													3	100%
P189	口残値	30.9	100.0%													30.9	100%
	口縁数 (点)																
	底残値																
	底部数 (点)																
	総点数 (点)	1	50.0%				1	50.0%								2	100%
P98	口残値	3.8	1.8%				207.2	98.2%								211.0	100%
	口縁数 (点)																
	底残値						0.19	100.0%								0.19	100%
	底部数 (点)						3	100.0%								3	100%
	総点数 (点)						3	100.0%								3	100%
P417	口残値	0.11	100.0%				37	100.0%								37	100%
	口縁数 (点)	1	100.0%												1	100%	
	底残値																
	底部数 (点)																
	総点数 (点)	1	100.0%												1	100%	
P476	口残値	44.2	100.0%													44.2	100%
	口縁数 (点)	0.08	100.0%												0.08	100%	
	底残値																
	底部数 (点)																
	総点数 (点)	1	100.0%												1	100%	
P498	口残値	36.8	100.0%													36.8	100%
	口縁数 (点)																
	底残値																
	底部数 (点)	3	100.0%												3	100%	
	総点数 (点)	3	100.0%												3	100%	
P500	口残値	6.2	100.0%													6.2	100%
	口縁数 (点)																
	底残値																
	底部数 (点)																
	総点数 (点)	3	100.0%												3	100%	
P502	口残値	19.0	65.3%													19.0	65.3%
	口縁数 (点)						0.08	100.0%								0.08	100%
	底残値						3	100.0%								3	100%
	底部数 (点)																
	総点数 (点)						1	4.0%								25	100%
P473	口残値						24	96.0%								24	96.0%
	口縁数 (点)						38.5	96.5%								38.5	96.5%
	底残値						0.42	100.0%								0.42	100%
	底部数 (点)						5	100.0%								5	100%
	総点数 (点)						6	24.0%								25	100%
P257	口残値	7.8	3.8%				16.2	7.9%								24.5	100%
	口縁数 (点)																
	底残値																
	底部数 (点)																
	総点数 (点)	6	24.0%				10	40.0%								25	100%
P502	口残値	7.8	3.8%				16.2	7.9%								24.5	100%
	口縁数 (点)																
	底残値																
	底部数 (点)																
	総点数 (点)	1	50.0%				1	50.0%								2	100%
P257	口残値	2.6	41.3%				3.7	58.7%								6.3	100%
	口縁数 (点)																
	底残値																
	底部数 (点)																
	総点数 (点)	1	50.0%				1	50.0%								2	100%
P257	口残値	2.6	41.3%				3.7	58.7%								6.3	100%
	口縁数 (点)																
	底残値																
	底部数 (点)																
	総点数 (点)	1	50.0%				1	50.0%								2	100%

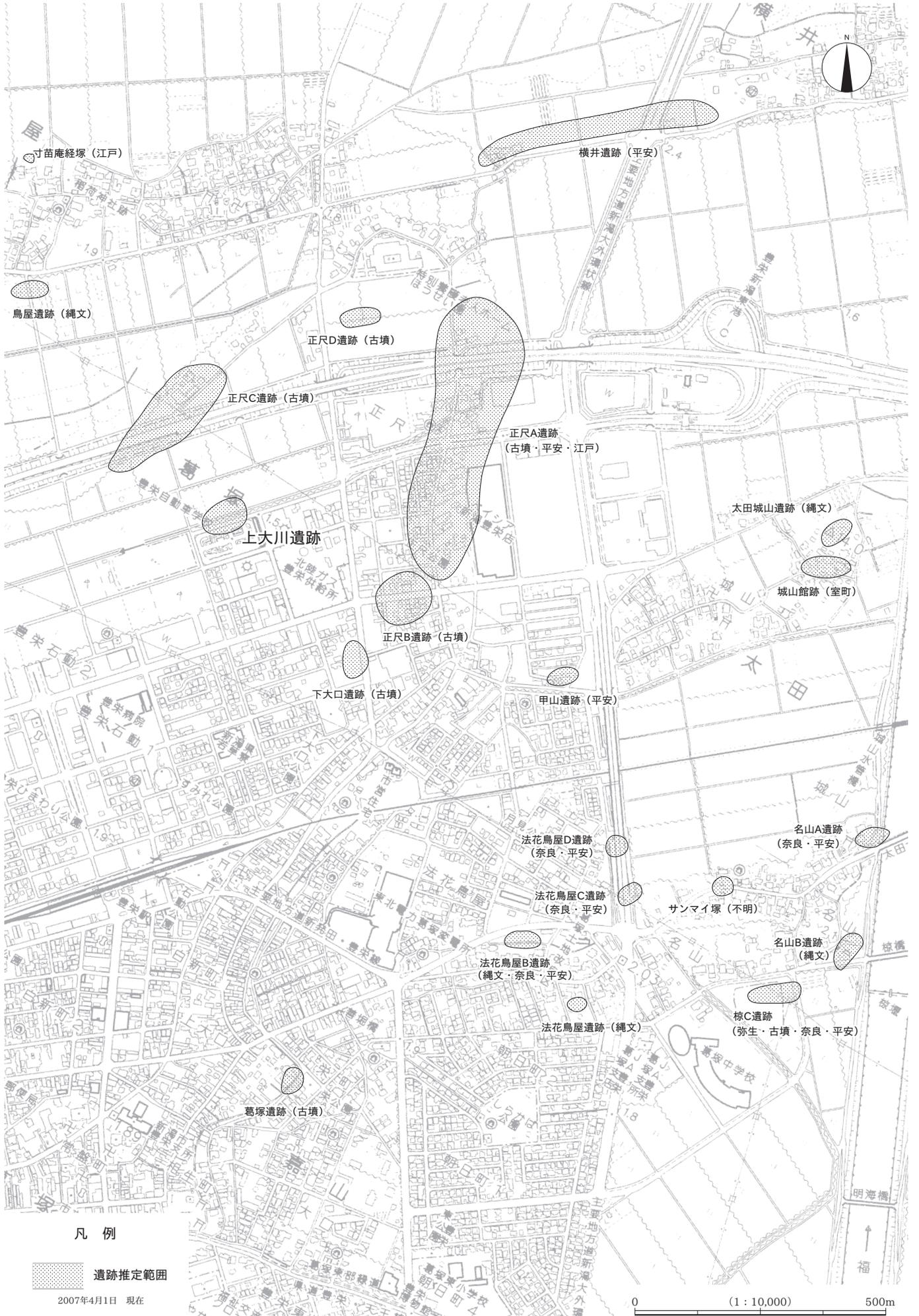
版 圖

凡 例

 赤彩

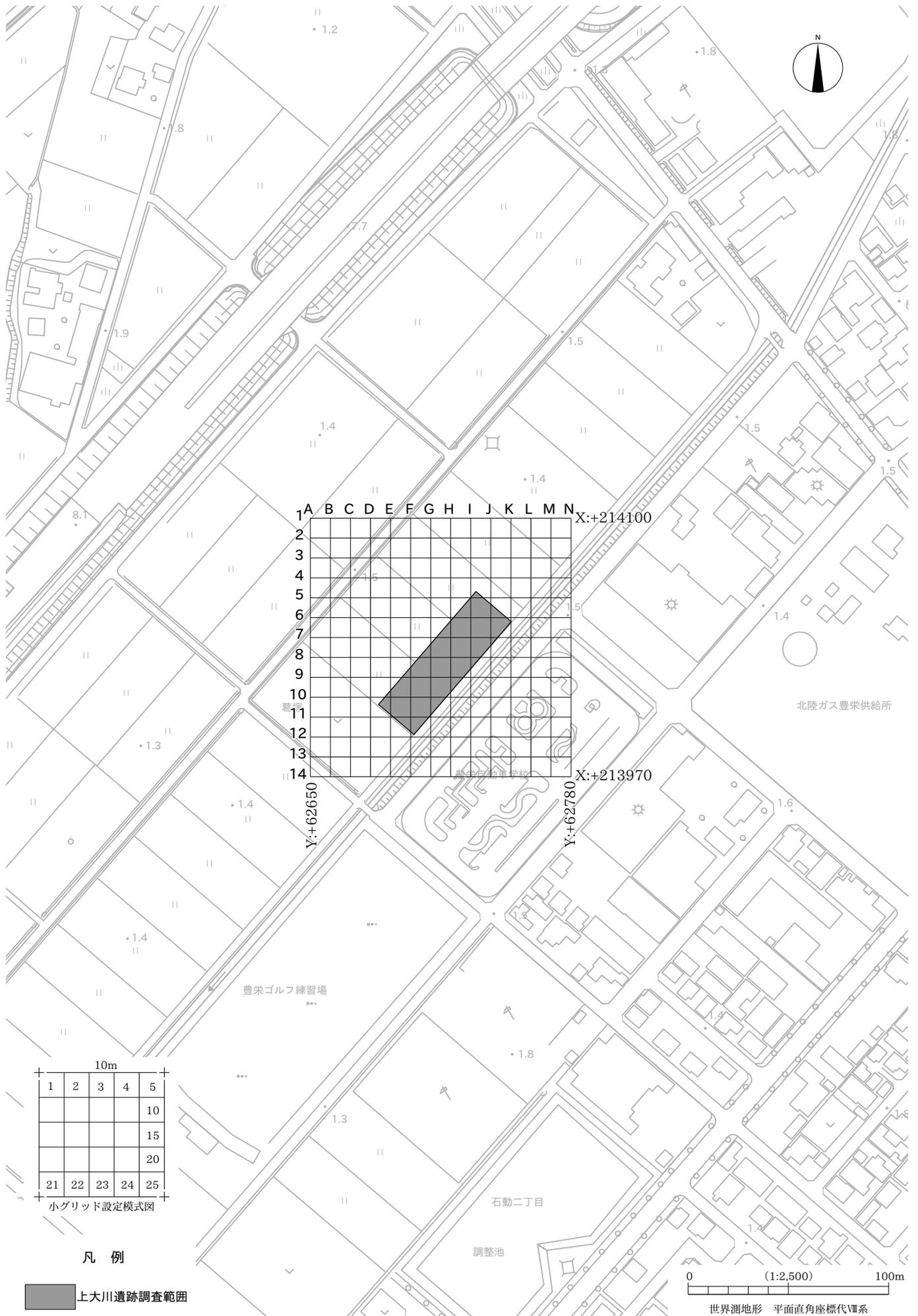
 欠損部分(木製品)





凡例

 遺跡推定範囲
 2007年4月1日 現在



1 A B C D E F G H I J K L M N X:+214100
 2
 3
 4
 5
 6
 7
 8
 9
 10
 11
 12
 13
 14 Y:+62650 X:+213970 Y:+62780

10m

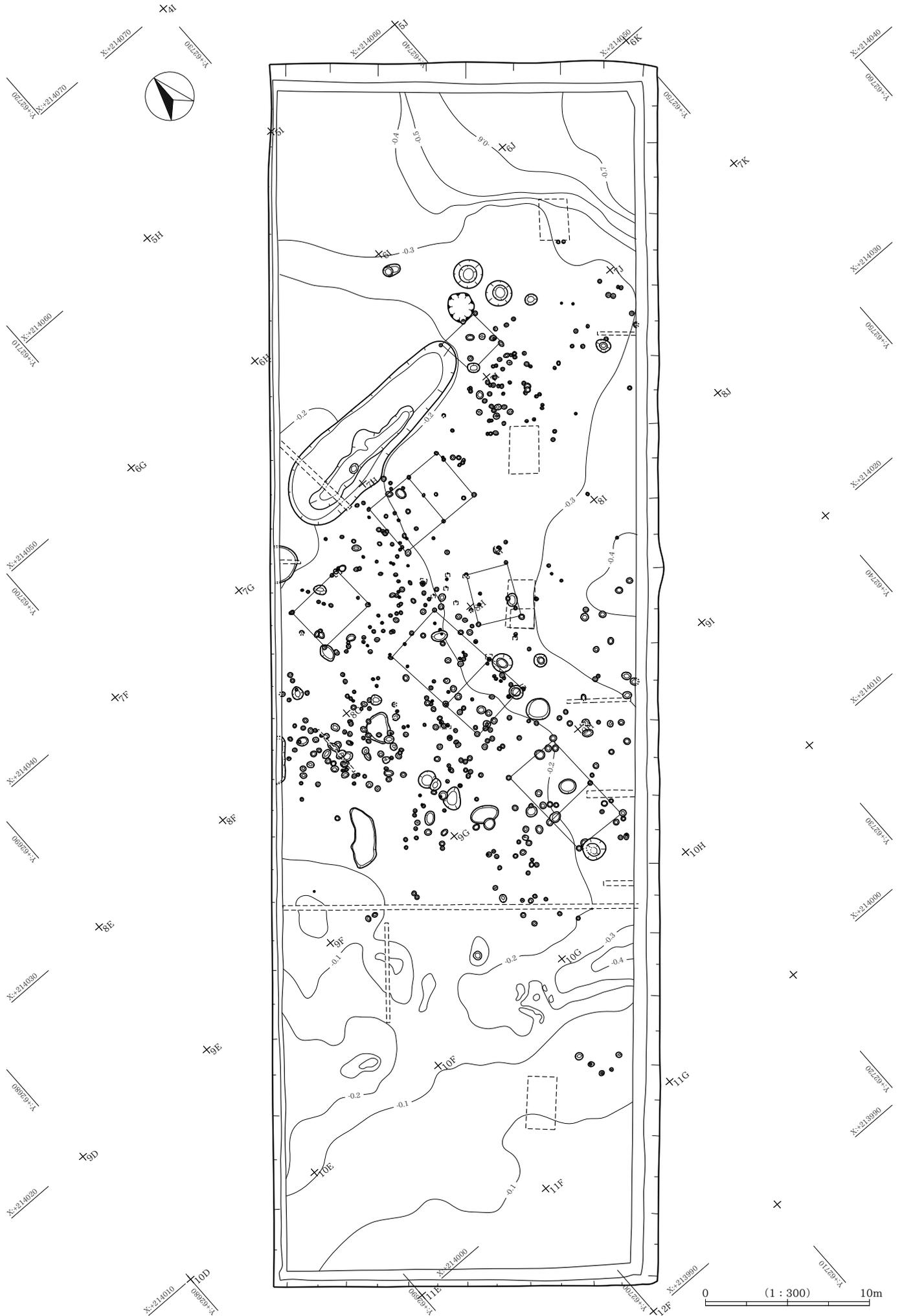
1	2	3	4	5
				10
				15
				20
21	22	23	24	25

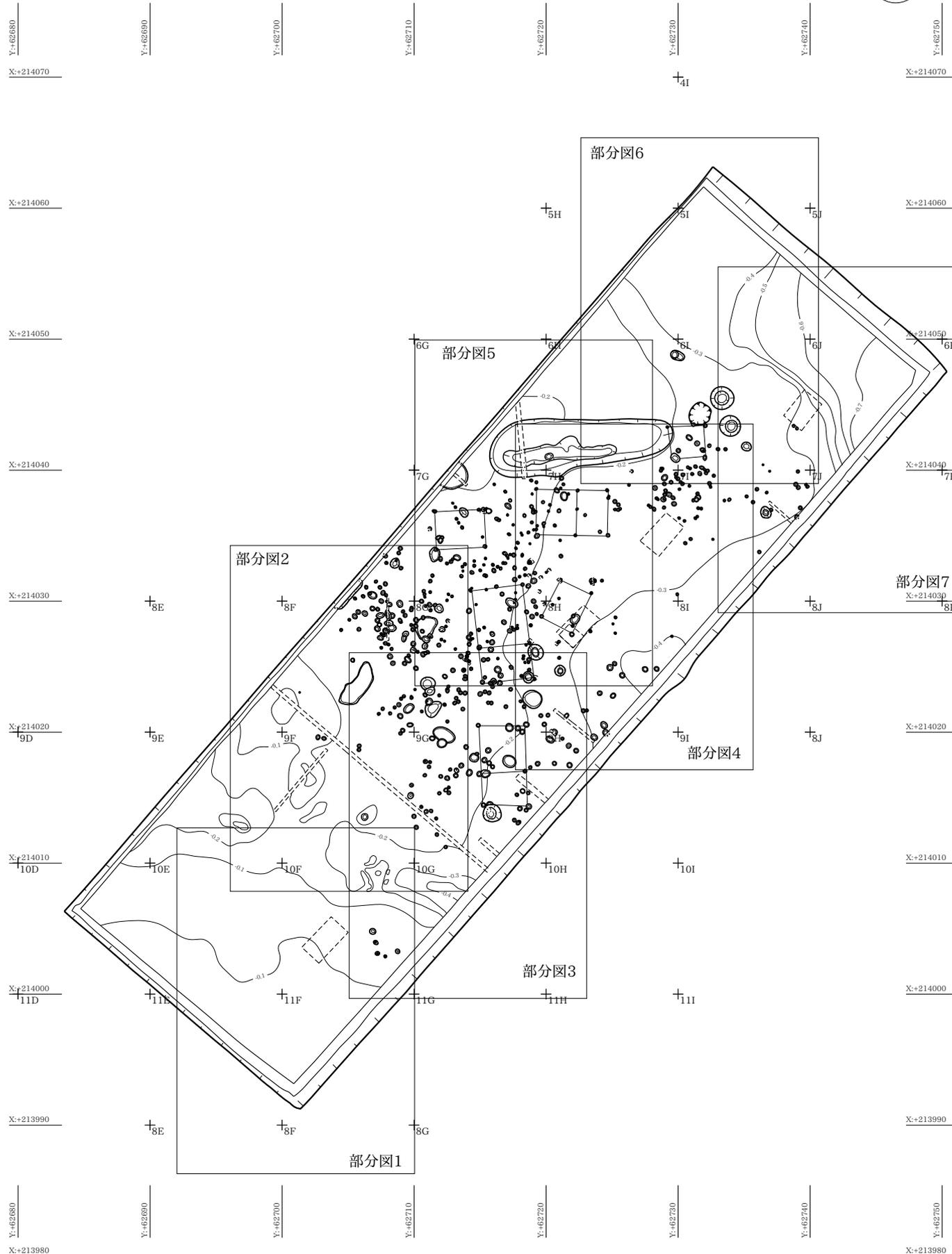
小グリッド設定模式図

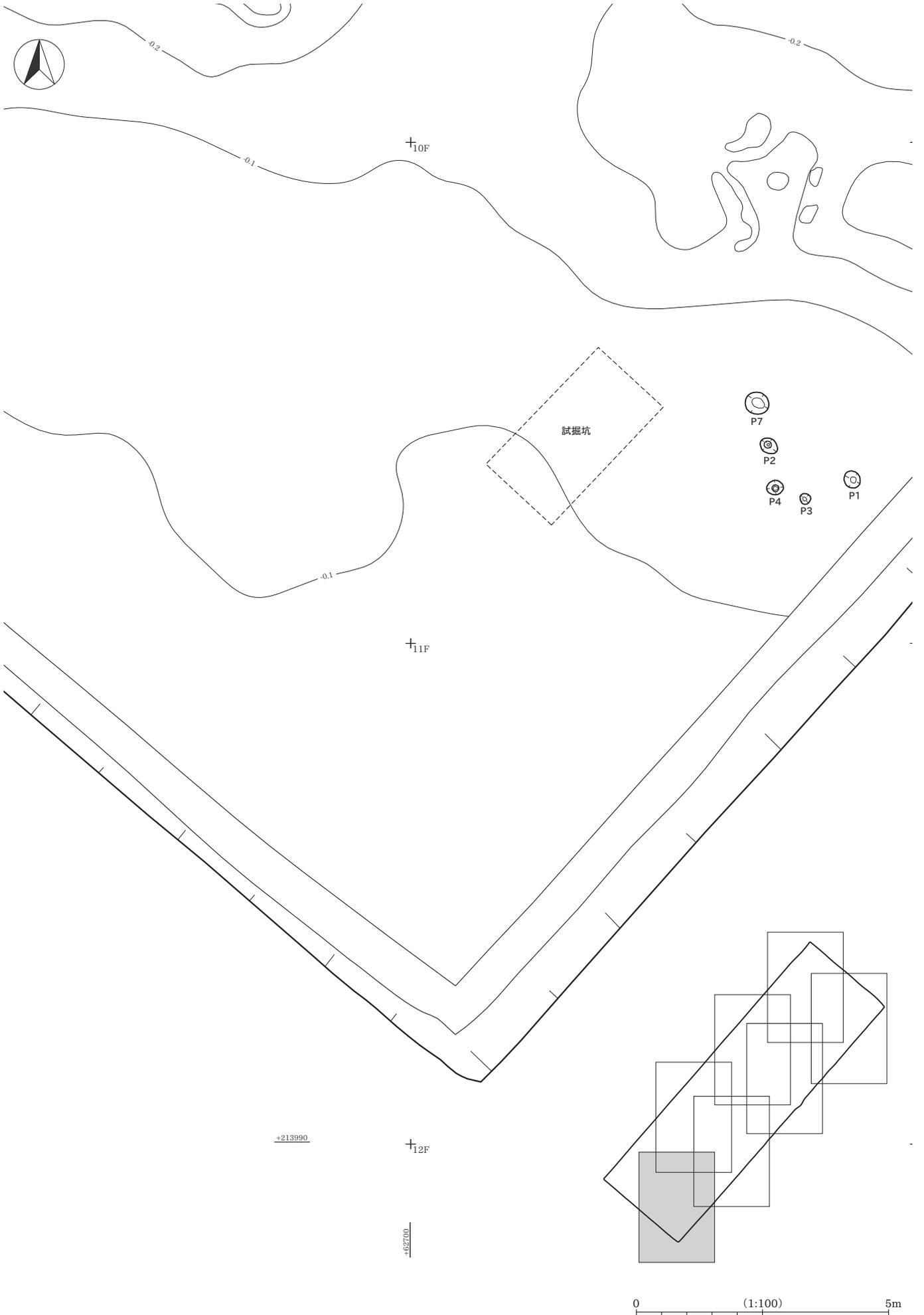
凡例

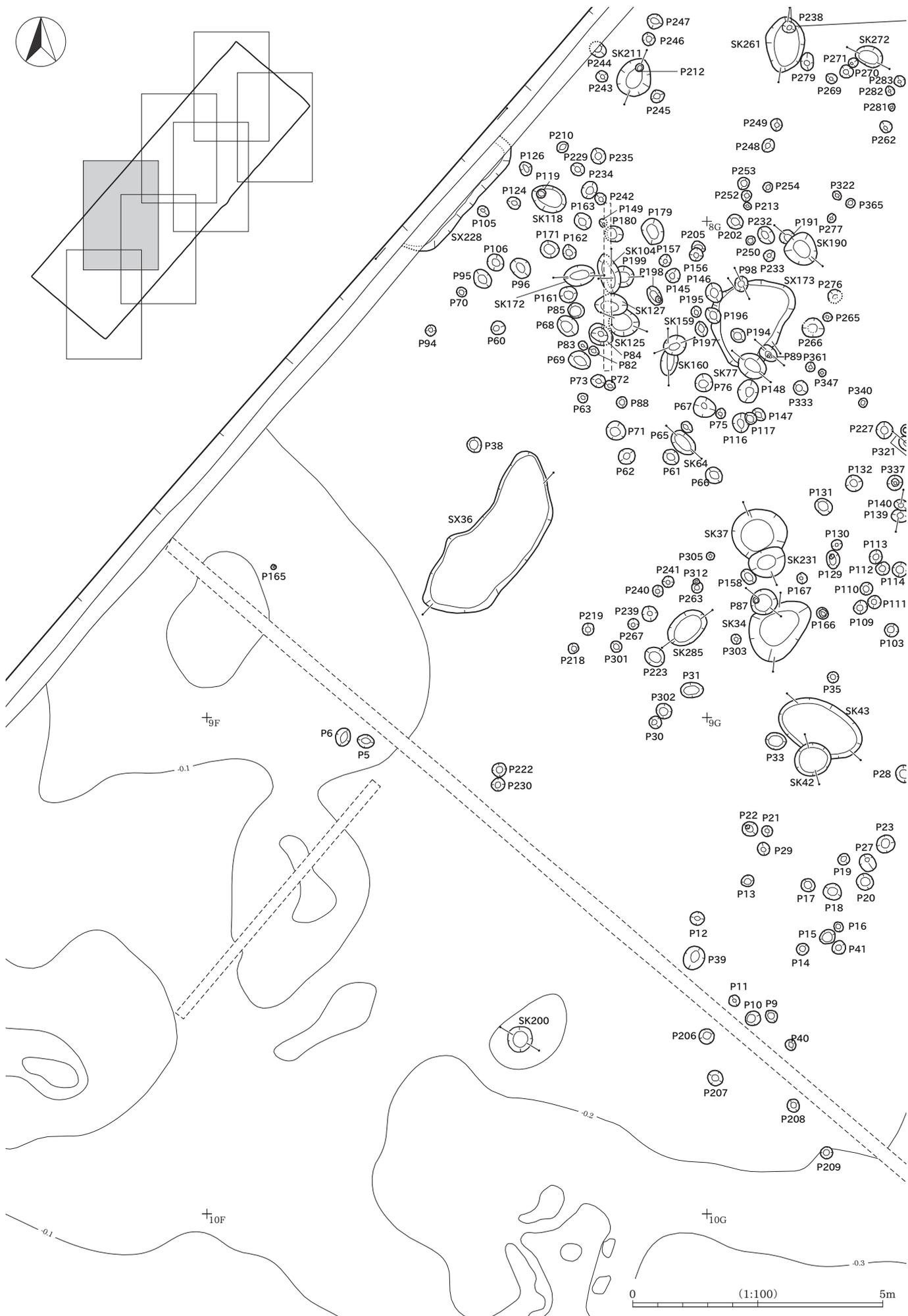
■ 上大川遺跡調査範囲

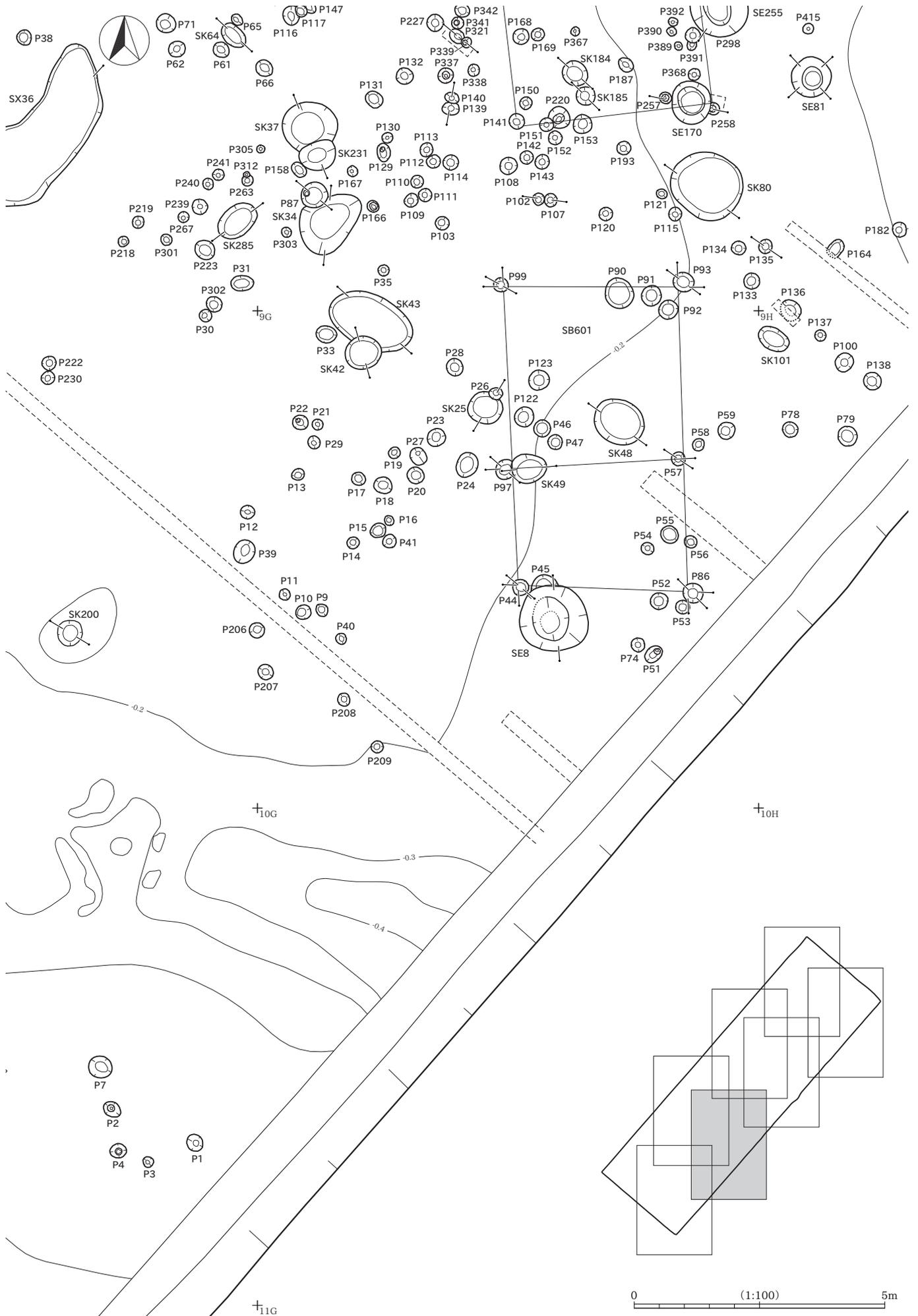
0 (1:2,500) 100m
 世界測地形 平面直角座標代Ⅶ系

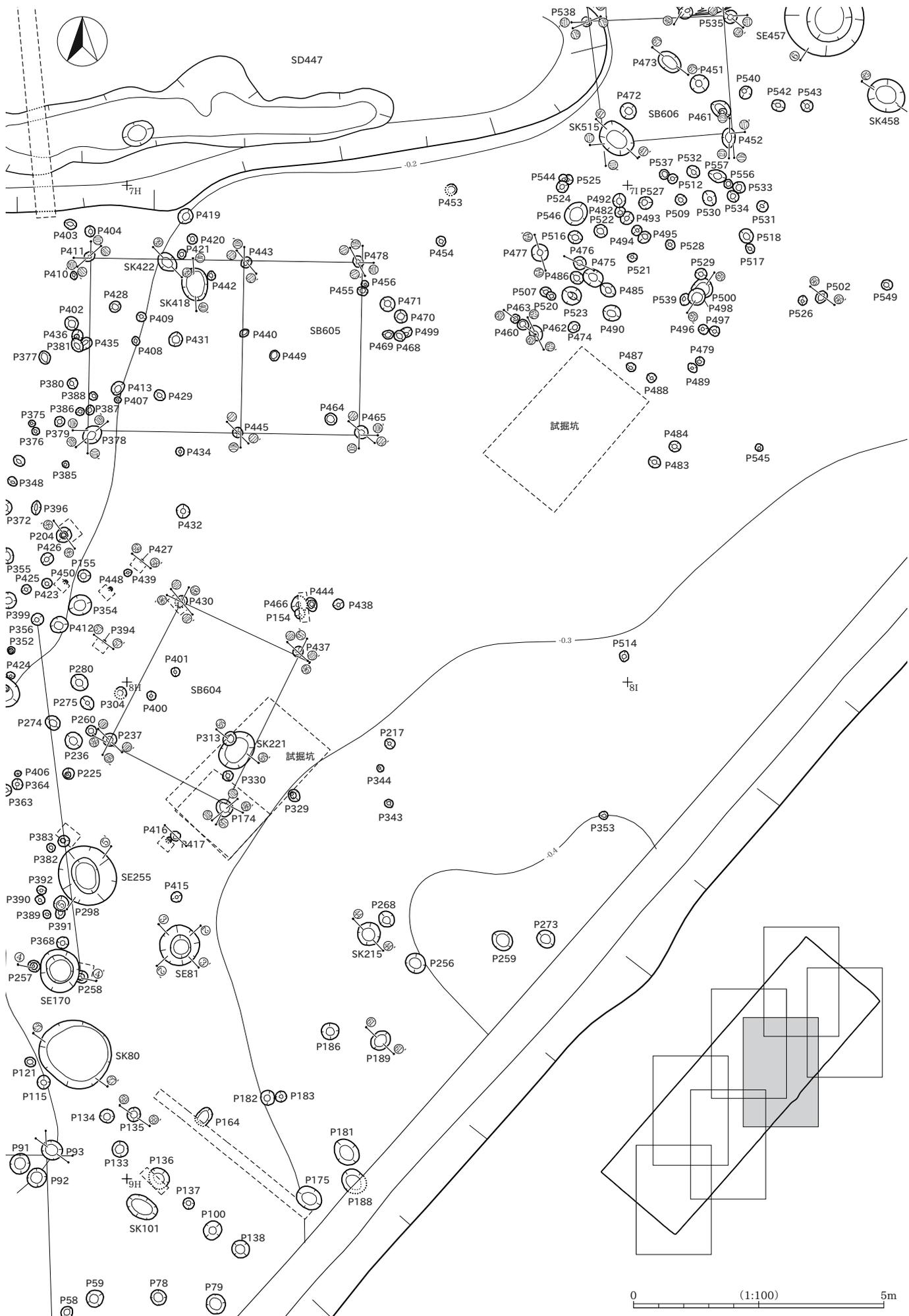


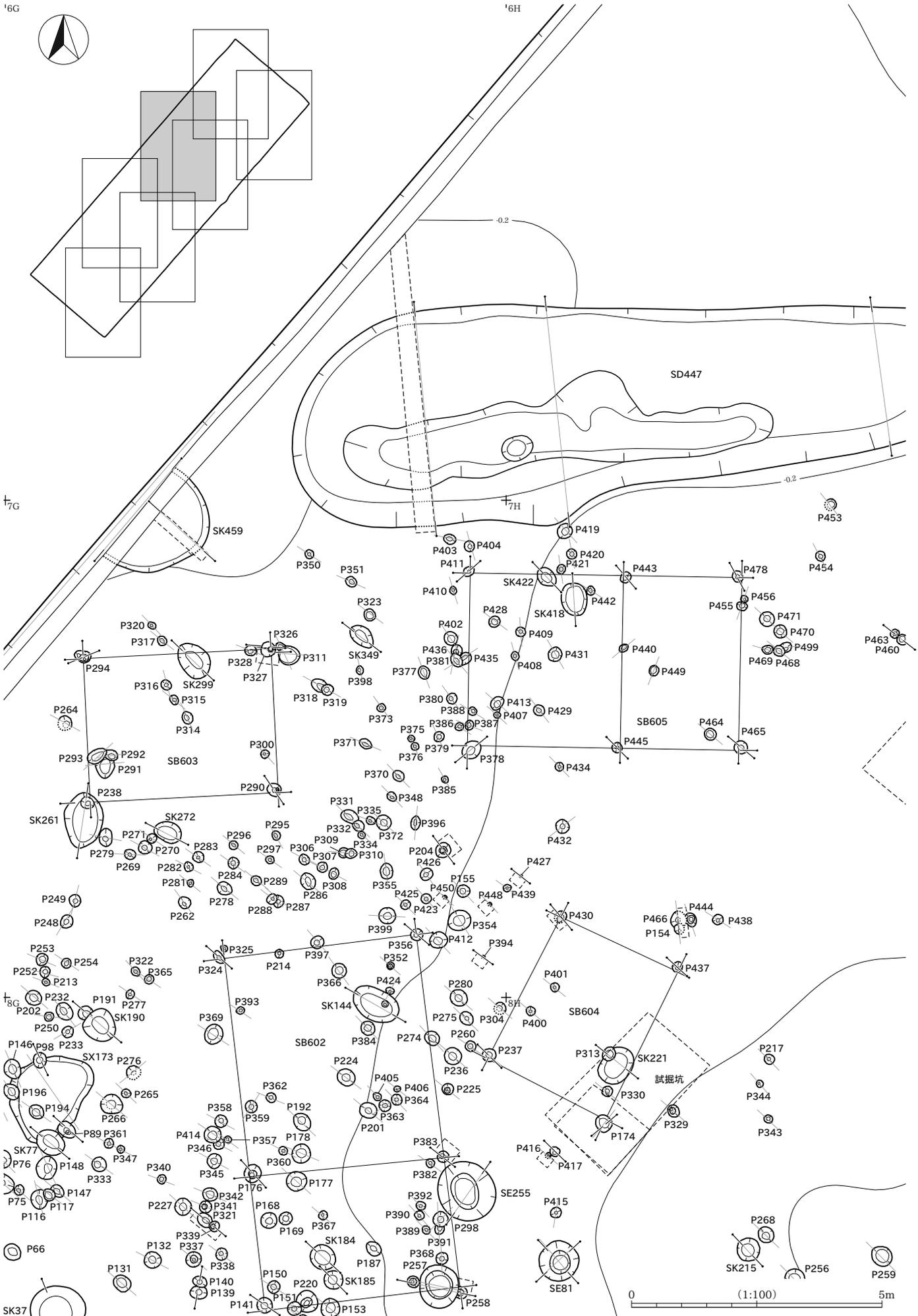


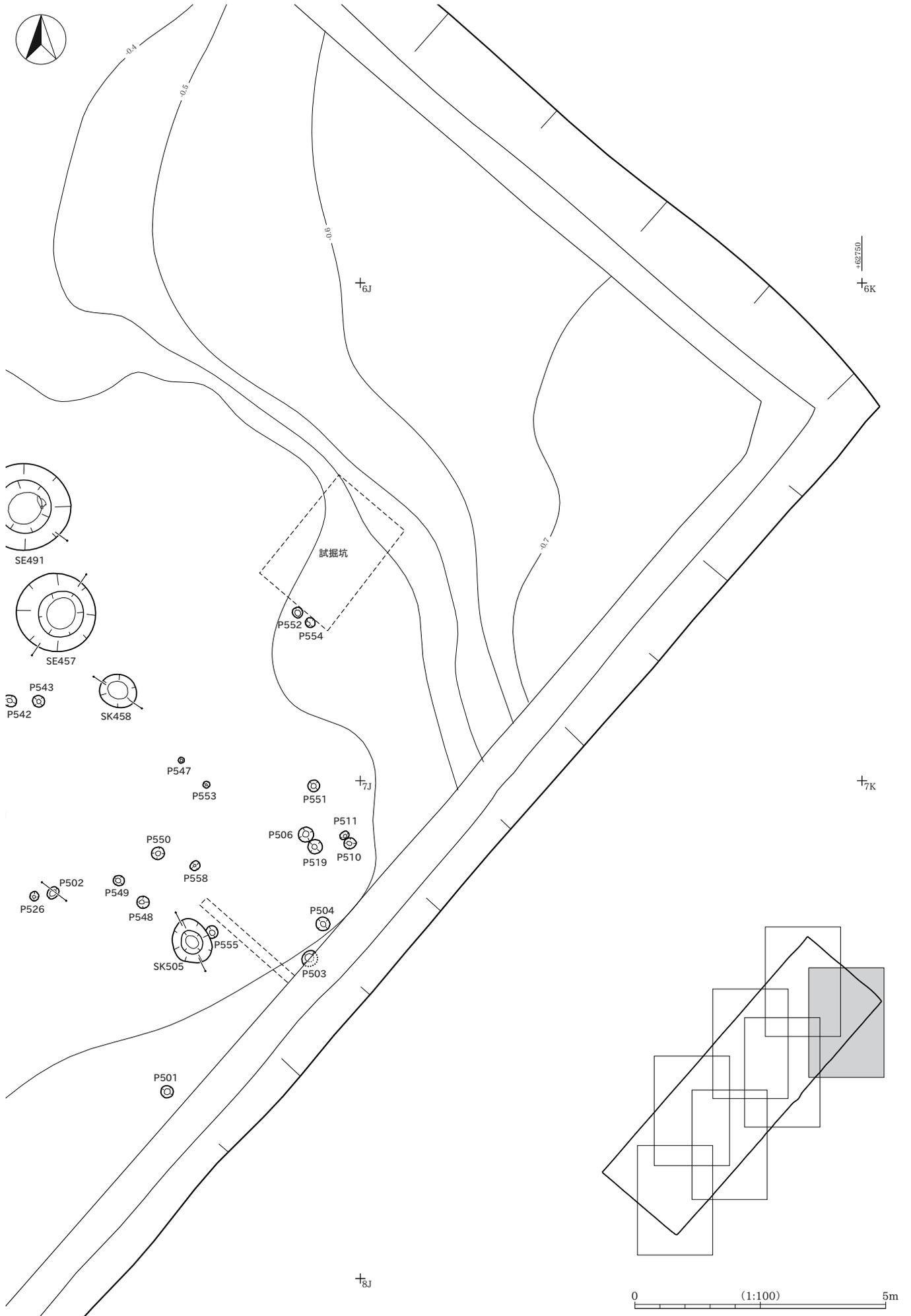


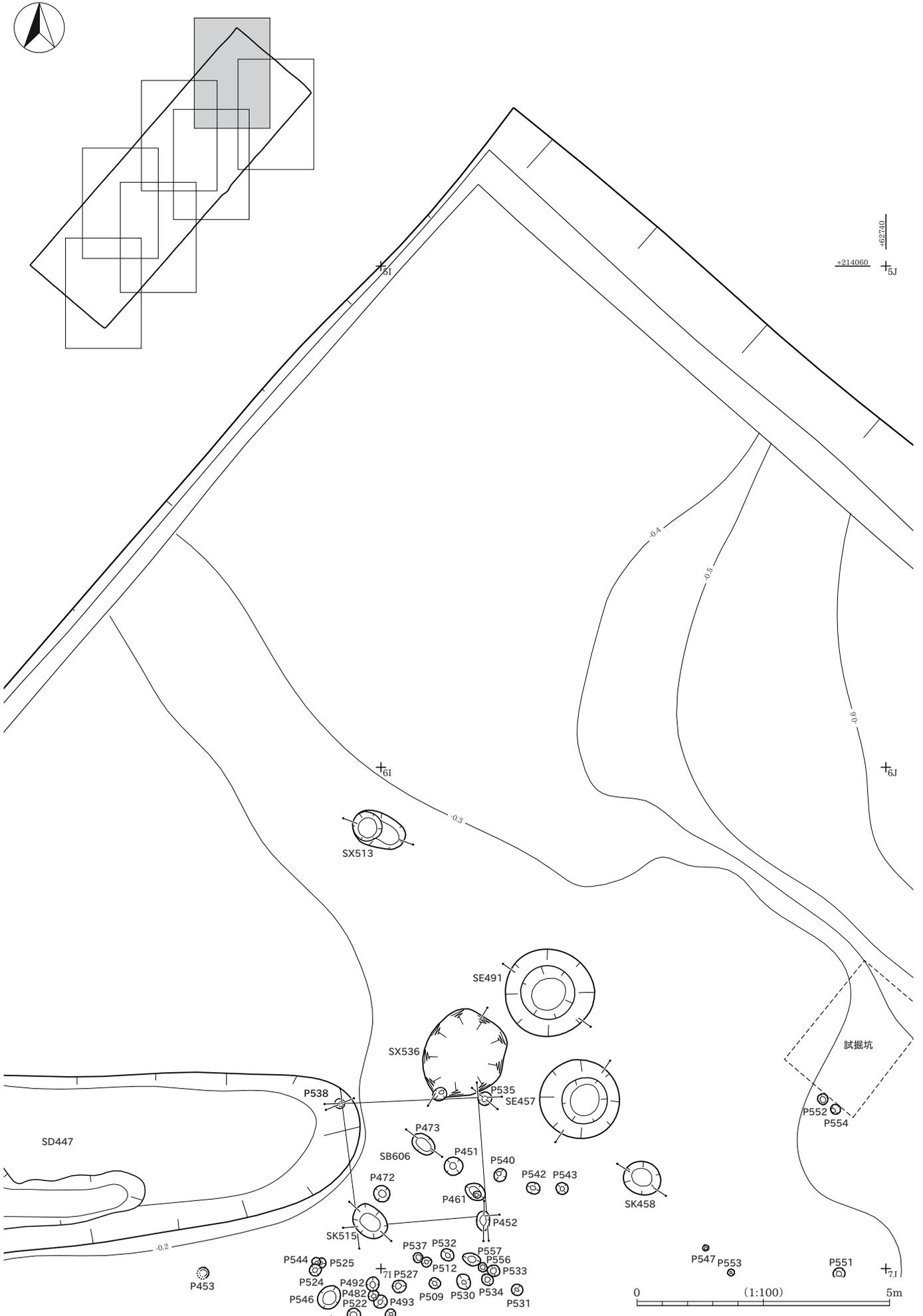


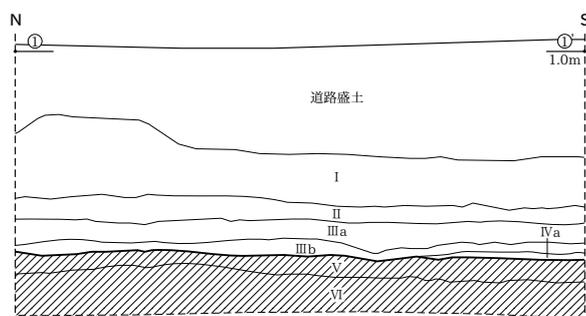




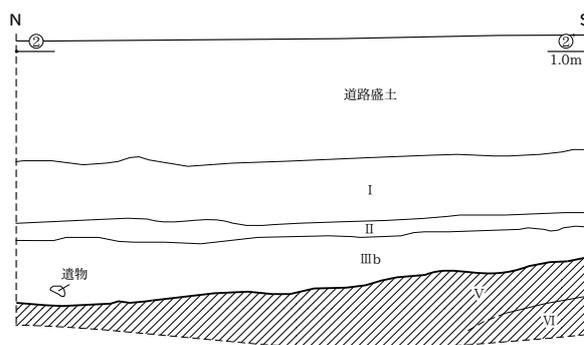




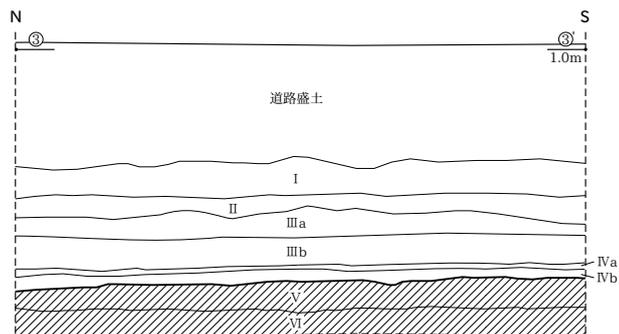




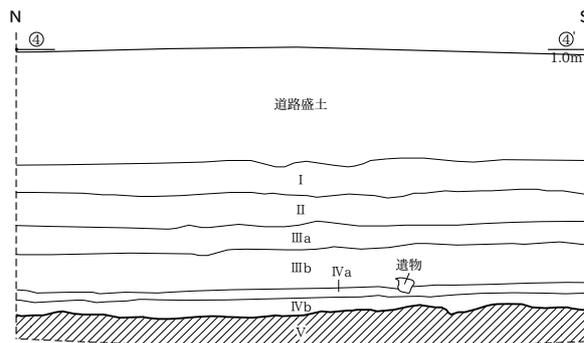
基本層序1



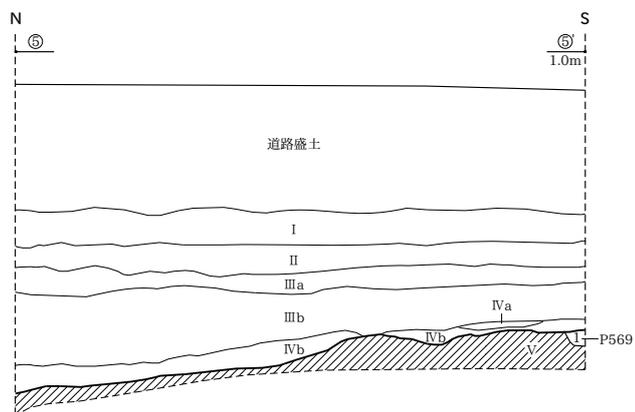
基本層序2



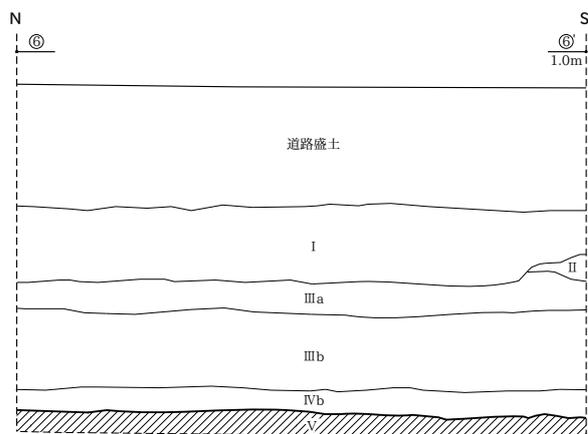
基本層序3



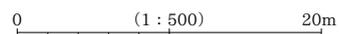
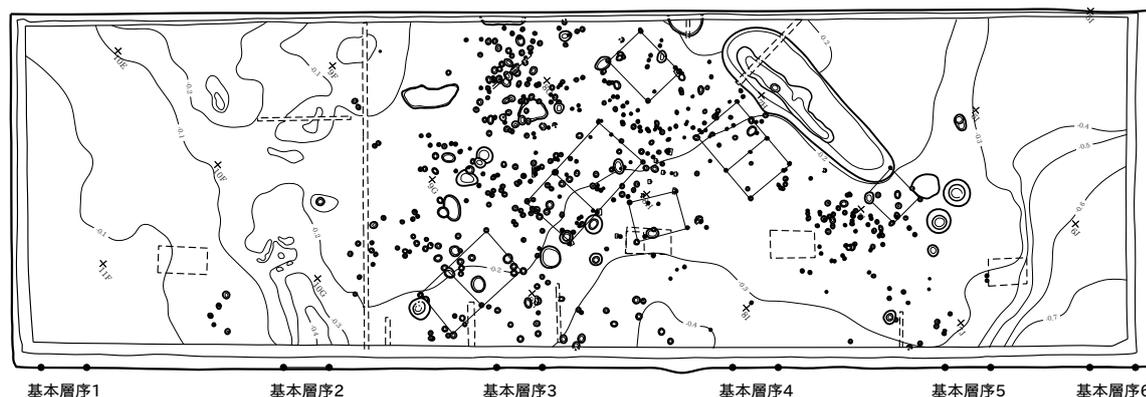
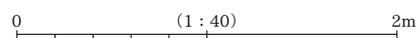
基本層序4



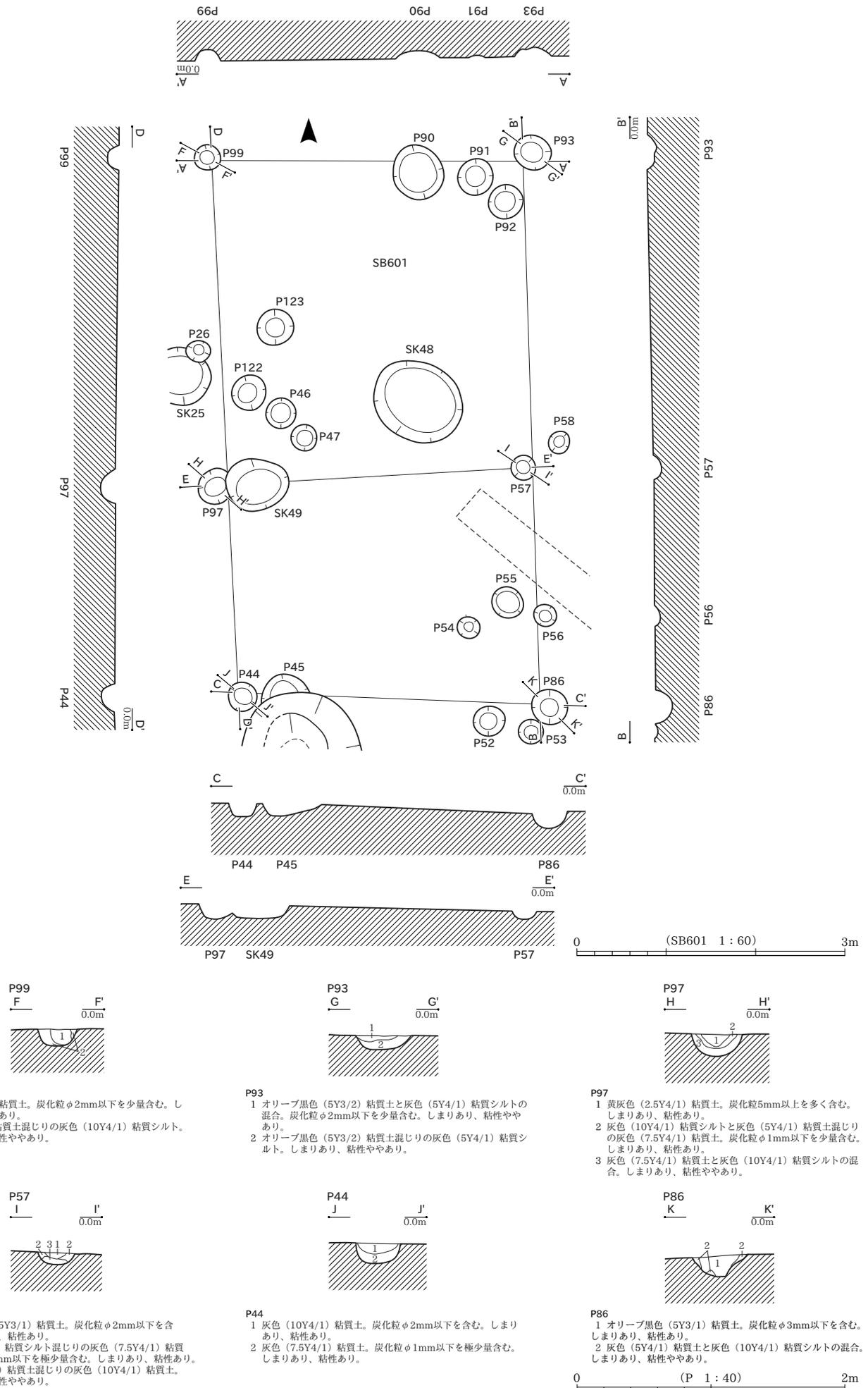
基本層序5



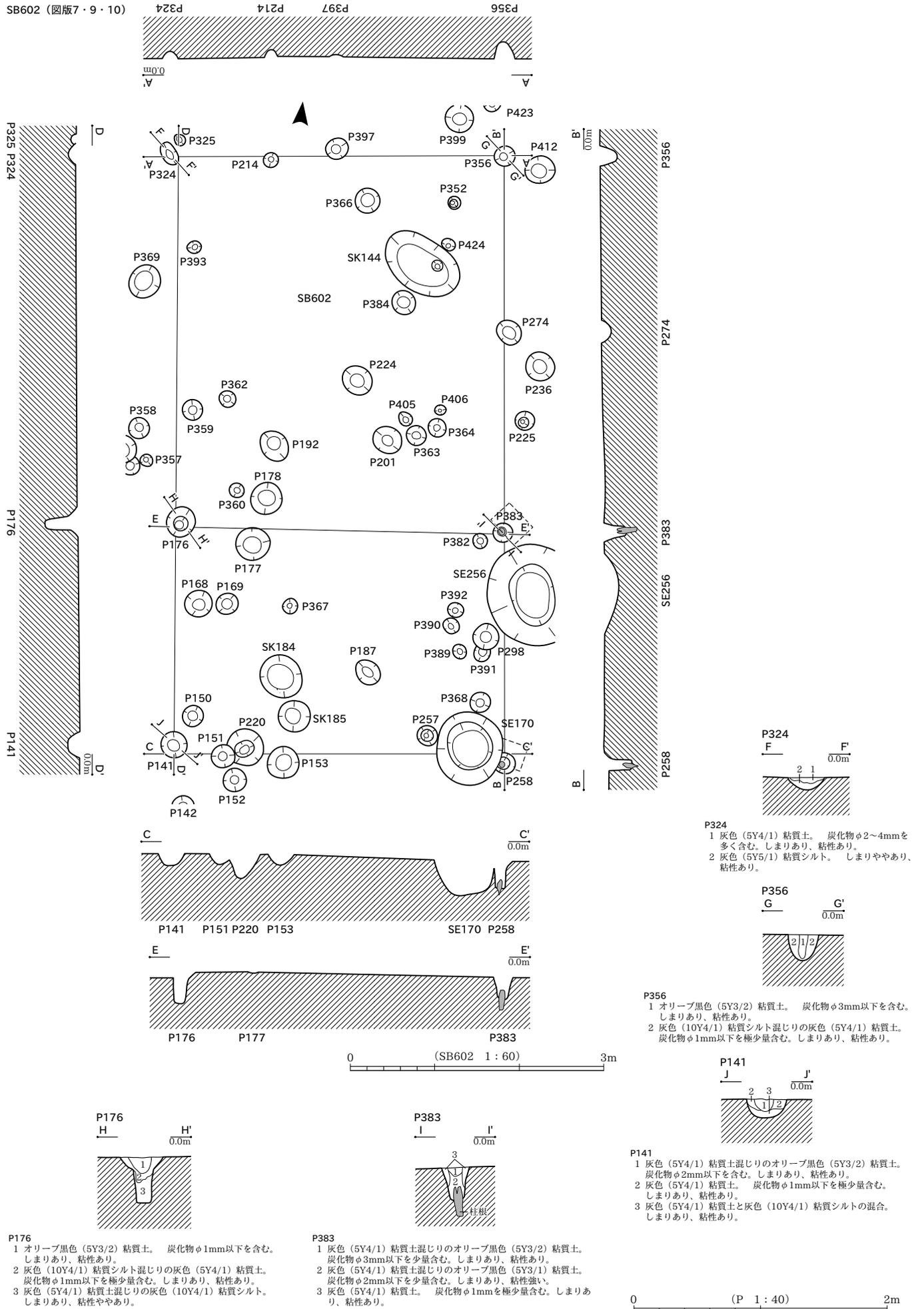
基本層序6



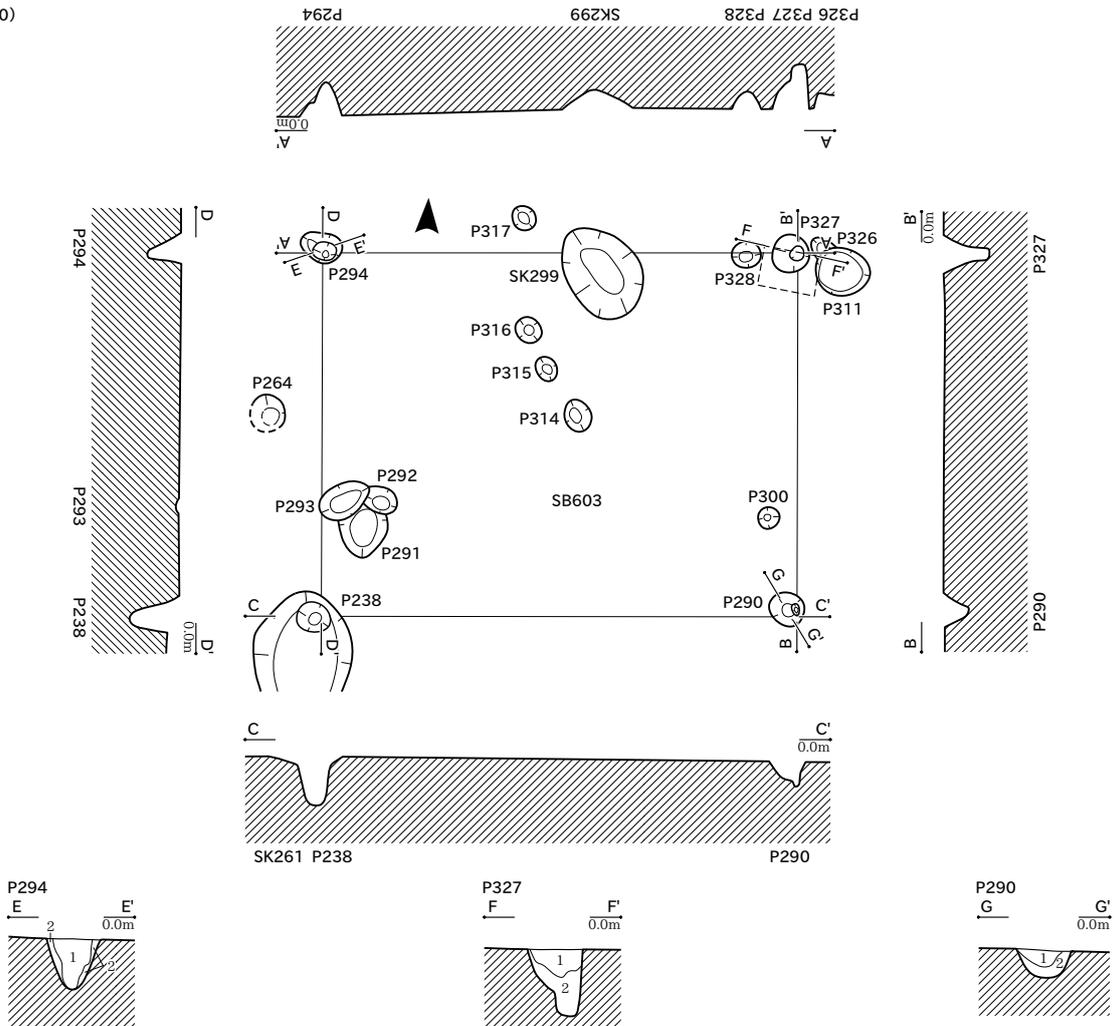
SB601 (図版7)



SB602 (図版7・9・10)



SB603 (図版10)

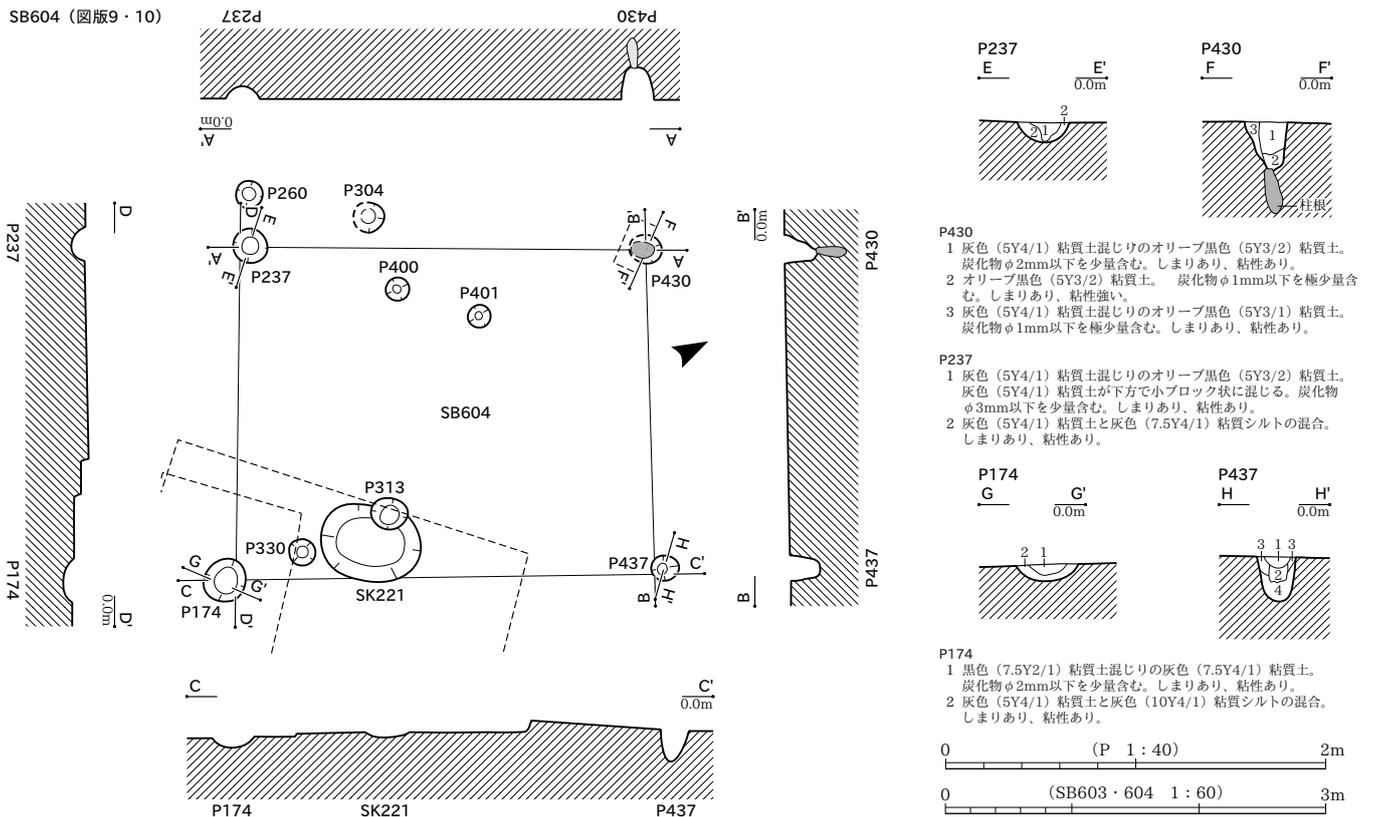


P294
 1 灰色 (10Y5/1) 粘質土。炭化物φ1~2mmを多く含む。しまりあり、粘性あり。
 2 灰色 (7.5Y6/1) 粘質シルト。しまりややあり、粘性ややあり。

P327
 1 灰色 (7.5Y4/1) 粘質土。炭化物φ2~5mmを多く含む。しまりあり、粘性あり。
 2 灰色 (7.5Y5/1) 粘質土。同色の砂質シルトを含む。しまりあり、粘性あり。

P290
 1 灰色 (10Y5/1) 砂質シルト混じりの灰色 (5Y4/1) 粘質土。炭化物φ1~3mmをやや多く含む。しまりややあり、粘性あり。
 2 オリーブ灰色 (2.5GY5/1) 砂質シルト。しまりややあり、粘性ややあり。

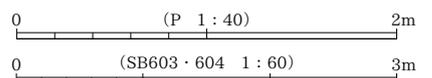
SB604 (図版9・10)



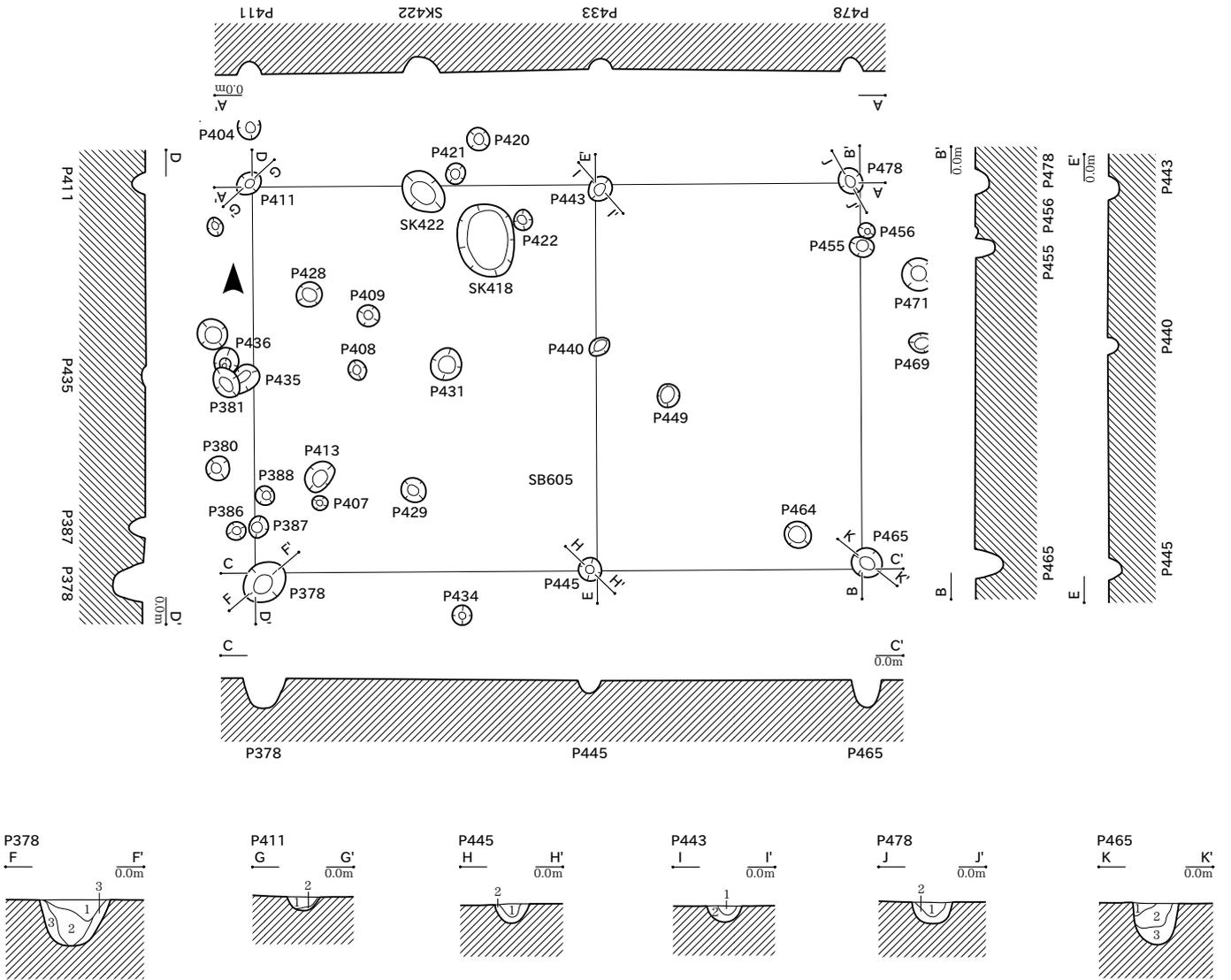
P430
 1 灰色 (5Y4/1) 粘質土混じりのオリーブ黒色 (5Y3/2) 粘質土。炭化物φ2mm以下を少量含む。しまりあり、粘性あり。
 2 オリーブ黒色 (5Y3/2) 粘質土。炭化物φ1mm以下を極少量含む。しまりあり、粘性強い。
 3 灰色 (5Y4/1) 粘質土混じりのオリーブ黒色 (5Y3/1) 粘質土。炭化物φ1mm以下を極少量含む。しまりあり、粘性あり。

P237
 1 灰色 (5Y4/1) 粘質土混じりのオリーブ黒色 (5Y3/2) 粘質土。灰色 (5Y4/1) 粘質土が下方で小ブロック状に混じる。炭化物φ3mm以下を少量含む。しまりあり、粘性あり。
 2 灰色 (5Y4/1) 粘質土と灰色 (7.5Y4/1) 粘質シルトの混合。しまりあり、粘性あり。

P174
 1 黒色 (7.5Y2/1) 粘質土混じりの灰色 (7.5Y4/1) 粘質土。炭化物φ2mm以下を少量含む。しまりあり、粘性あり。
 2 灰色 (5Y4/1) 粘質土と灰色 (10Y4/1) 粘質シルトの混合。しまりあり、粘性あり。

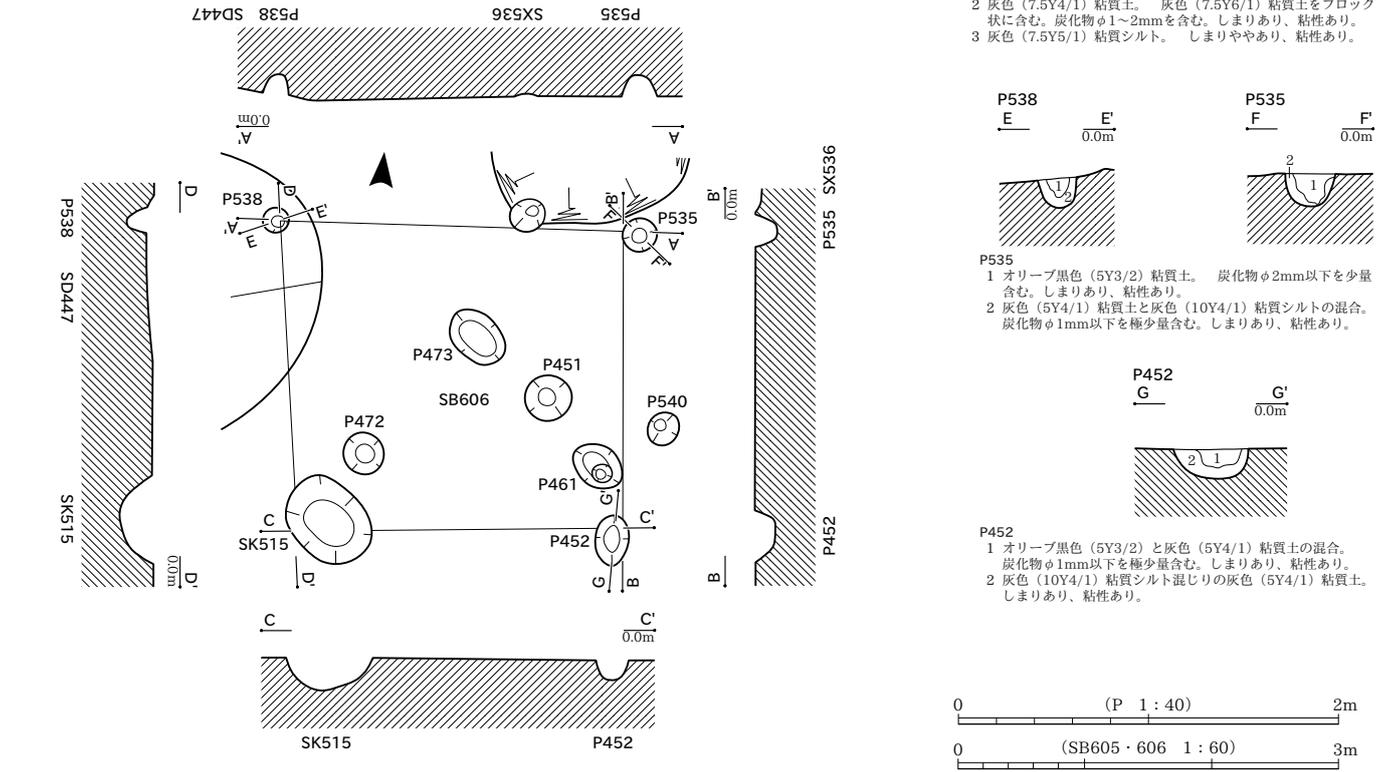


SB605 (図版9・10)



P465
 1 灰色 (7.5Y4/1) 粘質土混じりの灰色 (7.5Y5/1) 粘質土。しまりあり、粘性あり。
 2 灰色 (7.5Y4/1) 粘質土。灰色 (7.5Y6/1) 粘質土をブロック状に含む。炭化物φ1~2mmを含む。しまりあり、粘性あり。
 3 灰色 (7.5Y5/1) 粘質シルト。しまりややあり、粘性あり。

SB606 (図版9・12)



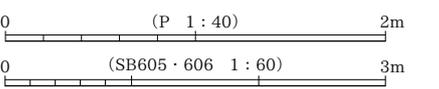
P538
 E E' 0.0m

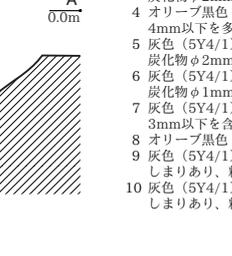
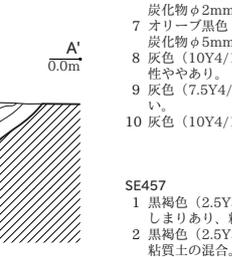
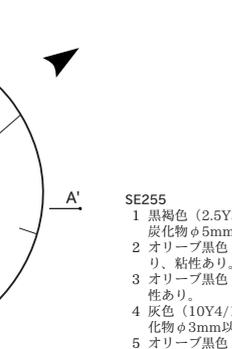
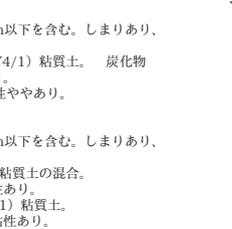
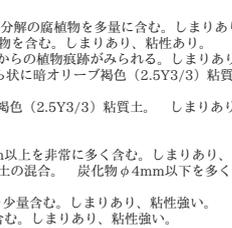
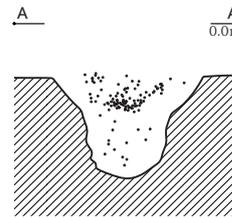
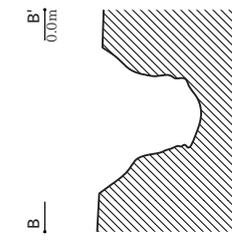
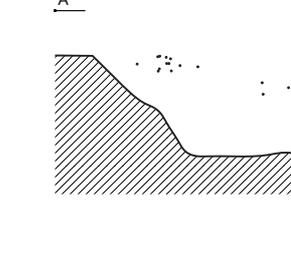
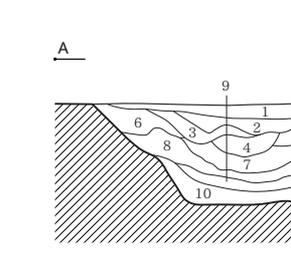
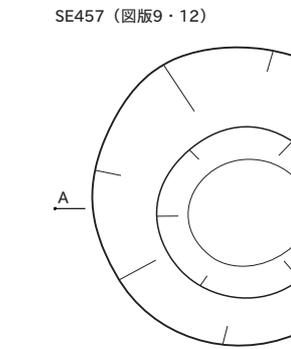
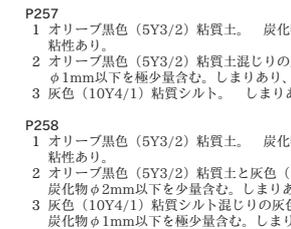
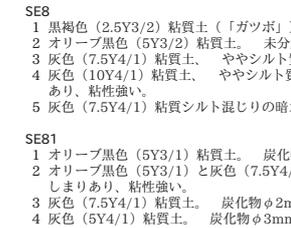
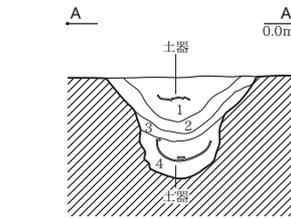
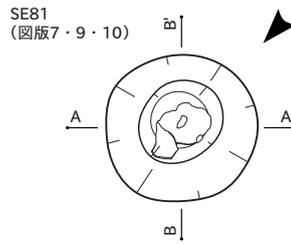
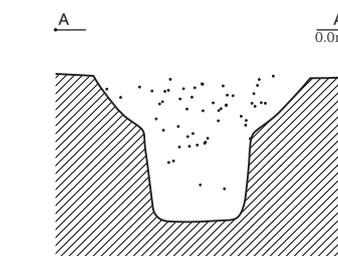
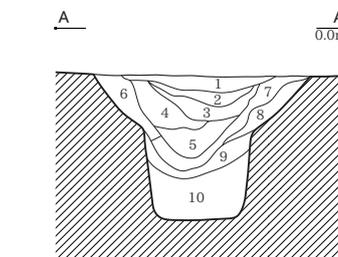
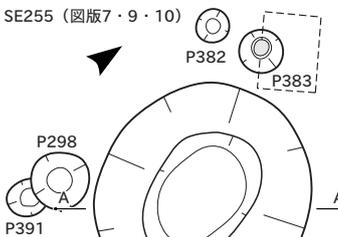
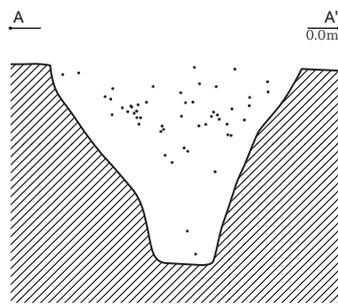
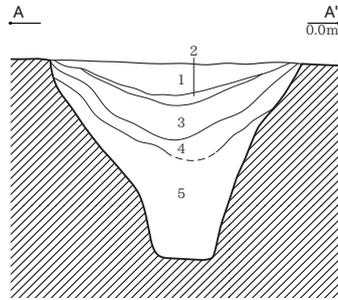
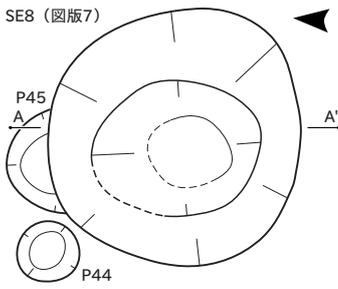
P535
 F F' 0.0m

P535
 1 オリーブ黒色 (5Y3/2) 粘質土。炭化物φ2mm以下を少量含む。しまりあり、粘性あり。
 2 灰色 (5Y4/1) 粘質土と灰色 (10Y4/1) 粘質シルトの混合。炭化物φ1mm以下を極少量含む。しまりあり、粘性あり。

P452
 G G' 0.0m

P452
 1 オリーブ黒色 (5Y3/2) と灰色 (5Y4/1) 粘質土の混合。炭化物φ1mm以下を極少量含む。しまりあり、粘性あり。
 2 灰色 (10Y4/1) 粘質シルト混じりの灰色 (5Y4/1) 粘質土。しまりあり、粘性あり。





SE8
 1 黒褐色 (2.5Y3/2) 粘質土 (「ガツボ」)。未分解の腐植物を多量に含む。しまりあり、粘性あり。
 2 オリーブ黒色 (5Y3/2) 粘質土。未分解の腐植物を含む。しまりあり、粘性あり。
 3 灰色 (7.5Y4/1) 粘質土。ややシルト質。上層からの植物痕跡がみられる。しまりあり、粘性あり。
 4 灰色 (10Y4/1) 粘質土。ややシルト質。まだら状に暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 粘質土含む。しまりあり、粘性強い。
 5 灰色 (7.5Y4/1) 粘質シルト混じりの暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 粘質土。しまりあり、粘性強い。

SE81
 1 オリーブ黒色 (5Y3/1) 粘質土。炭化物φ5mm以上を非常に多く含む。しまりあり、粘性強い。
 2 オリーブ黒色 (5Y3/1) と灰色 (7.5Y4/1) 粘質土の混合。炭化物φ4mm以下を多く含む。しまりあり、粘性強い。
 3 灰色 (7.5Y4/1) 粘質土。炭化物φ2mm以下を少量含む。しまりあり、粘性強い。
 4 灰色 (5Y4/1) 粘質土。炭化物φ3mm以下を含む。しまりあり、粘性強い。

P257
 1 オリーブ黒色 (5Y3/2) 粘質土。炭化物φ2mm以下を含む。しまりあり、粘性あり。
 2 オリーブ黒色 (5Y3/2) 粘質土混じりの灰色 (5Y4/1) 粘質土。炭化物φ1mm以下を極少量含む。しまりあり、粘性あり。
 3 灰色 (10Y4/1) 粘質シルト。しまりあり、粘性ややあり。

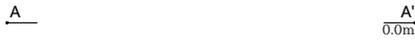
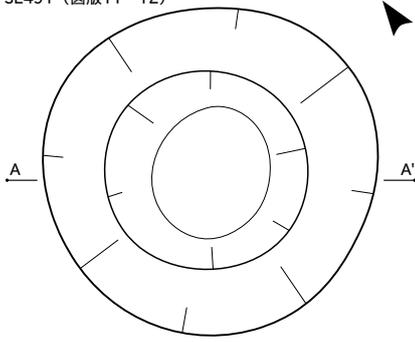
P258
 1 オリーブ黒色 (5Y3/2) 粘質土。炭化物φ2mm以下を含む。しまりあり、粘性あり。
 2 オリーブ黒色 (5Y3/2) 粘質土と灰色 (5Y4/1) 粘質土の混合。炭化物φ2mm以下を少量含む。しまりあり、粘性あり。
 3 灰色 (10Y4/1) 粘質シルト混じりの灰色 (5Y4/1) 粘質土。炭化物φ1mm以下を極少量含む。しまりあり、粘性あり。

SE255
 1 黒褐色 (2.5Y3/2) 粘質土と灰色 (5Y4/1) 粘質土の混合。炭化物φ5mm以上を含む。しまりあり、粘性あり。
 2 オリーブ黒色 (5Y3/1) 粘質土。炭化物φ3mm以下を非常に多く含む。しまりあり、粘性あり。
 3 オリーブ黒色 (5Y3/1) 粘質土。炭化物φ5mm以上を多く含む。しまりあり、粘性あり。
 4 灰色 (10Y4/1) 粘質土。小ブロック混じりのオリーブ黒色 (5Y3/1) 粘質土。炭化物φ3mm以下を多く含む。しまりあり、粘性あり。
 5 オリーブ黒色 (5Y3/1) 粘質土。炭化物φ5mm以上を非常に多く含む。しまりあり、粘性強い。
 6 オリーブ黒色 (5Y3/1) 粘質土混じりの灰色 (10Y4/1) 粘質土。炭化物φ2mm以下を少量含む。しまりあり、粘性あり。
 7 オリーブ黒色 (5Y3/1) 粘質土と灰色 (10Y4/1) 粘質土の混合。炭化物φ5mm以上を多く含む。しまりあり、粘性あり。
 8 灰色 (10Y4/1) 粘質シルト。炭化物φ1mm以下を極少量含む。しまりあり、粘性ややあり。
 9 灰色 (7.5Y4/1) 粘質土。炭化物φ1mm以下を極少量含む。しまりあり、粘性強い。
 10 灰色 (10Y4/1) 粘質シルト。しまりあり、粘性ややあり。

SE457
 1 黒褐色 (2.5Y3/1) 粘質土。(ガツボの名残)炭化物を極少量含む。しまりあり、粘性あり。
 2 黒褐色 (2.5Y3/1) 粘質土と灰色 (10Y4/1) 粘質シルト、オリーブ黒色 (5Y3/1) 粘質土の混合。炭化物を少量含む。しまりあり、粘性あり。
 3 灰色 (5Y4/1) 粘質土混じりのオリーブ黒色 (7.5Y3/1) 粘質土。炭化物φ2mm以下を含む。しまりあり、粘性あり。
 4 オリーブ黒色 (7.5Y3/1) 粘質土。灰色 (5Y4/1) 粘質土を層状に含む。炭化物φ4mm以下を多く含む。しまりあり、粘性強い。
 5 灰色 (5Y4/1) 粘質土混じりのオリーブ黒色 (7.5Y3/1) 粘質土。炭化物φ2mm以下を含む。しまりあり、粘性あり。
 6 灰色 (5Y4/1) 粘質土と灰色 (10Y4/1) 粘質シルトの混合。炭化物φ1mm以下を極少量含む。しまりあり、粘性あり。
 7 灰色 (5Y4/1) 粘質土。オリーブ黒色 (7.5Y3/1) 粘質土を層状に含む。炭化物φ3mm以下を含む。特に下方に集中。しまりあり、粘性強い。
 8 オリーブ黒色 (5Y3/2) 粘質土。炭化物φ2mm以下を含む。しまりあり、粘性強い。
 9 灰色 (5Y4/1) 粘質土を小ブロック状に多く含む灰色 (10Y4/1) 粘質シルト。しまりあり、粘性あり。
 10 灰色 (5Y4/1) 粘質土混じりの灰色 (10Y4/1) 粘質シルト。しまりあり、粘性ややあり。

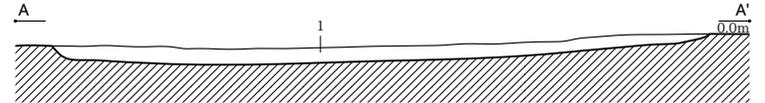
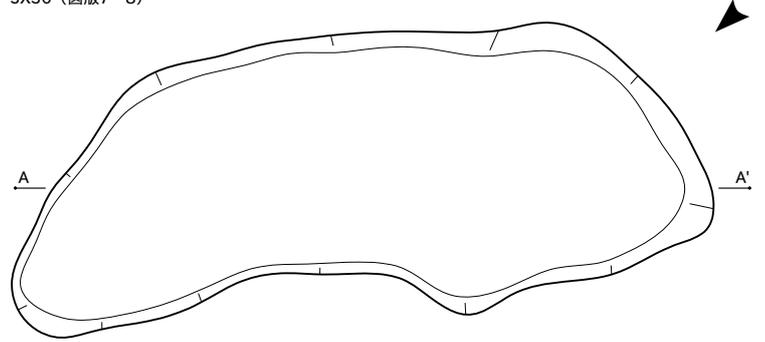
SE170
 1 黒褐色 (2.5Y3/2) 粘質土混じりのオリーブ黒色 (5Y3/2) 粘質土。炭化物φ3mm以下を非常に多く含む。しまりあり、粘性あり。
 2 黒褐色 (2.5Y3/2) と灰色 (7.5Y4/1) 粘質土の混合。炭化物φ3mm以下を多く含む。しまりあり、粘性強い。
 3 灰色 (10Y4/1) 粘質土。炭化物φ3mm以下を含む。しまりあり、粘性強い。
 4 灰色 (5Y4/1) 粘質土。炭化物φ2mm以下を少量含む。しまりあり、粘性強い。
 5 灰色 (5Y4/1) 粘質土と灰色 (10Y4/1) 粘質シルトの混合。炭化物φ1mm以下を極少量含む。しまりあり、粘性強い。
 6 灰色 (5Y4/1) 粘質土混じりの灰色 (10Y4/1) 粘質シルト。しまりあり、粘性ややあり。

SE491 (図版11・12)



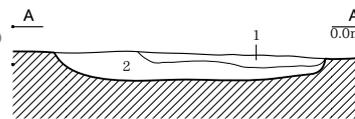
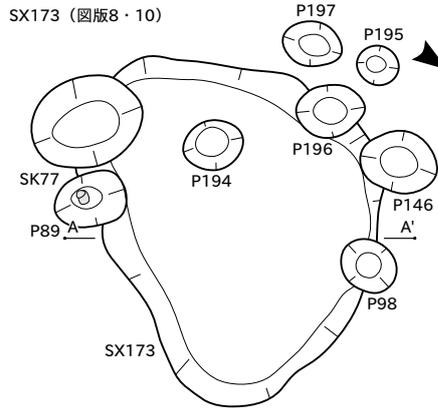
- SE491
- 1 黒褐色 (2.5Y3/1) 粘質土。 (ガツボの名残り) 炭化物を極少量含む。しまりあり、粘性あり。
 - 2 灰色 (10Y4/1) 粘質土混じりの黒褐色 (2.5Y3/1) 粘質土とオリブ黒色 (5Y3/1) 粘質土の混合。炭化物を極少量含む。しまりあり、粘性あり。
 - 3 オリブ黒色 (5Y3/2) 粘質土混じりの灰色 (5Y4/1) 粘質土。炭化物を極少量含む。しまりあり、粘性あり。
 - 4 オリブ黒色 (5Y3/1) 粘質土混じりの灰色 (5Y4/1) 粘質土と灰色 (10Y4/1) 粘質シルトの混合。炭化物を極少量含む。しまりあり、粘性あり。
 - 5 灰色 (5Y4/1) 粘質土とオリブ黒色 (5Y3/2) 粘質土と灰色 (10Y4/1) 粘質シルトの混合。炭化物φ3mm以下を下方に層状に多く含む。しまりあり、粘性強い。
 - 6,7 オリブ黒色 (5Y3/2) 粘質土と灰色 (5Y4/1) 粘質土の混合。炭化物φ1mm以下を極少量含む。しまりあり、粘性強い。
 - 8,9 灰色 (5Y4/1) 粘質土と灰色 (10Y4/1) 粘質シルトの混合。しまりあり、粘性ややあり。

SX36 (図版7・8)



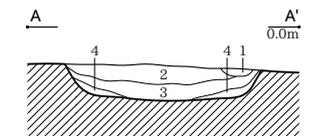
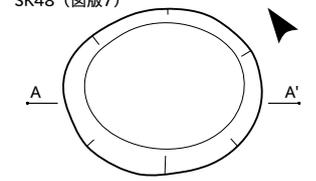
- SX36
- 1 灰色 (10Y4/1) 粘質土。 腐植物を多く含む。しまりあり、粘性あり。

SX173 (図版8・10)



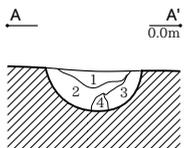
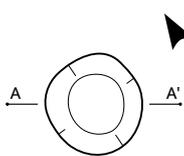
- SX173
- 1 灰色 (7.5Y4/1) 粘質土。 オリブ灰色 (2.5Y5/1) 粘質シルトをブロック状に含む。炭化物φ2~3mmを多く含む。しまりあり、粘性あり。
 - 2 灰色 (10Y5/1) 粘質シルト。 灰色 (7.5Y4/1) 粘質土をブロック状に含む。炭化物φ1~3mmを含む。しまりあり、粘性ややあり。

SK48 (図版7)



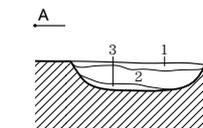
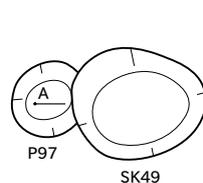
- SK48
- 1 灰色 (7.5Y4/1) 粘質土。 炭化物φ4mmを少量含む。しまりあり、粘性あり。
 - 2 灰色 (10Y4/1) 粘質シルト混じりの灰色 (7.5Y4/1) 粘質土。炭化物φ1mm以下を極少量含む。しまりあり、粘性あり。
 - 3 灰色 (7.5Y4/1) 粘質土と灰色 (10Y4/1) 粘質シルトの混合。しまりあり、粘性ややあり。
 - 4 灰色 (7.5Y4/1) 粘質土小ブロック混じりの灰色 (10Y4/1) 粘質シルト。しまりあり、粘性なし。

SK200 (図版7・8)



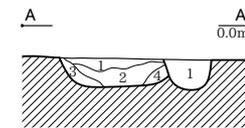
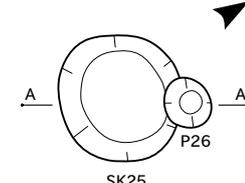
- SK200
- 1 灰色 (5Y4/1) 粘質土。炭化物φ1mm以下を極少量含む。しまりあり、粘性強い。
 - 2 灰色 (7.5Y4/1) 粘質土。しまりあり、粘性強い。
 - 3 灰色 (10Y4/1) 粘質土。しまりあり、粘性強い。
 - 4 灰色 (10Y5/1) 粘質シルト。しまりあり、粘性あり。

SK49 (図版7)



- SK49
- 1 灰色 (5Y4/1) 粘質土。炭化物φ5mm以上を多く含む。しまりあり、粘性あり。
 - 2 灰色 (7.5Y4/1) 粘質土と灰色 (5Y4/1) 粘質土混じりの灰色 (10Y4/1) 粘質シルト。炭化物φ1mm以下を少量含む。しまりあり、粘性あり。
 - 3 灰色 (7.5Y4/1) 粘質土混じりの灰色 (10Y4/1) 粘質シルト。しまりあり、粘性ややあり。

SK25 (図版7)

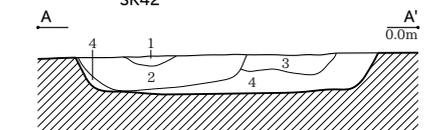
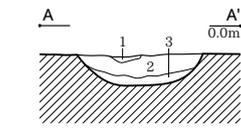
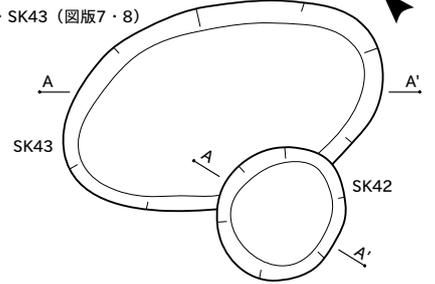


- SK25
- 1 灰色 (5Y4/1) 粘質土。炭化物φ5mm以上を多く含む。しまりあり、粘性あり。
 - 2 灰色 (10Y4/1) 粘質土。炭化物φ3mm以下を含む。しまりあり、粘性ややあり。
 - 3 灰色 (10Y4/1) 粘質土と灰色 (7.5Y4/1) 粘質シルトの混合。しまりあり、粘性ややあり。
 - 4 灰色 (5Y4/1) 粘質土。しまりあり、粘性あり。

- P26
- 1 灰色 (7.5Y4/1) 粘質土。炭化物φ5mm以上を多く含む。しまりあり、粘性あり。

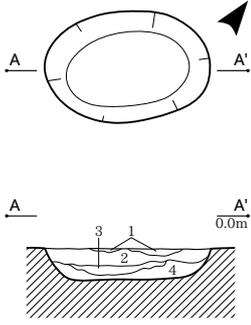
- SK42
- 1 灰色 (5Y4/1) 粘質土混じりのオリブ黒色 (5Y3/1) 粘質土。炭化物φ2mm以下を少量含む。しまりあり、粘性あり。
 - 2 灰色 (10Y4/1) 粘質シルト混じりの灰色 (7.5Y4/1) 粘質土。炭化物φ1mm以下を極少量含む。しまりあり、粘性あり。
 - 3 灰色 (7.5Y4/1) 粘質シルト混じりの灰色 (10Y4/1) 粘質土。炭化物φ1mm以下を極少量含む。しまりあり、粘性ややあり。

SK42・SK43 (図版7・8)



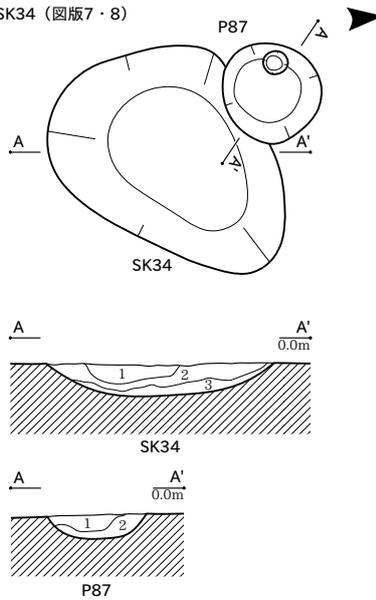
- SK43
- 1 灰色 (5Y4/1) 粘質土混じりのオリブ黒色 (5Y3/1) 粘質土。炭化物φ3mm以下を少量含む。しまりあり、粘性あり。
 - 2 灰色 (10Y4/1) 粘質シルト混じりの灰色 (7.5Y4/1) 粘質土。炭化物φ1mm以下を極少量含む。しまりあり、粘性あり。
 - 3 灰色 (10Y4/1) 粘質シルト混じりの灰色 (10Y5/1) 粘質土。炭化物φ1mm以下を極少量含む。しまりあり、粘性あり。
 - 4 灰色 (10Y5/1) 粘質土混じりの灰色 (10Y4/1) 粘質シルト。しまりあり、粘性あり。

SK285 (図版7・8)



- SK285**
- 1 オリーブ黒色 (5Y3/2) 粘質土混じりの灰色 (5Y4/1) 粘質土。炭化物φ2mm以下を少量含む。しまりあり、粘性あり。
 - 2 灰色 (10Y4/1) 粘質シルト混じりの灰色 (7.5Y4/1) 粘質土。炭化物φ1mm以下を極少量含む。しまりあり、粘性あり。
 - 3 灰色 (5Y4/1) 粘質土。灰色 (10Y4/1) 粘質シルト混じりの灰色 (7.5Y4/1) 粘質土。しまりあり、粘性あり。
 - 4 灰色 (7.5Y4/1) 粘質土混じりの灰色 (10Y4/1) 粘質シルト。しまりあり、粘性ややあり。

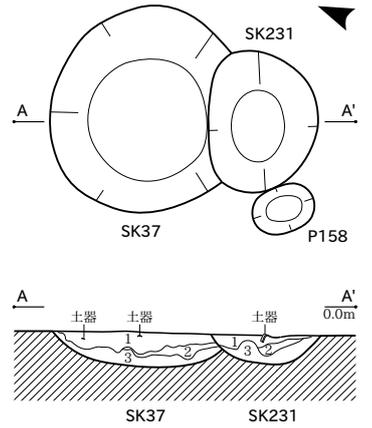
SK34 (図版7・8)



- SK34**
- 1 オリーブ黒色 (5Y3/1) 粘質土混じりの灰色 (5Y4/1) 粘質土。炭化物φ1mm以下を極少量含む。しまりあり、粘性あり。
 - 2 灰色 (10Y4/1) 粘質シルト混じりの灰色 (5Y4/1) 粘質土。炭化物φ1mm以下を極少量含む。しまりあり、粘性あり。
 - 3 灰色 (5Y4/1) 粘質土混じりの灰色 (10Y4/1) 粘質シルト。しまりあり、粘性ややあり。

- P87**
- 1 オリーブ黒色 (5Y3/1) 粘質土混じりの灰色 (5Y4/1) 粘質土。炭化物φ1mm以下を極少量含む。しまりあり、粘性あり。
 - 2 灰色 (5Y4/1) 粘質土と灰色 (10Y4/1) 粘質シルトの混合。しまりあり、粘性ややあり。

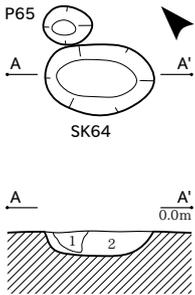
SK37・SK231 (図版7・8・10)



- SK37**
- 1 オリーブ黒色 (5Y3/2) 粘質土。炭化物φ5mm以上を非常に多く含む。炭化材片有。下方に灰色 (5Y4/1) 粘質土混じる。しまりあり、粘性あり。
 - 2 灰色 (7.5Y4/1) 粘質シルトと灰色 (5Y4/1) 粘質土の混合。炭化物φ1mm以下を少量含む。しまりあり、粘性あり。
 - 3 SK231の3とほぼ同じであるが粘質シルトが若干多い。炭化物φ1mm以下を極少量含む。しまりあり、粘性ややあり。

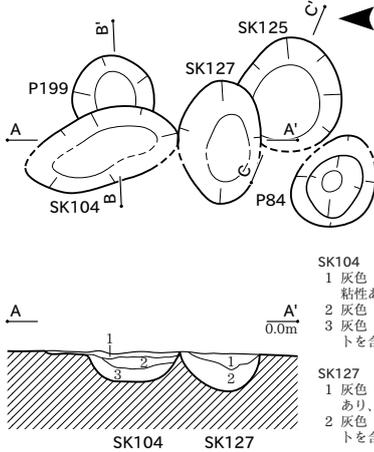
- SK231**
- 1 オリーブ黒色 (5Y3/1) 粘質土。炭化物φ5mm以上を非常に多く含む。炭化材片有。しまりあり、粘性あり。
 - 2 灰色 (7.5Y4/1) 粘質シルト混じりの灰色 (5Y4/1) 粘質土。炭化物φ2mm以下を少量含む。しまりあり、粘性あり。
 - 3 灰色 (5Y4/1) 粘質土と灰色 (7.5Y4/1) 粘質シルトの混合。炭化物φ1mm以下を少量含む。しまりあり、粘性ややあり。

SK64 (図版7・8)



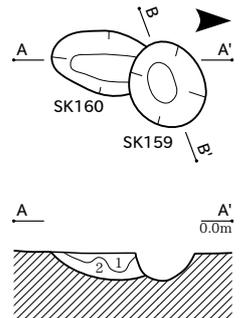
- SK64**
- 1 灰色 (10Y4/1) 粘質土。炭化物をφ3~4mm含む。炭化物φ1~2mmを多く含む。しまりあり、粘性あり。
 - 2 オリーブ灰色 (5Y5/1) 粘質シルト。灰色 (7.5Y4/1) 粘質土をブロック状に含む。しまりあり、粘性ややあり。

SK104・SK127 (図版8)



- SK104**
- 1 灰色 (10Y4/1) 粘質土。炭化物φ1~2mmを含む。しまりあり、粘性あり。
 - 2 灰色 (10Y5/1) 粘質土を斑状に含む。しまりあり、粘性あり。
 - 3 灰色 (7.5Y4/1) 粘質土。オリーブ灰色 (2.5GY5/1) 粘質シルトを含む。しまりあり、粘性あり。
- SK127**
- 1 灰色 (10Y5/1) 粘質土。炭化物φ1~3mmを多く含む。しまりあり、粘性あり。
 - 2 灰色 (7.5Y5/1) 粘質土。オリーブ灰色 (2.5GY5/1) 粘質シルトを含む。しまりあり、粘性あり。

SK159・SK160 (図版8)



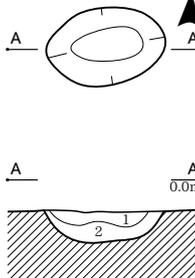
- SK159**
- 1 灰色 (7.5Y4/1) 粘質土。炭化物φ1~2mmを多く含む。灰色 (5Y4/1) 粘質土をブロック状に含む。しまりあり、粘性あり。
 - 2 灰色 (10Y5/1) 粘質シルト。灰色 (7.5Y4/1) 粘質土をブロック状に含む。しまりあり、粘性あり。

- SK160**
- 1 灰色 (10Y4/1) 粘質土。灰色 (10Y5/1) 粘質シルトを少量ブロック状に含む。炭化物φ2~3mmを多く含む。しまりあり、粘性あり。
 - 2 灰色 (10Y5/1) 粘質シルト。灰色 (7.5Y4/1) 粘質土をブロック状に含む。しまりあり、粘性ややあり。

- P199**
- 1 オリーブ灰色 (2.5GY5/1) 粘質土。炭化物φ1~2mmを少量含む。しまりあり、粘性あり。
 - 2 灰色 (10Y5/1) 粘質土。しまりあり、粘性あり。
 - 3 オリーブ灰色 (2.5GY5/1) 粘質シルト。しまりややあり、粘性ややあり。

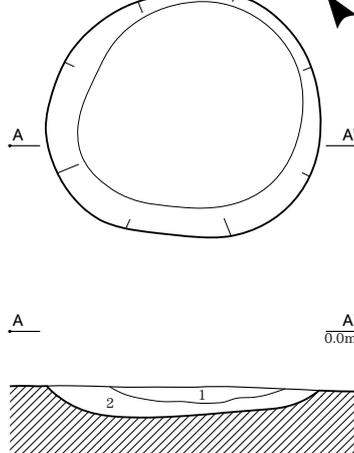
- SK125**
- 1 灰色 (10Y6/1) 粘質土。灰色 (5Y5/1) 粘質土をブロック状に含む。しまり強い。粘性あり。
 - 2 灰色 (10Y5/1) 粘質土。同色の砂質シルトを含む。灰色 (5Y5/1) 粘質土をブロック状に多く含む。しまりあり、粘性あり。

SK172 (図版8)

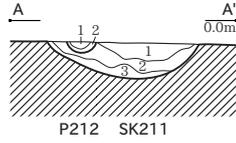
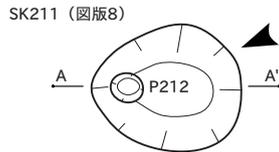
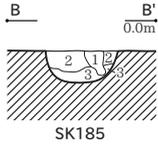
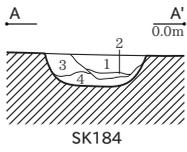
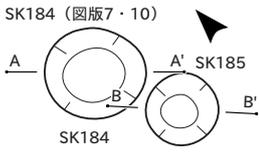


- SK172**
- 1 灰色 (7.5Y4/1) 粘質土。灰色 (7.5Y5/1) 粘質シルトをブロック状に含む。炭化物φ2~3mmを多く含む。しまりあり、粘性あり。
 - 2 灰色 (10Y5/1) 粘質シルト。同色の砂質シルトを含む。しまりややあり、粘性あり。

SK80 (図版7・9)

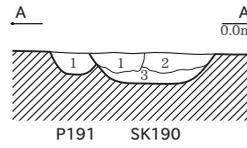
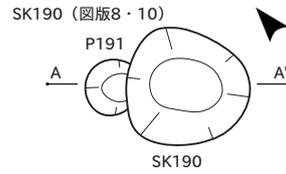


- SK80**
- 1 灰色 (7.5Y4/1) 粘質土。炭化物φ2~4mmを極少量含む。オリーブ黒色 (5Y3/1) 粘質土がブロック状に入るところがみられる。しまりあり、粘性あり。
 - 2 灰色 (7.5Y4/1) 粘質土と灰色 (10Y4/1) 粘質シルトの混合。しまりあり、粘性あり。



SK184
 1 灰色 (5Y4/1) 粘質土混じりのオリブ黒色 (5Y3/2) 粘質土。炭化物φ5mm以上を非常に多く含む。しまりあり、粘性あり。
 2 灰色 (10Y4/1) 粘質シルト混じりの灰色 (5Y4/1) 粘質土。炭化物φ1mm以下を極少量含む。しまりあり、粘性あり。
 3 灰色 (10Y4/1) 粘質シルト混じりの灰色 (7.5Y4/1) 粘質土。炭化物φ1mm以下を少量含む。しまりあり、粘性あり。
 4 灰色 (5Y4/1) 粘質土と灰色 (10Y4/1) 粘質シルトの混合。しまりあり、粘性ややあり。

SK185
 1 灰色 (5Y4/1) 粘質土混じりのオリブ黒色 (5Y3/2) 粘質土。炭化物φ3mm以下を含む。しまりあり、粘性あり。
 2 灰色 (10Y4/1) 粘質シルト混じりの灰色 (5Y4/1) 粘質土。炭化物φ1mm以下を極少量含む。しまりあり、粘性あり。
 3 灰色 (10Y4/1) 粘質シルト混じりの灰色 (7.5Y4/1) 粘質土。炭化物φ1mm以下を少量含む。しまりあり、粘性あり。

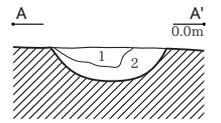
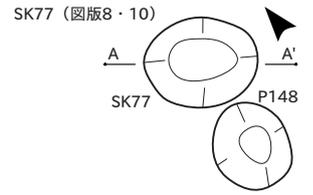


SK211
 1 灰色 (7.5Y4/1) 粘質土。炭化物φ2~5mmをやや多く含む。しまりあり、粘性あり。
 2 オリブ灰色 (2.5GY5/1) 粘質土。しまりあり、粘性強い。
 3 灰色 (10Y5/1) 砂質シルト。しまりややあり、粘性ややあり。

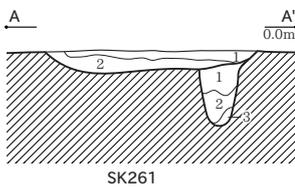
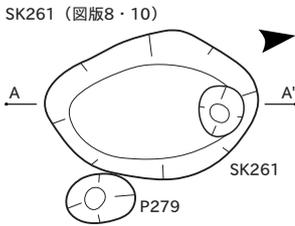
P191
 1 灰色 (10Y4/1) 粘質土とオリブ灰色 (2.5GY5/1) 粘質シルトの混合。炭化物φ1~2mmを含む。しまりあり、粘性あり。

SK190
 1 黒色 (2.5GY5/1) 粘質土とオリブ灰色 (2.5GY5/1) 粘質シルトの混合。炭化物φ2~3mmを多く含む。しまりあり、粘性あり。
 2 灰色 (7.5GY5/1) 粘質シルト。同色の粘質土をブロック状に含む。しまりややあり、粘性あり。
 3 灰色 (10Y4/1) 粘質シルト。しまりややあり、粘性ややあり。

SK77
 1 灰色 (10Y4/1) 粘質土。炭化物φ2~3mmを多く含む。しまりあり、粘性あり。
 2 オリブ灰色 (2.5GY6/1) 粘質シルト。灰色 (7.5Y5/1) 粘質土をブロック状に含む。しまりあり、粘性ややあり。

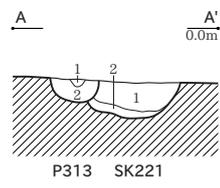
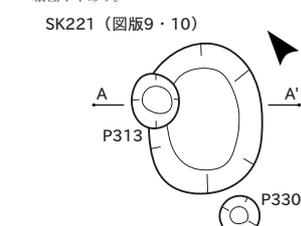
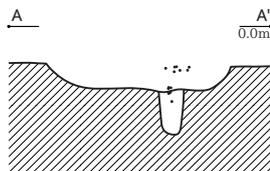
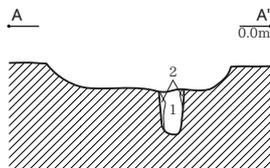
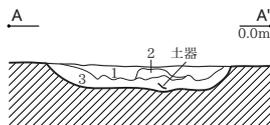
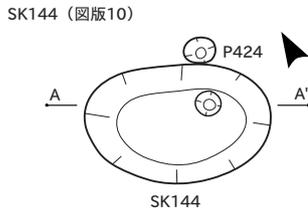


P212
 1 灰色 (7.5Y5/1) 粘質土。炭化物φ1mm程度を少量含む。しまりあり、粘性あり。
 2 灰色 (7.5Y4/1) 粘質土。しまりあり、粘性あり。



SK261
 1 灰色 (7.5Y5/1) 粘質土とオリブ灰色 (5GY6/1) 粘質シルトの混合。しまりあり、粘性あり。
 2 灰色 (10Y5/1) 粘質シルト。同色の砂質シルトを含む。しまりあり、粘性ややあり。

SK261内Pit
 1 オリブ灰色 (2.5GY5/1) 粘質シルト。暗オリブ灰色 (2.5GY4/1) 砂質シルトを含む。しまりあり、粘性あり。
 2 灰色 (7.5Y5/1) 粘質土。しまりあり、粘性あり。
 3 灰色 (10Y5/1) 砂質シルト。極少量同色の粘質土を含む。しまりややあり、粘性ややあり。



SK144
 1 灰色 (5Y4/1) 粘質土混じりのオリブ黒色 (5Y3/1) 粘質土。炭化物φ5mm以上を非常に多く含む。しまりあり、粘性あり。
 2 オリブ黒色 (5Y3/1) 粘質土混じりの灰色 (5Y4/1) 粘質土。炭化物φ2mm以下を少量含む。しまりあり、粘性あり。
 3 灰色 (5Y4/1) 粘質土と灰色 (10Y4/1) 粘質シルトの混合。炭化物φ1mm以下を極少量含む。しまりあり、粘性あり。

SK144内Pit
 1 灰色 (5Y4/1) 粘質土混じりのオリブ黒色 (5Y3/1) 粘質土。炭化物φ1mm以下を少量含む。しまりあり、粘性強い。
 2 灰色 (5Y4/1) 粘質土と灰色 (10Y4/1) 粘質シルトの混合。しまりあり、粘性あり。

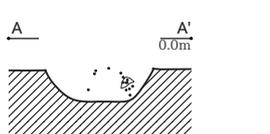
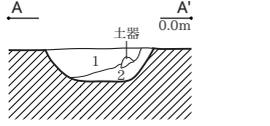
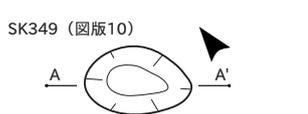
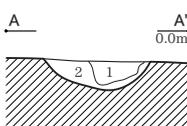
P313
 1 灰色 (5Y4/1) 粘質土混じりのオリブ黒色 (5Y3/2) 粘質土。炭化物φ1mm以下を少量含む。しまりあり、粘性あり。
 2 オリブ黒色 (5Y3/2) 粘質土混じりの灰色 (5Y4/1) 粘質土。しまりあり、粘性あり。

SK221
 1 オリブ黒色 (5Y3/2) 粘質土混じりの灰色 (5Y4/1) 粘質土に灰色 (5Y4/1) 粘質シルトが少し混じる。上層に炭化物φ1mm以下を極少量含む。しまりあり、粘性あり。
 2 灰色 (5Y4/1) 粘質土と灰色 (10Y4/1) 粘質シルトの混合。しまりあり、粘性あり。

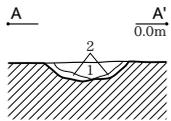
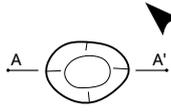
SK299
 1 灰色 (5Y5/1) 粘質土と灰色 (10Y5/1) 粘質土の混合。炭化物φ2~4mmを多く含む。しまりあり、粘性あり。
 2 灰色 (7.5Y5/1) 粘質シルト。灰色 (10Y5/1) 粘質土をブロック状に少量含む。しまりややあり、粘性あり。

SK272
 1 灰色 (10Y5/1) 粘質土。炭化物φ2~3mmを多く含む。しまりあり、粘性あり。
 2 灰色 (10Y5/1) 粘質シルト。オリブ灰色 (2.5GY5/1) を少量含む。しまりあり、粘性ややあり。

SK349
 1 オリブ灰色 (2.5GY5/1) 粘質シルト混じりの灰色 (5Y4/1) 粘質土。炭化物φ2~5mmを多く含む。しまりあり、粘性あり。
 2 オリブ灰色 (2.5GY5/1) 粘質シルト。同色の砂質シルトを含む。しまりややあり、粘性ややあり。

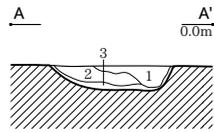
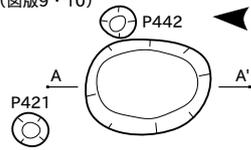


SK422 (図版9・10)



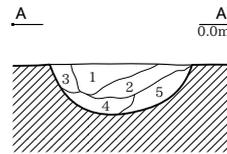
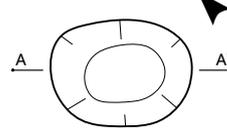
SK422
1 オリーブ灰色 (2.5GY5/1) 粘質シルト混じりの灰色 (7.5Y4/1) 粘質土。炭化物φ1~3mmを多く含む。しまりあり、粘性あり。
2 灰色 (5Y5/1) 粘質シルト。同色の砂質シルトを含む。しまりややあり、粘性あり。

SK418 (図版9・10)



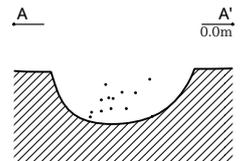
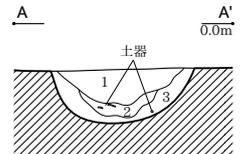
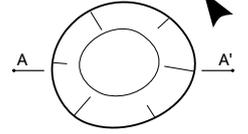
SK418
1 灰色 (5Y4/1) 粘質土。灰色 (10Y5/1) 砂質シルトをブロック状に含む。炭化物φ1~2mmを含む。しまりあり、粘性あり。
2 灰色 (7.5Y5/1) 砂質シルト。同色の粘質土をブロック状に含む。しまりややあり、粘性あり。
3 灰色 (7.5Y6/1) 砂質シルト。しまりややあり、粘性あり。

SK515 (図版9・12)

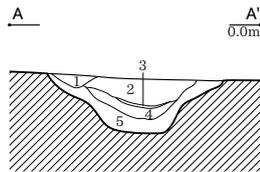
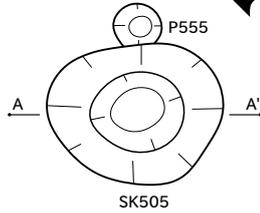


SK515
1 オリーブ黒色 (5Y3/2) 粘質土。炭化物φ4mm以下を含む。しまりあり、粘性あり。
2 オリーブ黒色 (5Y3/2) 粘質土と灰色 (5Y4/1) 粘質土の混合。炭化物を少量含む。しまりあり、粘性あり。
3 灰色 (5Y4/1) 粘質土と灰色 (10Y4/1) 粘質シルトの混合。炭化物を極少量含む。しまりあり、粘性あり。
4 オリーブ黒色 (5Y3/2) 粘質土混じりの灰色 (10Y4/1) 粘質シルト。しまりあり、粘性ややあり。
5 灰色 (5Y4/1) 粘質土と灰色 (10Y4/1) 粘質シルトの混合。しまりあり、粘性あり。

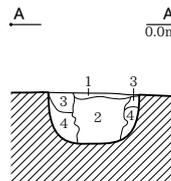
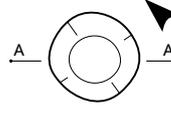
SK458 (図版9・11・12)



SK505 (図版11)



SK215 (図版9・10)

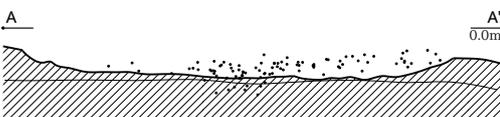
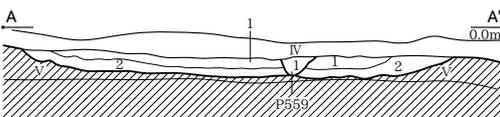
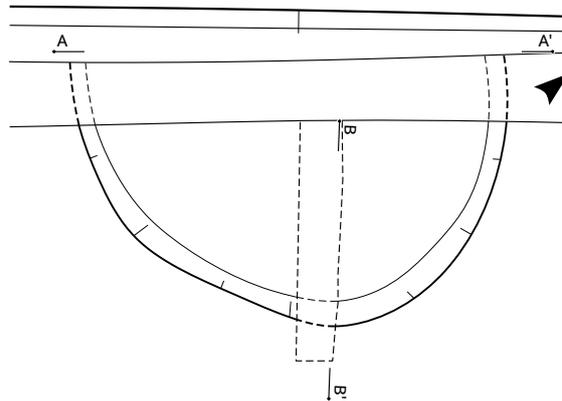
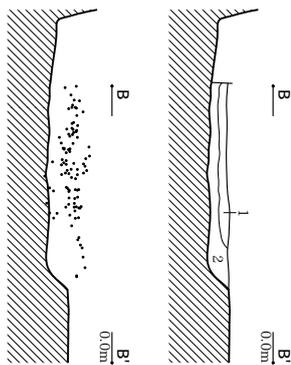


SK505
1 オリーブ黒色 (5Y3/2) 粘質土と灰色 (5Y4/1) 粘質土の混合。炭化物φ2mm以下を少量含む。しまりあり、粘性あり。
2 オリーブ黒色 (5Y3/2) 粘質土と灰色 (5Y4/1) 粘質土の混合。炭化物φ3mm以下を含む。しまりあり、粘性あり。
3 灰色 (10Y4/1) 粘質シルト。しまりあり、粘性あり。
4 2とほぼ同じだが灰色 (5Y4/1) 粘質土が2より少ない。しまりあり、粘性あり。
5 灰色 (10Y4/1) 粘質シルト混じりの灰色 (5Y4/1) 粘質土。しまりあり、粘性あり。

SK458
1 灰色 (5Y4/1) 粘質土混じりのオリーブ黒色 (7.5Y3/1) 粘質土。炭化物φ5mm以上を含む。しまりあり、粘性あり。
2 灰色 (5Y4/1) 粘質土混じりのオリーブ黒色 (7.5Y3/2) 粘質土。炭化物φ2mm以下を少量含む。しまりあり、粘性あり。
3 オリーブ黒色 (7.5Y3/2) 粘質土混じりの灰色 (10Y4/1) 粘質シルト。炭化物φ1mm以下を極少量含む。しまりあり、粘性ややあり。

SK215
1 オリーブ黒色 (5Y3/2) 粘質土。炭化物φ3mm以下を少量含む。しまりあり、粘性あり。
2 オリーブ黒色 (7.5Y3/1) 粘質土。炭化物φ2mm以下を少量含む。しまりあり、粘性あり。
3 灰色 (7.5Y4/1) 粘質土。炭化物を極少量含む。しまりあり、粘性あり。
4 灰色 (7.5Y4/1) 粘質土混じりの灰色 (10Y4/1) 粘質シルト。しまりあり、粘性ややあり。

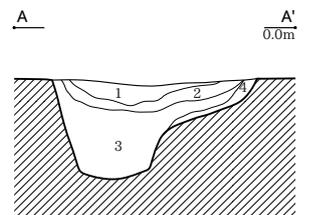
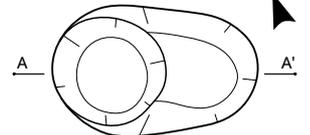
SK459 (図版10)



SK459
1 オリーブ黒色 (5Y3/2) 粘質土。炭化物φ4~5mmを多く含む。しまりあり、粘性あり。
2 灰色 (5Y4/1) 粘質土混じりの灰色 (10Y4/1) 粘質シルト。しまりあり、粘性ややあり。

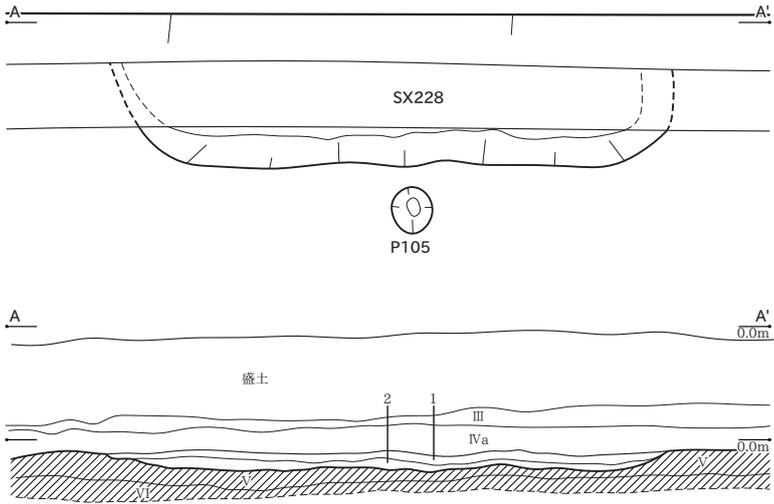
P559
1 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘質土。しまりあり、粘性あり。

SX513 (図版12)



SX513
1 オリーブ黒色 (5Y4/1) 粘質土。炭化物φ1mm以下を少量含む。しまりあり、粘性あり。
2 灰色 (5Y4/1) 粘質土と灰色 (10Y4/1) 粘質土の混合。炭化物φ1mm以下を少量含む。しまりあり、粘性あり。
3 灰色 (5Y4/1) 粘質土混じりの灰色 (10Y4/1) 粘質シルト。炭化物φ1mm以下を極少量含む。しまりあり、粘性あり。
4 灰色 (10Y4/1) 粘質シルト。しまりあり、粘性ややあり。

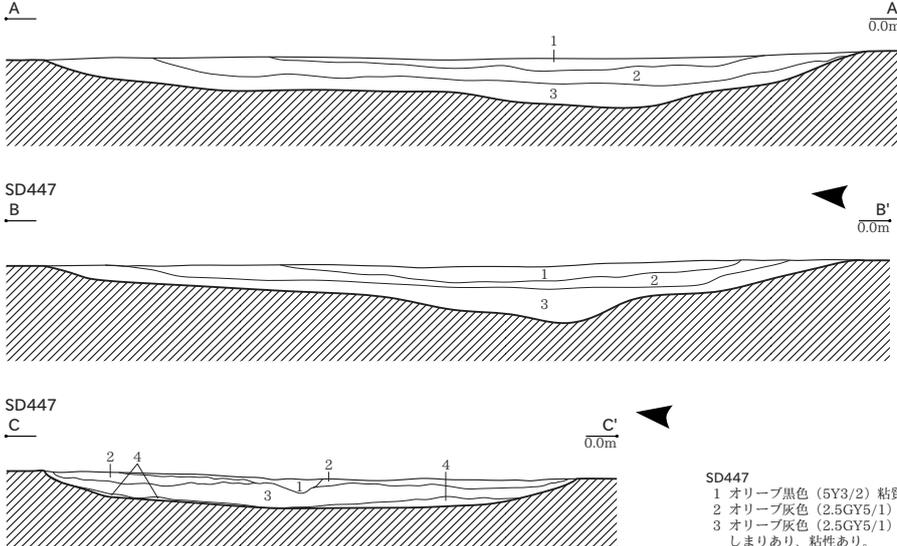
SX228 (図版8)



SX228

- 1 暗オリーブ灰色 (2.5GY4/1) 粘質土。炭化物φ1~3mmを含む。しまりあり、粘性あり。
- 2 オリーブ灰色 (2.5GY5/1) 粘質土。同色の粘質シルトを含む。しまりあり、粘性ややあり。

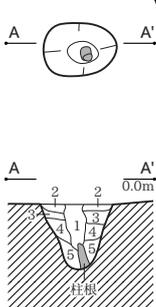
SD447 (図版9・10・12)



SD447

- 1 オリーブ黒色 (5Y3/2) 粘質土。炭化物φ4~5mmを多く含む。腐植物を含む。しまりあり、粘性あり。
- 2 オリーブ灰色 (2.5GY5/1) 粘質土。同色の粘質シルトを少量含む。しまりあり、粘性あり。
- 3 オリーブ灰色 (2.5GY5/1) と灰色 (7.5Y5/1) 粘質土の混合。しまりあり、粘性あり。
- 4 灰色 (5Y4/1) 粘質土混じりの灰色 (10Y4/1) 粘質シルト。しまりあり、粘性ややあり。

P89 (図版8・10)



P89

- 1 灰色 (5Y4/1) 粘質土。オリーブ灰色 (2.5GY5/1) をブロック状に含む。しまりあり、粘性あり。
- 2 灰色 (7.5Y5/1) 粘質土。灰色 (5Y4/1) が斑状に混じる。しまりあり、粘性ややあり。
- 3 オリーブ灰色 (2.5GY5/1) 粘質土。しまりあり、粘性あり。
- 4 灰色 (10Y5/1) 粘質シルト。灰色 (5Y4/1) 粘質土をブロック状に含む。しまりややあり、粘性あり。
- 5 暗オリーブ灰色 (2.5GY4/1) 砂質シルト。しまりややあり、粘性あり。

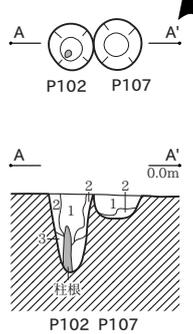
P339

- 1 オリーブ黒色 (5Y3/2) 粘質土と灰色 (5Y4/1) 粘質土の混合。炭化物φ1mm以下を少量含む。しまりあり、粘性あり。
- 2 灰色 (5Y4/1) 粘質土と灰色 (10Y4/1) 粘質シルトの混合。炭化物φ1mm以下を極少量含む。しまりあり、粘性あり。

P321

- 1 オリーブ黒色 (5Y3/2) 粘質土と灰色 (5Y4/1) 粘質土の混合。炭化物φ3mm以下を少量含む。しまりあり、粘性あり。
- 2 灰色 (10Y4/1) 粘質シルト混じりの灰色 (5Y4/1) 粘質土。しまりあり、粘性あり。
- 3 灰色 (5Y4/1) 粘質土混じりの灰色 (10Y4/1) 粘質シルト。しまりあり、粘性ややあり。

P102 P107 (図版7)



P102 P107

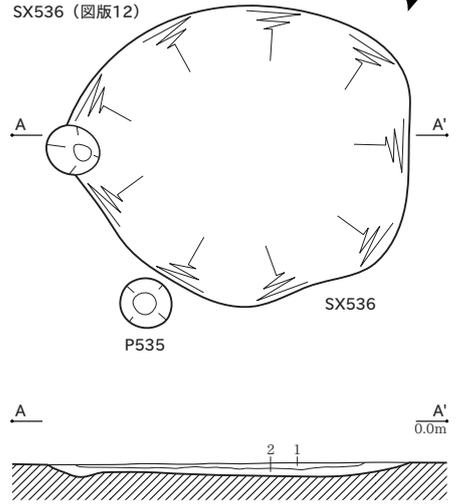
P102

- 1 オリーブ黒色 (5Y4/1) 粘質土。炭化物φ2mm以下を含む。しまりあり、粘性あり。
- 2 灰色 (7.5Y4/1) 粘質土と灰色 (10Y4/1) 粘質シルトの混合。炭化物φ1mm以下を極少量含む。しまりあり、粘性ややあり。
- 3 灰色 (7.5Y4/1) 粘質土混じりの灰色 (10Y4/1) 粘質土。しまりあり、粘性ややあり。

P107

- 1 オリーブ黒色 (5Y4/1) 粘質土。炭化物φ3mm以下を多く含む。しまりあり、粘性あり。
- 2 灰色 (7.5Y4/1) 粘質土混じりの灰色 (10Y4/1) 粘質シルト。炭化物φ1mm以下を少量含む。しまりあり、粘性ややあり。

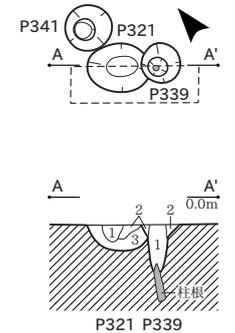
SX536 (図版12)



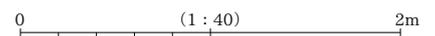
SX536

- 1 灰色 (5Y4/1) 粘質土。炭化物φ1mm以下を極少量含む。しまりあり、粘性あり。
- 2 灰色 (5Y4/1) 粘質土と灰色 (10Y4/1) 粘質シルトの混合。しまりあり、粘性あり。

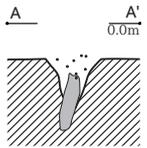
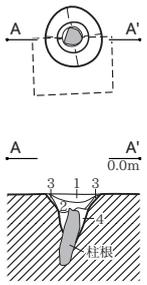
P321 P339 (図版7・10)



P321 P339



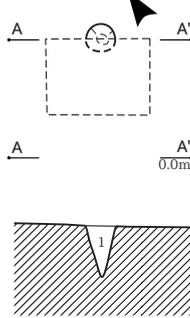
P204 (図版9・10)



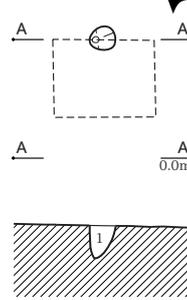
P394 (図版9・10)
 1 灰色 (5Y4/1) 粘質土。粘質土混じりのオリブ黒色 (5Y3/2) 粘質土。炭化物φ3mm以下を含む。しまりあり、粘性あり。

P204
 1 灰色 (7.5Y4/1) 粘質シルト混じりのオリブ黒色 (5Y3/2) 粘質土。炭化物φ1mm以下を少量含む。しまりあり、粘性あり。
 2 灰色 (7.5Y4/1) 粘質シルト混じりのオリブ黒色 (5Y3/1) 粘質土。炭化物φ1mm以下を少量含む。しまりあり、粘性あり。
 3 オリブ黒色 (5Y3/2) 粘質土混じりの灰色 (7.5Y4/1) 粘質土。炭化物φ1mm以下を極少量含む。しまりあり、粘性あり。
 4 灰色 (5Y4/1) 粘質土と灰色 (10Y4/1) 粘質シルトの混合。しまりあり、粘性あり。

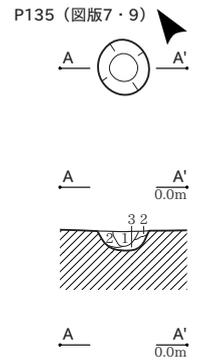
P394 (図版9・10)



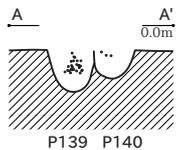
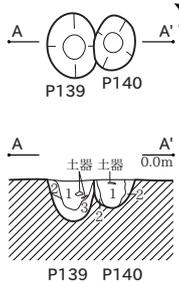
P427 (図版9・10)



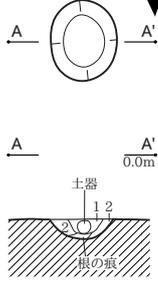
P135 (図版7・9)
 1 オリブ黒色 (5Y3/2) 粘質土と灰色 (5Y4/1) 粘質土の混合。炭化物φ3mm以下を多く含む。しまりあり、粘性あり。
 2 灰色 (10Y4/1) 粘質シルト混じりの灰色 (5Y4/1) 粘質土。炭化物φ1mm以下を極少量含む。しまりあり、粘性あり。
 3 灰色 (5Y4/1) 粘質土と灰色 (10Y4/1) 粘質シルトの混合。しまりあり、粘性ややあり。



P139・P140 (図版7・10)

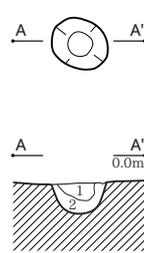


P189 (図版9)



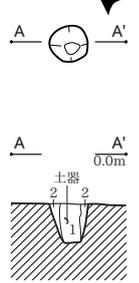
P189
 1 灰色 (5Y4/1) 粘質土混じりのオリブ黒色 (5Y3/2) 粘質土。炭化物φ3mm以下を含む。しまりあり、粘性あり。
 2 灰色 (10Y4/1) 粘質シルト混じりの灰色 (5Y4/1) 粘質土。しまりあり、粘性あり。

P98 (図版8・10)

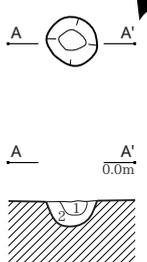


P98
 1 灰色 (7.5Y4/1) 粘質土。炭化粒φ2~3mmを多く含む。灰色 (10Y5/1) 粘質シルトをブロック状に少量含む。しまりあり、粘性あり。
 2 灰色 (10Y4/1) 粘質シルト。しまりあり、粘性あり。

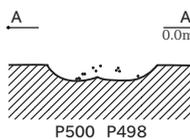
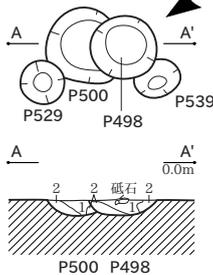
P417 (図版9・10)



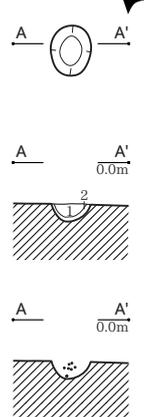
P476 (図版9)



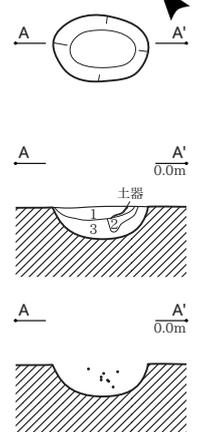
P500・P498 (図版9)



P502 (図版9・11)



P473 (図版9・12)



P139
 1 灰色 (5Y4/1) 粘質土小ブロック混じりのオリブ黒色 (5Y3/2) 粘質土。炭化物φ5mm以上を多く含む。
 2 灰色 (5Y4/1) 粘質シルトの混合。炭化物φ1mm以下をやや多く含む。
 3 灰色 (5Y4/1) 粘質土と灰色 (10Y4/1) 粘質シルトの混合。しまりあり、粘性ややあり。

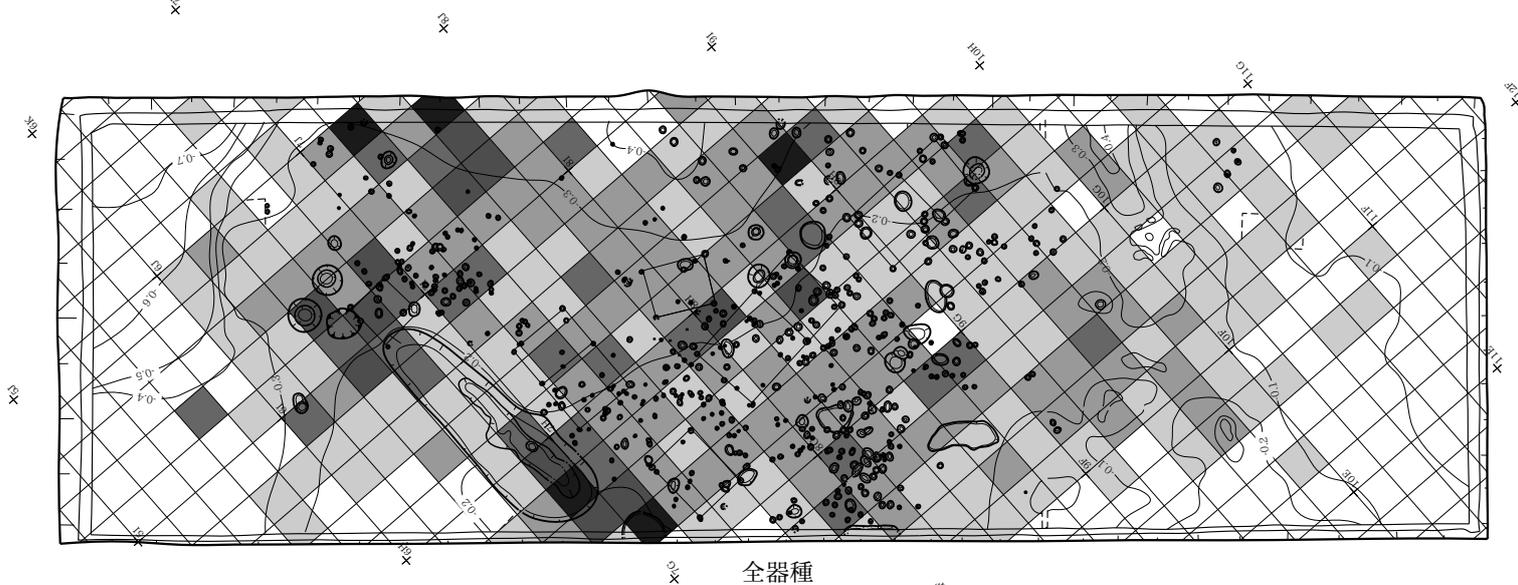
P140
 1 灰色 (5Y4/1) 粘質土小ブロック混じりのオリブ黒色 (5Y3/2) 粘質土。炭化物φ4mm以下を多く含む。しまりあり、粘性あり。
 2 灰色 (5Y4/1) 粘質土と灰色 (10Y4/1) 粘質シルトの混合。炭化物φ1mm以下を極少量含む。しまりあり、粘性あり。

P417
 1 オリブ黒色 (7.5Y3/1) 粘質土。炭化粒φ2mm以下を少量含む。しまりあり、粘性あり。
 2 灰色 (7.5Y4/1) 粘質土と灰色 (10Y4/1) 粘質シルトの混合。しまりあり、粘性あり。

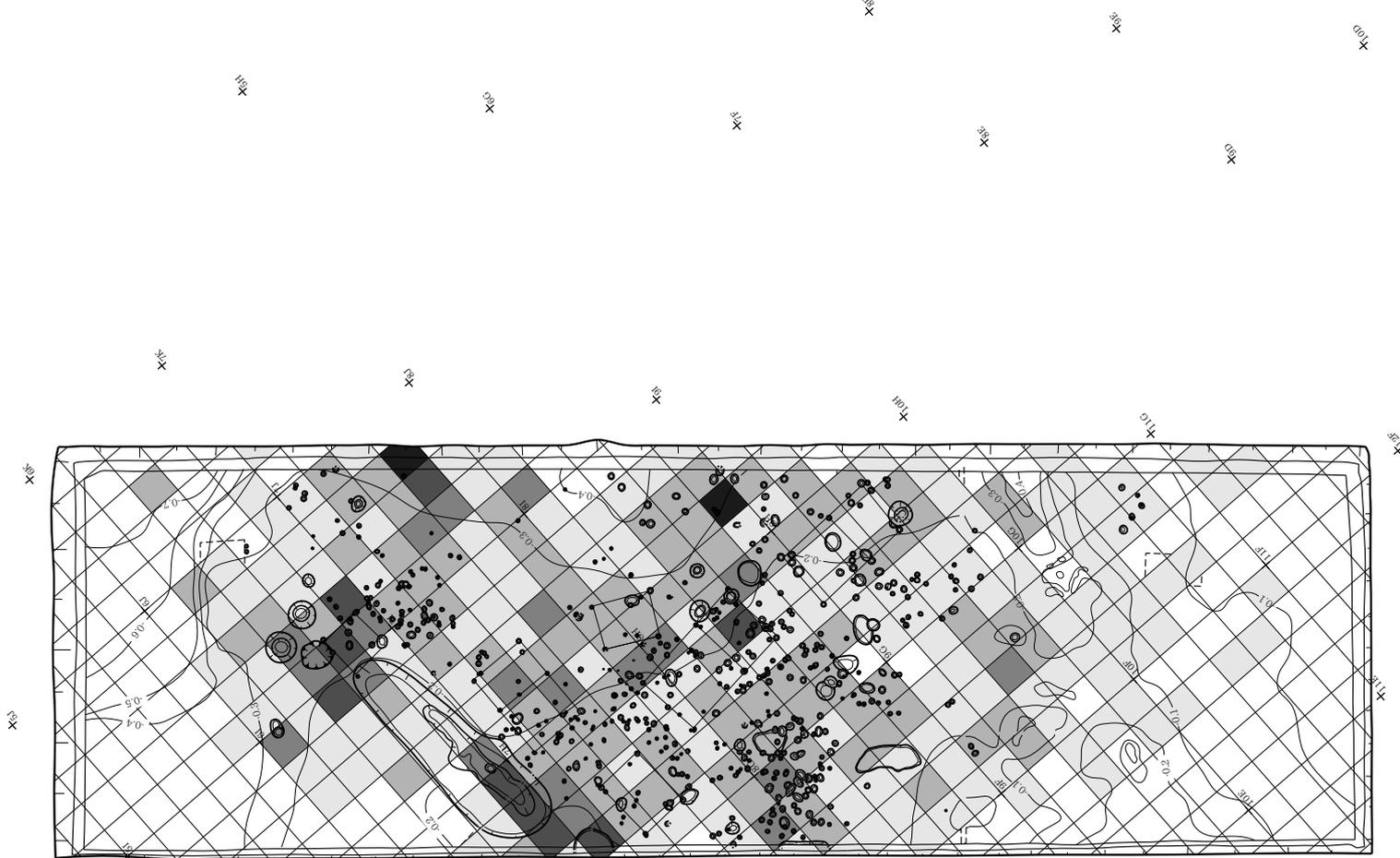
P473
 1 灰色 (5Y4/1) 粘質土混じりのオリブ黒色 (5Y3/2) 粘質土。炭化物φ1mm以下を極少量含む。しまりあり、粘性あり。
 2 オリブ黒色 (5Y3/1) 粘質土混じりの灰色 (5Y4/1) 粘質土。炭化物φ1mm以下を極少量含む。しまりあり、粘性あり。
 3 灰色 (5Y4/1) 粘質土と灰色 (10Y4/1) 粘質シルトの混合。しまりあり、粘性あり。

P498
 1 灰色 (5Y4/1) 粘質土。炭化粒φ2~3mmを多く含む。しまりあり、粘性あり。
 2 オリブ灰色 (5Y5/2) 粘質土。オリブ黒色 (5Y3/2) 粘質土をブロック状に少量含む。しまりあり、粘性あり。

P500
 1 黒褐色 (2.5Y3/2) 粘質土。炭化物φ3~4mmを多く含む。しまりあり、粘性あり。
 2 オリブ灰色 (5Y5/2) 粘質土。しまりあり、粘性あり。



全器種

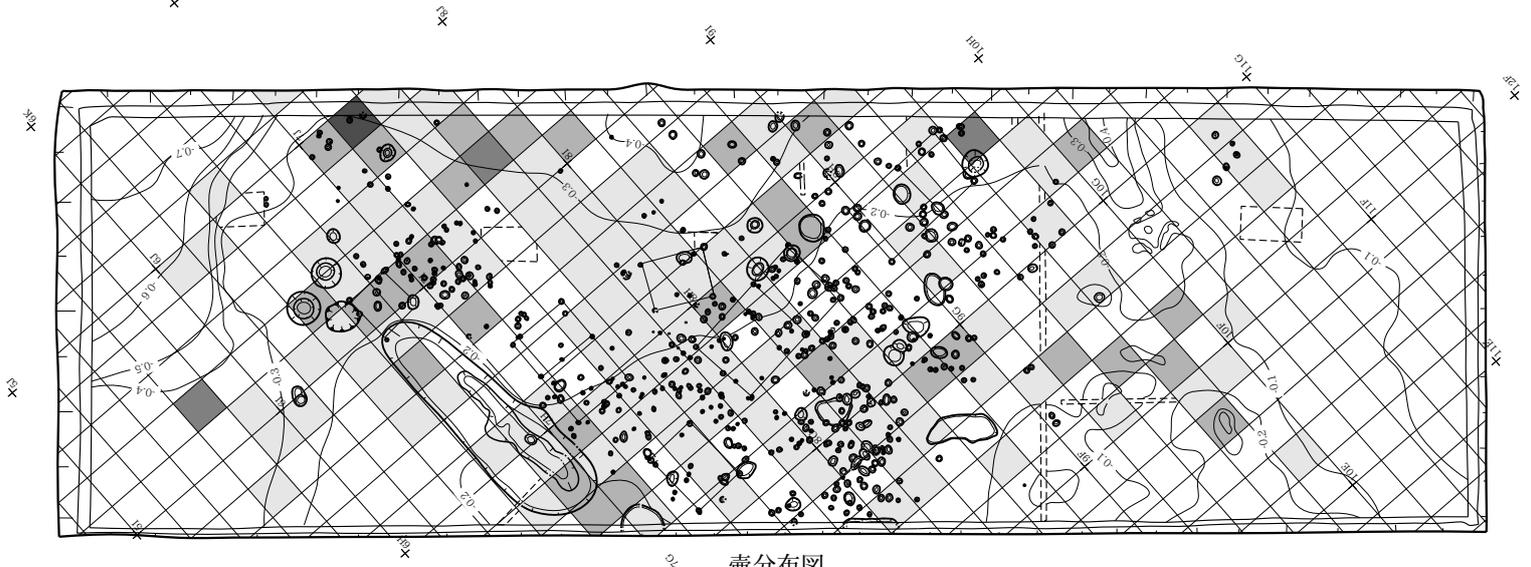


甕分布図

凡例

-  0
-  1~100g
-  101~500g
-  501~1000g
-  1001~2000g
-  2001g~

0 (1 : 400) 10m



壺分布図

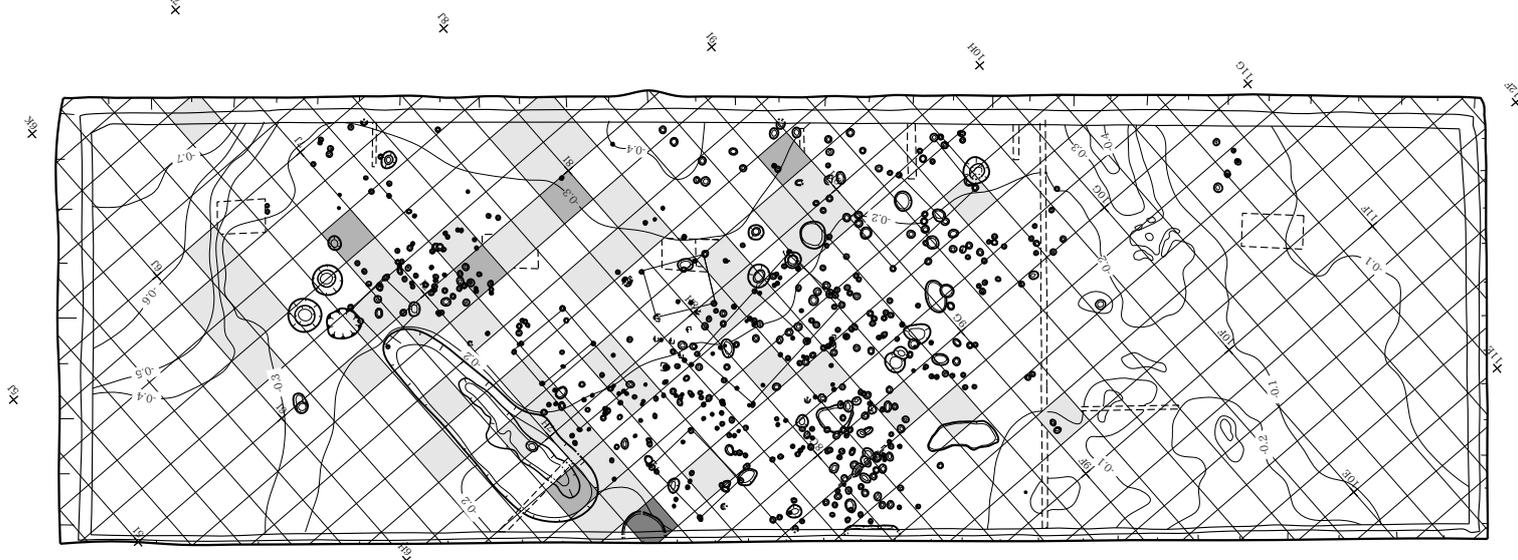


鉢分布図

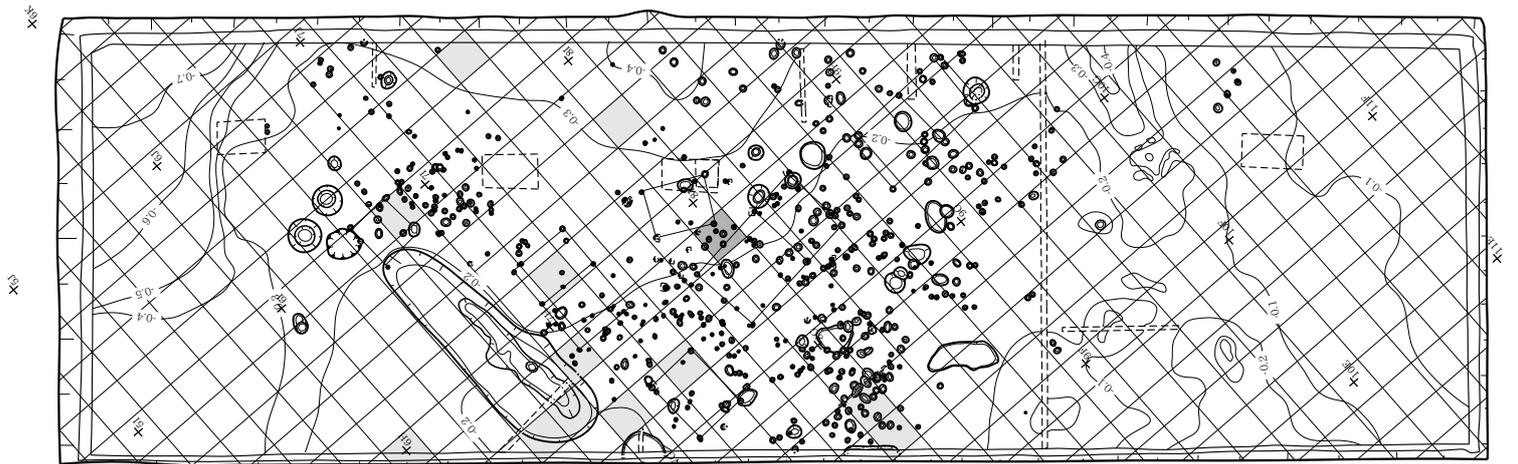
凡例

-  0
-  1~100g
-  101~500g
-  501~1000g
-  1001~2000g

0 (1 : 400) 10m



高杯分布図



器台分布図

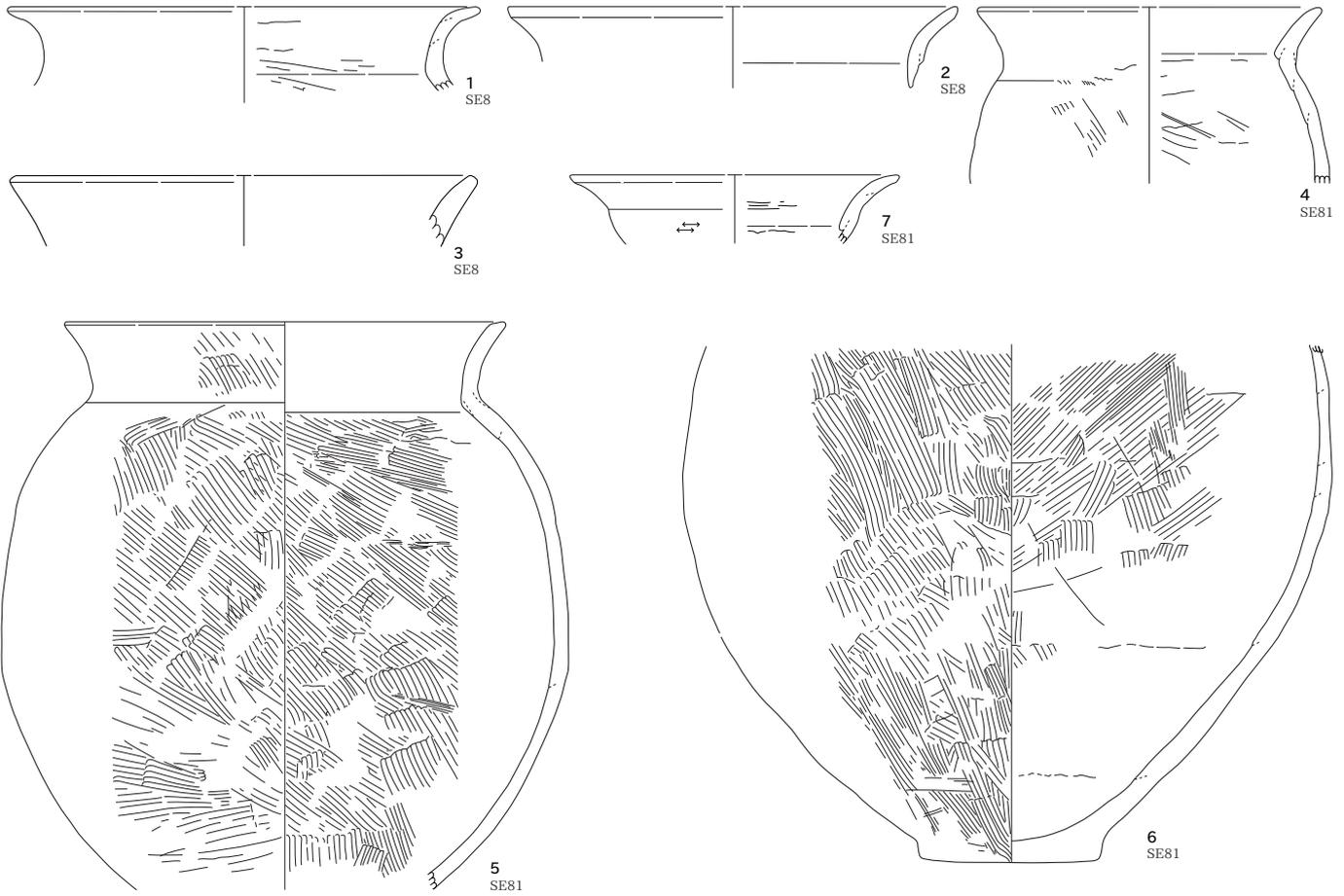
凡例

- 0
- 1~100g
- 101~500g
- 501~1000g

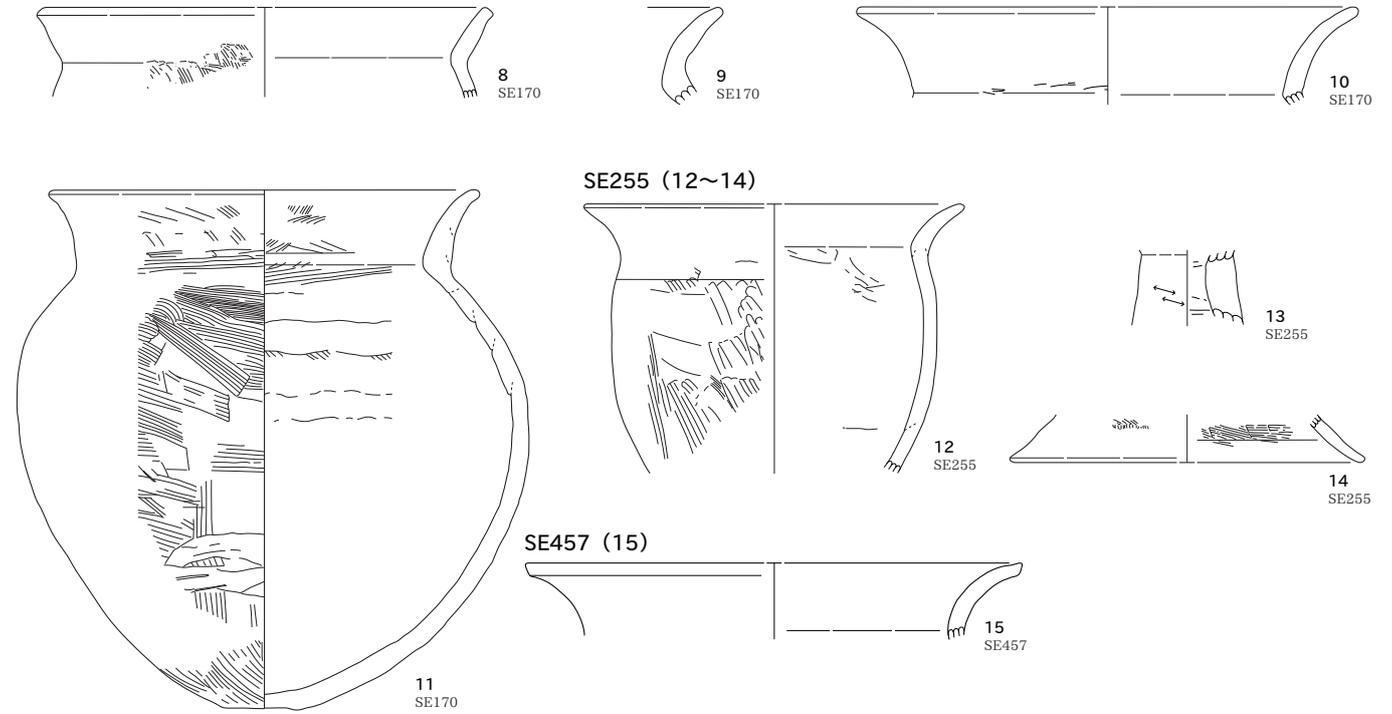
0 (1:400) 10m

SE8 (1~3)

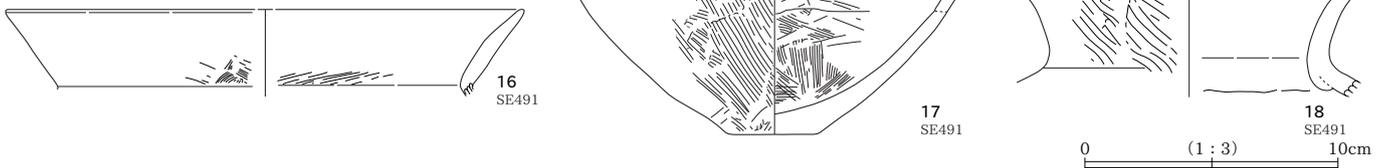
SE81 (4~7)



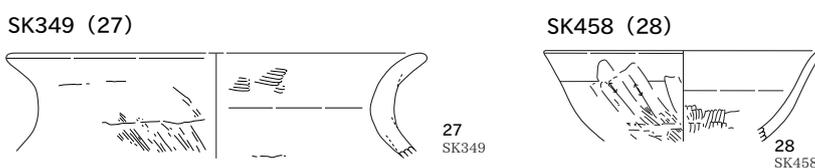
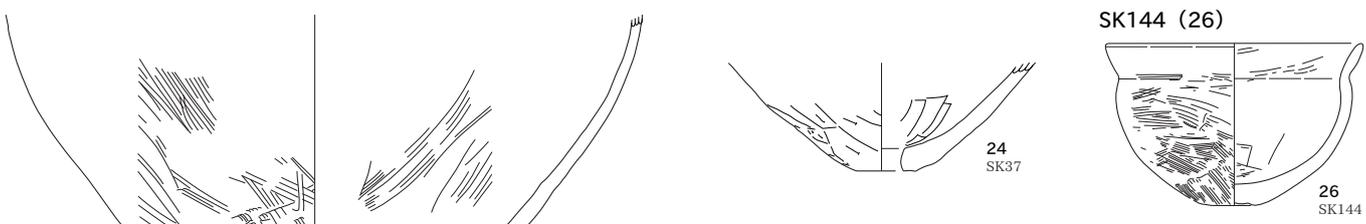
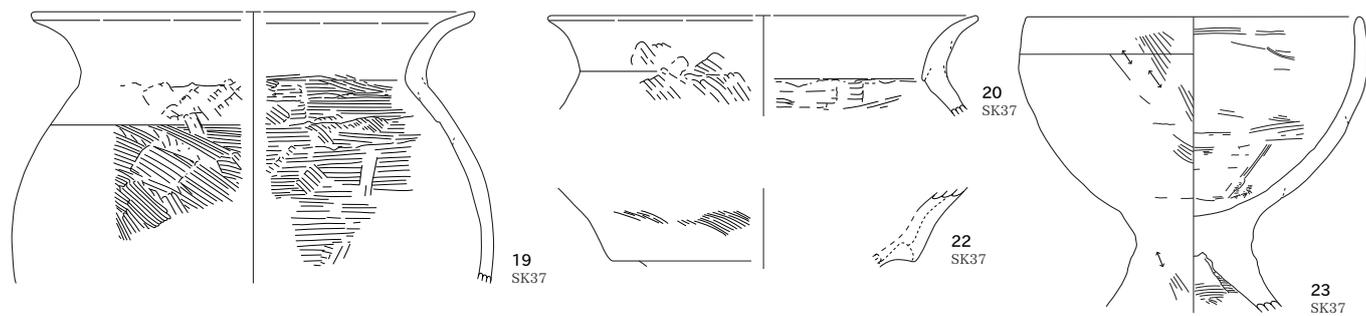
SE170 (8~11)



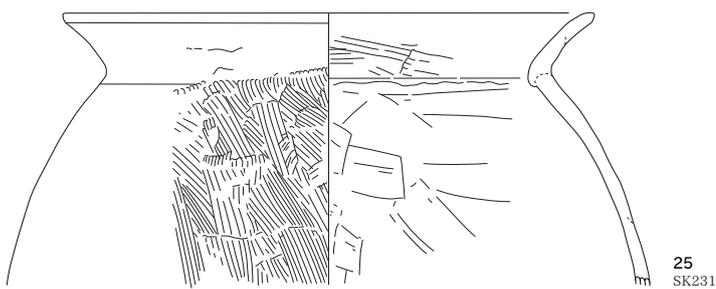
SE491 (16~18)



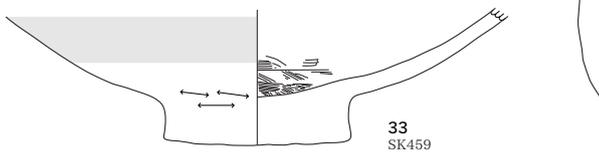
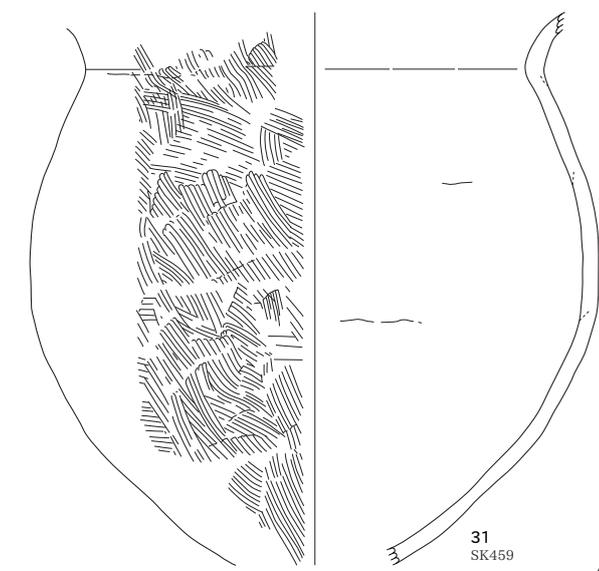
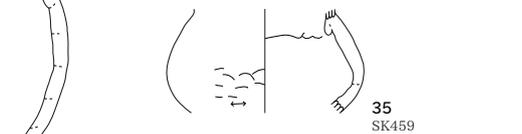
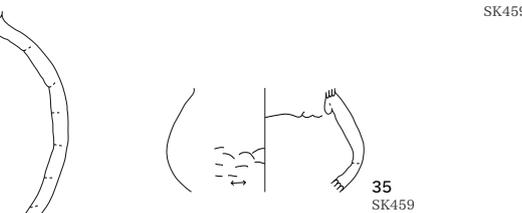
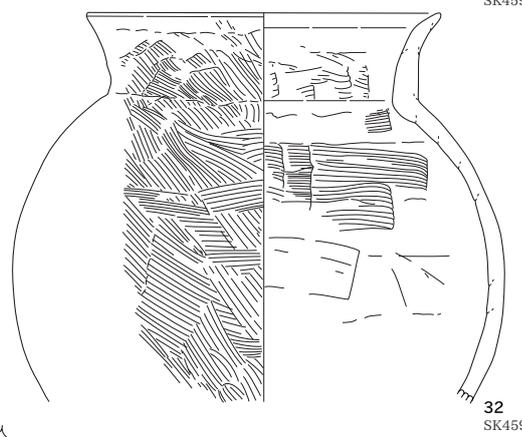
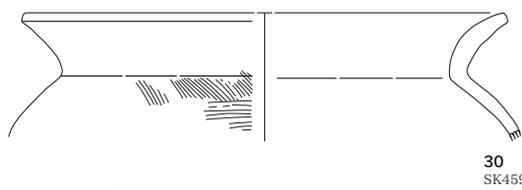
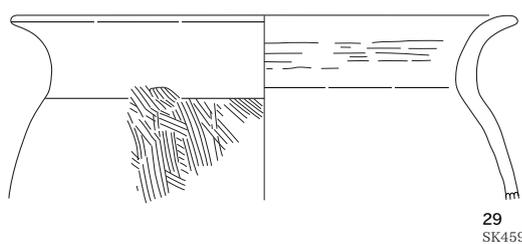
SK37 (19~24)



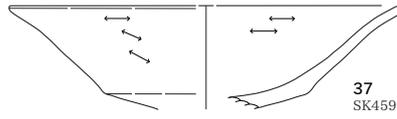
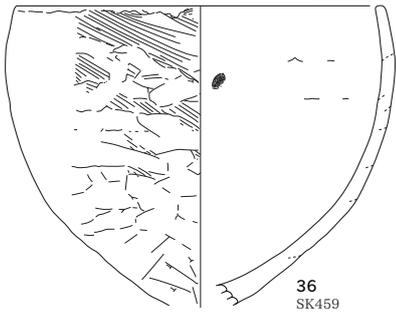
SK231 (25)



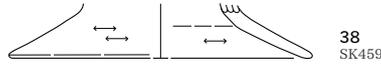
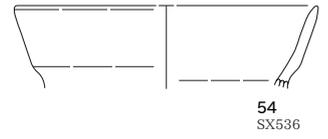
SK459 (29~35)



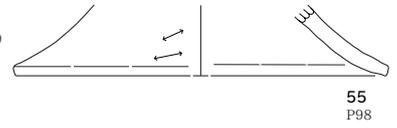
SK459 (36~38)



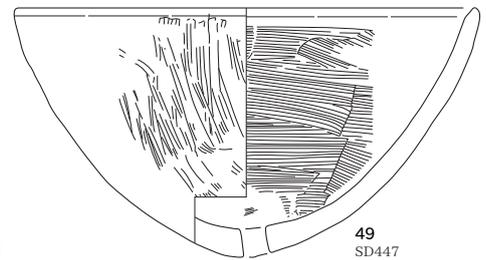
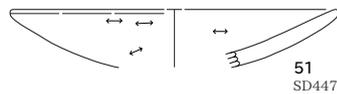
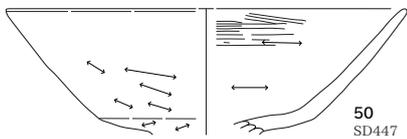
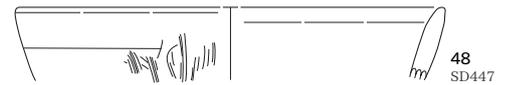
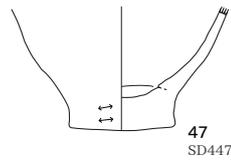
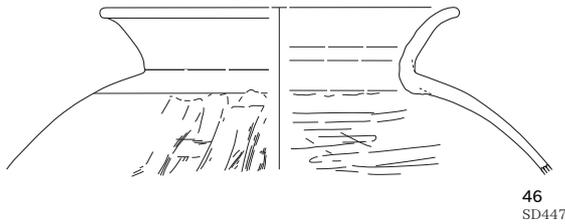
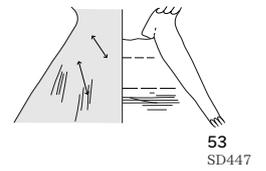
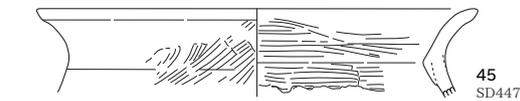
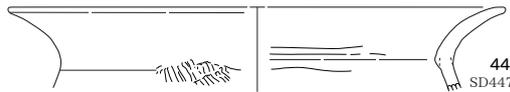
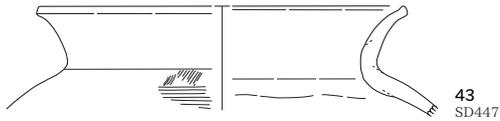
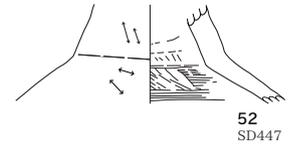
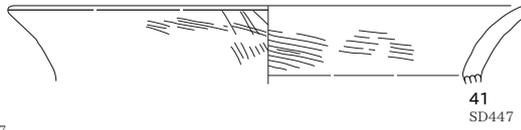
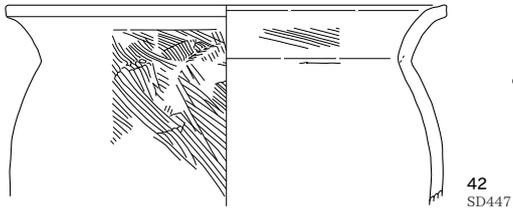
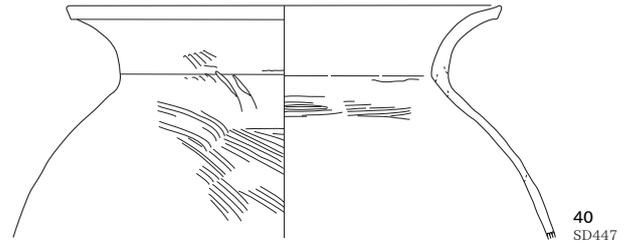
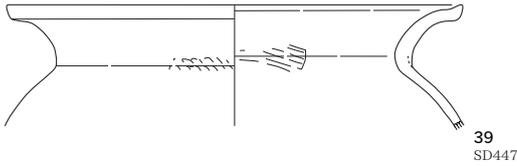
SX536 (54)



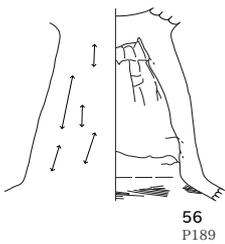
P98 (55)



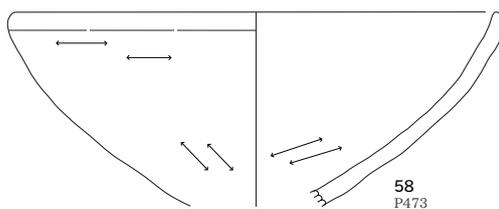
SD447 (39~53)



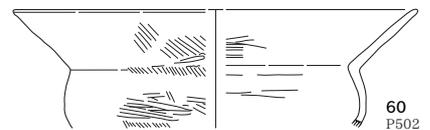
P189 (56)



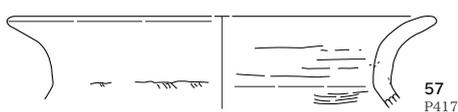
P473 (58)



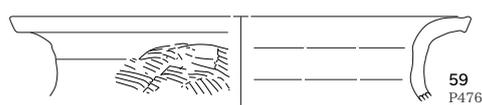
P502 (60)



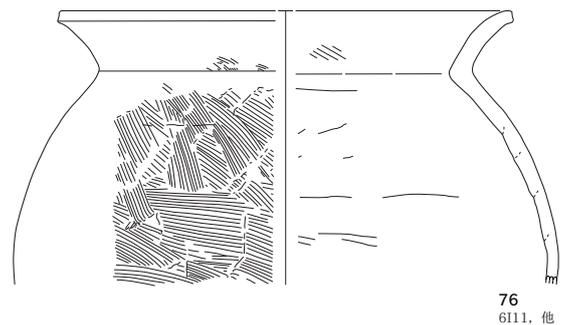
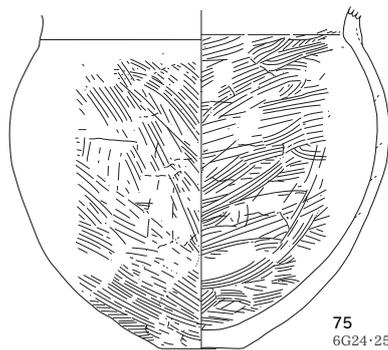
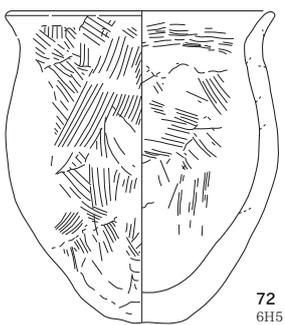
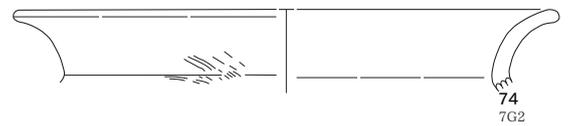
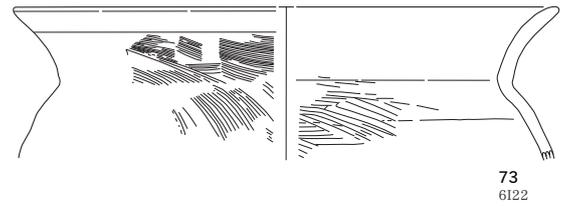
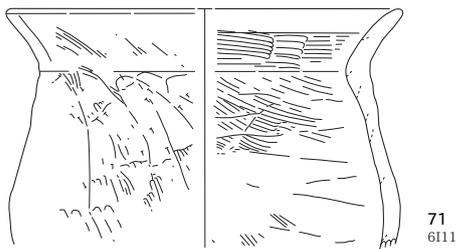
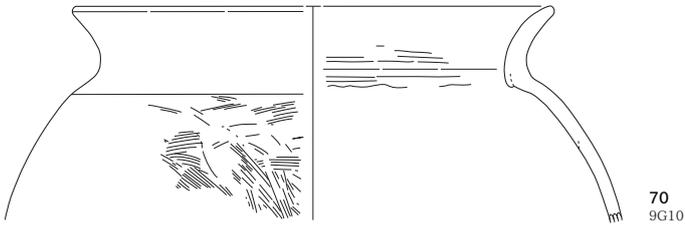
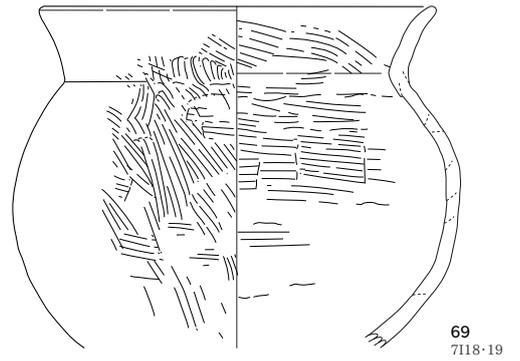
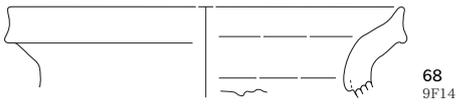
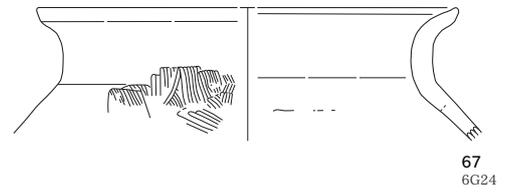
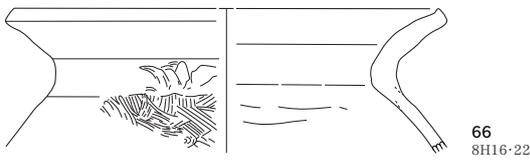
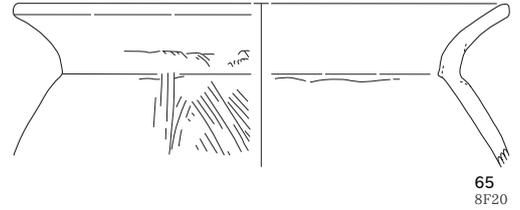
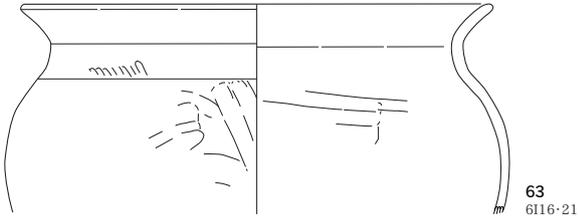
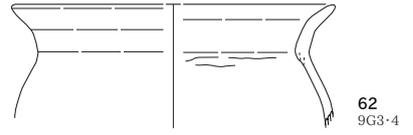
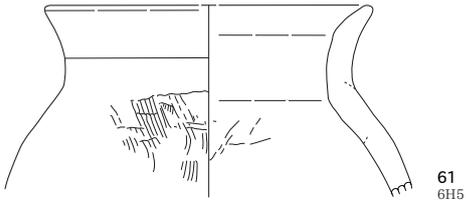
P417 (57)



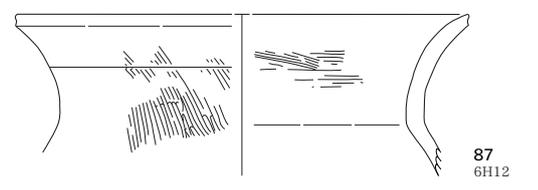
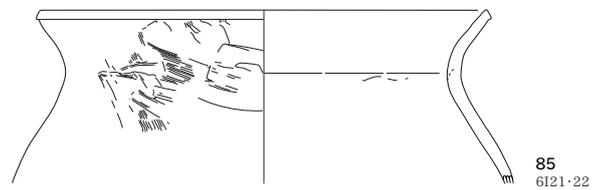
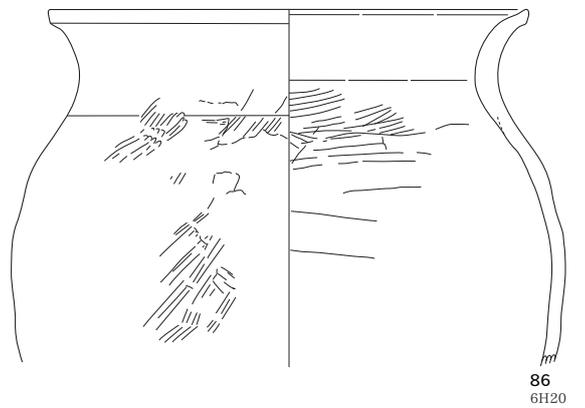
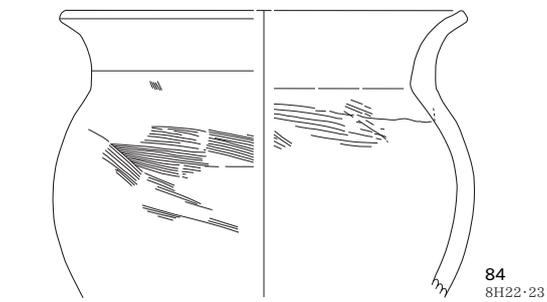
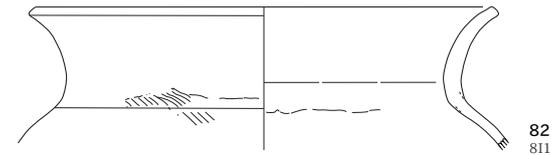
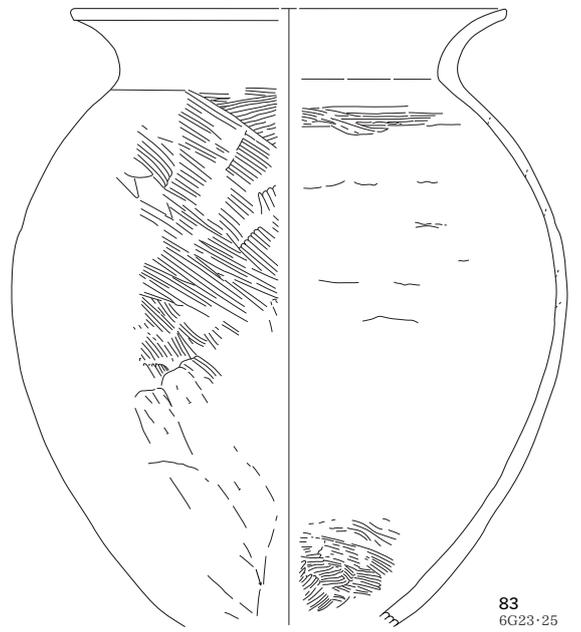
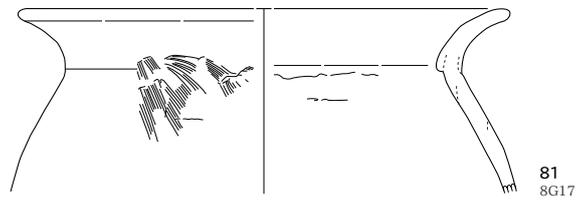
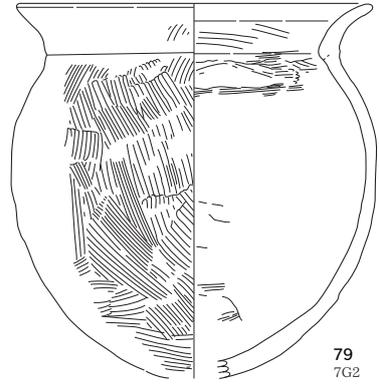
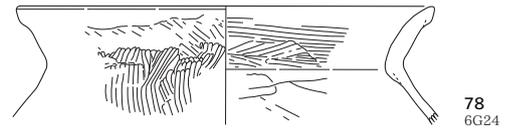
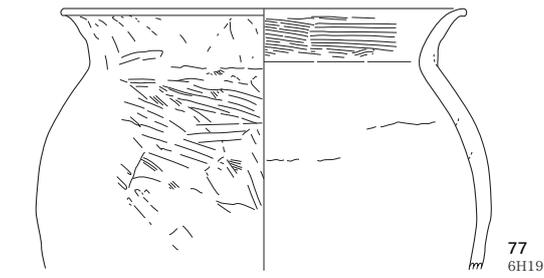
P476 (59)



遺構外 (61~76)

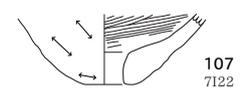
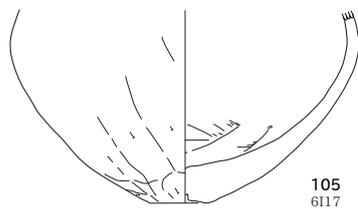
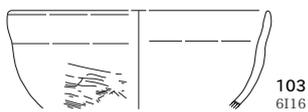
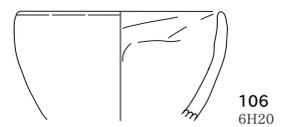
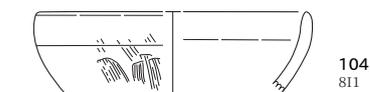
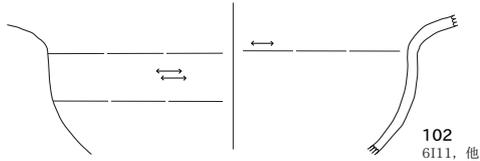
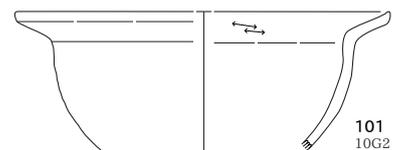
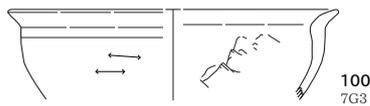
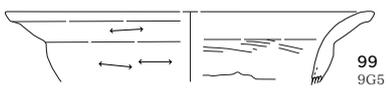
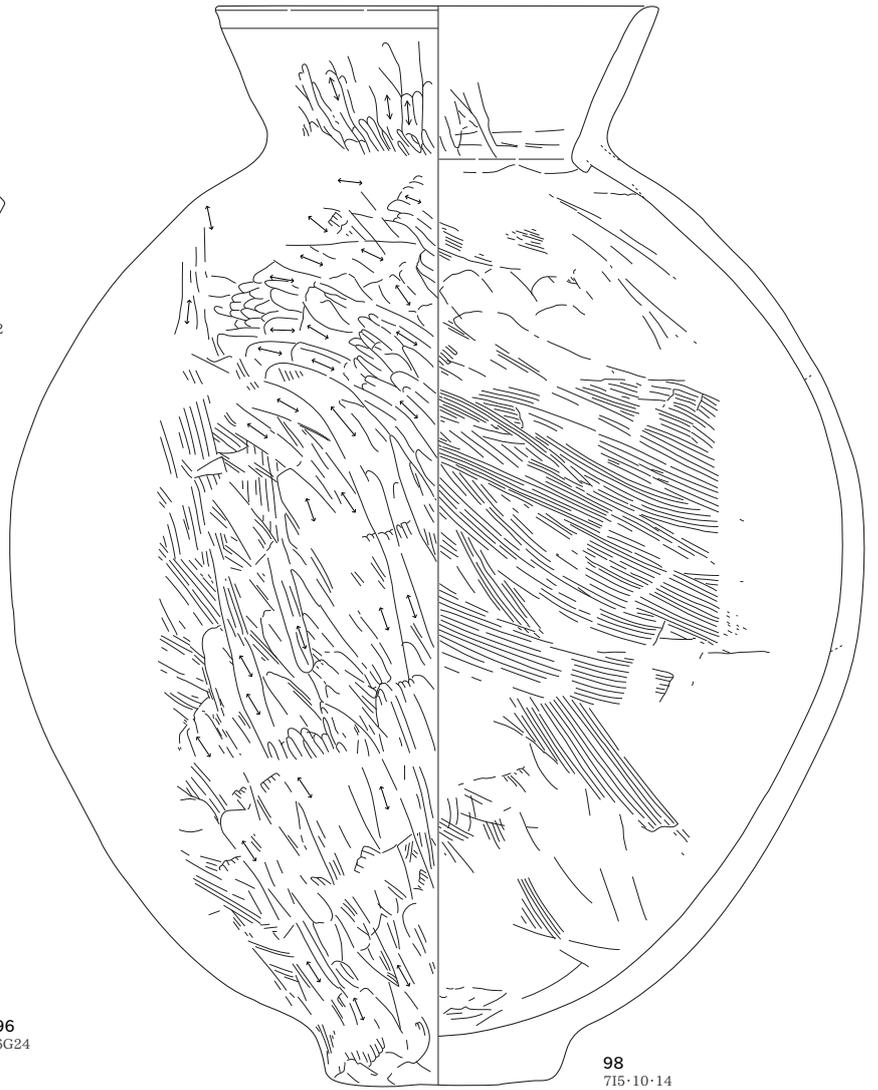
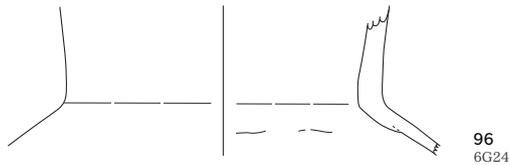
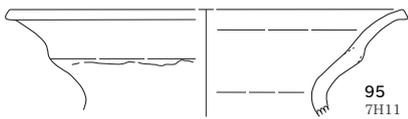
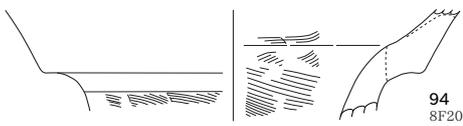
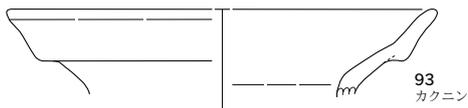
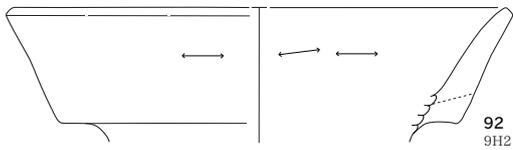
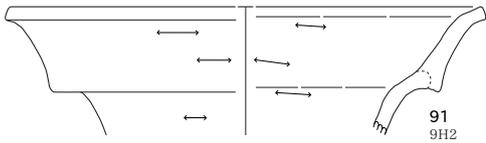
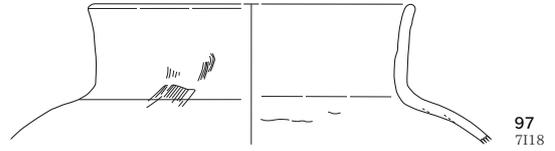
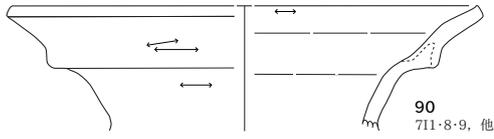
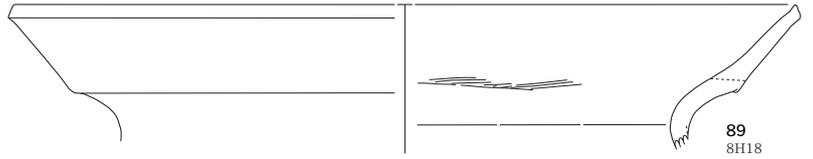
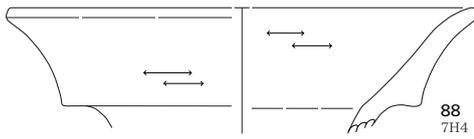


遺構外 (77~87)



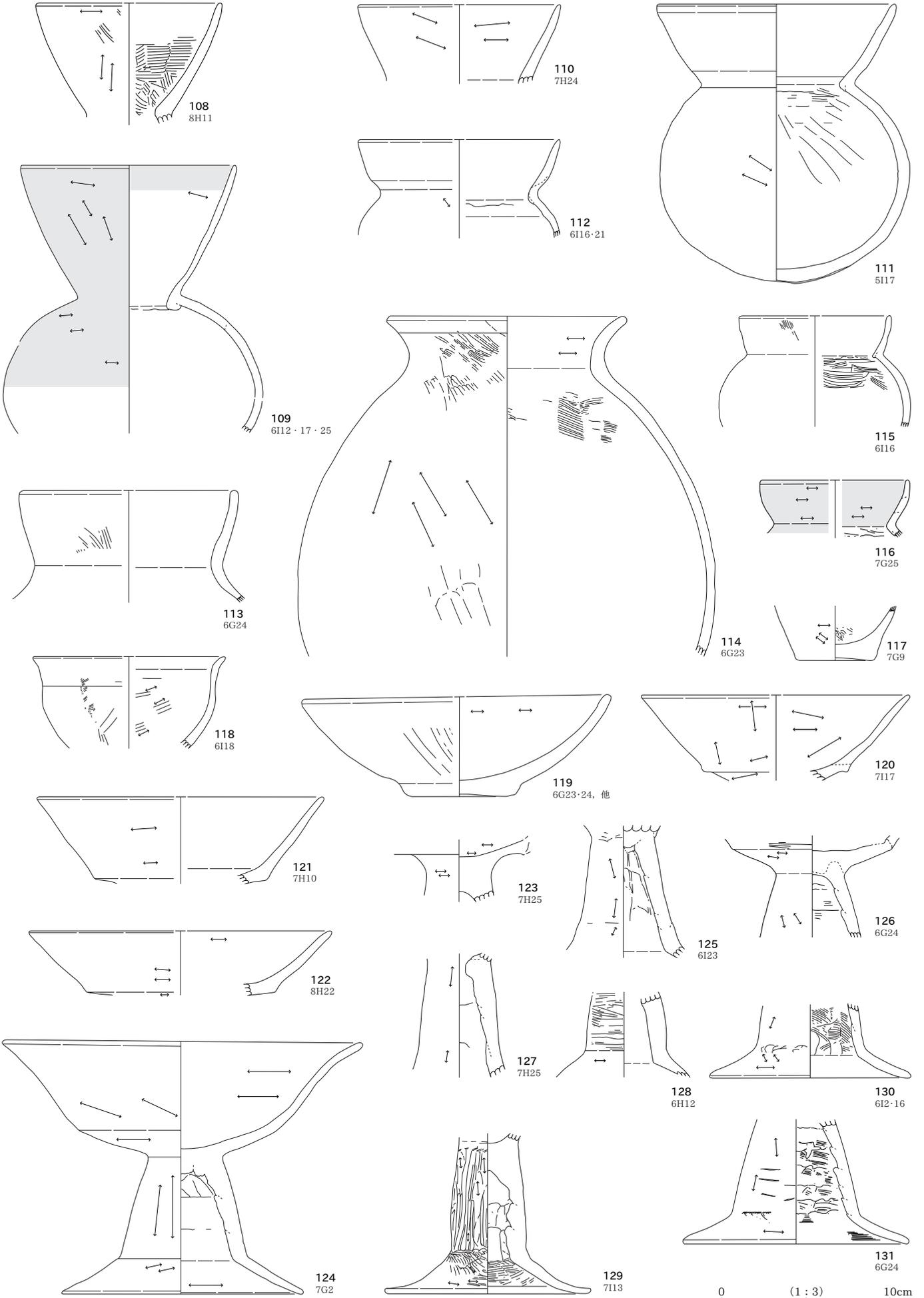
0 (1:3) 10cm

遺構外 (88~107)



0 (1:3) 10cm

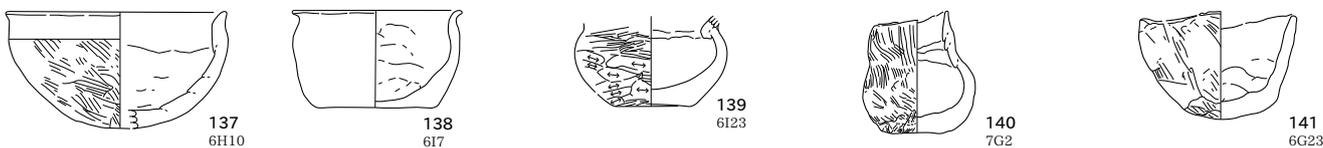
遺構外 (108~131)



遺構外 (132~136)



土製品 (137~142)

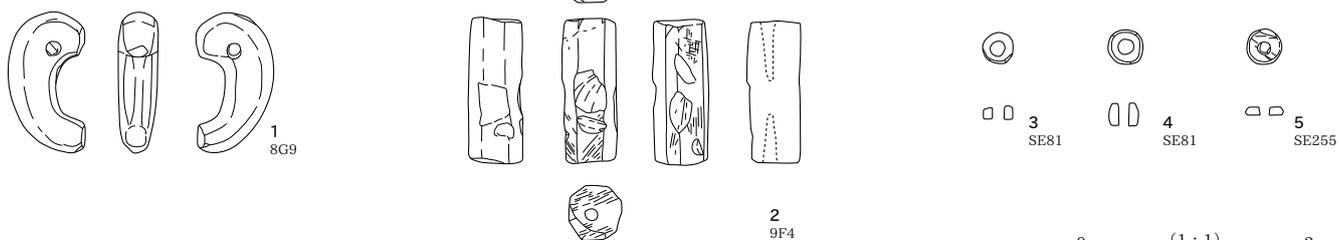


陶器 (143)

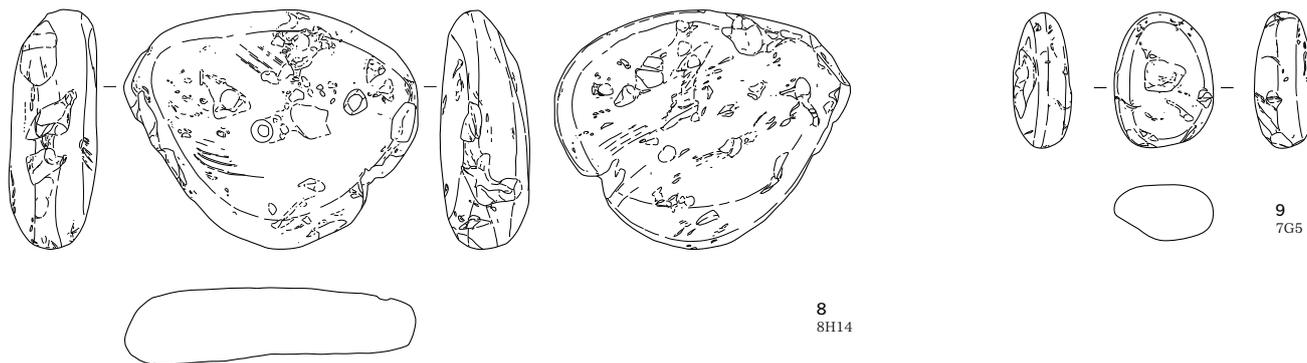
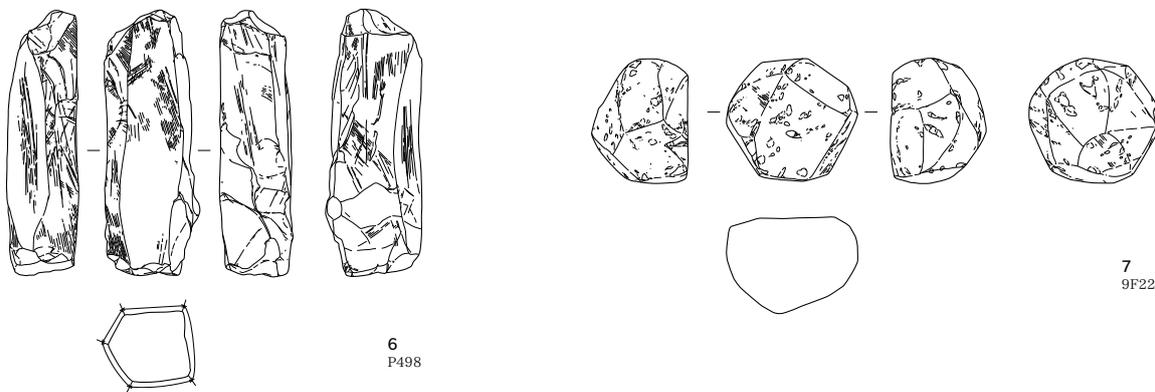


0 (1:3) 10cm

石製品 (1~9)

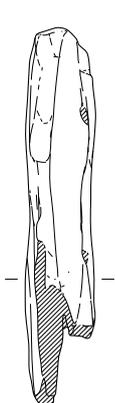


0 (1:1) 3cm

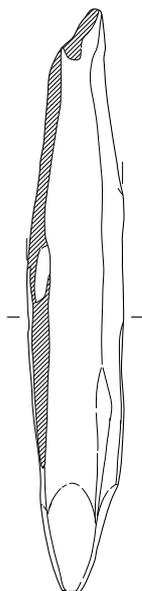


0 (1:3) 10cm

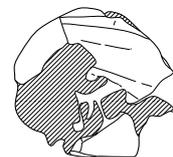
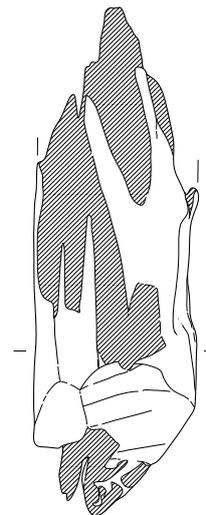
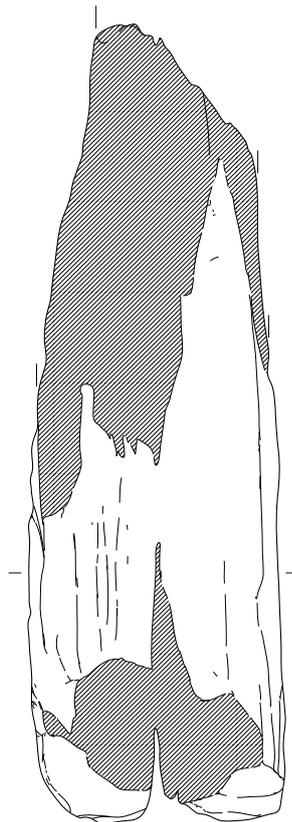
木製品 (1~6)



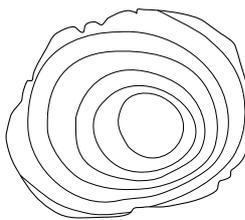
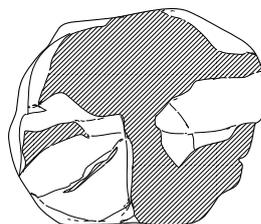
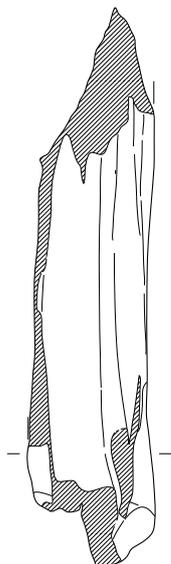
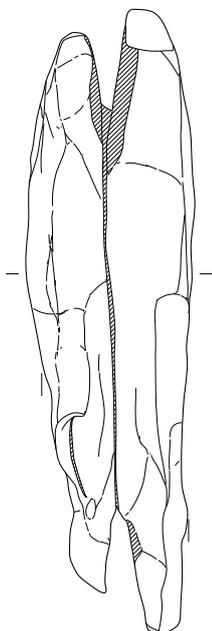
1
P89



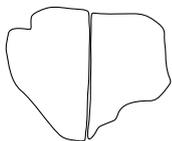
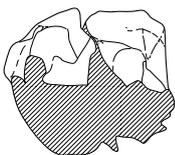
2
P102



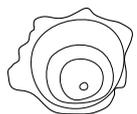
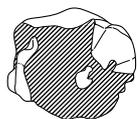
4
P258



3
P204



5
P383



6
P339

82 RSP R 1389 7196 7 MAY 48



正尺

◎
上大川遺跡

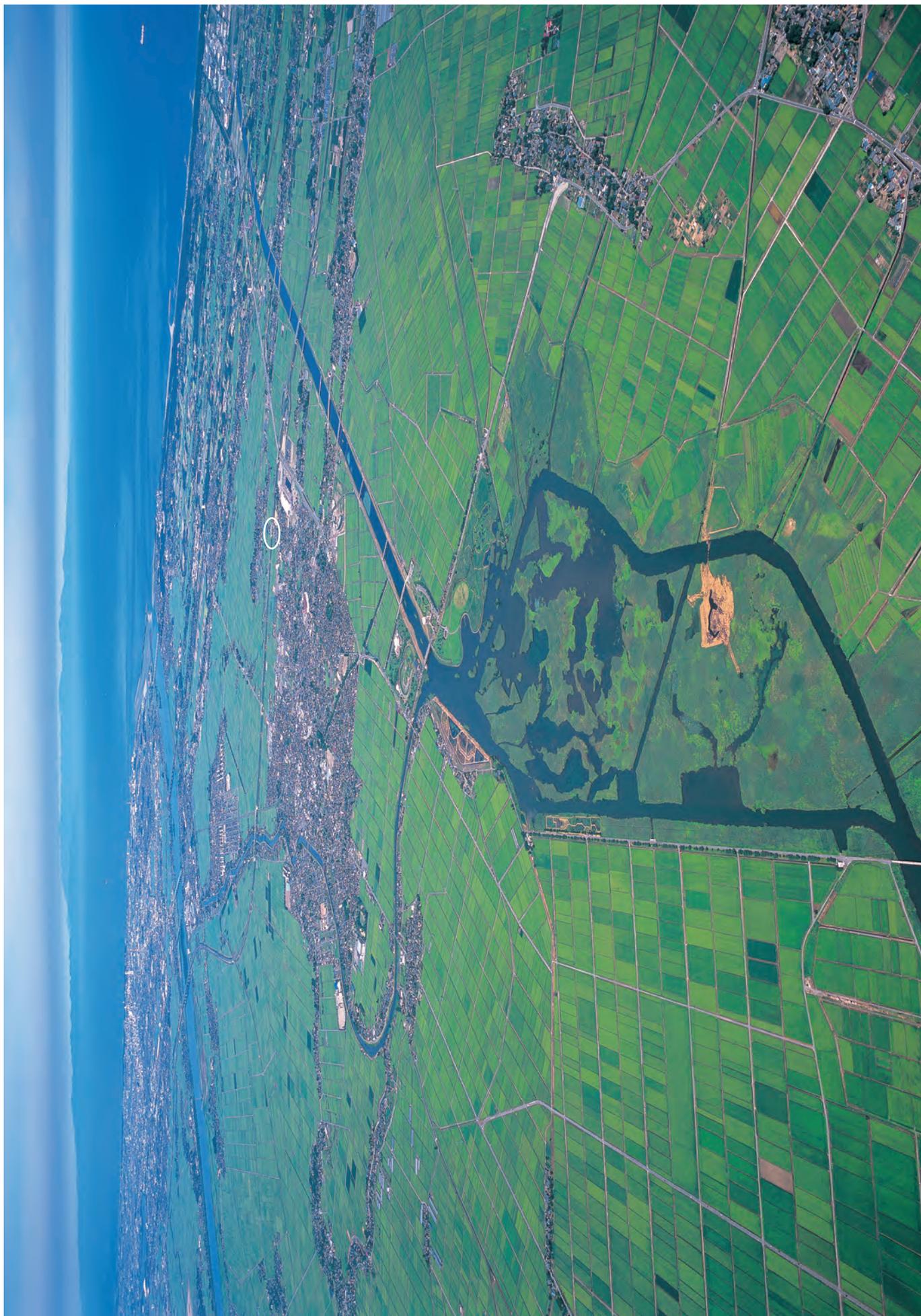
豊栄駅

法花鳥屋

葛塚

上土地亀

新井郷川



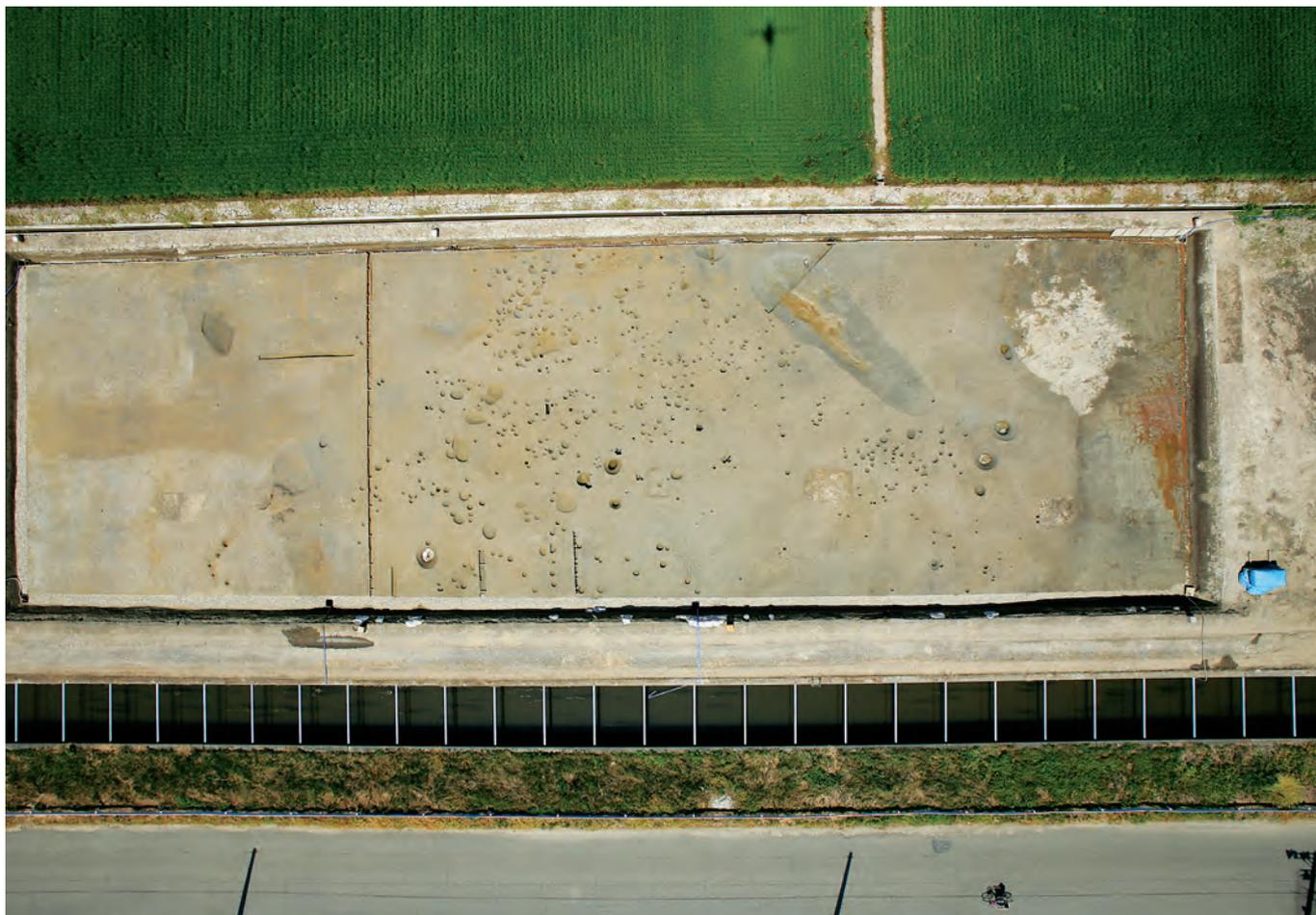
上大川遺跡周辺空中写真（南東から）



空中写真（西から）



空中写真（北から）



空中写真（全景）



完掘状況 遺構集中区・SB601～SB604（北から）



完掘状況 SB605・SB606・SD447 (北から)



土器集合写真



調査前現況 1 (南から)



調査前現況 2 (北から)



東壁基本層序 1 (西から)



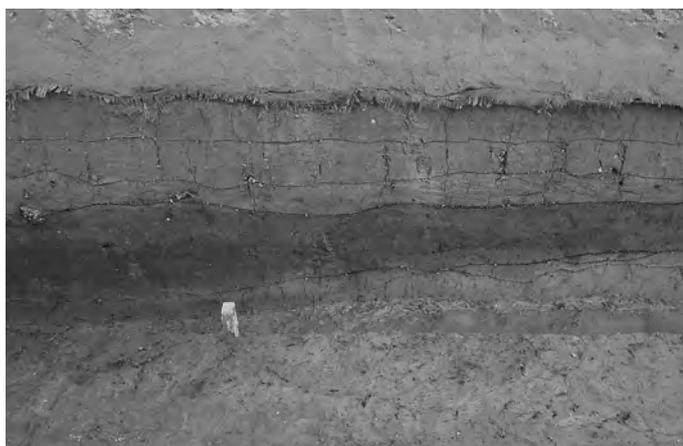
東壁基本層序 2 (西から)



東壁基本層序 3 (西から)



東壁基本層序 4 (西から)



東壁基本層序 5 (西から)



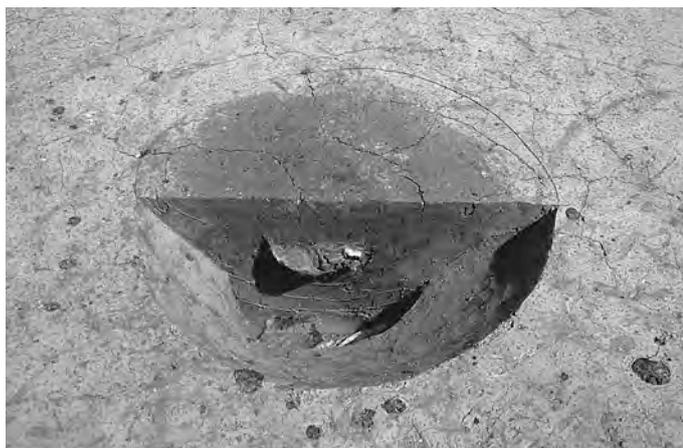
東壁基本層序 6 (西から)



SE8 土層断面 (西から)



SE8 完掘 (南から)



SE81 土層断面 (西から)



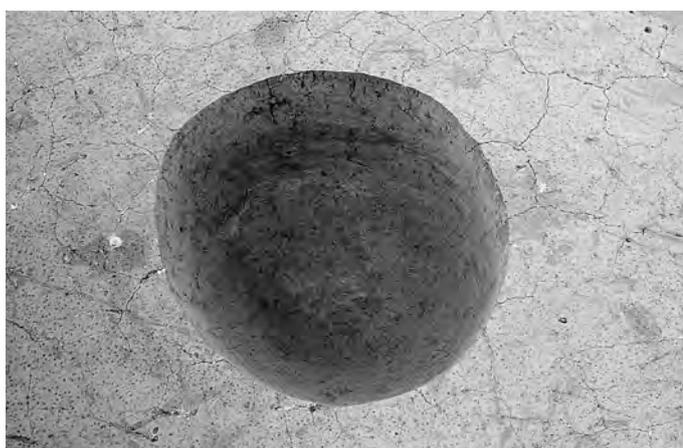
SE81 底面遺物出土状況 (西から)



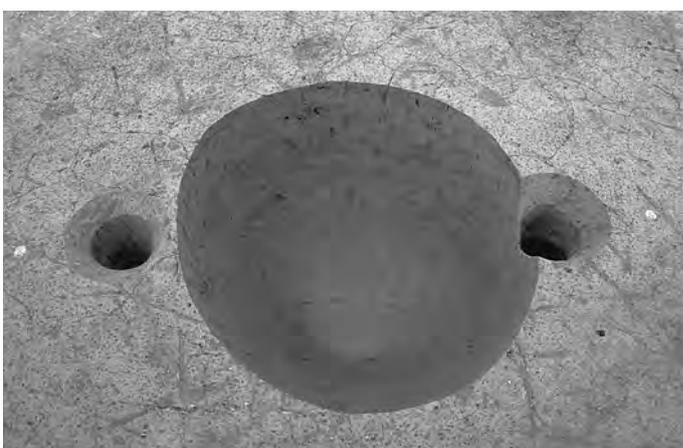
SE81 完掘 (西から)



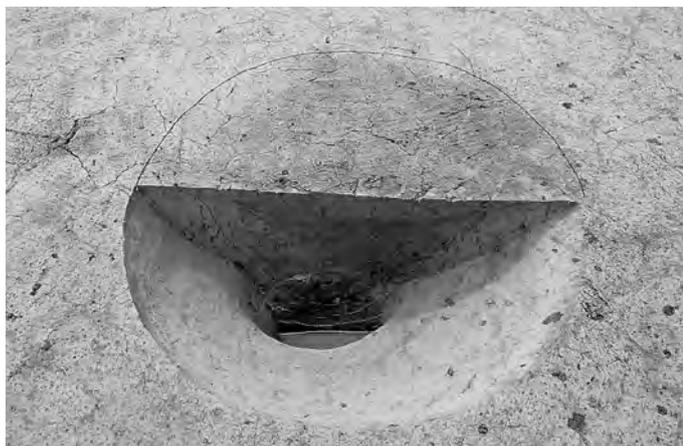
SE170 土層断面 (南から)



SE170 完掘 (南から)



SE170・P258・P257 完掘 (南から)



SE255 土層断面 (東から)



SE255 完掘 (東から)



SE457 土層断面 (東から)



SE457 完掘 (東から)



SE491 土層断面 (南から)



SE491 完掘 (南から)



SX36 土層断面 (西から)



SX36 完掘 (西から)



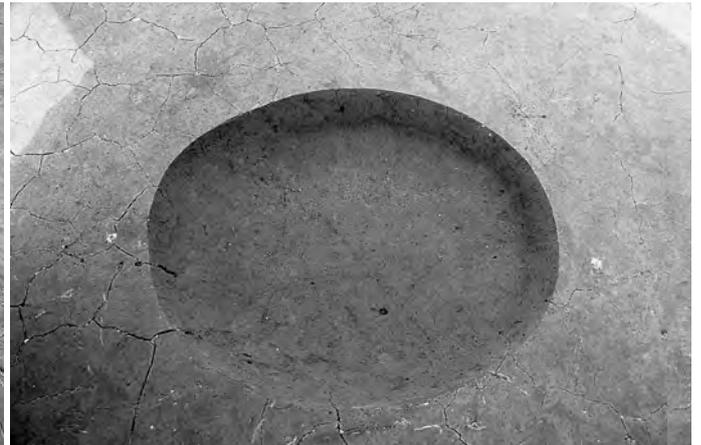
SX173 土層断面 (北から)



SX173 完掘 (北から)



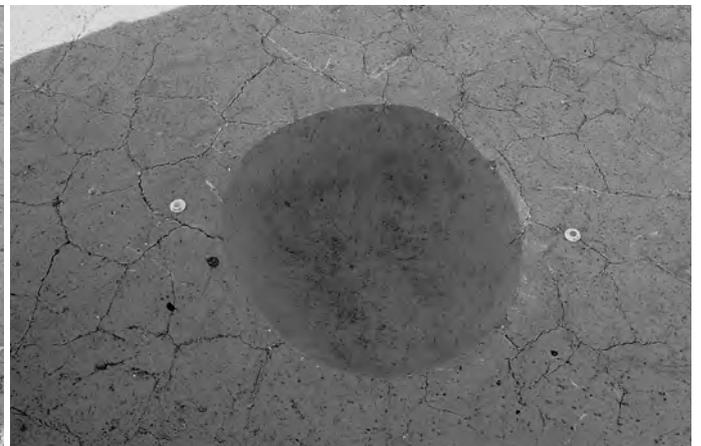
SK48 土層断面 (南から)



SK48 完掘 (南から)



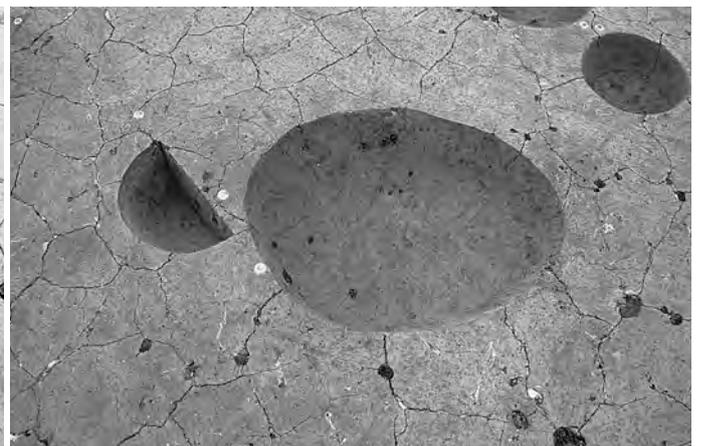
SK200 土層断面 (南から)



SK200 完掘 (南から)



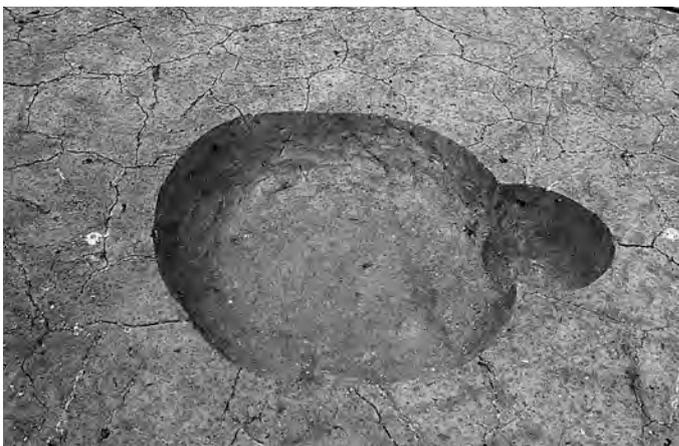
SK49 土層断面 (東から)



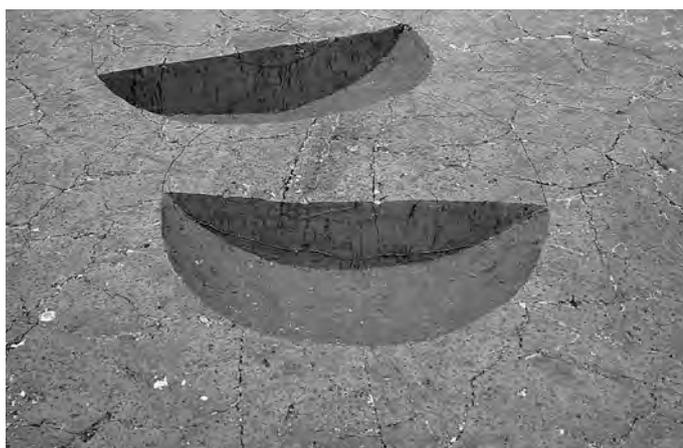
SK49 完掘 (南から)



SK25・P26 土層断面（東から）



SK25・P26 完掘（東から）



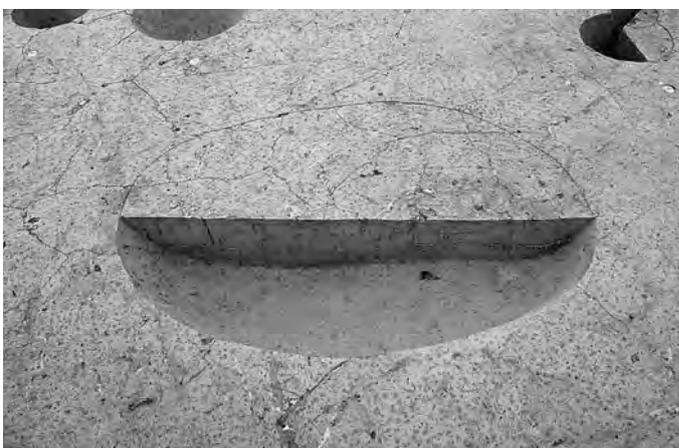
SK42 土層断面（西から）



SK43 土層断面（南から）



SK42・SK43 完掘（北から）



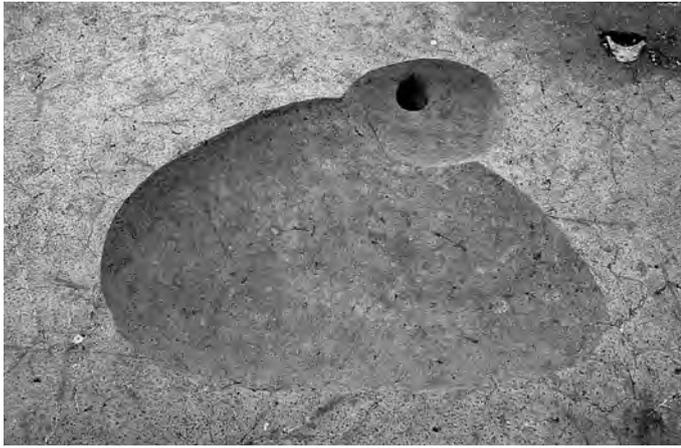
SK285 土層断面（東から）



SK285 完掘（東から）



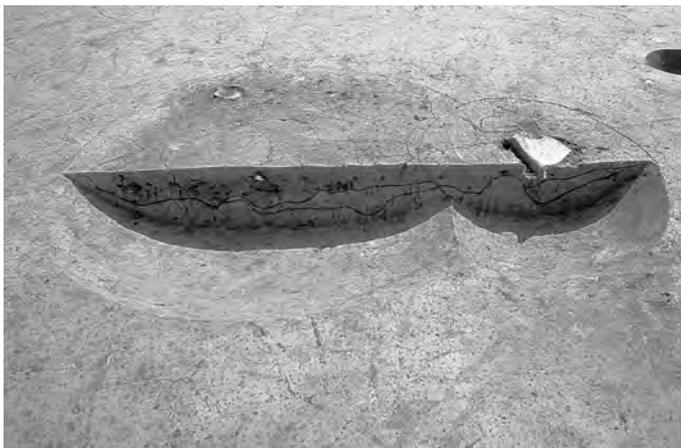
SK34 土層断面（東から）



SK34 完掘 (東から)



SK37・SK231 遺物出土状況 (南から)



SK37・SK231 土層断面 (南から)



SK37・SK231 完掘 (北から)



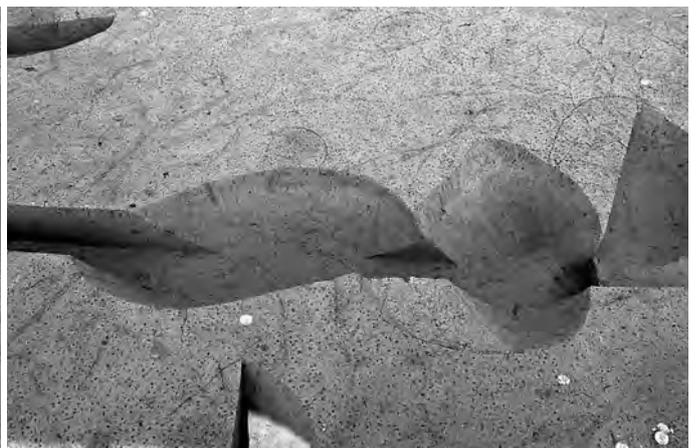
SK64 土層断面 (南から)



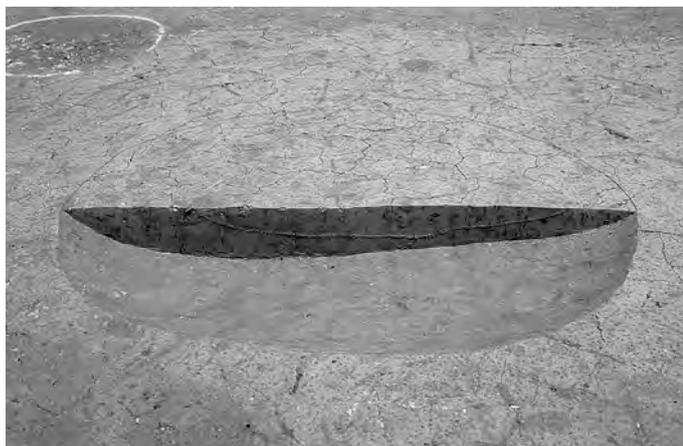
SK64 完掘 (南から)



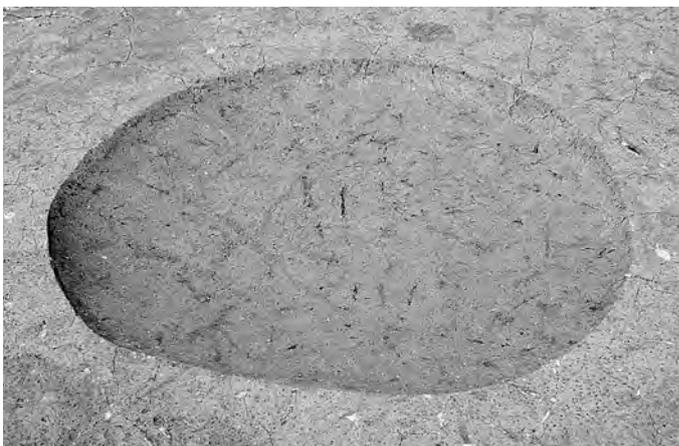
SK104・SK127 土層断面 (西から)



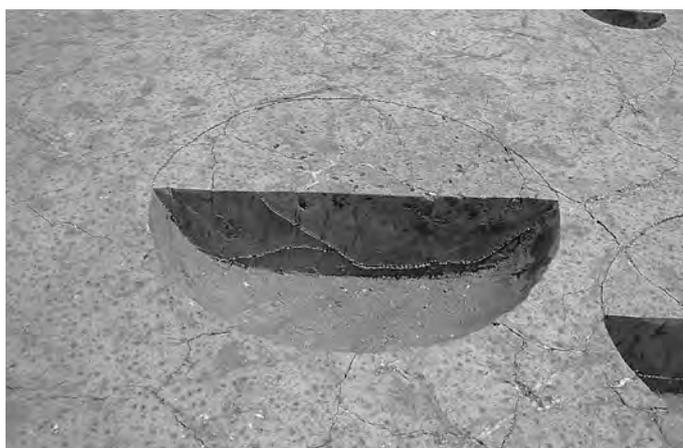
SK104・SK127 完掘 (西から)



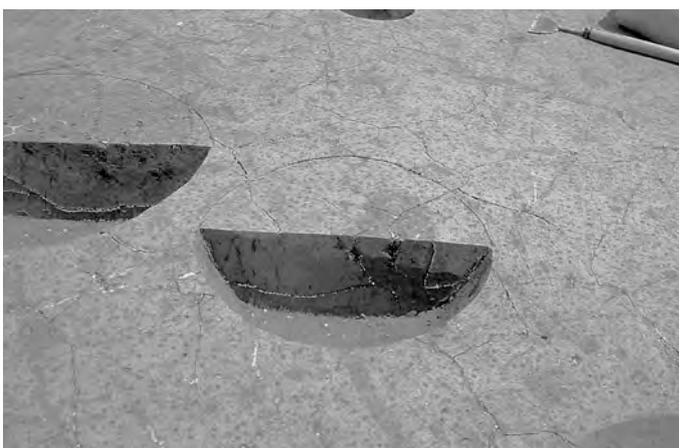
SK80 土層断面 (南から)



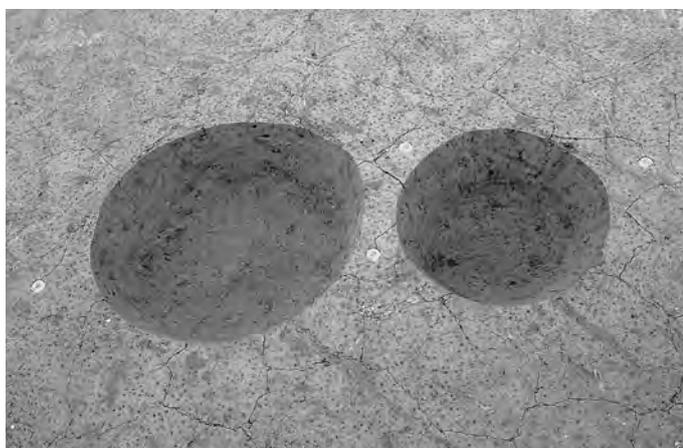
SK80 完掘 (南から)



SK184 土層断面 (南から)



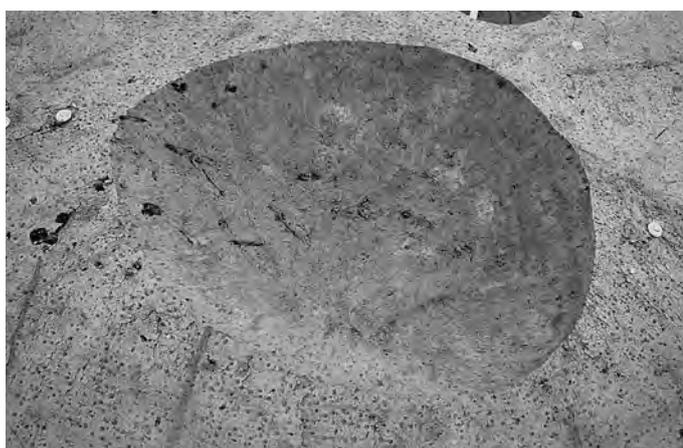
SK185 土層断面 (南から)



SK184・SK185 完掘 (南から)



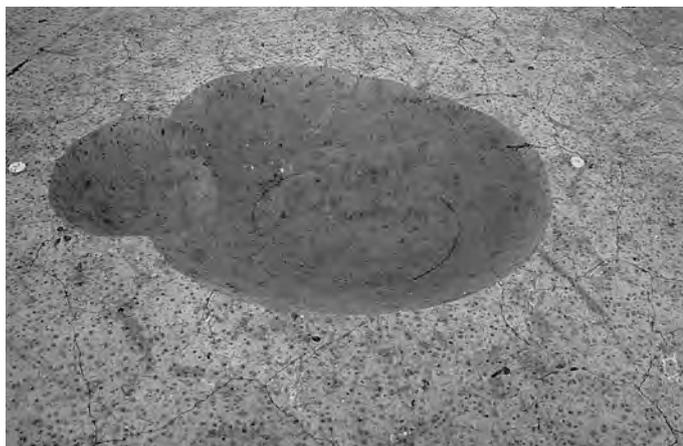
SK211・P212 土層断面 (西から)



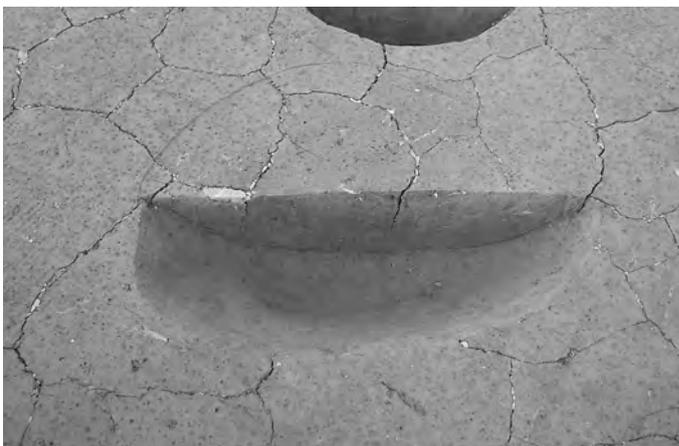
SK211 完掘 (西から)



SK190・P191 土層断面 (南から)



SK190・P191 完掘 (南から)



SK77 土層断面 (南から)



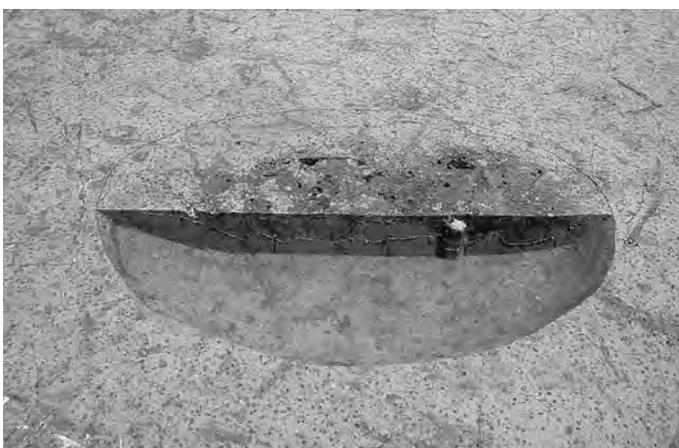
SK77 完掘 (南から)



SK261 土層断面 (東から)



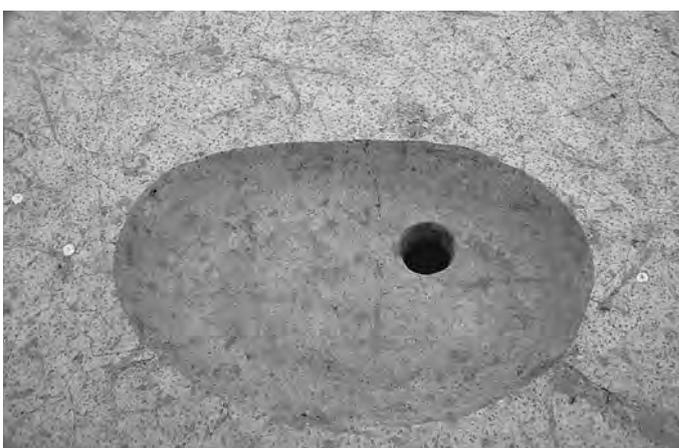
SK261 完掘 (東から)



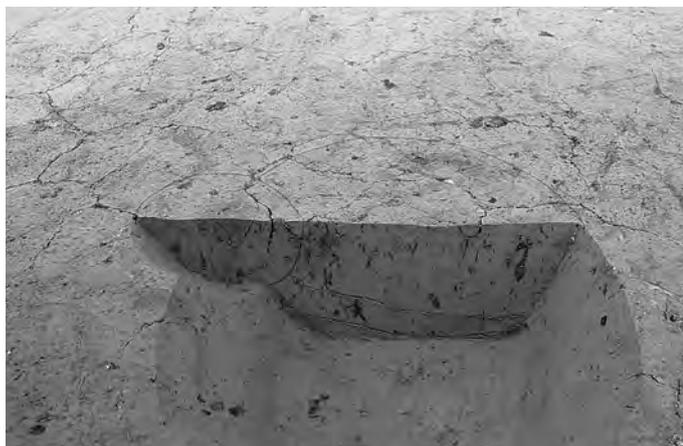
SK144 土層断面 (南から)



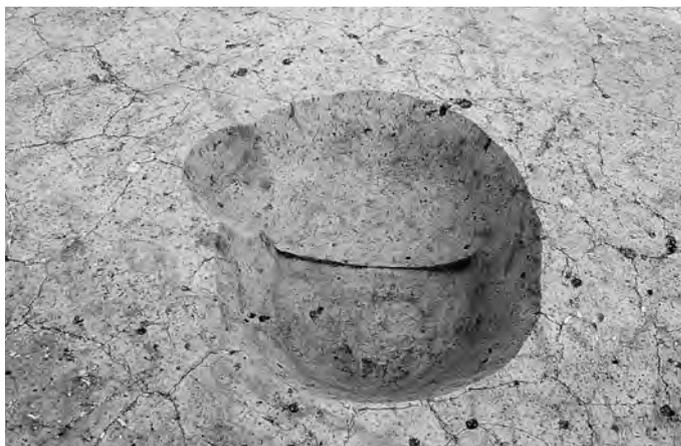
SK144 遺物出土状況 (南から)



SK144 完掘 (南から)



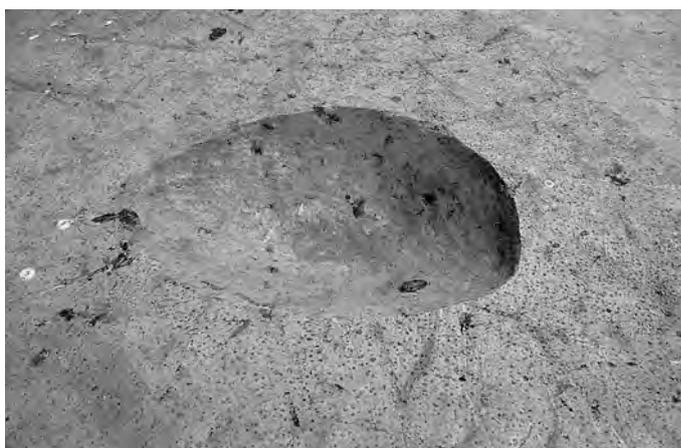
SK221 土層断面 (南から)



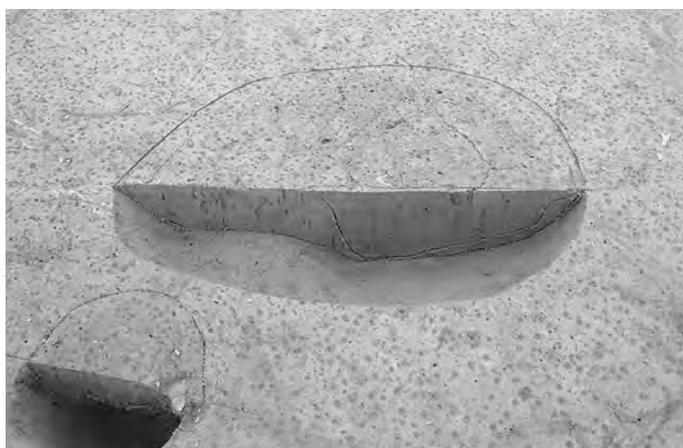
SK221 完掘 (南から)



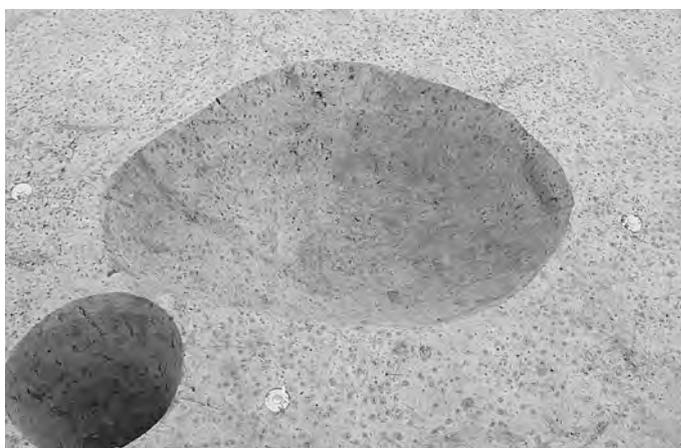
SK299 土層断面 (南から)



SK299 完掘 (南から)



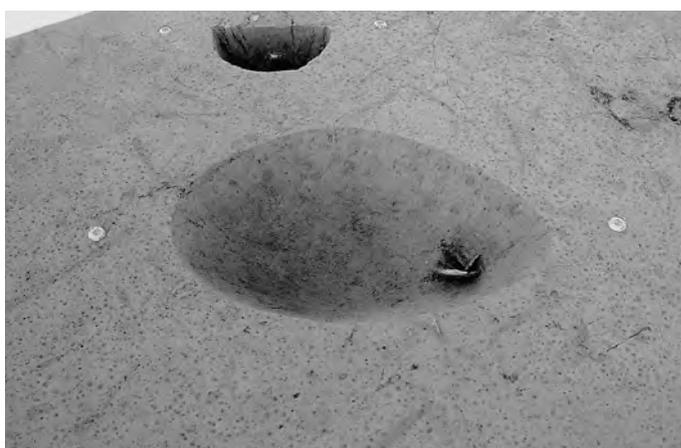
SK272 土層断面 (南から)



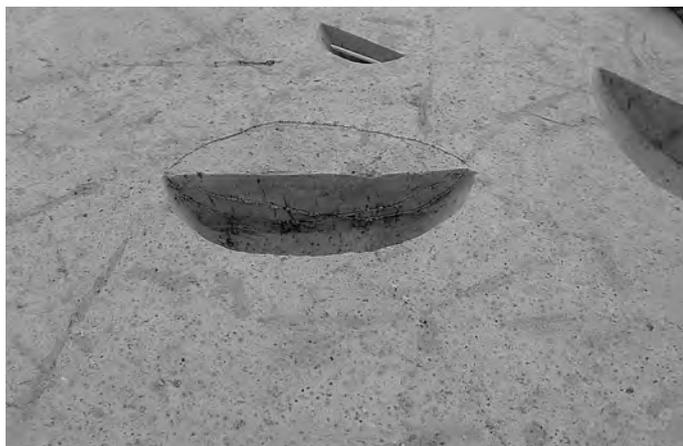
SK272 完掘 (南から)



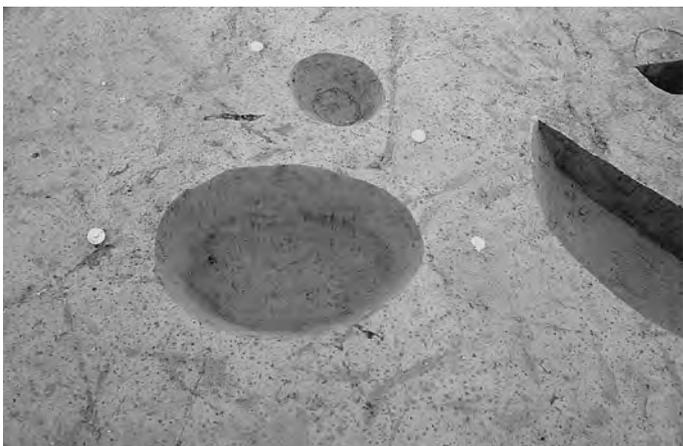
SK349 土層断面 (南から)



SK349 完掘 (南から)



SK422 土層断面 (南から)



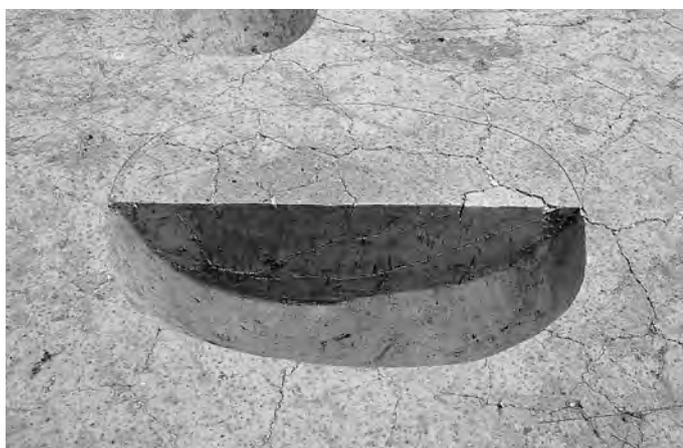
SK422 完掘 (南から)



SK418 土層断面 (西から)



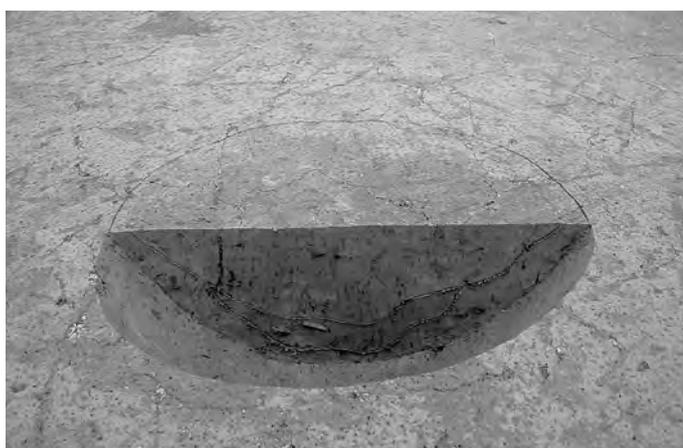
SK418 完掘 (西から)



SK515 土層断面 (南から)



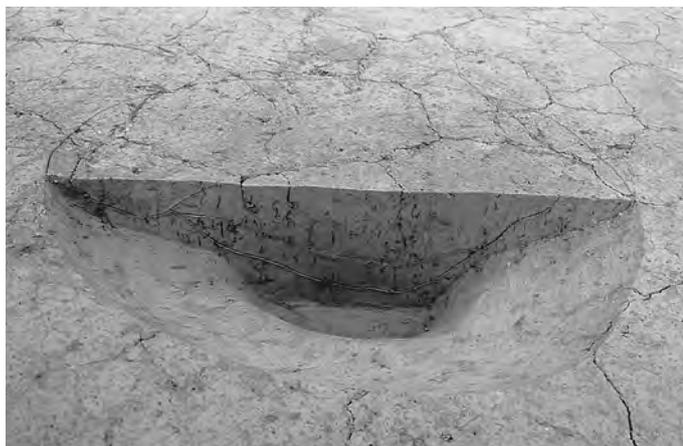
SK515 完掘 (南から)



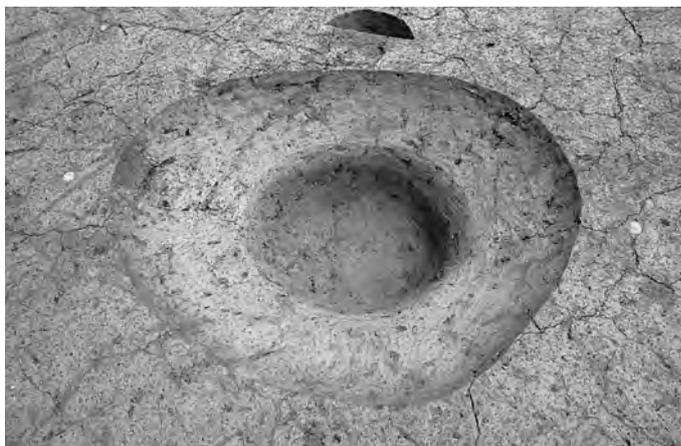
SK458 土層断面 (南から)



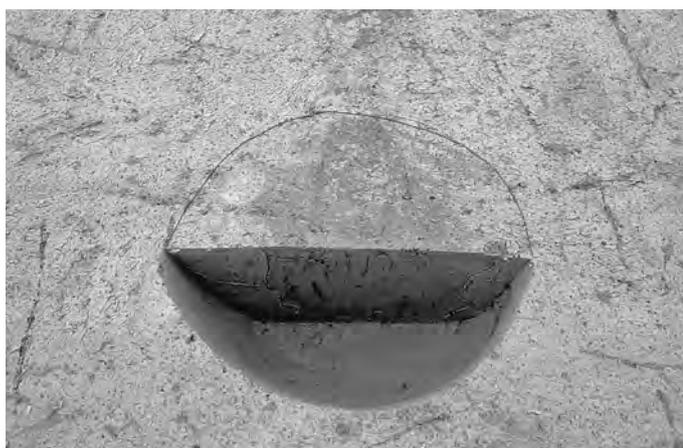
SK458 完掘 (南から)



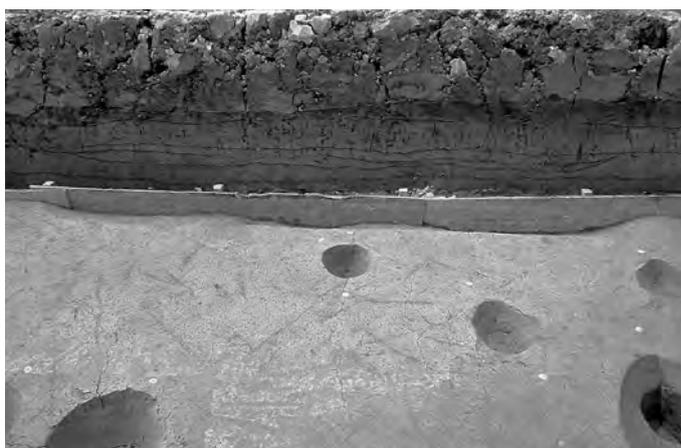
SK505 土層断面 (南から)



SK505 完掘 (南から)



SK215 土層断面 (南から)



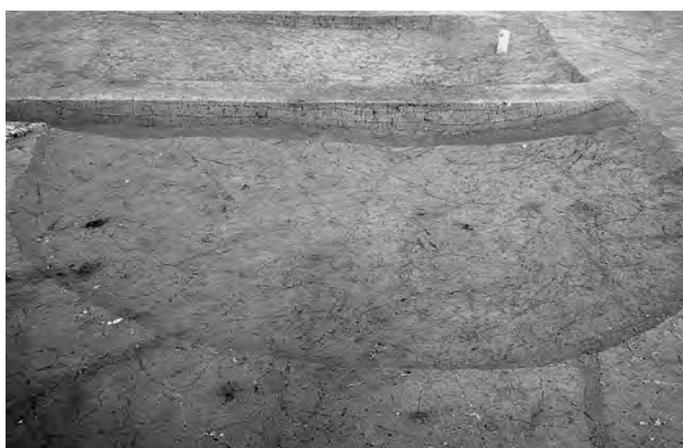
SX228 土層断面 (東から)



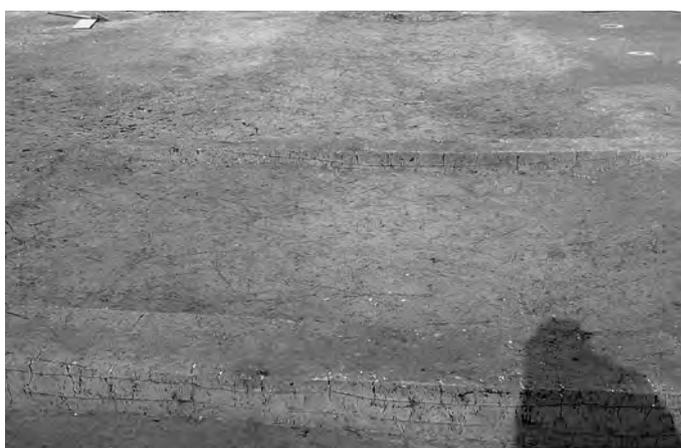
SK459 土層断面 (南から)



SK459 完掘 (東から)



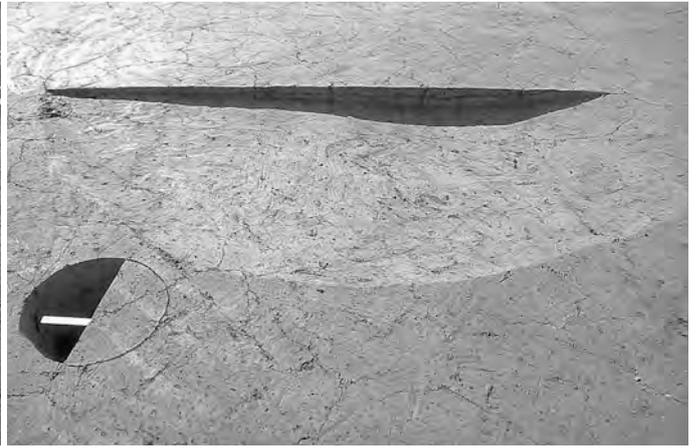
SD447A 土層断面 (西から)



SD447B 土層断面 (西から)



SD447C 土層断面 (西から)



SX536 土層断面 (東から)



SX513 土層断面 (南から)



SX513 完掘 (南から)



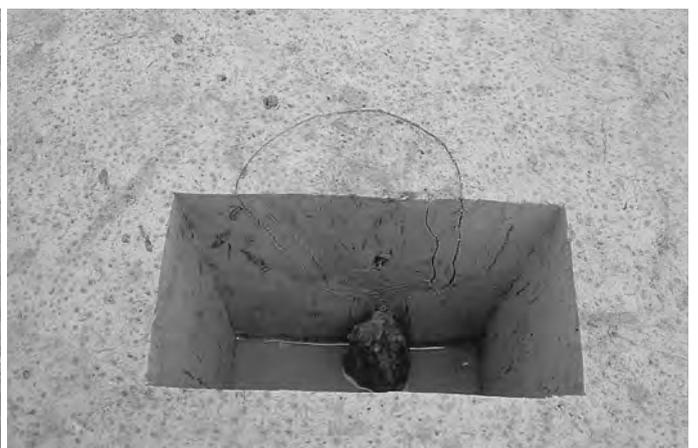
P383 土層断面 (北から)



P258 土層断面 (北から)



P327 土層断面 (南から)



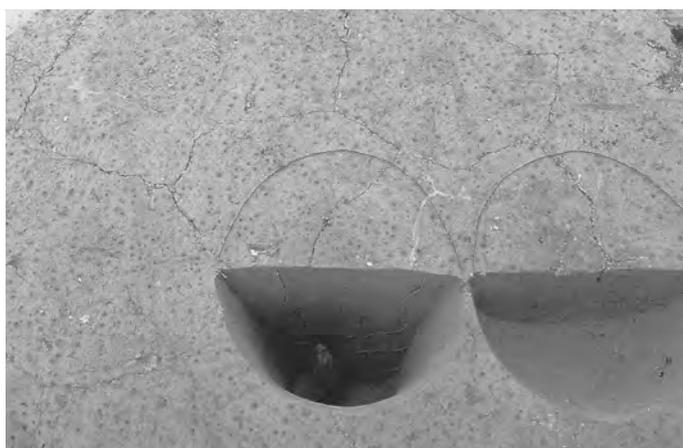
P430 土層断面 (南から)



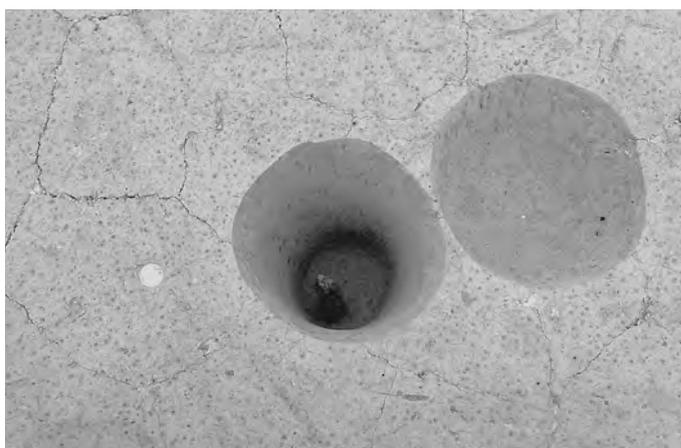
P89 土層断面 (南から)



P89 完掘 (南から)



P102 土層断面 (南から)



P102 完掘 (南から)



P339 土層断面 (南から)



P204 土層断面 (南から)



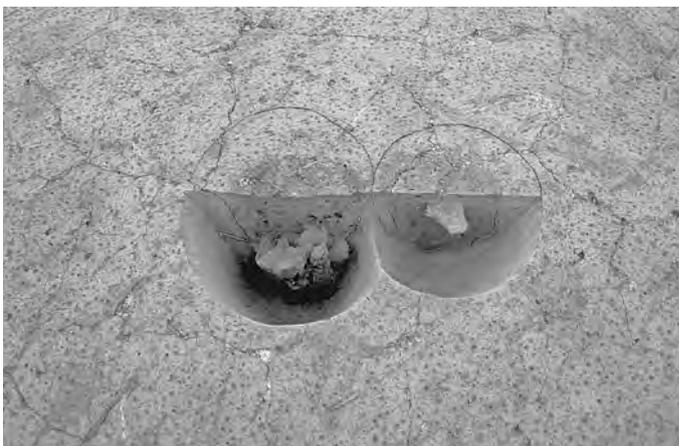
P394 土層断面 (南から)



P427 土層断面 (南から)



P135 土層断面 (南から)



P139・P140 遺物出土状況 (東から)



P189 遺物出土状況 (南から)



P498・P500 砥石出土状況 (西から)



P473 遺物出土状況 (南から)



包含層遺物出土状況 (東から)

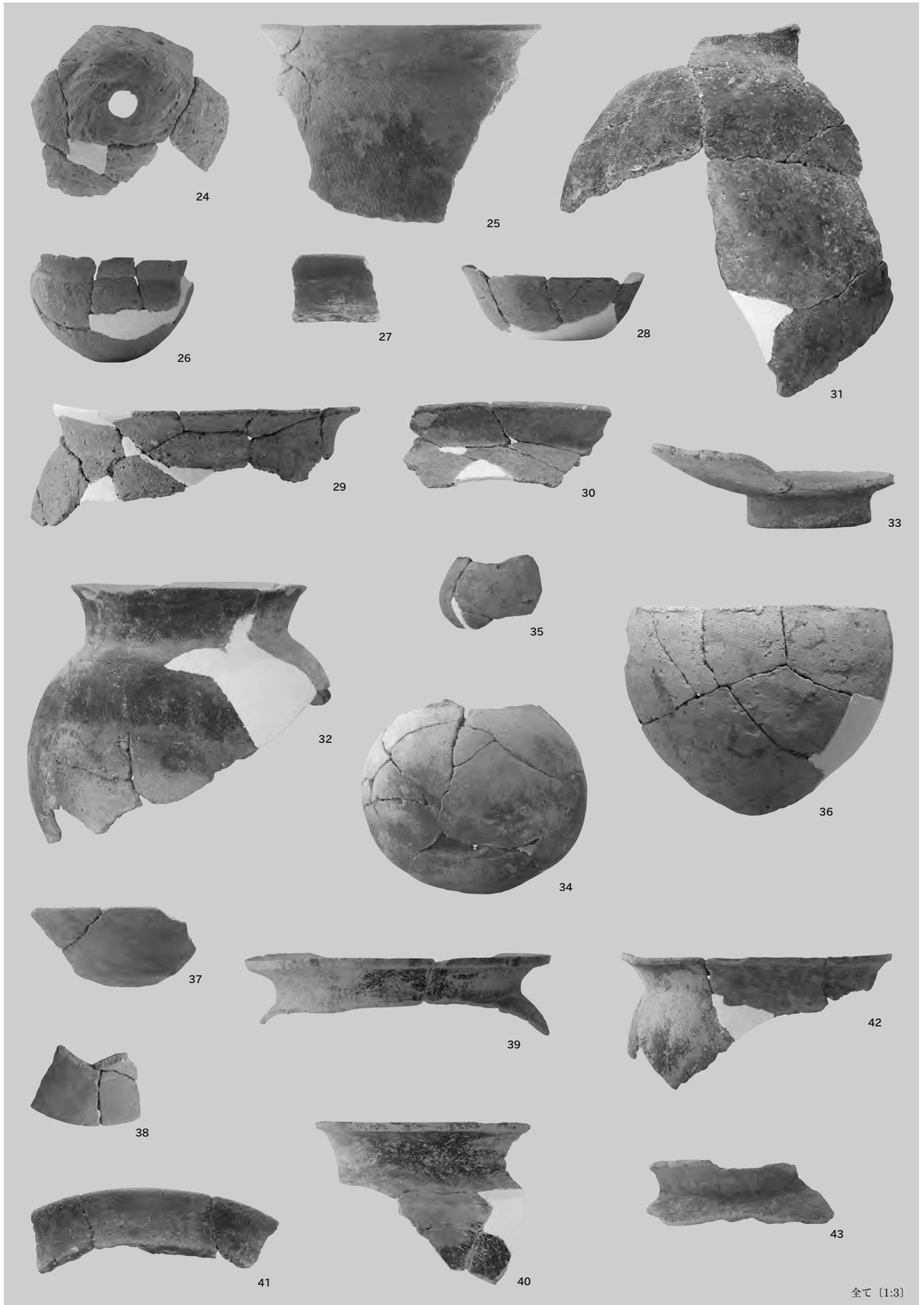


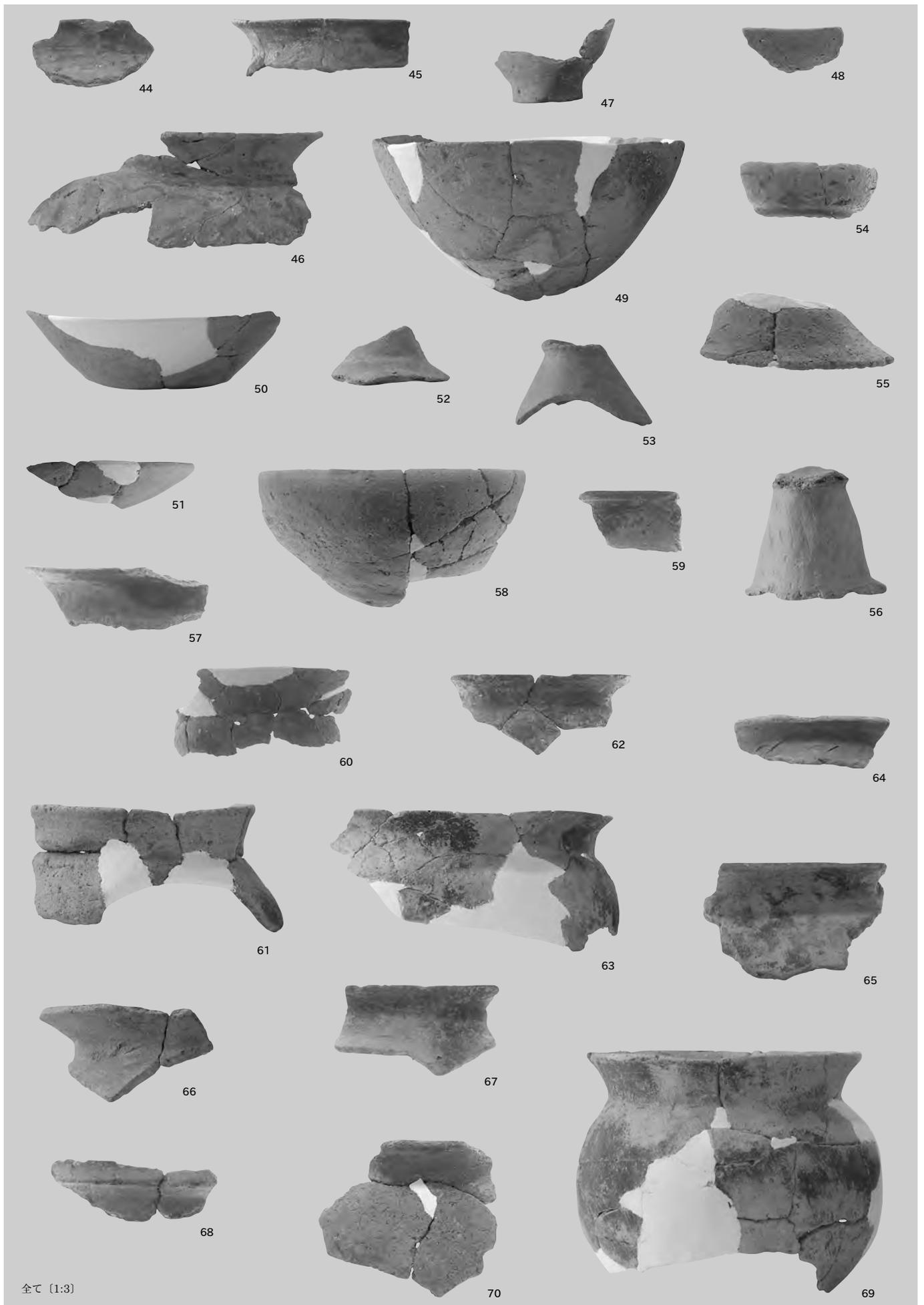
管玉出土状況 (南から)

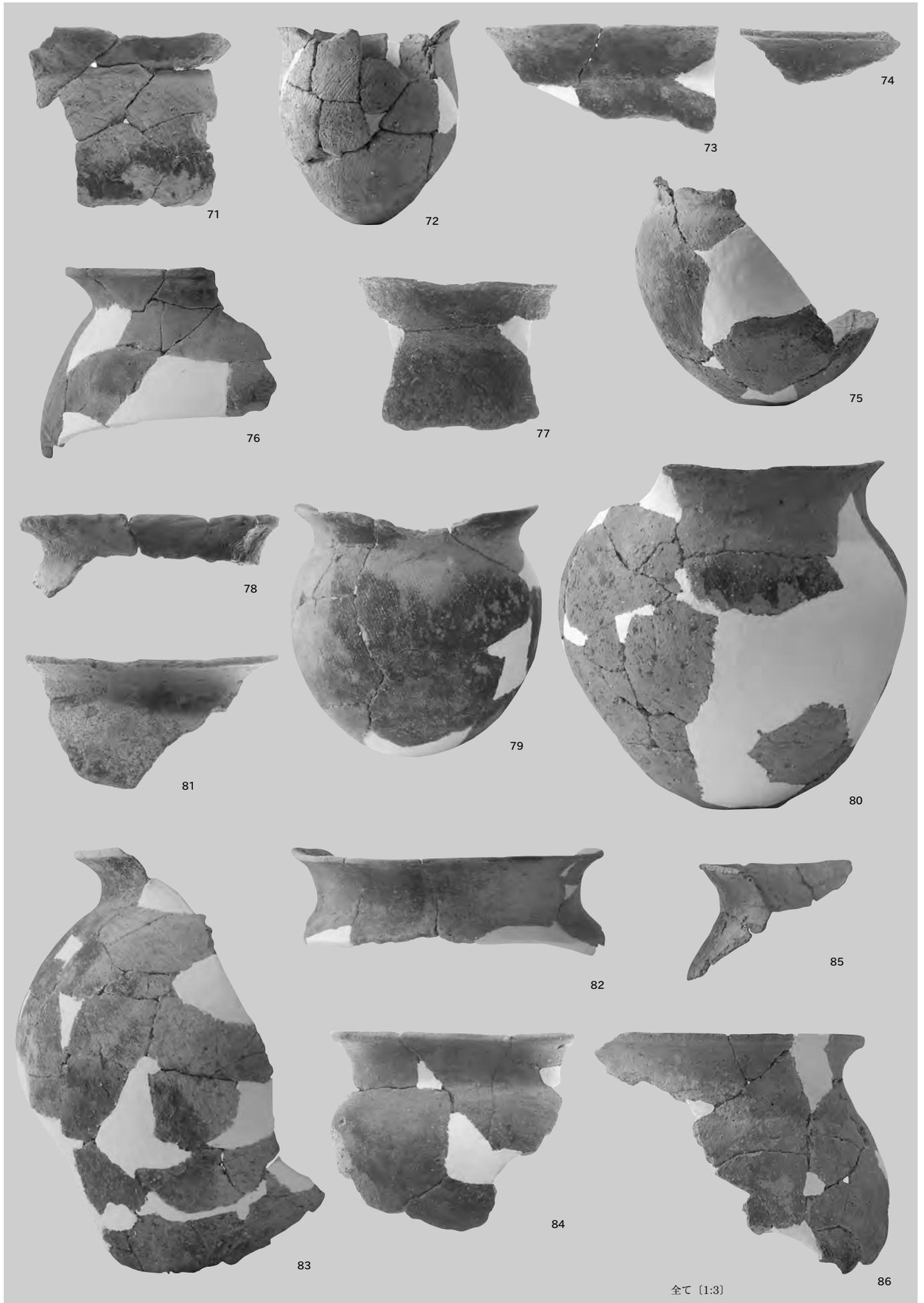


勾玉出土状況 (東から)

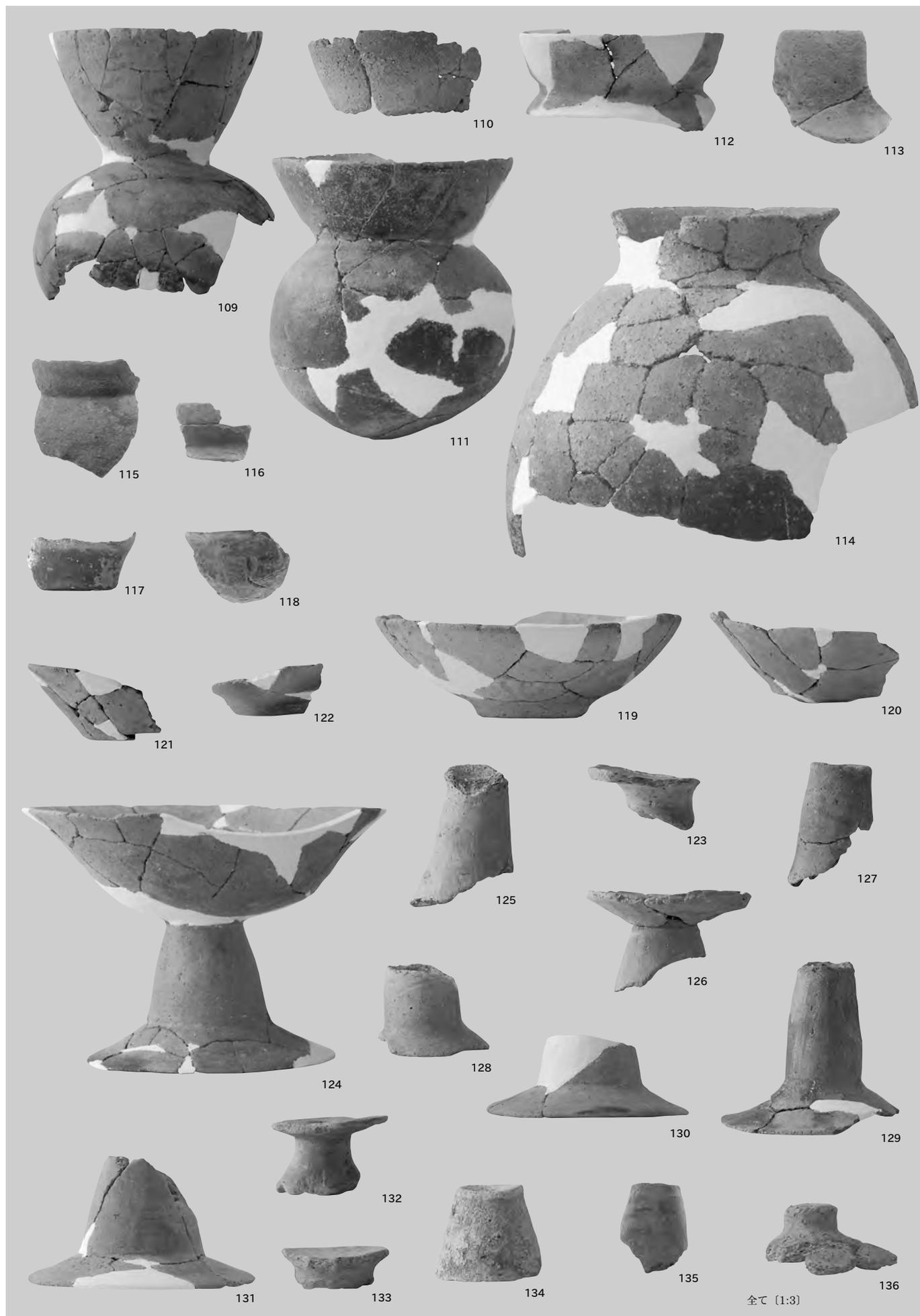












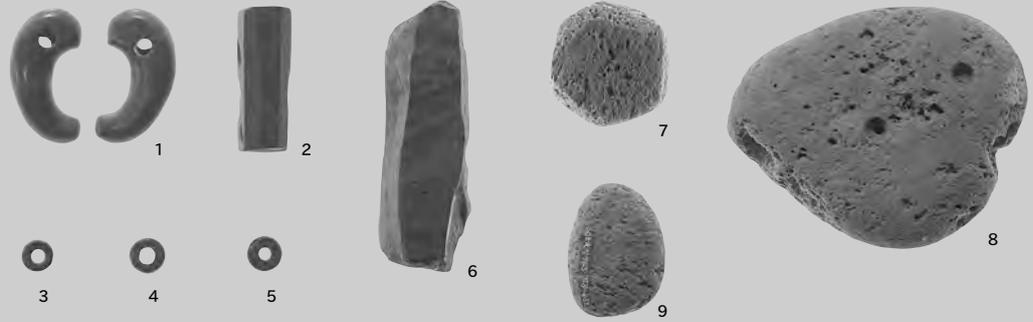
土製品



陶器



石製品



土製品・陶器 [1:3]
石製品 [1:1]

木製品



全て [1:3]

報告書抄録

ふりがな	かみおおかわいせき だいにじちょうさ							
書名	上大川遺跡 第2次調査							
副書名	市道正尺・早通線道路改良工事に伴う上大川遺跡第2次発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	新潟市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号								
編著者名								
編集機関	新潟市文化スポーツ部歴史文化課埋蔵文化財センター							
所在地	〒950-3101 新潟県新潟市北区太郎代 2554 番地 025-255-2006							
発行年月	西暦 2009 年 3 月 31 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かみおおかわいせき 上大川遺跡	新潟県新潟市 北区葛塚字上 大川 799 番地 1 ほか	151017	729	37° 55' 24"	139° 12' 59"	20080507 ~ 20080809	1,776.2 ㎡	道路改良工事に伴う 本発掘調査
所収遺跡	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
上大川遺跡	集落遺跡	古墳		掘立柱建物・井戸・ 溝・土坑・ピット・ 不明遺構		古墳時代の土師器・土製 品・石製品・木製品		
要約	<p>上大川遺跡は、阿賀野川右岸の強低湿地帯の微高地に立地し、標高は 1.2m 前後（地表面から 0.6 ~ 0.7m 下）である。本発掘調査の結果、古墳時代前期の遺構・遺物が検出され、遺構では当該期の事例が少ない井戸が、また遺物では未成品を含む玉類が注目される。周辺には弥生時代後期から古墳時代前期の遺跡が比較的まとまっており、上大川遺跡はその後半に営まれた遺跡であるが、近接する遺跡との時期差や様相の違いがみられ、この遺跡がある特定の機能を有した遺跡である可能性がある。古墳時代になって沖積地に進出した人々の営みを垣間みせた遺跡として評価される。</p>							

上大川遺跡 第2次調査

—市道正尺・早通線道路改良工事に伴う上大川遺跡第2次発掘調査報告書—

2009 年 3 月 30 日印刷

2009 年 3 月 31 日発行

編集・発行 新潟市教育委員会

〒950-8550 新潟県新潟市中央区学校町通一番町 602 番地 1

TEL (025) 228-1000

新潟市埋蔵文化財センター

〒950-3101 新潟県新潟市北区太郎代 2554 番地

TEL (025) 255-2006

印刷・製本 株式会社ハイグラフィック

〒950-2022 新潟県新潟市西区小針 1 丁目 11 番 8 号

TEL (025) 233-0321